



第63回 全道造形教育研究大会 石狩大会

2013/07/29-30

石狩市立緑苑台小学校



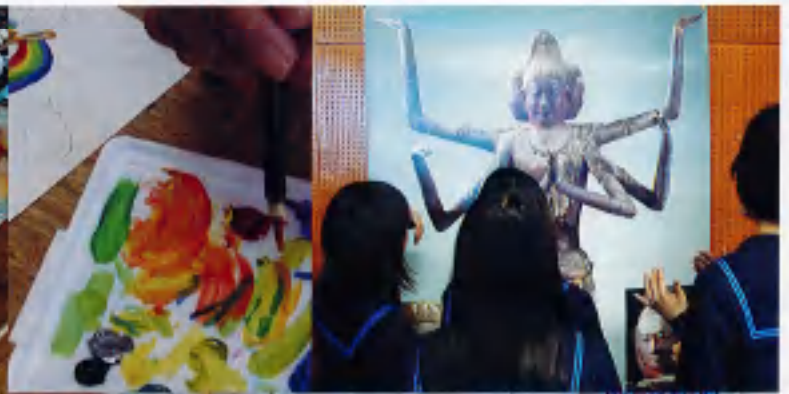
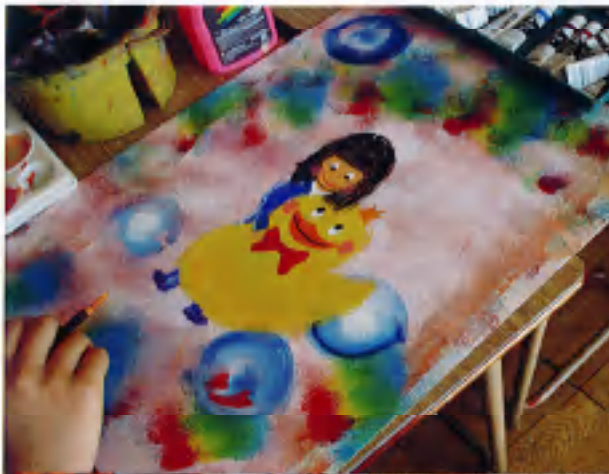
「豊かな心と確かな力を育む造形教育」
～子どもの「こうしたい!」があふれる授業を通して～

北海道造形教育連盟

<http://hokuzou.kir.jp/>

石狩造形教育連盟

<http://iart.main.jp/>



目の前の子どもの姿から思いや学びを考えてみる。この写真からも、いろいろなことが見てとれる。教師の受信力も高めたい。

第63回全道造形教育研究大会

石狩大会



【大会主題】

「豊かな心と確かな力を育む造形教育」
～子どもの「こうしたい！」があふれる授業を通して

- 期 日 平成25年（2013年） 7月29日（月）～30日（火）
- 会 場 石狩市立緑苑台小学校（メイン会場）
ホテルライフオート札幌（レセプション会場）
- 主 催 北海道造形教育連盟
- 主 管 石狩造形教育連盟
- 共 催 石狩管内教育研究会図工・美術部会
- 後 援 北海道教育委員会 石狩管内教育長部会 石狩市教育委員会
石狩管内小中学校長会 石狩教育研修センター 石狩管内教育研究会

目 次

挨拶

- 大会長（北海道造形教育連盟委員長）札幌市立旭小学校長 稲實 順
- 開催地実行委員会委員長 石狩市立緑苑台小学校長 島田 茂

祝辞

- 北海道教育庁石狩教育局長 成田 直彦様
- 石狩市教育委員会教育長 鎌田 英暢様

大会日程・内容

研究概要

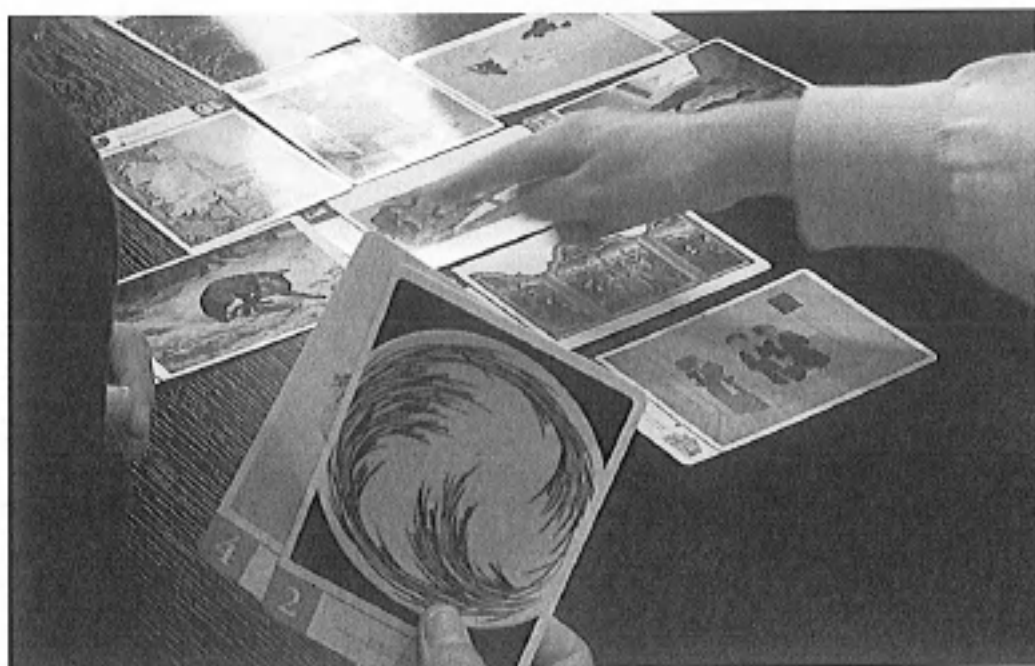
- 北海道造形教育連盟研究部長 堀口 基一
- 石狩造形教育連盟研究部長 山崎 正明

授業案

実践発表

地区サークル紹介

研究のあゆみ・規約・名簿





石狩大会の 開催にあたって

北海道造形教育連盟
会長 稲貫 順

古くから漁業や石狩川流域地域との交易の中心として栄えた石狩市において、「第63回全道造形教育研究大会 石狩大会」が開催されますことに深く感謝申し上げます。

特に、石狩造形教育連盟並びに石狩管内教育研究会図工・美術部会の皆様方には、長期にわたり大会に向けての綿密なご準備を積み重ねられ、本大会を開催されますことに心よりお礼申し上げます。

昨年は、帯広の地で道内各地の先生方が『つくるとき・つながるとき』の大会テーマのもと「豊かな心をはぐくむ造形教育」の重要性を語り合い、学び合い、その成果をそれぞれの地で発信していただけたものと思います。

今年は、連盟が5カ年計画で行ってきた研究のまとめの年でもあり、今回この石狩大会でゴールを迎えることとなります。大会の研究主題『豊かな心と確かな力を育む造形教育』は、子どもにつけたい力は何なのかを教師がしっかりもちながら、子どもの「こうしたい！」があふれる授業を目指していきたいという願いが込められています。

この大会に参加して、私たちは改めて造形活動で子どもは確かに・豊かに育つことを再確認することだろうと思います。そして、昨年に引き続き、大会で得られた成果や発見を広げながら、造形美術教育の価値が社会に広がっていくことを心から願っております。

最後になりましたが、石狩造形教育連盟並びに石狩管内教育研究会図工・美術部会の皆様方のご尽力に感謝し、北海道教育委員会、石狩市教育委員会及び各関係者の皆様にご心よりお礼申し上げ、大会のご挨拶といたします。



子どもの「こうしたい！」 に期待

第63回全道造形教育研究大会
石狩大会
実行委員長 島田 茂

かつては日本海のニシン漁、石狩川の鮭漁や渡船などで繁栄し、現在は石狩湾新港と札幌市勤務者のベッドタウンなどで発展を続けているこの石狩市で、本大会が開催できますことを大変嬉しく思います。本大会が道央石狩地区で開催されますのは、2008年の第58回北広島大会以来、6年ぶりとなります。

この間、私たち石狩造形教育連盟では、全道造形教育連盟研究主題「わたしを創る」の下、鑑賞を創作につなげる「みる心がつくる心を変える」研究、子どもの主体性を生み出す「こうしたいが溢れる空間」の研究に取り組んできました。本大会ではその積み上げと成果の一端をお見せいたします。

また本大会では、全道各地で実践的な研究を進めている方々に実践発表をいただき、さらには全国的に著名な講師を招き、造形教育の本質と未来についての示唆をいただきます。参加された皆様の感性や思考を触発し、明日からの造形教育の大いなるモチベーションなることを期待しています。

尚、私たち石狩造形教育連盟は、石狩管内教育研究会図工・美術部会の10名前後の好事家によって組織されています。美術に懸ける情熱のみで多数の図工・美術部会員の協力をもらい、本大会が準備・運営されていますことを付け加えさせていただきます。その点をご理解いただき、不十分なところが多々見られると思いますがどうかご容赦ください。

最後に本大会の開催に当たり、北海道造形教育連盟をはじめ、北海道教育委員会、石狩管内教育長部会、石狩市教育委員会など関係機関の皆様のご多大なるご理解とご協力に心より感謝を申し上げご挨拶といたします。



第63回全道造形教育研究大会石狩大会の開催を

北海道教育庁石狩教育局長 成田直彦

第63回全道造形教育研究大会石狩大会が、全道各地から多くの先生方をお迎えし、石狩市立緑苑台小学校を会場に、盛大に開催されますことに、心からお祝い申し上げます。

北海道造形教育連盟におかれましては、長年にわたり、組織的・計画的に研究を積み重ねられるとともに、研究実践の成果を広く発信されるなど、本道における図画工作科・美術科教育の振興・充実に多大な貢献をされておりますことに、深く敬意を表します。

さて、昨年度、中学校において、新学習指導要領が全面実施となり、小・中学校においては、新しい教育基本法の理念を踏まえた教育の諸改革が名実ともにスタートし、子どもたちに確かな学力や豊かな心、健やかな体などの「生きる力」を確実に育むことが求められております。

とりわけ、図画工作科・美術科教育においては、創造することの楽しさを実感させるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることや、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度を育むことなどが重視されております。

このような中、本研究大会では、「豊かな心と確かな力を育む造形教育」を研究主題に掲げ、造形的な創造活動における育みたい力の明確化や、子どもの自らづくりだす喜びがあふれる授業づくり、子どもの学びの姿に視点を当てた授業改善など、豊かな情操を養う指導の工夫について、研究を深められますことは、大変意義深いことと考えております。

御参会の皆様には、本研究大会の成果を全道の各学校における今後の実践の充実に生かされますよう、御期待申し上げます。

結びに、本大会の開催に御尽力をいただいた関係の皆様には敬意を表するとともに、北海道造形教育連盟の一層の御発展と御参会の皆様の御健勝、御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



第63回全道造形教育研究大会石狩大会の成功を

石狩市教育委員会 教育長 鎌田 英暢

第63回全道造形教育研究大会が、図画工作・美術教育に携わっておられる多くの先生方を全道各地からお迎えし、「あい風と人間（ひと）が輝く活力のまち」石狩市で開催されますことに、心からのお祝いと歓迎を申し上げます。

北海道造形教育連盟におかれましては、昭和26年の発足以来、造形表現に親しみ、豊かな心情をもつ幼児・児童・生徒の育成を願って研究大会や美術展を開催するなど、実践的な研究に取り組み、本道の造形教育の充実発展に重要な役割を担ってこられましたことに、深く敬意を表します。

さて、現在、学校教育は、新しい教育基本法や学校教育法等のもと、「確かな学力、豊かな心、健やかな体」を柱とした「生きる力」をより「深化」し、その実現を図るべく、より具体的な方策を明確にした学習指導要領に改訂され実施しています。その中では、「習得、活用、探求」のバランスのとれた学習活動による確かな学力の育成や各教科等の目標を踏まえつつ全教育活動を通して、豊かな心を育む指導の充実が求められています。

図画工作・美術科においても、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、造形的な創造活動の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことが一層重要となってきました。造形活動を通じて、モノの良さや美しさを感じ取り、さらに感じ取ったことを自分の思いや考えを持って表現しながら、つくりだす喜びを実感することは、子ども一人ひとりの情操をより豊かなものにするために大切です。

本研究大会は、北海道造形教育連盟の研究主題を具現化し、「豊かな心と確かな力を育む造形教育」～子どもの「こうしたい！」があふれる授業を通して～を研究主題に掲げています。豊かな感性・情操などの涵養や確かな表現・創造能力、鑑賞力を身につけさせるために、子ども自らが何を学び、どのような能力を身につけていくのかを理解し、主体的に意思を働かせながら創造的な学びを目指す取り組みは、まさしく「的を射た」研究であると考えます。

子どもが「色と形と材料」に五感で関わる中で、「育みたい力」を明確にし、題材の見方や設定の仕方を見直し、心を育てる「価値ある題材」を用意する。子どもがその題材との出会いの中で意欲が引き出され、主体的・創造的に「こうしたい！」という意識を持てるようになることこそ、造形教育の醍醐味であり、その成果には大きな期待を寄せているところであります。

結びになりますが、本研究大会が、参加された先生方の熱意で実りの多いものとなり、今後の本道の造形教育の充実・発展に寄与するものとなることをご期待申し上げますとともに、貴連盟の一層の発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

授 業・実践発表・ワークショップ一覧

< 授 業 > 前 10:15～ 後 10:30～

	校種	授 業 者	題 材 名	助 言 者
前	幼1	木下明日香 札幌陸路光興幼稚園	「森の中で遊ぼう」 絵～共同制作	阿部 宏行 北海道教育大学岩見沢校
後	幼2	畠山礼子 札幌陸路光興幼稚園	「絵の具島」 想像の絵	名達 英詔 北海道教育大学旭川校
前	小1	小笠原晴美 石狩市立緑菊台小学校	ならべて つんで	工藤 雅人 北海道教育庁留萌教育局
後	小3	堀田 裕也 石狩市立緑菊台小学校	風でダンシング	西岡 裕英 北海道立教育研究所
前	小4	高木 亮一 石狩市立花川南小学校	とび出すメッセージ	花輪 大輔 北海道教育大学札幌校
後	小5	千葉 道子 石狩市立緑菊台小学校	無限にのびろ！スケルトンツリー	泉 大吾 北海道教育庁学校教育局
前	小6	金住ゆかり 江別市立東野幌小学校	墨から感じる形や色	中澤 孝仁 北海道教育庁釧路教育局
後	中1	渡邊 麻子 江別市立江別第一中学校	あのときの、あの気持ち ～色で表そう～	井上 哲義 江別市立江別第二中学校
前	中1	佐藤 哲 当別町立当別中学校	並べると、集めると、合わせると素敵 瀬川菜子氏のFILEとつなげて	塚野 昭臣 札幌市立尚徳中学校長

<実践発表A> 13:30～14:20

校種	実践発表者	実 践 名	助 言 者
幼	前園和寿・望月あかり 大地太陽幼稚園	「夢の地球」 空のせかい 水のせかい 大地のせかい	佐々木 幸 北海道教育大学釧路校
小	佐藤 和音 札幌市立星園東小学校	子どもの「どうしよう？」から「こうしよう！」を支える授業 たまごバックを使った造形遊びの実践	泉 大吾 北海道教育庁学校教育局
小	橋本 岳大 千歳市立高台小学校	「こうしたい！」は、誰にでもやってくる	工藤 雅人 北海道教育庁留萌教育局
小	山形 弘枝 函館市立北日吉小学校	「光のおくりもの」 和紙を生かしたランプシェード	阿部 宏行 北海道教育大学岩見沢校
中	庄子 展弘 旭川市立北星中学校	使いやすさとは何だろう 鑑賞からはじめるバターナイフの制作	千葉 繁 石狩市立花川南中学校長
中	宮内 絹代 江別市立野幌中学校	修学旅行の写真から 伝わる・広がる・つながる	花輪 大輔 北海道教育大学札幌校
中	田中真二郎 秋田県大仙市立西仙北中学校	地域と育む美術教育 ご当地題材を通して身に付く力	塚野 昭臣 札幌市立尚徳中学校長
中	高安 弘大 青森県平内町立小湊中学校	地域とつながる・地域をつなげる ～わたば、アンテナになる～	高橋 秀明 北広島市立西の星中学校長

<実践発表B> 14:30~15:20

校種	実践発表者	実践名	助言者
幼	高松 摩衣 札幌ひまわり幼稚園	想いが膨らむ造形遊び ～おりがみ・新聞遊び・絵の具～	名達 英詔 北海道教育大学旭川校
小	矢野 宜利 札幌市立百合が原小学校	図工で磨く教師の生き方～3年生の実践 「つるして つないで」と育児休暇から学んだこと	中澤 孝仁 北海道教育庁釧路教育局
小	竹田 睦生 千歳市立高台小学校	子どもの作品をちょっぴり輝かせるスパイス 作品票やワークシートの活用	西岡 裕英 北海道立教育研究所
中	小出 倫生 北広島市立大曲中学校	言葉と絵でアイデアを考えられる題材について	高橋 秀明 北広島市立西の里中学校頭
中	木村 伸仁 函館市立枝輪沢中学校	「描きたい・造りたい」と子どもが思う授業をめざして	井上 哲義 江別市立江別第二中学校
中	更科 結希 北海道教育大学附属釧路郡学校	子ども達とつくる ～地域に向けた展覧会から～	千葉 繁 石狩市立荻川南中学校頭
小中高	黒木 健 秋田大学 大学院生	「生徒の一言」は授業の宝 ～あの手、この手で授業をデザイン～	佐々木 宰 北海道教育大学釧路校

<ワークショップ> 前半 9:00~9:40 後半 9:50~10:30

No.	実施時間	発表者	内 容
1	前半のみ	上野 行一 帝京科学大学子ども学部	対話による鑑賞
2	前半・後半	大橋 功 岡山大学大学院教育学	子どもの絵の見方
3	前半・後半	花輪 大輔 北海道教育大学札幌校	ICTを活用した授業
4	前半・後半	平山 一弥 千歳市立北栄小学校	水彩による造形遊び的活動から主題への結びつき
5	前半・後半	福澤菜穂子 北広島市立西の里小学校	アートゲームカードによる鑑賞授業
6	前半・後半	湯浅 大吾 札幌市立拓北小学校	粘土で平面から立体へ見方を変える言葉かけ
7	前半・後半	竹田 睦生 千歳市立高台小学校	作品票やワークシートで子どもの想いを受け止める
8	後半のみ	小出 倫生 北広島市立大曲中学校	中学校美術部顧問連携を願って

「よりよい授業を目指して」

造形教育研究大会 石狩大会は「図工・美術の基本を学べる研究会」という位置づけもしています。
「授業どうする？」にこたえるために企画した講演会です。

29日（月） 上野行一氏による「鑑賞の授業についてのご講演」

上野行一氏プロフィール



帝京科学大学教授 こども学部教授
国立教育政策研究所各種委員
大学美術教育学会常任理事・監事等
美術による学び研究会 代表 <http://artmanabi.main.jp>
美術館企画展「mite!展」企画（岡山、千葉、長野、島根）

著書

「私の中の自由な美術」（光村図書）

「モナリザは怒っている」（淡交社）他

（「モナリザは怒っている」は札幌の森實祐里さんの授業をもとにつくられています。授業の様子がDVDで見ることができます）



30日（火） 大橋功氏による「表現の授業についてのご講演」

大橋功氏プロフィール



岡山大学大学院教育学研究科准教授
実践美術教育学会 会長 <http://www.jissen-arted.org>
近畿色彩教育研究会 代表 <http://www.kinki-sikkyo.jp>
日本美術教育学会 事務局長
色彩教育研究会 理事

著書

「美術教育概論」（日本文教出版）

「教師をめざす若者たち」（プレジデント社）他



「テレジンの小さな画家たち展」

テレジン収容所で死を前にした子どもたちのために大人が命がけでしたこと、それは子どもに絵や詩をかくことを提案したことです。そのことがあって当時の子どもたちの一人一人の生きた証が残っています。

子どもが表現することの意味や価値を改めて考えるきっかけになればと思い、この展覧会を企画しました。この展覧会は「テレジンを語りつぐ会」(代表 野村路子氏)を通して「埼玉平和資料館」より作品をお借りして実現したものです。

以下に「テレジンを語りつぐ会」のwebサイトを一部紹介させていただきます。

<http://www.teresien.jp/>

テレジン 命のメッセージ



アウシュビッツを知っていますか。テレジン収容所って聞いたことがありますか。あの戦争という狂気の嵐が世界中を吹き荒れていたころ、ナチス・ドイツが支配するヨーロッパの国々にはたくさんの収容所がありました。テレジンは、飢えや暴力や死の不安が存在する収容所の一つ。そこでは、素晴らしい<教室>が開かれていました。絵の教室 詩の教室——子どもたちは、勇気ある大人たちの努力で、絵を描き、詩を綴り、この世に生きた証となる美しい作品を生み出していました。

子どもたちの遺した絵



1945年、収容所が解放され、ドイツ兵が去ったあとの廃墟に4000枚の絵が残されていました。それを見つけたのは<女の子の家>の世話役をしていたピリー・グロアー。彼は辛い境遇の子どもたちが、目を輝かせ、小さくなったクレヨンを持って一生懸命に絵を描いていたのを知っていました。そして、その子どもたちがもう帰ってこないのだということも。

テレジンを知るための本



テレジンの小さな画家たち

～ナチスの収容所で子どもたちは4000枚の絵をのこした～

産経児童文化大賞受賞作

たった一枚の絵をのこしてアウシュビッツで殺された子どもたち。収容所の中で、遊園地やサーカスの楽しい思い出の絵をかきのこしていた子どもたち。この本は、生きのこった子どもたちに取材して書かれたものです。

著/野村路子 1,575円(税込)

1947-1948

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
 DEPARTMENT OF CHEMISTRY
 5700 SOUTH CAMPUS DRIVE
 CHICAGO, ILLINOIS 60637

1947-1948

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
 DEPARTMENT OF CHEMISTRY
 5700 SOUTH CAMPUS DRIVE
 CHICAGO, ILLINOIS 60637

1947-1948

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
 DEPARTMENT OF CHEMISTRY
 5700 SOUTH CAMPUS DRIVE
 CHICAGO, ILLINOIS 60637

1947-1948

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
 DEPARTMENT OF CHEMISTRY
 5700 SOUTH CAMPUS DRIVE
 CHICAGO, ILLINOIS 60637

研究について



【北海道造形教育連盟研究主題】

“わたしを創る”～自立と共生の造形教育をめざして～
第63回全道造形教育研究大会 石狩大会によせて



北海道造形教育連盟研究部長 堀口基一

研究主題に
ついて

平成21年(2009年)、北海道の造形教育の歴史という「過去」を振り返り、「今」を見つめ、「未来」をどのように創造していくのか、という熱い議論を積み重ねた結果、新研究主題が産声をあげました。

“わたしを創る”～自立と共生の造形教育をめざして～

今年度で5年目、まとめの年を迎える本研究主題は、

- ・平成21年(2009年) 上川・旭川大会
「身体で感じ・心はずませ・想像する」喜び
- ・平成22年(2010年) 函館大会
「創造!ときめき!実感!」
- ・平成23年(2011年) 北海道大会(全国大会)
“わたしを創る”～自立と共生の造形教育をめざして～
※全国造形教育連盟、日本教育美術連盟 共同開催
- ・平成24年(2012年) 帯広・十勝大会
「つくるとき・つながるとき」

と、毎年行われる全道(全国)造形教育研究大会の大会テーマとして、その理念がリレーされてきました。

本研究主題の理念は、過去の研究からも明らかにされてきた「自己創造の大切さ」を、自己理解と価値創造による「自立した学び」によって実感し、その一人一人の「自立した学び」は、学びの空間と時間を共有する仲間との「共感を基にした温かな学び合い」の中で実現するとしたものです。

このような造形の学びの中で創られていく“わたし”は、将来にわたり学校、地域、社会に向かっても“わたらしい創造性”を発揮しながら自己実現をめざしていくことができると考えました。

つながり
合う学び

幼少期から青年期までの教育における子どもたちの成長を考えてみます。個々の力強い成長はもとより、他者とのかかわり合いによって柔軟かつ豊かに涵養していくことがわかります。

造形活動では、「もの」や「場所」に積極的に働きかけることで、自分

なりの意味を紡ぎ出し、他者とつながり合うことで、安心や満足、時には変更や再考、挑戦など、考えるチャンスを生み出しながら自分にとってのできごととする「こと化」を進め、自分づくりをしていきます。

このような「人と人がつながり合うことで生まれる学び」を見つめながら、造形教育で育むことについてみなさんで語り合い、学び合いたいと思います。

大会を 創造する

さて、本大会で63回目を迎える全道造形教育研究大会ですが、現在では、全道19の地区サークルの日ごろの活動や研究をつなぎ、互いに造形教育について語り合う、いわば「TEAM北海道：全道ミーティング」となっているのではないのでしょうか。ホスト地区になっているみなさんの公開授業や実践発表、地区ごとに毎年工夫されている全体会やパネルディスカッション、講演会やワークショップなど、アイデアいっぱいの提案にわくわくします。参会する様々な立場のみなさんは、造形教育の在り方といった大きな考え方から教材、場の構成、先生の言葉がけや板書の工夫など、授業づくりの具体的なアイデアを実際に見たり、聴いたり、考え合ったりすることができます。



じっと見つめるその指先には、H君が見付けた「ステキな色やアイデア」がいっぱいあります。ふくらむイメージをキーワードにして書きとめる表情からは、「わたしらしさ」という自信が優しく伝わってきます。

知恵に 高める

高度に情報化が進み、たくさんの情報に囲まれて暮らす現代の社会では、テレビや書籍だけでなくコンピュータや情報端末などの機器を介して世界中の様々な情報につながる事が可能になりました。

しかし、図工・美術のような造形的な体験を「実際に」行うことで、学ぶ学習の場合は、「その気になる」だけではもったいないと思うのです。

実際に見て、触れて、感じて、つくり出すという造形的な体験は、もてる知識や技能を再構成して「知恵」に高めるプロセスそのものです。

これは、本大会にあてはめて考えてみますと、毎年の大会に集い、実際に見て、触れて、感じて、つくり出し、さらに日常の授業や生活に生かす…となるのでしょうか。まさに造形教育にかかわる知識や技能の「知恵化」です。

大会においては、このようにたくさんの「知恵」を授かることができるでしょう。しかし、受け止めるだけでなく、是非みなさんがもつ素敵な知恵を持ち寄り、たくさんの知恵を発信、交流して欲しいと思います。

このような双方向の学び合いが研究大会の醍醐味です。

これはまさに“わたしを創る”人々による“自立と共生の造形教育ミーティング”ということになります。

近年よく耳にするPDCAサイクル (Plan, Do, Check, Action) でいうところの「C」 (=Check) の部分が大会当日、「A」 (=Action) の部分が2学期からの授業や造形活動ということもできそうです。

大会テーマ
と
熱い思い

毎年行われています全道造形教育研究大会では、北海道の研究主題を受けて大会開催地における大会テーマと研究主題を設定しています。

今年度の石狩大会では、“わたし”づくりの学び、自立と共生の学びは、子どもの自発的な学びへの意欲とそれを支える教師のかかわり（授業デザインや温かなつながり）によって実現するとし、大会の主題を設定しています。

**【大会テーマ】 豊かな心と確かな力を育む造形教育
～子どもの「こうしたい！」があふれる授業を通して～**

今年度の石狩大会の提案には、このような主張があります。

「育みたい力」を明確にし、「価値ある題材」を用意する。
子どもと題材の出会いの中で意欲を引き出し、さらに子どもの中に「こうしたい！」をもたせる。
子どもの思いや学びをしっかりと受信していく。
これらを繰り返していく中で、子どもの中に豊かな心と確かな力が育まれていく。
教育課程と環境の充実がその土台となる。

題材の吟味
と
子ども理解

5年前に行われた石狩・北広島大会でも主張されていた「子どもの意欲を基盤とした題材の吟味と教師の丁寧で温かな子ども理解の在り方の考察」は、今年度にも引き継がれ、上記のように明確な大会コンセプトになっています。

幼稚園2本、小学校5本、中学校2本、合計9本の公開授業に合わせ、前後半で参加分科会を選択できるA、B2部構成の実践発表。2日間とも設定されている講演会に、8つの窓から前後半の2部構成で選択できるワークショップなど、まさに見て、触れて、感じて、つくり出す、造形教育の基盤をじっくり語り合い、学び合う大会とするための工夫が随所に散りばめられ、本大会に寄せるチーム石狩のみなさんの熱い思いが伝わってきます。

不易
と
流行

不易と流行について「変わらない美しさ、変わる素晴らしさ」と表現した人がいました。教育の世界にとどまらず、人が幸せに生きて行く上で大切にしたいことです。

変わらない美しさは、これまでの長きに渡り積み重ねられて来た「北海道造形教育連盟の財産」であり、石狩のみなさんが創り上げて来た「石狩の伝統」にほかなりません。

変わる素晴らしさは、本大会での「今、ここで」感じ、考え、確かめ合う学びの実感なのかもしれません。具体的には、13の姿に要約された授業を通して育みたい力が、子どもの姿となって表れる授業や提言、授業後の研究討議によって深められ、確かめられることと思います。



材料に触れていると、手が材料と語り始め、たくさんのアイデアが浮かんできます。Mさんのアイデアは、「交互に丸める」です。「あのね、紙さん…」と、素敵なアイデアを教えてください。

大人も
「にうしたい！」
大会に！

本大会には、普段は広い北海道各地、また全国の様々な地域で子どもたちと向き合い、心を育む造形活動に勤しむ仲間や、造形教育にいろいろな立場でかかわりのあるみなさんが集まっています。本大会を子どもたちの素敵な笑顔や学びの姿見付けの場としてだけでなく、私たち大人も大会に集うみなさんと心通わせ、子どもや授業、題材や教科などへの「こうしたい！」という思いを積極的に交わす場としてみましょう。

図工・美術の基本を学べる研究会にします。
「授業どうする？」に応えます。

本大会の案内に載っているメッセージです。これを読ませていただいたとき、研究大会の本来の意味について考えさせられました。日々工夫しながら、子どもの笑顔に励まされ、仲間の支えに感謝しながら行う授業や造形的な活動の数々…。これらの「元気」となる大会にしたいものです。悩みや苦勞を分かち合い、解決するだけでなく、工夫やアイデア、温かな微笑みに安心し、ほっとする、そんな優しい大会になると素晴らしいと考えます。

最後になりますが、これまで大会に向けてご尽力されてきたみなさんに対し、心より尊敬と感謝の気持ちを表します。今日この日の素晴らしい出会いや、これからの造形教育への元気をいただけることに感謝しながら“豊かな心”と“確かな力”を感じる素敵な石狩大会にしようではありませんか。

第 63 回 全道造形教育研究大会 石狩大会

- 2013年7月29日(月)30日(火)
- 石狩市立緑苑台小学校

大会主題「豊かな心と確かな力を育む造形教育」
～子どもの「こうしたい！」があふれる授業を通して～

研究部長 山崎 正明



1. 研究についての基本的な考え方

「研究の経過」

一昨年札幌で開催された全国造形教育研究大会では北海道の造形教育の質の高さが評価されました。

また昨年の十勝、帯広では地域の活力を実感させるものでした。このように全道造形教育研究大会が毎年開催され、教師の学び合い、高め合い、北海道の美術教育を充実発展させてきました。こうした継続の中から、すぐれた授業実践や研究が多数なされてきているのは周知の通りです。

今回の石狩大会では 2008 年に北広島大会で発表した「育みたい力」をベースとした「豊かな心と確かな力を育む造形教育」を、継続、発展させることにしました。具体的には、子どもの側からの学びをより重視しています。子どもが自ら本気で学んでこそより確実に力がつくからです。こうしたことから、子どもが「こう描いてみたい、こう



つくってみたい」(注1)という主体的な学びの生まれる授業をつくり、研究主題に迫ろうとしました。

「造形教育連盟の果たす役割」

しかし、一方で「図工の指導はよくわからない」「どう教えるの?」という先生が意外と多かったり、中学校では免許外による指導も多いという実態もあります(注1)。

また、図工美術の授業で何を育むかよりも、何をどう描かせるかといった作品作りそのものが目的化したような授業もいまだに少なくない実態にあります。

さて、このような状況をとらえ、私たち石狩造形教育連盟は研究の成果を提案するだけではなく、美術教育の研究団体として、教室で課題を抱えている先生方のために何かしなければならぬと考えました。と同時に造形教育の持つ教育的な価値や魅力も伝えたいと考えました。

そこで全道の先生に「図工美術の基礎が学べる研究会」と題した案内状を配付させていただくことにしました。



研究には「深める」側面と「広める」側面があります。現在の道内の美術教育の状況から判断し「広める」研究を重視したいと考えました。それは研究会の持ち方を見直すことでもあります。

「美術教育の成果を広める」それがこの研究会を開催するもう一つの大きな目的です。

いま造形教育連盟で取り組むべきことは、道内の多くの先生の日常の授業に役立つ提案をすることも非常に大切であると考えました。子どもが心豊かで確かな力を育む授業を。参加された先生方がこの研究会に触れることによって、子ども達が、より充実した図工・美術教育を受けることを願っています。

「図工・美術教育の目標」

図工・美術教育界で「作品主義」という言葉があります。教師の仕事は「よい作品」をつくらせてこそ、という考え方です（注2）。図画工作・美術教育のその一つの成果として具体的な参考となる子どもの作品などがあります。例えば教科書の図版や展覧会の作品展の作品であったり、あるいはほとんどの学級の作品であったりします。これまでの図工・美術教育は「どのようにしてよい作品をつくらせるか？」というところに目がいきがちでした。そうすると大人の目から見た「よい絵」「子どもらしい絵」を描かせる手段が必要になります。

大事なことは優れた作品をつくらせることではなく、子どもが活動を通して学び、育つことにあります。「何をつくらせるか、何を描かせるか」ではなく「色と形と材」に関わりながら、「何を育てるか」ということが造形教育本来の目標です。ですから、ただ何もせず、放任しておくことも違います。本研究では「豊かな心と確かな力を育む」ことを目標としました。ただし、ここでいう「確かな力」とは、立派な作品をつくるためという意味での「確かな力」では、ありません。「学習を通して身につけていくべき力」です。これを石狩では「育みたい力」として具体的に示しました。

（注1）北海道の中学校美術教育の実態であるが、免許外で美術を教えている教師は全体の4割にもなる。北海道で中学校美術を教えている人...700人。そのうち免許を持っている人400人。300人は免許外です。（2012年北海道新聞）。また新学習指導要領に改訂によって、中学校から選択教科が消え、中学校美術の相対的授業時間数減から、免許外による指導も増えていくでしょう。講師も増えるでしょう。教師の数がすくないことから地域での研究会が成り立たないという実態でできています。

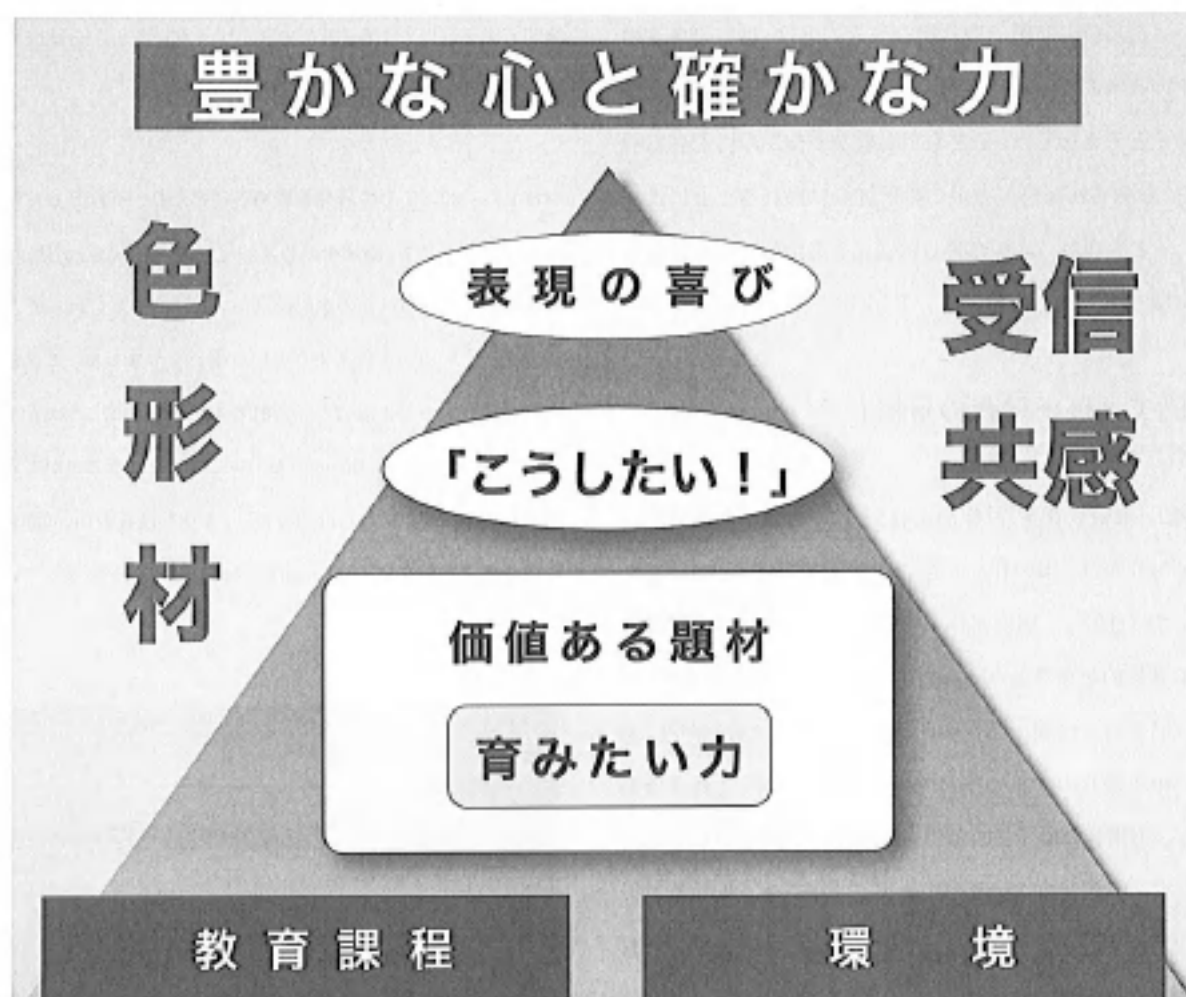
（注2）2006年この研究を進めるにあたり、石狩として確認したことがあります。論議を進めていくなかで、私たちが迷ったら、Education For ArtなのかEducation Through Artなのか、どの位置に立っているかを考えようという確認をしました。これまでの内外の研究から美術教育と言われるものは一般的にEducation For ArtとEducation Through Artの二つに分けることができると言われています。私たちは前者のForよりも後者のThroughを大事に考えました。さらにLearning Through Artを大事していきたいと考えています。



2、研究内容

「豊かな心と確かな力を育む造形教育」

～ 子どもの「こうしたい！」があふれる授業を通して ～



授業は「まず子どもありき」です。そのことが、北海道造形教育連盟の研究主題「わたしを創る」につながっていきます。

「豊かな心と確かな力」を育むためには、子どもが意欲的に取り組んでこそ効果的です。そのために子どもの本気を引き出します。子どもが活動を通して「こうしたい！」というイメージをもって取り組む姿が生まれる授業、それは自ら主題を生み出すことであり、題材が子どものものになっていることでもあります。

以下に本研究の概要を示します。

「育みたい力」を明確にし、「価値ある題材」を用意する。

子どもと題材の出会いの中で意欲を引き出し、さらに子どもの中に「こうしたい！」を持たせる。

子どもの思いや学びをしっかり受信していく。これらを繰り返していく中で、子ども中に豊かな心と確かな力が育まれていく。教育課程と環境の充実がその土台となる。

「育みたい力」

評価の4観点の核となる具体的な力を「育みたい力」としました。ここにあげた力が全てではありませんが、特に大事なものを厳選しました。なお、どの学年でもどの題材でもここにあげた力を全て網羅するというではありません。

育みたい力が核となり、関連しあいながら子どもの資質や能力を高め、豊かな心と確かな力を育てていくことにつながっていきます。なお、この育みたい力は教えるということもありますが、体験を通し、くりかえしていく中で育まれてくものとして考えています。いわゆる基礎基本の徹底ということとは違います。

本研究では、「育みたい力」を、より具体化して考えるために「子どもの言葉」を例として示しています。これらの言葉は子どもの主体的な意思が働いているときに出てくる言葉です。これは育みたい力が具体的に育っている様子を示しています。この研究は「育みたい力」がどう育

育みたい力	
関心・意欲・態度	楽しむ
	追求する
	つなげる
発想・構想の能力	広げる
	深める
	見通す
創造的な技能	比べる
	選び、決める
	バランスをとる
	使う
鑑賞の能力	感じとる
	自己理解
	他者理解

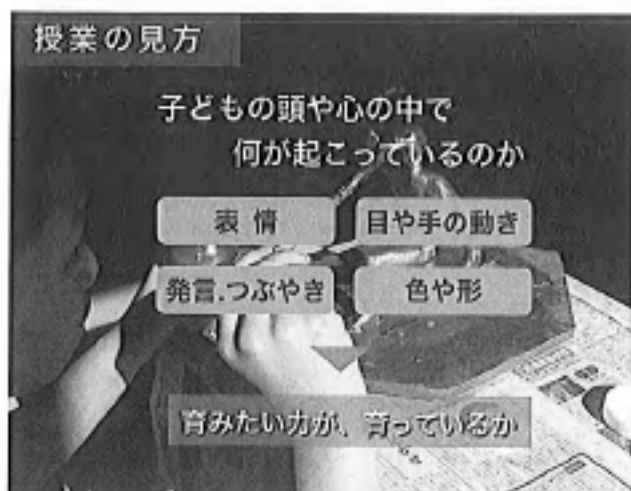
っているのか、子どもの姿から（子どもの頭や心の中で何がおこっているのか）評価してみようとする提案でもあります。

（なお、子どもは教師の想定した目標を超えて、さらに素晴らしいものを生み出すことが多々あります。）

最近の授業研究では、子どもの活動の様子をビデオや写真、行動観察記録をもとに検証することも行われるようになってきました。

「どのような作品か、ではなく、何が育っているのか」ということが大事だからです。この「育みたい力」は、例えば「生き生きしていた。熱心にやっていた。」という見方を具体的にしたものでもあります。

つまり、「子どもの心や頭の中で何が起きているのか」を想定してつくったものです。



「価値ある題材」

「育みたい力」が明確であり、子どもにとってもやってみたい！こうしてみたい！と思える題材を価値ある題材としました。

子どもが与えられた課題をこなすのではなく、子どもが題材を自分のものとしてとらえられる題材を。

子どもが思いから主題を生み出す他にも、色や形や材料あるいは技法から発想し、イメージを膨らませていくものもあります。

「こうしたい！」

題材は目の前の子どもがいて成り立つものであるということが大前提です。「推かされる絵」と「描く絵」は違います。

題材を子ども達にどう提示するか、これはとても大事なことです。どんなに栄養豊富な料理であっても食べてもらえないことには... 子どもが題材と出会った場面で、「やってみよう！」「やる価値がありそうだ」さらに題材を自分のものとして「こうしてみよう！」というように子どもの強い意思を引きだせたら その授業は半ば成功したようなもの。

つまり、子どもが題材を自分のものとしてとらえているという状態です。

子ども「こうしたい！」という明確な意思を持つためにどう工夫するか。授業づくりの醍醐味でもあります。本研究では「こうしたい！」があふれる授業をめざします。

本研究会では授業や実践、研究協議などから、どのように工夫すると、子どもの「こうしたい！」が生まれるのか、そのようなことを学びあう研究会したいと考えています。

「受信、共感」

教師の受信力（評価）は重要です。

小さな子どもの絵は「心の窓」「子どものお話」「あのね...」などとも言われています。しかし、基本的には学年が進んでも同じです。子どもの発信を受けとめる教師の感性も高めたいものです。教師のこの受信力をみがけば、授業はよりおもしろくなります。目の前で子どもは素晴らしいことを思い、考えている、そのらしさが見えてくるでしょう。子どもを理解するためにも図工美術の時間は教師にとっても貴重な時間です。子どもの作品は生きている証ともいえるのですから。そしてもっと大事なことは、様々な思いや力が子どもの表現過程の中でたくさん見えてきます。子どもの目の動きやしぐさ、つぶやき、などか



ら子どもの学びが見えてきます。そして教師にすべきこと
が見えてきます。また園工の時間が学級経営につながる
とよく言われますが、これは園工・美術の授業の中で「共
感する、受容する」ということもその一つの要因でしょう。
共感（教師、親、級友による）が子どもの自己肯定感を育
むことにもなります。このようなことも、美術教育は人間
形成に大きく貢献すると言われるゆえんでしょう。

「教育課程」

教育課程を編成するということは教科の目標や学年の
目標を達成するために「題材」を設定していくということ
でもあります。それぞれ題材は切り離して考えるのではな
く、題材と題材をどうつなげていくかは大切なことです。
学んだ力がどんどんつながるような教育課程を編成した
いものです。

なお、教育課程の編成にあたっては、子どもの発達特性
を踏まえておく必要があります。その年齢だからこそ、表
現できるものを、その年齢だからこそ、表現できるものを
大切にしましょう。ただし、発達特性にしばられすぎる
ことは新たな弊害を生みます。目の前の子どもを「発達特
性」というフィルターを通して見てしまうからです。「発
達段階」とも言われることも多いですが、これまでの理論
では「発達段階」の最終段階が写実的な表現をモノサシに
しているという限界があるということも押さえておきた
いことです。

「環境」

「環境が人間をつくる」という言葉があります。環境が
子どもを育てるということは、幼稚園で使われる「環境の



構成」という考え方から学びたいことです。

環境には人とモノがあります。この環境づくりが、重要
であることから、本研究大会の指導致案に「環境」という項
目を入れてあります。

「表現の喜び」

私がこうしたいと思ってつくったものは、それは私自身の
もの。それは「私を創る」ということでもあります。

3、研究をすすめるうえで大切にしたいこと

私たち教師のために＝子どものために

☆ 子どもの「こうしたい！」があふれる授業
を目指す。

☆ 「日常の授業に生きる」「子どもの幸せを増やす」

☆ 研究説明はわかりやすく、一般の方々にもわか
る言葉で。

☆ 「何をつくらせるか、でなく、何を育てるのか」
作品づくりが目的化しないこと。

☆ 指導致案の育みたい力は 本時案に盛り込む。ただ
し中心となるものだけに焦点化。

☆ 実践発表はもう一つの公開授業（できるだけ映像
を使っていただき、子どもの「育みたい力」が見え
るように。

（「子どもの心や頭の中で何が起きているのか」）

子どもの「こうしたい」があふれる授業づくりのた
めの具体的な手だては、以下のような視点が予測で
きる。ただしほかの視点も考えられる。

研究会ではいろいろな視点から子どもの「こうした
い！」を生み出す工夫を交流し合いたい。

（ひと）教師、級友

（もの）材料、用具

（こと）「こうしたい！」を引き出す題材の工夫

「育みたい力」

石狩造形教育連盟研究部 2013年5月10日版

★印がついているのは、10歳以降（一般的な傾向）が中心となるでしょう。しかし、その芽は幼児期から。

関心・意欲・態度

楽しむ

- ・わくわくしてくる
- ・もっとやりたい！
- ・え？もうおしまい？
- ・はまった！



小さな子は描くことそのものを楽しむ。楽しむことを通してどんな力を育むか、学年に応じて楽しさの質を考えたい。

楽しさをうみだすために題材設定、題材との出会いの場面はとても大切。また、表現したことについて共感される実感は、自己肯定感を育み、表現することの楽しさや喜びを生み出す。特に幼児期や小学校低学年くらいまでは子どもの絵は「子どもの言葉」である。「あのね、」を受けとめる大人（教師や保護者）の「受信」はとてもとても大切である。単に「ほめる」ということとは違う。

なお、中学生以降では真剣に取り組んでこそ得られる「楽しさ・おもしろさ」も大切になってくる。

そしてもう一つの楽しみ、それは材料や、色や形そのものを楽しむ活動である。遊び心なども大切にしたい。もちろん見る楽しみ（鑑賞）もある。

▲「先生！できました！」

→「じゃ、そこに置いといて」「どれどれ、では、ここは、こうなさい。」

「もっとていねいにやりなさい。バックもちゃんと塗りなさい」これでは楽しさとはほど遠い。楽しむというのは子どもが活動の主体者であることが条件である。つまり「こうしたい」って思っただけなのである。

追求する

- ・こうしたい！
- ・苦労したけどやったなあ！
- ・もっといいものにしたい。★



子どもが課題意識を持って、どうしても実現させたいと思ったとき、子どもの中に「こうしたい！」が生まれる。

大人の目には、それが「こだわり」と見えたりする。これは、よりよいものを目指す意識のあらわれ。特に中学生・高校生ではこの「追求」を大事にしたい。何より、彼らにとって題材に取り組むことに「価値を感じる」ものにしたい。追究の結果、その手応えはも大きなものとなる。追究があつてこそ達成感が生まれる。

つなげる

- ・あ、あの方法が使えるそう
- ・なるほど、そうだったのか。



学んだことを他に生かしていく力。生きてはたらく力。

「つなぐ」力は実は教師にこそ求められる力。各題材で育んだ心や力を他題材や他教科、道徳、日常生活ともつなぐように工夫したい。

つなぐ力を生み出すためにも教育課程の効果的な編成は重要である。

授業のあとの「ふりかえり」は子ども自らが、自分の学びについて再度考えることでもある。この積み重ねは、子どもが学びをつなぐ力を育てていく。

広げる

- ・この形、〇〇みたい!
- ・あ、いいこと考えた
- ・もっと違うこと考えてみよう
- ・なるほど、そんな考えもあるのか!



発想する力とは、言い換えると、自分の感じ方や考えを広げていく力でもある。これは幼児期の「見立て」などはからはじまる。「ひらめき」や「思いつき」は発想の源とも言える。

教師の投げかけや、用意した環境、あるいは鑑賞によって（逆に狭めることもある）発想が広がっていく。

授業の中で子どもが出す答えは一つではなく、子どもの数だけある。子どもの発想をより豊かに広げるためにも、題材との出会いも工夫したい。

授業の中で発想が少し進んだ段階で思いやアイデアなどを交流することで発想はより広がっていく。

深める

- ・あ、そうだ、こうしてみよう
- ・もっとかっこよくしたい。
- ・ここを、こうしてみたらどうだろう
- ・構図をもっと工夫してみよう。★



思いついた数々のアイデアをもとにしなが、「もっとよくするには、どうしたらいいだろう?」と、考えを深めていく。

「ひらめき」や「思いつき」を、深めてよりよいものにしようとする。深めるための指導の手立ては表現の質を大きく左右する。

見通す

- ・こういう順序で進めていけばいいんだな
- ・やった! 設計図完成!



完成をイメージしながら、それにそって見通しを持って制作に取り組む。仕事の段取りや手順を考えることも見通しを持つことである。

ただし、全ての表現活動が見通しを持ってなされているわけではない。むしろ見通しがない中での表現の活動のおもしろさもある。描きながらどんどん変わっていく「つくり、つくりかえる」おもしろさもある。「造形遊び」などでは「見通し」についてはほとんど不要である。むしろ妨げになる。その場でとことん楽しむ中で、「こうしたらどうなるだろう?」「こうしたい」が生まれていく。

比べる

- ・あれ？目が大きすぎたみたい。
- ・ここはどうしたらもっとそっくりになるのかなあ。★



一般的には10歳前後から「ホンモノみたいに描いてみたい」という欲求（個人差が、大きい）が生まれてくると言われている。この欲求に答えるために、教師として、どう支援していくか。シンプルかつ効果的なのは、「比べる力」を育てることである。色や形を客観的にとらえるとき、頭の中では形の位置や大きさ、量、長さ、角度や色の微妙な違いなど様々な比較がなされている。「比べる」ことは表現活動の中での知的な活動である。この「比べる」ことの繰り返しによって、客観的な表現が出来るようになっていく。「バランスをとる」ということと複合的に発働させる力である。

選び、決める

- ・どの色にしたらいいかな
- ・完成にしようか、どうしよう？



授業の中で「選択意思決定場面」を豊富に用意したい。それは学びを主体的にしていき、その子らしさ「私を創る」をつくりだしていくことにつながる。こどもの「こうしたい」という意欲を引き出す引き金にもなる。これらは、授業改善のための大切な視点でもある。

表現は様々な価値葛藤をしていく中で、選び、決める連続によって成り立っているともいえる。これは、よりよく生きていこうとすることにつながる。

バランスをとる

- ・ここの色が強すぎるみたいだ
- ・どうもこの部分が物足りないなあ



かいた形、構図、色彩などの調和を生み出すためにバランスが大切である。美を追求するとき「統一と変化」や「全体と部分の関係」などが重要であると言われている。これは、言い換えると全体のバランス、調和の問題である。

この力は制作途中の作品を「はなれて見る」ことによって引き出しやすい。

（教師）「ちょっと、手をおいて、作品から離れて見てください。」
（子ども）（離れてみて）「あれ、何だか、ここが、大きすぎるみたいだ」「ここを直そう。」

教師から指摘されて形を直すのと子ども自らが気付き、自分で直すのでは、学びの質は大きく違ってくる。「はなれて見る」ただ、それだけのことなのだが、非常に効果的である。絵を作品として意識しだす中学年以降に有効である。

使う

- ・わっー、きれいな色ができた！
- ・こうすれば怪我をしないのか。
- ・そんな方法があるんだ！



様々な表現技法や色・形・材に関する基礎知識（体験）を自分の表現意図にあわせて使う力。自分のを「こうしたい！」と思ったときに最も効果的に生きる力。

・表現技法（安全な道具の使い方も含め）は教えるもの・育てるものがある。

技法は子どもの中に必要感、必然性があるからこそ、生きてはたらく力となる。本当に必要であれば子どもは「技」を生み出す。子どもは必要があれば「工夫」をする。

感じとる

- ・すごくきれい！
- ・なんか、わくわくしてくる色です。
- ・これをつくった人の気持ちや考えを想像したら、それがいかにすごいことであるかがわかりました。
- ・こんなところで美しさを発見！



子どもの日常生活はさまざまなモノがあふれている。しかし、ややもすると消費社会の中に埋没し、流行に流されることもある。また身近な生活の中にあるよさや美しさに気がつかなかつたりということもある。鑑賞や表現などの豊かな体験の積み重ねが子どもの中の「感じとる」感性を鋭敏にしていく。

また長い年月をかけて受け継がれて来ている伝統文化など価値ある物に出会わせる。そこに鑑賞の大切な役割がある。このような活動を通して価値観・美意識を更新していく。(社会科の中でも扱う美術との違いもおさえない)

名画や級友の作品だけが鑑賞の対象ではない。道ばたに咲いている花からも美を感じとるような感性を大事にし、より豊かに育てていきたい。

自己理解

- ・私は、この絵が好きだなあ、というのは…
- ・僕の絵はそんなよさがあったのか！



鑑賞の中で作品に対する自分の思いを語ることは結局は自分自身を語っていることでもある。

鑑賞を通して「自分なりの見方」ができるようにしたい。鑑賞の場面での級友の感想を通して新たな自分に気づくこともある。こうしたことは自己肯定感を育むことにつながっていく。教師の評価も大切である。図工美術では出す答えは、自分の外にあるのではなく、自分の中にあるということも忘れてはならない。

他者理解

- ・作者の戦争への怒りを感じました。
- ・このデザインは使う人への優しさがあると気づきました。
- ・みんな違っておもしろい！いろいろな考えがあるんだ。



ここでいう他者理解とは作者に対する理解と鑑賞を通して知る級友への理解の二つがある。

美術はコミュニケーションのための優れたツールである。他者を理解する経験の積み重ねは美術のおもしろさを味わうとともに表現への意欲を生み出す。

「対話による鑑賞」(対話による意味生成的な美術鑑賞)の授業などでは、他者の感想を聞きながら自分の感じ方が広がったり、深まったりしていく。さらに副産物として鑑賞活動を通して「言語能力」も高まる。

また、一人一人が違うということを実感することにもなり、他者理解が深まる。こうして生まれる共感の感覚は学級づくり、人間関係づくりにも生きていく。

授業 指導案



篠路光真幼稚園 4歳児 らいおんくみ
(16名)

2013年7月29日(月)

指導者 教諭 木下 明日香

1 題材名

「自分たちの森をつくろう」

2 題材について

「自分たちの森をつくろう」という題材は、想像したことをもとに、みんなであらたな世界を、つくりだせる楽しさを味わわせたいと考えて設定した。

そして単に森を描くということから「森の中で何をしたいか?」と問いかけることで、子どもの中に「こうしたい」を生み出すようにした。

したがって細かなものを描きたい場合も出てくることも想定して、絵の具だけではなく、必要に応じてパスも使用できるようにした。

森の絵は、3人一組で横長の画面に向かって描くようにした。こうすると自然と自分の描くスペースが決まるので、はじめての共同制作としては取り組みやすい。共同制作ではあるが、まず自分の描きたい木を描いてから、横で描いている様子を見ながら、あるいは話し合いながら発想を広げていくように設定している。

用意するもの

模造紙 個人絵の具 パス 白カップ パレット 新聞紙
中筆 絵の具雑巾 スモック

3 幼児の姿

進級してから三年中児として行動に自信を持ってきた。年少児の時にはなかった個人絵の具を導入し、絵の具を使いながら混色することを喜んで行っている。いろいろな活動に進んで取り組み、その成果に満足感を強く感じるようになってきた。また、お互いを認め合い、自己主張が強くなるところも、相手の思いを受け止められることも多くなってきた。

絵画表現に関しては、まだまだ経験値を多く持たせたいと取り組んでいるところなので、子ども達が取り組んだ結果を踏まえて、次に取り組む画材や題材に変更を加えながら活動に順次生を持たせている。

4 題材の目標

- ・森とはどのようなものかを想像し、自分たちだけの森を友達と協力して描く。
- ・みんなで大きなものを描く喜びを味わう。

5 題材の評価の観点

	評価の観点	育みたい力
関心・意欲・態度	みんなで、つくる楽しさを味わう。	楽しむ
発想・構想の能力	森の中で何をしたいかについていろいろと想像することができる。	広げる
創造的な技能	自分の表したいことに応じて絵の具やパスを選んで使うことができる。	使う 選び、決める
鑑賞の能力	みんなでつくったものをあわせて見て、その良さを感じ取る。	感じ取る

7 教育課程

「絵の手紙」に継続的に取り組んでいる

個人絵の具のストローク

はじき絵「はらぺこあおむし」

描画「バースデーケーキ」

動物園の絵「猿」

8 環境

- ・三人がちょうどよい大きさを描ける模造紙の大きさ。
- ・子どもが描きやすい 水、絵の具、パスの配置。
- ・子どもの力がうまく発揮させるようなグループ作り。
- ・描いた作品を並べるときの、作品の置き場所や置き方への配慮。

9 本時の保育内容

(1) 本時の目標

- ・森とはどのようなものかを想像し、自分たちだけの森を友達と協力して描く。
- ・みんなで大きなものを描く喜びを味わう

(2) 本時の展開

過程	育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
導入	広める	<p>○ 森の様子を想像する。</p> <p>○ 友達と一緒に絵を描くことがわかる。</p> <p>○ 森の中で何をしようか、想像する。</p>	<p>○ 森って何か知っていますか？森には木がたくさんあります。</p> <p>○ 今日はお友達と一緒に考えて森をつくります。森の中で何をしたいかを考えて、絵を描くことを伝える。木以外にも自分たちの森に描きたいものがあれば、描いてよいことを伝える。</p>	<p>○ 絵の具とバスの好きな方を使って、描いてよいことを伝える。</p> <p>○ 絵の具を使うときの約束事を思い出させる。</p>
展開	使う 楽しむ 広げる	<p>○ 描きたいものあわせて、絵の具かバスを選択して、自分の思い描いた木や森や描きたいものを描こうとする。</p> <p>○ 森の中でしてみたいことを想像しながら描く。</p> <p>○ 近くの友達の絵を見たり、自分で描いたものから刺激を受けて、描いているうちに思いついたりして楽しく描く。</p>	<p>○ 絵を描いているときに、独創的なもの描いている子は取り上げて、具体的に誉めるようにする。</p> <p>○ 子ども達から色や物の質問があった場合、自分たちで考えた森の中にあるものなら描いてよいことを伝え、教師のほうからは制約をせず、子ども「こうしたい」を大切にします。</p> <p>○ 思いを広げて表すための支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな森にしたらうれしい？ ・児童の表現の広がりや他の児童に知らせる。 	<p>○ 描くとき、一人の子どもだけがたくさんスペースを使わないよう声をかける。</p> <p>○ 3人で話し合いながら、行ってもよいことを声をかけながら伝える。</p>
終末	感じ取る	<p>○ 森をつなげ、らいおんくみの森が出来たことを喜ぶ。</p>	<p>○ 時間になったら途中でも終了し、絵ならべてらいおんくみの森をつくる。</p> <p>○ 続きをはまた幼稚園で行うことを伝える。</p>	

10 資料（圖で取り組んでいる「絵の手紙」）



篠路光真幼稚園 5歳児 すみれくみ
(16名)

2013年7月29日(月)

指導者 教諭 畠中 礼子

1 題材名

自分の「絵の具島」を描こう

2 題材について

「絵の具島」は絵の具でできた島で、それが噴火するという設定である。このお話は既成の概念に縛られずに、例えば、島であるから、緑色などということにはならず、自分が使ってみたい色を存分に使うことが期待できる。

さらに 絵の具で描いていくうちに、もっと「こうしてみようかな」というように、発想を広げていくということが期待できる。筆も2種類を用意し表現の幅を広げるようにした。

この題材では楽しんで描くという行為そのものに価値を置いている。

用意するもの

ケント紙 個人絵の具 画板 水入れ パレット 乾燥棚
中筆 細筆 絵の具雑巾 スモック

3 幼児の姿

1学期が終わり、進級当初からずいぶんと成長したことが見受けられる。集中できる時間も伸びてきており、意欲を持って活動に取り組んでいる。友達同志に対する意識も高まり、お互いに認めあい、みんなで気持ちを高めて活動に取り組むことができている。

しかし、自己主張が強いので、ぶつかり合うこともあり、誰かが仲立ちになることも必要な時がある。

絵画表現に関しては、画材の使い方や題材に順次性を持たせて考えている。現在、三年長児なので、絵の具だけで行う絵画表現に取り組んでいるところである。

4 題材の目標

- ・ 想像した世界を描きながら絵の具そのものを楽しむ。

5 題材の評価の観点

	評価の観点	育みたい力
関心・意欲・態度	絵の具の感触や混色を楽しむ。	楽しむ
発想・構想の能力	お話をもとに、いろいろな想像を広げることができる。	広げる
創造的な技能	自分で使いたい筆を選んで使うことができる。 水加減も考えながら描くことができる。	使う

6 教育課程

絵の具では はじき絵などを体験している
「絵の手紙」に継続的に取り組んでいる

7 環境

- ・ 教室の床に座って描く。
- ・ 子どもが描きやすい 水、絵の具の配置。
- ・ 絵の具で伸びやかで、気持ちよく描けるように ケント紙とした

9 本時の保育内容

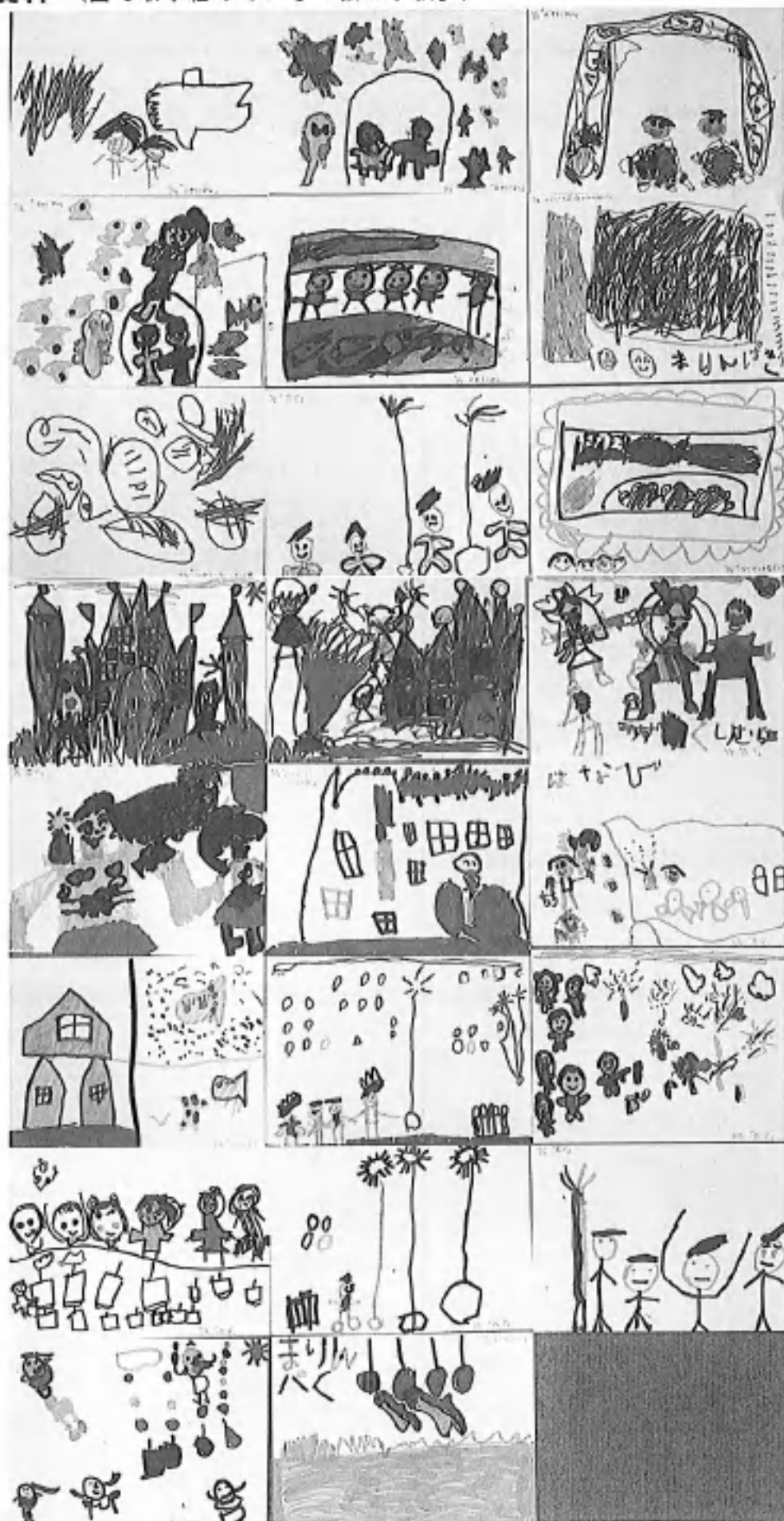
(3) 本時の目標

- ・ 想像した世界を描きながら絵の具そのものを楽しむ。

(4) 本時の展開

過程	育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
導入	広げる	<p>○「絵の具島」のお話を聞きながら、想像を膨らませる。</p> <p>お話の主旨「船に乗り、海に出たことを話し、進んで行くと、小さい島が見えてきました。島には山があって、絵の具の色をしています。煙が出ていて、ドッカーンと山が爆発しました。」</p>	<p>○目を閉じて聞くように働きかけてから、話を始める。</p>	<p>絵の具を使うときの約束事を確かめる。</p>
展開	<p>広げる</p> <p>使う</p> <p>楽しむ</p>	<p>○「絵の具島」が噴火する様子を想像しながら、どんな場面を描こうか考える。</p> <p>○噴火することと、筆を動かしながら色で描いていくことが一体の活動になる</p> <p>○自分の描いた絵や友達の描いた絵を見ながら「もっと、こう表現したい」という気持ちが高まり、活動が盛り上がっていく。</p> <p>混色や絵の具の感触を楽しみながら描く。</p>	<p>○それぞれが、想像した絵の具島を描くように働きかける。</p> <p>○活動中は描く姿を見守り、色や形など一人一人の表現を認め、子どもが楽しんで描けるようにする</p>	<p>絵の具を出す量や水分調整が出来る。</p> <p>○2本の筆を使ってよい。</p> <p>○描き出しに困っている子がいたら、声かけをし、イメージを引き出し、受け止め、描き始められるようにする。</p> <p>○水分調整が出来ていない場合は必要に応じて声かけをする。</p>
終末	楽しむ	<p>○描き終えたら、その思いを先生に伝える。</p>	<p>○描き終わったら、子どもの言葉や気持ちを受け止め共感し、楽しく行えた気持ちが持てるようにする。</p>	<p>○終わらなかった子へ配慮…今度幼稚園で描くことを伝える。</p>

10 資料 (圖で取り組んでいる「絵の手紙」)



1 題材名 「ならべて つんで」(造形遊び 2時間)

2 題材について(「こうしたい」が生まれる題材)

本題材は、小学校学習指導要領の第1学年及び第2学年の目標(2)「造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。」に基づき、内容A表現(1)ウ「並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること」にかかわっており、児童一人ひとりが自分の思いのままに表現する楽しさを十分に味わうことができる題材である。

本題材では、児童にとって身近な紙素材であり、軽くて安全で、かつ大量に準備することが容易な紙コップを材料とした。紙コップの形に着目させ、1つの素材とじっくりかかわらせたいという意図から紙コップは全て同サイズのものを用意した。さらに、児童一人ひとりが自分の思いをもって工夫しながら、思いついたことをどんどん試していけるよう、10000個の紙コップを用意した。大量の紙コップを用意することで、作ってはまた別のものを作り、また次を作り……という試行錯誤が次々とできるため、児童の活動意欲を一層高めることができるのではないかと考えた。たくさんの紙コップを目の前に「なにができるかな?」「もっとこうしたい。」という児童の意欲を喚起させ、形のいろいろな並べ方や組合せ方、積み方など、想像を広げながら楽しく、体全体を使ってダイナミックに、造形活動に取り組むことができると考えている。また、10000個の紙コップを用意することにより、一人での造形活動から、「もっと高く積んでみたい。」「〇〇さんの並べ方、おもしろいからやってみたいな。」「みんなで力を合わせると、もっとすごいものができそうだ!」などと発想や構想を広げ、友人と協力し、みんなと造形遊びを楽しむ活動も生まれるのではないかと考えた。

本題材を通して、思いのままに試みる自由な造形活動の経験をさせ、進んで楽しむ意識をもたせながら、発想や構想、創造的な技能などの能力の基盤を伸ばしていきたい。

3 児童観・指導観(「こうしたい」を生み出す手だて)

本学級は図画工作科の授業に興味をもって意欲的に取り組む児童が多く、休み時間も好きな絵を描いたり、ぬりえなどに色を塗ったりする活動を好んで行っている児童が多い。特に造形遊びに対しては、身近なものや材料に興味をもち、進んで楽しみながら活動をしている。多くの児童が集中して活動を続け、自分たちから友だちとかかわりながら、数名が一緒になって活動していることが多い。絵や立体、工作に表す活動においても意欲的で、低学年らしい自由な発想で思い思いに自分の表し方を楽しんでいる様子が

作品に表れている。しかし、一方で「どのように表したらいいかわからない」「絵に表すことが苦手」「友だちとうまくかかわれない」という児童も数名いる。そこで、本題材では一人での造形活動も大切にしつつ、授業後半では友だちと協力して活動し、みんなと造形遊びを楽しむことも大切にしていきたい。

子どもたちの「こうしたい」を引き出すために、本単元を2時間扱いとした。1時間目には、一人に30個ずつ紙コップを渡し(全体で900個)、思い思いの活動をさせる。さまざまな遊びを通して、紙コップの特性や形に気付かせ、材料を並べる、積むなどという本単元に必要な基本的な技能の経験させた。また、少量の材料を使うことによって、児童の「もっとたくさん紙コップがあれば…」「もっとやってみたい」「もっと大きなものを作りたい!」という、本時の活動への意欲(「こうしたい」)を引き出したと考えた。そして本時では前時を生かしながら、材料と十分向き合い、思いついたことをどんどん試していけるよう、10000個の紙コップを用意することとした。

さらに、ダイナミックな造形活動に取り組むことができるよう、活動場所を教室・ワークスペースに設定した。広い場所で活動を行うことで、周りの友だちのやっていることに興味をもち、子どもたち同士の自然なかかわりが生まれるのではないかと考えた。かかわりの中で、表現することが苦手な児童も周りの友だちと一緒に活動をしながら、活動の楽しさを感じることができればと考えている。また、友だちと相談・協力しながら造形活動をすすめることで、互いの表現活動のよさに気付くことを期待している。活動の最後には、自分や友だちの良さや面白さを発見し、認め合える場を設定する。共同でつくり上げる楽しさを感じさせ、造形遊びの基盤となる経験をさせていきたい。

4 題材の目標

身近にある材料の形を基に並べたり積んだりしながら、思いをふくらませるとともに体全体を十分につかって造形活動をする。

5 題材の評価の観点

	評価の観点	育みたい力
関心・意欲・態度	紙コップの形を基に、並べたり積んだりする活動を色々試したりして体全体で活動を楽しもうとしている。	楽しむ 追求する
発想・構想の能力	紙コップを、並べたり積んだりしながら想像を広げ、いろいろな形や並べ方を思い付いている。	広げる 深める
創造的な技能	もっと長くつないだり、いくつも積んだりするなど、思いついたことを色々試し、体全体を働かせ、表し方を工夫している。	選び、決める
鑑賞の能力	並べたり、つないだり、積んだりしてできる形の面白さ、大きさや広さなどを全身で感じている。	自己理解 他者理解

6 題材の指導計画

指導過程	学習内容	時
題材との出会い	材料とかかわりながら、思い思いに並べたり積んだりする。	1
〈本時〉		
題材との出会い	材料を自由に選び、体全体で材料とかかわりながら、思い思いに並べたり積んだりする。	1
ひろがり	並べたり積んだりしながら、思い付いたり考えたりしたものをつくる。	
ふりかえり	みんなの活動を楽しんで見て回りながら、友人と工夫したことを話し合う。	

7 教育課程（他の題材とのつながり）

造形遊び

1 学年

材料や場所などを基に活動する

〈自然材・人工材〉

- すなやつちと なかよし
砂や土の感触を十分に味わいながら、造形的な活動を思い付く。
- なにに なるかな
身の回りにある材料の形や色に気付き、並べ方を工夫しながらすきな形をつくる。

体全体の感覚や技能などを

働かせて活動する

- ならべて つんで
(本題材)

- いろいろ ベッタン
体全体を働かせながら写す活動を楽しむ。

立体に表す

〈絵や立体、工作に表す〉

- はこのなかまたち
・ つんで つくろう
・ ならべて つくろう
集めた材料（箱）の組合せ方を工夫して、楽しい形になるように立体的に表す。

2 学年

- ならべて つないで つつんで

身近な材料の形や色を基に思い付いたことを試しながら体全体を働かせて作る。

- つないで どんどん

紙を細かく切ってつなぎながら、みんなで

8 環境

- ・ 教室に隣接するワークスペースを利用し、広々とした空間でダイナミックな表現活動ができるよう場の工夫をしている。
- ・ 自由に遊び、その中で造形的な出会いができるよう、学級に積み木・おはじき・色紙・紙筒などの自由遊び道具を用意している。多くの児童が休み時間にそれらを使って遊んでいる。

9 本時の学習指導

(1) 本時の目標

身近にある材料の形を基に並べたり積んだりしながら、思いをふくらませるとともに体全体を十分につかって造形活動をする。

(2) 本時の評価


	育みたい力	評価規準		Bを実現できない児童への指導の手だて
		おおむね満足 (B)	十分満足 (A)	
関心・意欲・態度	楽しむ 追求する	紙コップの形を基に、並べたり積んだりすることを楽しもうとしている。	紙コップの形を基に、自分なりの工夫をしながら、並べたり積んだりすることを楽しんで活動している。	材料を使って友人と一緒に遊ぶよう声をかける。
発想・構想の能力	広げる 深める	紙コップを、並べたり積んだりしながらいろいろな形や並べ方を思い付いている。	紙コップの形を基に、イメージをふくらませていろいろな並べ方や積み方を工夫している。	周囲の友人の活動に目を向けてみるように促す。
創造的な技能	選び、決める	材料の並べ方や積み方を工夫している。	いろいろな並べ方や積み方や、組合せ方の工夫をしている。	友人の活動を見て回り、面白いと思ったところや、工夫しているところを聞いてみる。友人の真似をしてもよいこととして活動を促す。
鑑賞の能力	自己理解 他者理解	並べたり積んだりしてできる形の面白さや活動の楽しさを実感している。	並べたり積んだりしてできる形の面白さなどの特徴を捉え、自分なりのイメージで表現している。	自分の活動や友だちの活動を見て回り、面白いと思ったところや、工夫しているところは、どこかを聞いてみる。

※【8環境】

〔紙筒で自由遊びをする児童〕



(3) 本時の展開

過程(時間)	育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
(事前)			材料を活動場所のそばに集めて置いておき、児童が自由に材料を選べるようにする。	ビデオカメラ設置 (評価に活用)
導入 (5分)		<p>○材料の近くに集まって座る。</p> <p>○材料を見て、どんな遊びができそうかを考える。 (前時のふりかえり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ならべてみる ・かさねてみる ・つなげてみる ・つんでみる <p>○学習のめあてをつかむ</p>	<p>○どんなことをしてみたいか、どんなことができそうかなど、児童の意見をたくさん取り上げる。</p> <p>※「どんなものをつくりたいか」などは活動前に発表しないよう留意する。遊びながらつくる、つくって遊ぶという活動を繰り返すことにより、児童の思いを広げさせていく。</p> <p>○学習のめあてを知らせる。</p>	前時の活動の様子が分かる 写真を提示
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="font-size: 2em; margin: 0;">ならべて つんで</p> <p style="font-size: 1.5em; margin: 0;">～どんどん どんどん～</p> </div>				
展開 (35分)	<p>楽しむ</p> <p>選び、決める</p> <p>追求する</p>	<p>○材料を自由に選び、思い思いに並べたり積んだりをどんどん試みる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の形や色を基に、自分なりの並べ方や積み方を考える。 ・思い付いた新しい並べ方や積み方にどんどん取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりの発想を大切に、並べる、積むなどの活動を促す言葉掛けをする。 ・発想をふくらませながら表現活動に取り組んでいる児童や、工夫した活動が見られる児童を見取り、そのよさを全体に広められるようにする。 ・並べる、積むなどの活動で、自分の思いを表現していくように促す。 ・児童が友人と協力して活動を進めたいという場合には、それを認め、励ます。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">一人での表現活動</div> 

		予想される児童の活		
		<p>ならべる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真っ直ぐ並べる ・曲線を作りながら並べる <p>もっと、並べてみたいなあ</p>	<p>つむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高く積み上げる ・ピラミット型にして積む <p>もっと高くつみたい!!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が進まない児童には、周囲の友人の活動にも目を向けてみるように促したり、教師も一緒に活動したりして、思いを広げられるようにする。
		<p>つなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並べたり、積んだりしたものをつなげる ・紙コップの束をつなげる <p>OOさんの作品とつなげたいなあ…</p>	<p>見立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積んだり、並べたりしたものが動物やものに見えてくる <p>OOに見えるよ!</p> <p>OOみたいになったよ!</p> <p>OOができたよ!</p>	<p>☆ 一人ではたくさん並べたり、高く積んだりするのは難しいなあ。</p> <p>☆ 友だちと一緒にやりたい!</p> <p>☆ もっと大きなものを作りたいぞ!</p> <p>☆ OOさんの作品、すごいなあ!</p> <p>どうやって やったのだろう?</p> <p>☆ 紙コップに 色がついていたら、</p>
	深める	<p>○友人の活動を見て回り、活動の楽しさや面白さを発見する。</p> <p>○友人と協力したり、つくったりしているものを見せ合いながら活動を深める。</p> <p>○友人と協力しながら、思い思いの材料を選んで、思い付いた材料の並べ方や積み方をどんどん試みる。</p>	<p>○友人の作品を見て、面白いと思うところや、工夫しているところを発見するよう声をかける。</p> <p>・一人ひとりの並べる・積むなどの活動イメージをさらに広げられるよう促す。</p> <p>・2～3人でのグループで活動するよう促すが、一人で活動したいという児童がいる場合はその思いを尊重し、そのまま活動を続けさせる。</p> <p>・友人と協力したり、相談したりしながらつくっていく楽しさを味わうことができるよう、活動を促す。</p>	<p>グループでの表現活動</p>
終末 (5分)	自己理解 他者理解	<p>○友人と協力して、または自分自身で行った活動の楽しさや面白さを実感する。</p> <p>○みんなの活動を楽しんで見て回りながら、友人と工夫したことを話す。</p>	<p>・教室の周りに置いてある椅子に上がり、自分の作ったものを上から見せる。</p> <p>・作ったものに添って歩いたり、高く積んだりしたものを下から見上げたりし、色々な視点で活動を見て、工夫や面白さを発見するよう促す。</p>	<p>※デジタル活用</p> <p>児童が作ったものを写真に撮り、活動の振り返り・評価に使用。</p>

石狩市立緑苑台小学校 3年2組
(男子13名 女子16名 計29名)
2013年7月29日(月)
授業者 教諭 堀田 裕也

1 題材名「風でダンシング」

2 題材について(「こうしたい」が生まれる題材)

本題材は、風で動くことを基に発想を広げ、形や色を工夫して作品を動かす楽しさを味わうことを目的とした題材である。

また、本題材は、小学校学習指導要領の第3学年及び第4学年の目標(2)「材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。」に基づき、内容A表現(1)ウ「前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどしてつくること。」に関わっており、これまで低学年においても、ビニル袋の特性を生かし、袋状のものに空気を入れることを楽しむ活動を行い、児童はそのおもしろさを感じている。また、理科でも「風やゴムでうごかさう」の単元で、帆かけ車に風をあてて動かす学習しており、風に対する興味も湧いている。

そこで、今回は、ビニル袋の特性を生かしつつ、さらにビニル袋に着色することで、想像をふくらませ、新しい動きに興味を示し、全身で素材に関わっていかうとする姿が予想される。

試行錯誤し、くり返し動きを確かめる過程で、児童の「こうしたい」という思いが広がっていくと考える。

3 児童観・指導観(「こうしたい」を生み出す手立て)

3年生になり、児童は簡単な工作や絵の具で色をつくり出す活動を経験し、楽しく、積極的に図画工作科の授業に臨んでいる。また、用具の使い方などの基本的な技能もきちんと指導してきた。さらに、本題材では、共用の送風機を用いたグループ学習とすることで、仲間の良いところを素直に認めたり、お互いにアドバイスし合ったりする活動も期待したい。

主な材料であるビニル袋は、子どもの発想をより表現できるように、そのサイズと種類に工夫を凝らした。また、送風機が限られていることから、ビニル袋の口径と同サイズの新聞紙の輪を付けることで、送風機の風が入りやすいようにした。そしてこれとともに、グループの作品を傘に吊るして鑑賞することで、グループの作品が一体となり、どの児童も、より自分の作品がダンスしているように見えるよう工夫した。これにより、児童がもっと「こうしたい」と、自分のイメージを広げられるのではないかと考える。

4 題材の目標

風の中で動くことを基に発想を広げ、形や色を工夫して作るとともに、作品を動かす楽しさを味わう。

5 題材の評価の観点

	評価の観点	育みたい力
関心・意欲・態度	風の中で動かすことに興味をもち、自分の思いで取り組もうとしている。	楽しむ
発想・構想の能力	風を受けて踊るように動く様子から、作り出したい形を考えている。	広げる 深める
創造的な技能	風を受けやすくする仕組みを試しながら、楽しい形や色を工夫している。	選び、決める
鑑賞の能力	自分や友人の作品を風で動かしてみ、作品が動く面白さを感じ取っている。	自己理解 他者理解

6 題材の指導計画

指導過程	学習内容	時
題材との出会い 発想	風の中で踊るように動くビニル袋の動きを知る。 ビニル袋で、動きに合うような形を作る。	1
構想 表現 鑑賞 ふりかえり	送風機で風を受けたビニル袋の動きを確かめながら、ビニル袋やスズランテープのつなぎ方などを工夫する。 完成した作品を風で動かし、作品がふわふわと浮かび、ゆらゆら踊る楽しさを友人と一緒に味わう。	2 本 時

7 教育課程(他の題材とのつながり)

図画工作科		生活科		理科	
学年	題材名と活動内容	学年	主な活動	学年	主な活動
1 学 年	ニョキニョキとびだせ(工作) 箱から飛び出す物をつくる。	1 学 年	たこづくり ビニル袋を利用してたこをつくり、飛ばして遊ぶ。	3 学 年	風やゴムで動かそう 帆が付いた車に風を当てて動かす。風の強さによって車の動き方が異なる事を知る。
	2 学 年		ふくろちゃん(立体) ふくろを変身させて、友達をつくる。		

本題材:ふわりくるくる風パワー ~風でダンシング~

風の中で動く、遊ぶものを作る。

8 環境

- ・児童が自由に活動できるように、場所は教室・ワークスペースに設定する。
- ・子どもが自分のイメージをさらにふくらませられるような材料を用意する。
- ・児童一人一人が思い思いの材料を自由に選択できるように、多くの材料を用意しておく。
- ・子どもたちが活動しやすいように、セロテープを一人1台用意する。
- ・つくっている途中でも、風で動く様子が確かめられるように、各グループに1台送風機を用意する。

9 本時の学習

(1)本時の目標 風の力で動かすことを基に発想を広げ、形や色を工夫して作るとともに、作品を動かす楽しさを味わう。

(2)本時の評価

	育みたい力	評価規準		B を実現できない児童への指導の手立て
		おおむね満足 (B)	十分満足 (A)	
関心・意欲・態度	楽しむ	風の力で動かすことに興味をもち、自分の思いで取り組もうとしている。	動きを何度も試したり、友人と作品の動きを見合ったりして、活動を楽しもうとしている。	他の児童の作品を、教師と一緒に見る。
発想・構想の能力	広げる 深める	風を受けて踊るように動く様子から、作り出したい形を考えている。	用意された材料が、風を受けた様子をイメージしながら作り出したい形を考えている。	教師の示した例示から、児童と対話をしながら、思いを引き出す。
創造的な技能	選び、決める	風を受けやすくする仕組みを試しながら、形や色を工夫している。	新しい動きを作り出したり、動きに合った形や色などを工夫したりしている。	他の児童が考えた工夫や技法を、時間をとってクラス全体に紹介する。
鑑賞の能力	感じとる 自己理解 他者理解	自分や友人の作品を風で動かしてみ、作品が動く面白さを感じ取っている。	自分や友人の作品から、材料の特性と動きの関連性を見つけ出し、鑑賞している。	どんな動きがおもしろいか、どんな工夫があるかを確認する。

(3)本時の展開

過程(時間)	育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
(事前)		○前時にはなかった材料から、本時への期待感をもつ。	○材料を活動場所を集めて置いておき、児童が自由に材料を選べるようにする。	・送風機を各班に1台ずつ準備する。
導入 (5分)	広げる	○前時の活動をふり返る。 ○送風機からの風で動く様子から、さらなるイメージをふくらませる。	○子どもたちに作品例を提示する。 ○イメージが決まらない児童には、ビニル袋の動きが何に似ているか等の声かけをする。	・送風機使用の注意について指導する。
展開 (25分)	選び、決める 感じとる 深める	○ビニル袋、傘袋、手袋、スズランテープなどで、動きに合うような形を作る。 ○動きを確かめながら、ビニル袋やスズランテープのつなぎ方などを工夫する。	○児童に声かけをし、生き物に拘らず、自由な発想でグンスするものを想像できるようにする。 ○児童が見つけた技法を紹介する時間を作る。	・各班ごとにおいた送風機で、動きを確かめながら活動できるようにする。
終末 (15分)	自己理解 他者理解	○完成した作品を風で動かし、作品がふわふわと浮かび、ゆらゆら踊る楽しさを友人と一緒に味わう。 ○一班ずつ発表をする。	○班ごとに作品を傘に展示し、クラス全体で交流する。	・送風機2台を使い、傘に付いた作品が回るようにする。

石狩市立花川南小学校 4年3組
(男子17名 女子16名計33名)
2013年7月29日(月)
授業者 高木 亮一

1 題材名「開けてびっくり!とび出すカード」(5時間)

2 題材について(「こうしたい」が生まれる題材)

とび出す仕組みのカードに出会うことで、その工夫に興味を持ち、同じようなもしくはそこから発展させた仕組みをもとに楽しいカードを作る作業に児童の「こうしたい」という思い、工夫が表れると考えた。発達段階によっては、招待状、パースデーカードなど「相手に渡すこと」を前提にするカードと考えたが、仕組みから生まれる工夫が、自分の中でより豊かにふくらんでいく子、または工夫を大切な相手に見せてあげるために豊かにふくらんでいく子と、どちらが優れているわけではなく、どの方面での「こうしたい」も大切にしたいと考え、カード作りへのアプローチを ★「自分で楽しむコース」 ★「相手にあげるコース」の2コースから選ばせることにした。

どちらのコースでも、見本を通して飛び出す仕組みの基本的な型に出会わせて、その後に画用紙を使って自由に飛び出す仕組みを構想させることで、仕組みにあった表現方法を構想させたい。

基本的に児童自身の構想を掲げ所に作らせたいが、思いつかない子やアイデアがまとまらない子もいるので、アイデアを全体で交流する場を設定し、どの子も何か一つは目的を持てるようにしたい。

本時では、様々な色の色画用紙と数種類の材料(モールやビーズ、ボタン類)を用意し、アイデア構想時には出会わなかった画用紙の色合いや材料の面白身に気づかせ、その時のひらめきも大切にさせたい。

3 児童観・指導観(「こうしたい」を生み出す手立て)

2年生から担任を持ち、3学年での学級編成を経て現在の学級に至る。児童によっては3分の1の児童が3年目の持ちあがりである。

生活面では、高学年の仲間入りをし、それぞれがより個性を発揮し、自己主張が強くなってきた傾向もあるが、男女仲良く遊ぶ姿もよく見られる。「きょうしつはまちがうところだ」を学級目標に掲げ、失敗しても認め合い、励ましていける学級風土はできていると感じる。反面、男子を中心に相手への思いやりが書ける言動や行動も見られるようになり、「相手意識」を持つことを学校生活のあらゆる場面で指導している最中である。

学習面では、基本的にどの教科でも意欲的に取り組む子が多い。学力については学習

内容が高度になってきたこともあり差が目立ちつつある。知識・理解の面では既習事項が概ね定着しているが、身に付けたものを応用する場面が苦手な傾向にある。どの教科でも興味・関心が持てない内容の時は集中力が保てない児童が数名いることもあり、個別に声をかけたり励ましたりすることはどの授業でも不可欠である。興味・関心が持てる内容では学級全体に楽しく学ぶ雰囲気ができるので、今回の図工でも題材、指導過程で工夫をして、楽しい授業を作り上げたい。

図画工作科のこれまでの指導については、絵の学習では、この3年間で鉛筆、クレヨン、クーピー、そして絵の具を使って絵を描いてきた。基本的に絵を描くのを好む子が多いが、絵の具では苦手意識を持つ子が数名いる。

工作は、どの子も好んで取り組み、いつも楽しみにしている。のり、はさみの使い方に個人差はあるものの、比較的細かな作業もできるようになってきた。

カッターを使う技能については図工の学習では使用させた回数が少ないため、使える子には使用を促すが、使わなくてもできる表現を考えさせたり、助言したり、時には教師が代わりに切ったりすることも児童の「こうしたい」という思いを実現させるには有効な支援と考える。

高学年となり、自分の作品が紹介される事に「照れ」が見られるようになってきた。しかし、自分の作品に自信を持ち、見てもらいたい気持ちはどの子にも感じられる。こうした状況から、最近では鑑賞の場面では「友達の作品を紹介する」という形式で作品や制作途中の工夫を見せ合うことが多い。

本単元では、“楽しむ”または“楽しませる”目的と、少し多めに多彩な色画用紙を用意して“材料との新鮮な出会い”を設定することで、4年生ならではの「こうしたい」を生み出す手立てと考える。

4 題材の目標

飛び出す仕組みを使い、自分の思いに合った楽しいメッセージカードをつくる。

5 題材の評価の観点

	評価の観点	育みたい力
関心・意欲・態度	とび出す仕組みに関心を持ち、楽しいカードをつくることに取り組もうとしている。	楽しむ 迫及する
発想・構想の能力	とび出す楽しいカードを構想し、思いや内容が伝わるように絵や模様、文字や動きなどを考えている。	広げる 深める 見通す

創造的な技能	とび出す仕組みをいろいろ試すとともに、自分の思いに合った工夫をして表している。	選び、決める バランスをとる 使う
鑑賞の能力	友達と作品を見せ合い、自分の作品との違い（材料、表し方、仕組みなど）をとらえている。	感じとる 自己理解 他者理解

6 題材の指導計画

指導過程	学習内容	時
題材との出会い 発想	○とび出す仕組みのカードの見本を見て、とび出す仕組みを知り、色々なとび出す仕組みを作る。 ○カードの内容や材料を構想し、交流する。	1
発想から構想へ <本時> 表現 1/2	○とび出す仕組みを使って、自分の思いを表したカードを作る。	2
鑑賞 ふりかえり	○自分や友達のカードを鑑賞し、良さを味わう。	1

7 教育課程

（図画工作科での主な活動）

- ・ 2年「カッターの使い方」（工作・技能指導）
 - ・ 3年「ゴムの力でトコトコ」（工作）
- （今年度取り組んだ図画工作科の単元）
- ・「おべんとうをぬろう」（ワークシートに彩色）
 - ・「ぬのにえがいたら」（布地に彩色）
 - ・「コロコロガーレ～楽しいテーマパークを作ろう」（工作）

8 環境

- ・ 廊下に1～6年児童代表者の絵画作品が展示されていて、鑑賞することができる。
- ・ 図工の授業で完成させた作品は一定期間教室、廊下に展示し、友達作品を鑑賞することができる。

- ・学級目標の周辺に自分の写真に体を描かせたものを一緒に掲示している。

9 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ・自分の思いを表すために材料や道具、表し方を工夫してとび出すカードを作る。

(2) 本時の評価

	育みたい力	評価基準		Bを実現できない児童への指導への手だて(声かけ)
		おおむね満足(B)	十分満足(A)	
関心・意欲・態度	楽しむ	とび出す仕組みに興味を持ち、同じような仕組みをつくろうとしている。	とび出す仕組みに興味を持ち、様々な仕組みを作り出そうとしている。	見本のカードを見直させたり簡単に出来る仕組みを試してみたりするように助言する。 「これならすぐにできるよ。試してみない？」
発想・構想の能力	広げる	とび出す仕組みを何かに見立てて表そうとしている。	とび出す仕組みを何かに見立て、画用紙の色も活かしながら表そうとしている。	材料や色画用紙を見直させる。 友達作品も参考にしよよいことを伝える。 「〇〇君はこれで△△みたいに作っているよ。参考にしてもいいからね。」
	深める	とび出す仕組みを効果的に見せようとしている。	とび出す仕組みを効果的に見せるために、色や形を工夫している。	カードの内容を確認させ、そのための工夫を助言する。「森にしたいんだ。どんな色が思い浮かぶかな。」
創造的な技能	選び、決める	思いを表すために色や形を工夫している。	思いを表すために効果的な色や形を選んで、工夫している。	道具や材料を見直させて、工夫を助言する。 「そうか、こうしたいんだ。どんな色なら驚くと思う？」
鑑賞の能力	感じとる	友達のカードを見て工夫を参考にしたり、良さを見つ	友達のカードを見て工夫を参考にしたり、良さを見	児童の作品を紹介する。 「□□さんのカードを見てください。この工夫は

とび出す仕組みを使って、楽しいカードをつく

ろう。		けたりする。	つけ、発表するこ とができる。	すばらしい。みんなもぜ ひ他の人に教えたい工 夫や作品を見つけて下 さい。」
-----	--	--------	--------------------	-------------------------------------------------

(3) 本時の展開

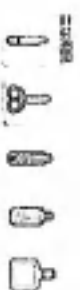
過程	育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
導入 (10分)	見通す	<p>班体制で着席</p> <p>○本時の課題を知る。</p>		○課題を提示する。
	<p>選び、決める 感じとる見通す</p>	<p>○カードのテーマを選 ぶ。</p> <p>★自分で楽しむカード ★相手を楽しませるカ ード</p> <p>○画用紙、材料を見る。 ・こんな色画用紙もある んだ。使ってみたいな。 ・用意してきた材料以外 にも面白そうなものを見 つけたぞ。使ってみたい な。</p>	<p>・学習の見通し を持たせる。</p>	○自由に使える色画用紙 類、材料類を提示
展開 (25分)	<p>広げる 感じとる</p> <p>選び、決める 深める</p>	<p>○カードを作る。</p> <p>・やっぱりこの材料を選 んで正解だった。 ・うまかったぞ。 ・うーん、思ったより難 しいな。 ・思い通りにいかないな。 先生に相談してみよう。 ・先生、ぼくの工夫見て ください！</p> <p>・最初は自分のために作 ったけど、何だか妹にあ げたくなかったな。プレ ゼントにしよう。だから 、好きな花を描いてあげ よう。</p>	<p>○「とび出す仕組 みを使って“楽しいカ ード”を作りましょ う！」</p> <p>・必要に応じて 助言、支援を する。 「宝ものにし たくなる ね。」 「いいね。き っと○○さん ももらってうれ しいと思うよ。」 「先生もそれ ほしいなあ」</p>	○作業開始の声かけ ・児童の活動を見つ める：評価

		<p>○出来たカードや途中のカードを見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さん、すごいをつくっているな。ぼくも同じように作ってみようかな。 ・先生、ぼくの工夫見てください！ 	<p>「☆☆君のカードを見せてください。ここに…がついているね。これ、ちょっと見たことない工夫だなあ。」</p>	<p>○途中で児童の作品もしくは工夫を取り上げ、全体に紹介する。</p> <p>○時間を見て、作品を自由に見て回る時間を取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動を見つめる：評価
終末 (10分)	深める	<p>○印象に残った友達のメッセージカードを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白い工夫だなあ。次はやってみよう。 ・私と同じだ。 	<p>○作品を鑑賞させる。</p> <p>「友達の素敵なカードや工夫を紹介できる人いますか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言を取り上げる：評価

くび出す部分を切って、美しいカード絵本をつくる。

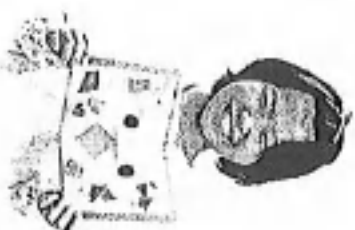
とび出すメッセージ

カードや絵本をだれにおくるのかな。
もらった人が楽しくなるように、くふうしてつくって
おもしろそう。



くふう
いろいろやってみて
おもしろいように
つくろう。

カード



カードと手紙カード
180 x 180mm
カラーとモノカラーで
おもしろい。



おもしろいカード
180 x 180mm
カラーとモノカラーで
おもしろい。



おもしろいカード
180 x 180mm
カラーとモノカラーで
おもしろい。

1. 裏紙を
しよすたいように
とび出す部分

おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように

おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



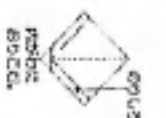
おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように

絵本で



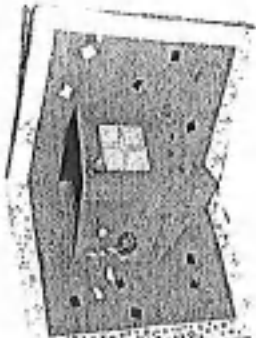
おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



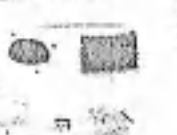
おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



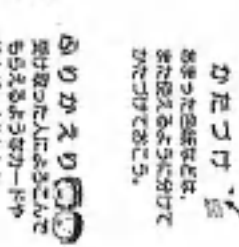
おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように



おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように

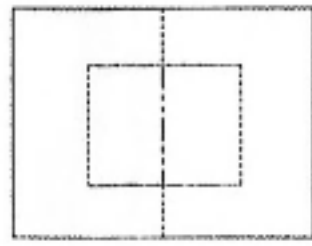


おもしろい部分で、おもしろいように
おもしろい部分で、おもしろいように

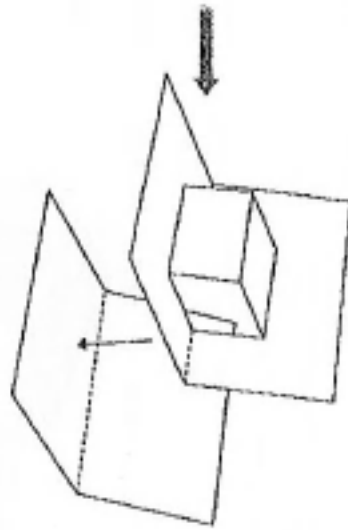
とび出す仕組み

あまっている画用紙などで仕組みをためてみよう。

— 切るところ 谷おり - - - - - 山おり



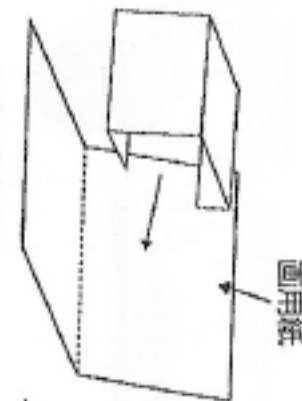
カッターナイフで、
切りこみを入れる。



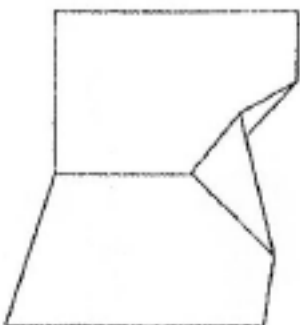
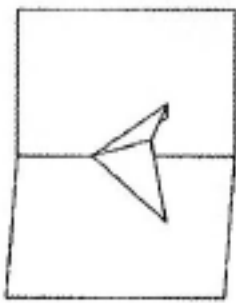
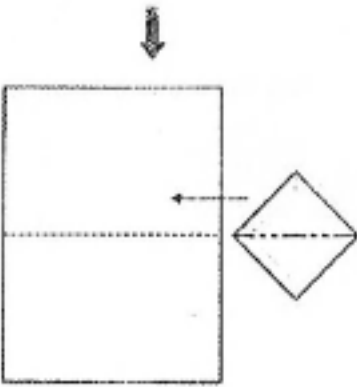
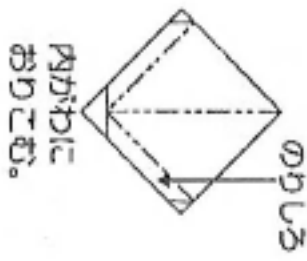
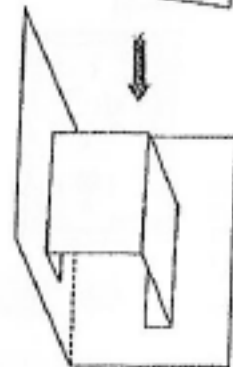
あながあぐので、後ろに
色画用紙をはる。



のりしろ



のりしろ



石狩市立緑苑台小学校 5年2組
 (男子17名 女子19名 計36名)
 2013年7月29日(月)
 授業者 教諭 千葉道子

1 題材名「スケルトンツリー」(立体に表す・3時間)

2 題材について

本題材は、材料をつなぎ合わせるにより立体になるという、単純かつ明快な点に着目している。児童の「こうしたい」という思いをダイレクトに表現するために、複雑な構造を避け、かつ、表現が自由になる素材を考えた。

そこで、主材料としてプラスチック段ボールを選んだ。プラスチック段ボールはホームセンターや百円均一など、比較的どこでも手に入りやすい素材である上、安価である。軽く丈夫で、加工も簡単でハサミやカッターを使って簡単に行うことができる。シンプルな白い半透明の素材であることも、児童の表現がダイレクトに表れると考えた。プラダン同士をつなぎ合わせるための道具としては、ステープラーを選んだ。簡単につなぐことができるため、次から次へと生まれる児童の発想を簡単に表現していくことができると考えた。

また、本校では総合的な学習の時間に、1年を通して森林学習を行っている。近隣の森に親しむ機会があり、様々な樹木に触れ合っている。これまでも、樹木が様々なのび方をしていることを実際に見ている。そこで、題材名にツリーという言葉を入れた。総合的な学習の時間での学びも関連づけ、かつ、自然とは相反する人工物を材料として表現する面白さに気づかせていきたい。加えて、ツリーという言葉から単純に“樹木”だけを想起させずに、スカイツリー等、“タワー”としての位置づけも確認していきたい。樹木としての発想では、アンバランスさから生まれるよさに気づき、タワーとしての発想では構造的に組み立てていくよさに気づく事が出来ると考えている。導入時にツリーという言葉を経験から見つけ、児童の発想をより伸びやかなものにしていきたい。



3 児童観・指導観(「こうしたい」を生み出す手立て)

これまで、作品を完成させることを中心に取り組んできたこともあり、図工を苦手と感じる児童も少なくない。そこで、今年度は図工に苦手意識を持つ児童の意識が変わるような教材を取り入れてきた。

例えば「造形遊び」では、ナニコレ珍百景と題し、見る人を驚かせる巨大な展示を行った。それを全校が見えるホールに展示す



ることで全校の児童から、たくさんの感想をもらい少しずつ図工への興味・関心と自信を高めることができた。また、グループ活動で実施したことも後押しし、仲間と協力する楽しさや、友人の表現を知ることが自分の活動をより豊かなものにしていくことに気づいた児童が多かった。もともと素直な児童が多いだけに、こうした経験が次への意欲につながっている。

「工作に表す」教材では、一枚の板からドミノをつくる活動を行った。“遊ぶものをつくる”“クラス全員のドミノをつなげる”ということが児童の意欲を高め、たくさんの「こうしたい」が生まれた。



一方で、児童の中にはたくさんの発想を持ちながらも、材料が複雑であるが故にうまく表現できない子どももいる。そうした児童の多くは最後まで意欲的に学習に取り組むことが難しい。そこで本教材では、普段児童が使っているステープラーを接着する道具として扱い、どの子にも表現しやすい題材で「こうしたい」を生み出していきたい。

4 題材の目標

- ・細長い材料の組み合わせ方を試しながら美しさやバランスを考え立体に表す。

5 題材の評価の観点

	評価の観点	育みたい力
関心・意欲・態度	細長い材料を組み合わせて、美しいと感じられる立体をつくる活動に取り組もうとしている。	楽しむ
発想・構想の能力	細長い材料を組み合わせながら、表したいことを思いつき、自分のイメージに合う形を考えている。	広げる 深める
想像的な技能	道具を正しく安全に使い、面白い形や美しい形ができるように、材料の組み合わせ方を工夫している。	選び、決める バランスをとる
鑑賞の能力	自他の作品を鑑賞し、それぞれのよさや美しさを感じ取っている。	感じ取る

6 題材の指導計画

指導過程	学習内容	時
題材との出会い	プラスチック段ボールの特徴を知る。触れる、つなげる。	1
〈本時〉 発想 表現	自分の構想をもとに表現する。	1
鑑賞・ふりかえり	作品を外に出し、そこに現れる影を見ながら立体のよさに気づく。お気に入り角度を見つけ、感想を述べ合う。	1

7 教育課程

昨年度までの立体に表す活動

- 1学年：ねんどでつみきを作る
- 2学年：袋で友だちを作る
- 3学年：ガラス瓶を変身させる
- 4学年：陶芸

今年度の図画工作の取り組み

○造形遊び「ナニコレ珍百景」

本物そっくりの巨大物を作って置くことで、その風景を意外性のある世界につくり変える。

○工作「みんなでドミノ」

糸のこぎりで板を切り抜き、ドミノたおしができる作品を作り、みんなでつなげて遊ぶ。

○絵「感じたことを伝えたい」

自分が感じた情景のよさが伝わるように工夫して絵に表す。

総合的な学習の時間での取り組み「森林」

○森を知る、体感する

樹木や植物の様子を観察する。

○森の恵みを利用する

木や森の材料でものづくり

○森を育てる

どんぐりの苗木を育てる。

本題材
スケルトンツリー

8 環境

- ・教室に隣接するワークスペースを利用した、広々とした空間づくり
- ・自由な活動ができるような道具や材料の配置
- ・日常的に教室の装飾を見童に任せ自由に工作に取り組める環境づくり



9 本時の学習活動

(1) 本時の目標

細長い材料を組み合わせ、美しさやバランスを考え立体に表す。

(2) 本時の評価

	育みたい力	評価規準		Bを実現できない児童への指導の手だて
		おおむね満足 (B)	十分満足 (A)	
関心・意欲・態度	楽しむ	材料の特徴に興味をもち自分の思いをもって取り組もうとしている。	材料の特徴に興味をもち思いついたことを表現しようとしている。	周りの児童の取り組みの様子に気づかせる。
発想・構想の能力	深める	材料を組み合わせながら思いついたことを基に自分のイメージに合う形を考えている。	材料のもつ特徴を生かしながらイメージをふくらませ、多様な表現を考えている。	写真を見せイメージをふくらませる。また、取り組み途中のものを見せイメージに近いものを選ばせる。
創造的な技能	選び、決める	面白い形や美しい形ができるように材料の組み合わせ方を工夫している。	自分の思い描いたイメージ、形や美しさが表れるような組み合わせ方を工夫している。	周りの児童の取り組みを紹介する。いくつかの組み合わせ方を見せる。
鑑賞の能力	感じ取る	自他の作品のよさや美しさを自分の思いをもって楽しもうとしている。	表し方の変化や表現の特徴をとらえ、よさや美しさを感じ取っている。	自他の作品を見比べながら、自分なりの感じ方に気づかせる。

(3) 本時の展開

過程	育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
導入		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">スケルトンツリーをつくろう。</div> <p>○前時の活動から、取り組みたい自分のイメージをもつ。</p>	○「…ツリー」から想起されるイメージを想起させる。	写真の提示 安全な取扱いへの配慮

楽しむ

○活動の概要をつかむ。

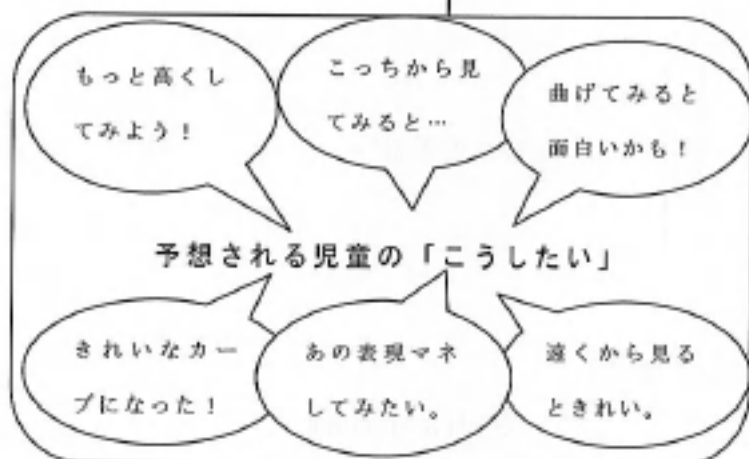
○活動の概要を知らせる。

○楽しさや美しさを感じる立体になるように、組み合わせ方を工夫して、組み合わせる順序を考えながらつくる。

○立たせ方を工夫するように支援する。

- ・立たせ方を試す。
- ・組み合わせ方を試す。
- ・つくりたい様子に合わせて材料の長さを変えたり、曲げたりする。

- ・バランスを見ながらつなぎ合わせていくことを確認する。
- ・しっかりつなぐように確認する。



追求する

○形が立ち上がるようにして、いろいろな角度から見ながら美しい形になるように作る。

○思いを広げて表すための支援をする。

- ・いろいろな角度から見て、形の違いや新しい形の美しさを見つける。

- ・いろいろな角度から見るように促す。

- ・友人と作品を見合う中で、互いに見つけあった表現の工夫を自分の作品に生かす。

- ・児童の表現の広がりをも他の児童に知らせる。

○土台の底にベニヤを貼り付け、倒れないようにする。

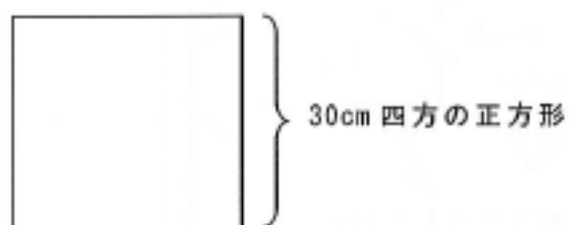
○ベニヤを両面テープで張り付けることを知らせる。

遅れている児童へ声をかける。

終末	感じ取る 自己理解 他者理解	<p>○作品のよさについて楽しさや美しさを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品が美しく感じられるように、形のよい正面を決める。 ・形の美しさや形から受ける印象を自由に述べ合う。 	<p>○作品を展示させることで見合う時間を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の向きや立て方で作品の印象が変わることを伝える。 ・自由に作品を見てまわってよいことを告げる。 	
----	----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

10 資料

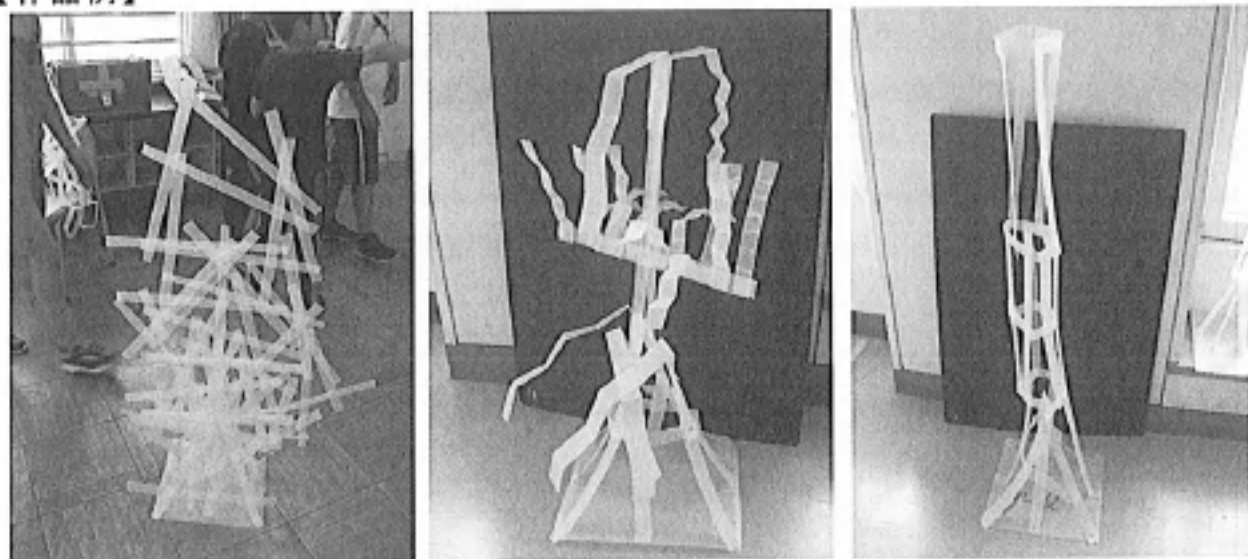
【土台のサイズ】



【つなぎ合わせていく部分】



【作品例】



江別市立東野幌小学校 6年2組

(男子18名、女子20名、計38名)

※つくし学級の男子1名女子1名を含む

2013年7月29日(月)

授業者 金住 ゆかり

1. 題材名 「墨から感じる形や色」

(日文 図画工作5・6年下 P20～21)

2. 題材について

墨と筆は、国語科の書写の時間に書道の道具として、文字を書く学習の際に用いるものである。小学3年生から学習することになっているので、6年生の子どもたちにとってなじみのある用具である。だが今回は、それを使い、文字ではなく絵を描く。おそらく子どもたちにとって初めての経験になるであろう。初めての経験だからこそ、技術の「上手・下手」が出にくい教材とも言える。

教科書にもあるように、「ぼたっと落ちる墨、流れる墨、にじむ墨」など様々な技法を子どもたちに十分に体験させたい。また、子どもたちが発見した手法も交流しながら、作品作りに生かしていきたい。墨は、一発がきの要素が大きい。だから、偶然の楽しさを体得しながら、一つの線や点からインスピレーションを働かせ、そこから子どもたちの感性で、墨の特徴を生かした作品作りが出来ればと願う。

また、できあがった作品については、子どもたちがそれぞれ、自分の作品にぴったりくる台紙に貼らせたい。いろいろな色や模様・素材の台紙に貼り、展示することの楽しさも味合わせたい。

3. 児童観・指導観（「こうしたい」を生み出す手だて）

この子たちを5年生の時から担任を受け持ち、持ち上がって現在に至る。一年生の頃から車椅子の児童と共に授業を受けてきている子たちなので、とても優しい心を持っている。

真面目な子たちなので、学習面では、どの教科も意欲的に行う姿が見られる。図工の時間においても、どの子どもたちも熱心に作品を作る傾向がある。友達作品から影響を受け、自分の作品にも反映させる子も多い。反面、なかなか殻から抜け出すことが出来ない子もいて、それが作品作りに影響する場面も見られる。また、「うまく作りたい」と願う子も多く、作品作りで納得のいかない子は、「ここをこうしたいんだけど、どうしたらよいか」と担任や周りの子に聞いてくる姿もちろほら見られる。作品作りに関しては、とても真面目である。

「墨で絵を描く」という一つのタブーを行い、さらに作品作りに対する規定観念の殻を打ち破るために、様々な筆や紙を用意し、墨も市販の薄墨を使用するのではなく、普段使用している墨汁と水を自分の手で調合し好みの濃さの墨を何種類か作り、自然と子どもたちが「こうしたい」と思わせるように仕掛けていきたい。また、そうすることで自然と濃淡を生かした作品作りが出来ればと思う。

また、この授業は本来、床で行うとダイナミックな作品が作れそうだが、車椅子の子が2名いることからそれは難しく、机の上にて行うこととしたい。「こんなすごいことしちゃった」と言わせやすくするためにも、机の隊形は縦隊形で行う。

4. 題材の目標

墨と水でできる形や色を試したり、特徴を生かしたりしながら、心地よい調和やリズム感のある絵に表す。

5. 題材の評価の観点

	評価の観点	育みたい力
関心・意欲・態度	・墨と水でできる形や色に興味を持ち、絵に表すことに取り組もうとしている。	・楽しむ
発想・構想の能力	・墨の色の濃淡や様子を試しながら、心地よい調和やリズム感のある絵を考えている。	・深める ・見通す
創造的な技能	・筆や用具を活用しながら表し方を工夫している。	・遊び、決める ・バランスをとる
鑑賞の能力	・自分や友人の作品を見合ったり、話し合ったりして、墨の美しさや表し方の良さ、おもしろさをとらえている。	・感じとる ・自己理解 ・他者理解

6. 題材の指導計画（4時間扱い）

指導過程	学習内容	時
題材との出会い	・墨を使い、墨の濃淡の感じや筆の扱い方を考えながら、いろいろな方法を試す。	2
ひろがり (本時)	・作品作りに効果的な技法を試しながら、作品作りに取り組む。	1
鑑賞・ふりかえり	・イメージに合う台紙に貼り、自分の作品に名前を付ける。 ・自分や友達作品を見て、墨の美しさや表し方のよさ、おもしろさについて交流する。	1

7. 教育課程（他の題材とのつながり）

昨年度の絵に表す活動

- ・写生画「校舎」
外から見た校舎の絵を描く
- ・カラー版画
動物や植物といった生物を
斑に表す



今年度の図画工作の取り組み

- 工作「私の小さな部屋」
縦横15cm、奥行き8cmの箱の中に、自分の理想の部屋や空間を作る。
- 絵画「表し方を工夫して」
校舎内で自分の好きな場所を見つけ、表し方を工夫して絵に表す。
- 工作「どんな動きをするのかな」
クランクやカムをつかって、いろいろな動きのある作品を作り、遊ぶ。

その他の活動

- 書写「習字」の取り組み
- 社会 歴史 雪舟「水墨画」

8. 環境

- ・校内作品展（毎年各クラスから絵画作品・版画作品を1点ずつ出品、校内に掲示。
過年度の作品も掲示）
- ・図工科の作品の展示（教室内外に掲示・展示）
→普段から児童の作品を子どもたちの目に触れさせ、休み時間など自由に感想を述べ合う環境を設定している。

9. 本時の学習指導

(1) 本時の目標

効果的な墨の技法を試しながら、バランスを考えて作品を制作できる。

(2) 本時の評価

	評語	評価規準		Bを実現できない子への指導の手だて
		おおむね満足 (B)	十分満足 (A)	
関心・意欲・態度	楽しむ	墨の特徴に興味を持ち、作りたい作品をイメージして取り組もうとしている。	墨の特徴に興味を持ち、作りたい作品をイメージし、紙の上に表そうとしている。	周りの児童の取り組みの様子に気づかせる。
発想・構想の能力	見通す	おもしろい作品になるように、技法を試している。	作りたいイメージに近づけるために、技法や墨の濃淡を工夫し、心地よい調和やリズム感のある絵を考えている。	今まで試した技法を想起させ、どれがふさわしいか声かけする。
創造的な技法	選び、決める	興味のある道具や材料を選んでいる。	自分のイメージに近づけるような、道具や材料選びをしている。	児童の作りたい作品から、いくつか紹介する。
鑑賞の能力	感じ取る	自分や周りの子の作品を見て、良さや美しさを感じ取っている。	自分や周りの子の作品を見て、表し方の変化や、表現の特徴を捉え、良さや美しさを感じ取っている。	作品を見比べることで、自分なりの感じ方に気づかせる。

(3) 本時の展開

過程	関連する 育みたい力	児童の活動	教師の働きかけ	備考
導入 (3分)	見通す	○前時で行った様々な技法を想起する。	・前時の児童が描いた練習用紙を見せる。 ・本時の学習内容を知らせる。	前時の児童の練習用紙の提示
		墨の特徴を生かしながら作品を作ろう		
展開 (35分)	見通す	○作品の作り方をつかむ	○活動の概要を知らせる。 ・道具や材料、墨と水の分量について知らせる。	用具・材料の提示
	選び、決める	○自分の作品の構想や使用する筆や紙の大きさ、墨の濃さについて考える。	○どの用具を使えば完成形へ近づけられるのか、声かけする。	
	深める	○どの技法を使えば完成形へ近づけられるか考えて制作する。 ・立って自分の作品を見たり、友達作品を見合う中から、より良い表し方を考えている。 ・何枚か作るうちに少しずつ完成形に近づけていく。	・こどもの「こうしたい」を聞き出し、技法や表現の広がりについて声をかける。 ・紙は1人3枚程度使えることを知らせる。 ・リズム感のある作品作りのために、立ち上がって作品作りに臨んでも良いことを知らせる。	

<p>終末 (7分)</p>	<p>感じ取る</p>	<p>○作品を見合い、おもしろい表現や工夫しているところを見つける。</p> <p>○互いに発表する。</p>	<p>○自分にはない表現や工夫を見つけさせる。作品を見合いながら、自由に話してもよいことを伝える。</p> <p>○個々の工夫した表現について全体で見合う。</p> <p>○次回は台紙に貼ることを知らせる。</p>	
--------------------	-------------	---------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

全道造形教育研究大会石狩大会 美術科学習指導案

江別市立江別第一中学校 1年4組

男17子名 女子15名 計32名

2013年7月29日(月)

授業者 教諭 渡辺 麻子

1 題材名 「あのときの、あの気持ち～心をのぞいて見てみたら」

(色彩による感情表現・3.5時間)

2 題材について(「こうしたい」が生まれる題材)

美術は、自分の思いを様々な表現方法で形に出来る教科である。しかし自分自身、これまで基礎基本を定着させようとするあまり、見た目や結果を重視するような授業を行ってきたという反省がある。その反省に立ち、この題材は、美術学習のスタートに立つ1年生が、楽しく充実して取り組めるものになりたいと考えた。

そこで、題材は絵の具を使った抽象感情表現とした。「あのときの、あの気持ち」をテーマに、心を望遠鏡や顕微鏡で覗いてみたような形＝○(円)の中に、絵の具で抽象的に感情を表現するものとし、表現への関心意欲が高まるように工夫した。この題材で育みたい力は、感情を表現する楽しさを味わいながら、創意工夫を重ね自分らしく表現することである。

感情といっても一般的な「喜怒哀楽」のイメージに固定されないよう、一人一人がこれまでの経験や、毎日の生活の中から、そのときその場面の感情をリアリティをもって思い浮かべられるように、テーマを具体的にした。自分の内面を客観的に覗いてみて、心を解放して自由に表現することで、それまで意識していなかった一面に気づき、新たな自分を発見したりしながら「自己理解」を深められるようにしたい。このように自分の内面と向き合う経験は、2年生、3年生のあらゆる題材につながると考える。また、互いの作品を鑑賞することで、違いを認め他の個性を尊重しあえる共感的な空気を生み出していきたい。

描画材料は、あえて生徒の大半が「苦手」と答える絵の具を選んだ。絵の具は小学校のときから使っているもっとも身近な道具であるにも関わらず、「うまくぬれない」という理由から、できれば使いたくない、という生徒がほとんどである。はみ出さず美しく塗ることや、対象の色に近づけることも表現する内容によっては必要であり大切ではあるが、絵の具の表現はそれだけではない。生徒一人一人が、自由に道具や技法を選び、色の美しさや偶然にできる形、配色の効果等を楽しみながら「こうしなければ」ではなく、「こうしたい!」という思いを持って、主体的に絵の具を使えるような時間にしたい。そして、これまで絵を描いたり色を塗ったりすることに苦手意識を持っていた生徒が少しでも「絵の具って楽しい!美術って楽しい!」と思えることが目標である。

完成した作品には作者の言葉を添え、見る人が作者の思いを受け止め、互いに理解を深められるようにしたい。

3 生徒観・指導観（「こうしたい」を生み出す手立て）

和やかな雰囲気の中で、美術が苦手と答えた生徒も含め、授業には集中し課題に関心を持って取り組める集団である。「図工がどちらかというと苦手だった」という生徒は9人で、そのほとんどが「絵が苦手だから」という理由だった。絵が苦手な生徒でも、丁寧に取組めば美しく描けることから、1年生のはじめにレタリングでネームプレートを制作したが、作品が完成し「苦手意識が少し変わった」という生徒が7人いた。しかし絵の具を使うことについては、クラスの約半分にあたる15人が苦手と答えている。この題材では、道具や技法を限定せず自由に選べるようにすることで「こうしたい」を生み出す手立てとし、絵の具に対する苦手意識が少しでもなくなるようにしたい。

比較的小となし自己主張しない生徒が多いが、課題にしっかり向き合い前向きに取り組んでおり、この題材を通してこれまでとは違った絵の具の表現を楽しみながら、一人一人がこれまで以上に様々な表情、表現を見せてくれることを期待している。そして、新たな自分の発見につながることを願う。

4 題材の目標

・自分のイメージを大切にしながら、絵の具を使って感情を色彩で表現する楽しさ、喜びを味わう。

5 題材の評価の観点

	評価の観点	育みたい力
関心 意欲 態度	楽しく創造活動に取り組み、自分の感情を表現することに関心を持ち用具や技法を主体的に選んで表現しようとしている。	楽しむ 追及する つなげる
発想 構想の力	感性を働かせて、思い浮かべた感情を自分らしく表現するための色彩や形を豊かに発想し、構想している。	広げる 深める 見通す
創造的な 技能	思い浮かべた感情を表現するために、表現意図に合った用具や技法を選び、形や色彩を工夫して表現している。 全体をみながら、色と色の関係や大小などのバランスをとる。	選び、決める 使う バランスをとる
鑑賞の 能力	他の人の作品を鑑賞し、色彩や形、作者の言葉から、作者の思いやよさを感じ取る。また、自分の作品に対しても多様な見方、感じ方があることを知る。	感じとる 自己理解 他者理解

6 題材の指導計画

	学 習 内 容	時
題材との 出会い 発想・構想	*先輩の作品や参考作品を鑑賞し、色彩で感情が表現できることに気づき、色彩による感情表現に興味を持つ。 *「あのときの、あの気持ち」として、自分の経験から、具体的な出来事や場面を思い描き、そのときその場面の感情をイメージする。 *イメージした感情を色や形に置き換えて構想を練る。	1
表現	*下塗り	0.5
<本時>	構想をもとに、絵の具を使って「あのときの、あの気持ち」を表現する。	1
鑑賞 ふりかえり	*作品に作者の言葉として解説を添える。 *作品を相互鑑賞し、鑑賞カードに記入する。 *作品を廊下に掲示する。	1

7 教育課程（他の題材とのつながり）

- ・1年生「ネームプレート」（レタリングと点描）→自分の好きなこと、自分らしさについて考える
「絵の具は楽しい」（モダンテクニック他）→絵の具による自由な色彩表現
- ・2年生「心のパレット」（色面構成による感情表現）→色による感情表現、絵の具による色彩表現
「どこでも窓」（空想画）→絵の具による色彩表現、抽象表現
- ・3年生「自分のいる風景」（自分をテーマにした絵画）→自分の内面表現

8 環境の構成

- ・美術室内に、2、3年生の絵の具による抽象作品の掲示
- ・美術室内に2年生の感情テーマにした抽象作品の掲示
- ・完成した作品の廊下掲示



9 本時の学習指導（2/3.5）

（1）本時の目標

- ・「あのときの、あの気持ち」をイメージして絵の具で感情表現する

（2）本時の評価

	育みたい力	評 価 基 準		Bを実現できない生徒への手だて
		おおむね満足（B）	十分満足（A）	
関心・意欲 態度	*楽しむ *追及する	*色彩や技法の効果を楽しみながら感情を表現する。 *表わしたい感情のイメージに近づくように粘り強く取り組む。	*自分らしい制作方法を工夫し感情を表現することを楽しむ。 *よりよい表現を目指して、試行錯誤して取り組む。	試し紙に、色々の技法を試してみるように促す。

発想・構想の能力	* 広げる	* 感情を表現するための色彩や形をイメージする。	* 感情を表現するのにふさわしい色彩や形を豊かにイメージする。	感情と色彩、技法のイメージが結びつくよう例をあげて説明する。
創造的な技能	* 選び、決める * 使う	* 技法メモを参考に感情を表現するための道具や技法を選び、「こうしたい」というイメージを持って表現する。	* 感情を表現するのにふさわしい道具や技法を選び、その特徴を生かして、工夫して表現する。	他の人の技法メモを参考に見せ、具体的にイメージがわくように手助けする。
鑑賞の能力	* 感じ取る	* 友達作品からよさや工夫点を感じ取る。	* 友達作品からよさや工夫点、意図を感じ取る。	* 自分とはどこが違うか比べてみるように声をかける。

(3) 本時の展開

過程	学びたいこと	生徒の活動	教師の働きかけ	備考
課題把握 (5分)	つなげる 見通す	スケッチブックを見て確認 ・ワークシート ・技法メモ 画用紙	前時の確認 みんなが選んだ「あのときの気持ち」の紹介	☆、→、?などの記号も使わない 「具体的な形を使うより、色々な見方、複雑な見方が出来る」
課題解決 (40分)	見通す つなげる 選び決める 使う 楽しむ 感じ取る 追及する	制作の進め方がわかる 技法メモを参考に、道具、色、技法を選ぶ。 選んだ道具を使い、イメージに合う表現を工夫する。(試し紙を自由に使う) 級友の作品をみて、工夫点やよさを感じ取り、参考にする。 グループの友達と作品を見合う。 イメージに近づくようにさらに工夫する。	具体的なもののイメージを使わずに表現することを確認。 スケッチブックに貼った技法メモや友達のメモを見合う。 試し紙を使って、色々な方法を試み、工夫するよう声掛けする。 制作途中で工夫が光る作品を紹介する。 段ボールののぞき穴からのぞく。 制作が早く終わった生徒には人に知られたい感情として「ないしょの気持ち」を小さい円に表現することを提案する。	
定着 (5分)	つなげる	授業を振り返り、自己評価表に記入する。 次の時間にやることを理解し、意欲を持つ。	自己評価を記入するよう指示する。 次の時間に作者の言葉を書くこと、互いの作品を鑑賞することを伝える。	完成しなかった生徒は昼休みや放課後に制作するよう伝える。

10. 資料

(1) ワークシート
(前時に記入)

あのときの、あの気持ち

～色で表現しよう～

心の中をのぞいてみたら..

気持ちを色で表現しよう。思い浮かぶのは
どんなときの、どんな気持ちですか？

言葉

色

カタチ

どんなときの...

言葉

色

カタチ

のぞいてみると こんな感じ

組 番名前

(2) 自己評価シート

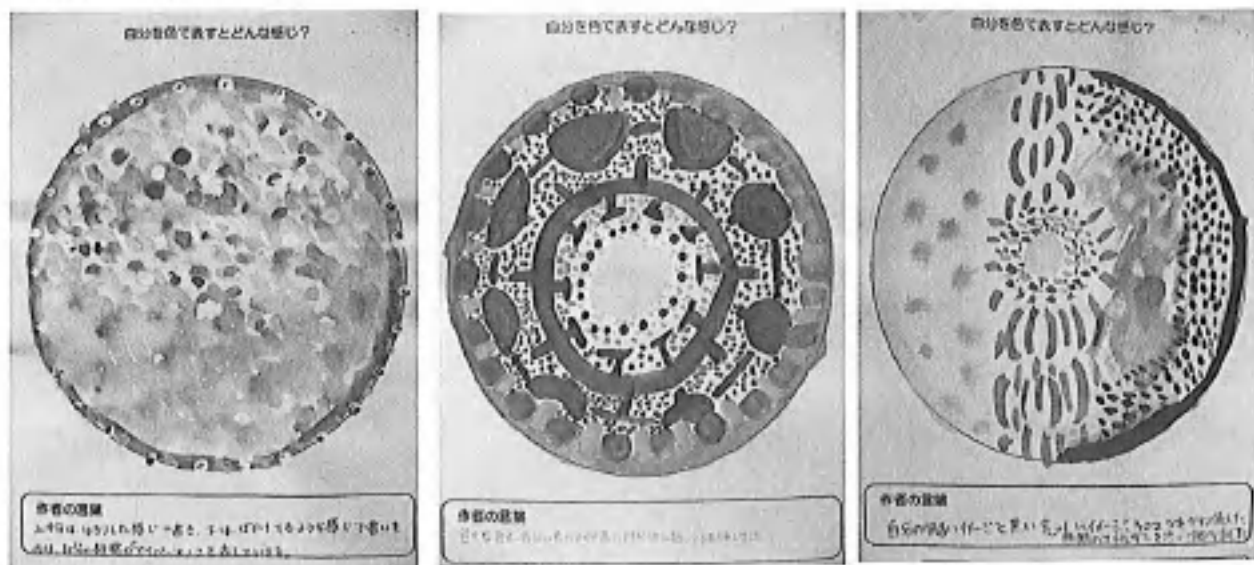
あのときの、あの気持ち 自己評価

組 番名前

今日の授業は		
月日 ()	← 楽しく充実 → 1・2・3・4・5	
月日 ()	← 楽しく充実 → 1・2・3・4・5	
月日 ()	← 楽しく充実 → 1・2・3・4・5	

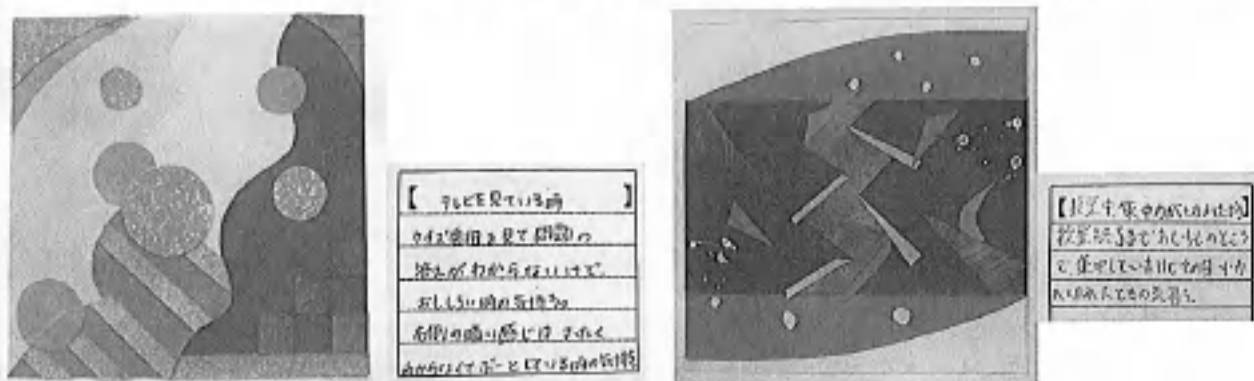
(3) 昨年の1年生の作品例「自分を色で表そう」

・水彩の基本技法(にじみ・ぼかし・点描など)を資料集で学習後、「自分らしさ」イメージして自由に表現した作品



(4) 題材のつながり・・・2年生の作品「心のパレット」

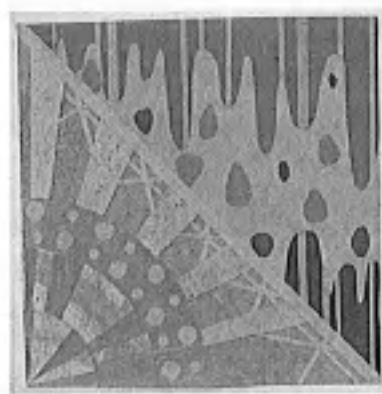
・感情をトーンカラーと自分で作った色紙(色画用紙に絵の具で着色)で抽象的に表現した作品



自分で作った色紙
を使って。
「こうしたい！」が
広がる



表現したい
ことに合わせ
て自分で
色紙を作る



【試合で勝った時、負けた時】
負けた時は、涙が止まらな
い。負けた時は、涙が止まら
ない。



【おもしろい時、つまらない時】
おもしろい時は、楽しんでいる
感じがする。つまらない時は、
つまらない感じがする。

当別町立当別中学校 1年A組
 (男子16名 女子15名 計31名)
 平成25年7月29日
 授業者 教諭 佐藤 哲

1. 題材名『「並べる」と、「集める」と、「合わせる」と、すてき』

(デザイン 1時間)

2. 題材について

体育祭を終え、学級の中に小さな「つながり」に気づいた空気が感じられてきた。残り9か月の1年生の時間をかけて育てたい感性は、「個性を認め合う」ということと「補い合う」ということ。

学級目標の「一知暖結(いっちだんけつ)」(⇒「一人一人の個性を知って暖かいクラスをつくろう」の意)を常に活動のテーマとして意識づけに努めているが、今回は「美術」というツールを使って、さらに小さな一歩分だけ「一知暖結」に近づくための試みとして、題材を設定した。

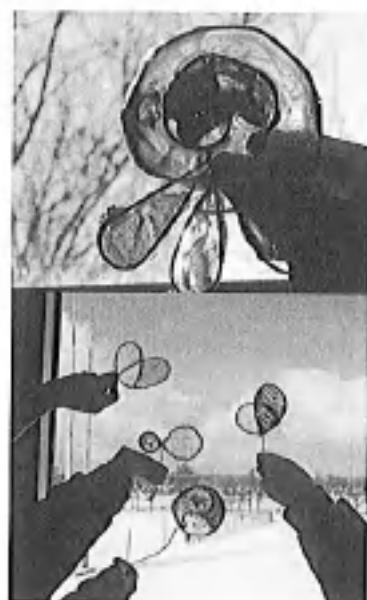
単体では、「自信の無い」、「インパクトの小さい」、「完成度の低い」、いわゆる作者である生徒にとって〈マイナス要素〉の多い作品であっても、たくさんを集めて一つの大きな作品になったとき、その一部を担う大切な一つになっているということ。個々の弱いところを補い合い、何か一つをやりとげる(つくりあげる)ことの効果、安心感をわずかでも感じさせたい。

また、同種のを規則的(または不規則)に並べるデザインの手法については、3年次に行っている「自分ポスター」の授業の中で触れているが、この手法が生み出す効果についても伝えたい。

一人一人がつくるものについては、どんなものでもかまわないのだが、一コマ完結の授業であることから、①制作時間 ②必要とされる技能 ③素材の選択場面の設定 ④発想の縛りの範囲(自由度) ⑤展示したときのおもしろさ ⑥完成のよろこび(ほんの少しの感動)をポイントに考えた。

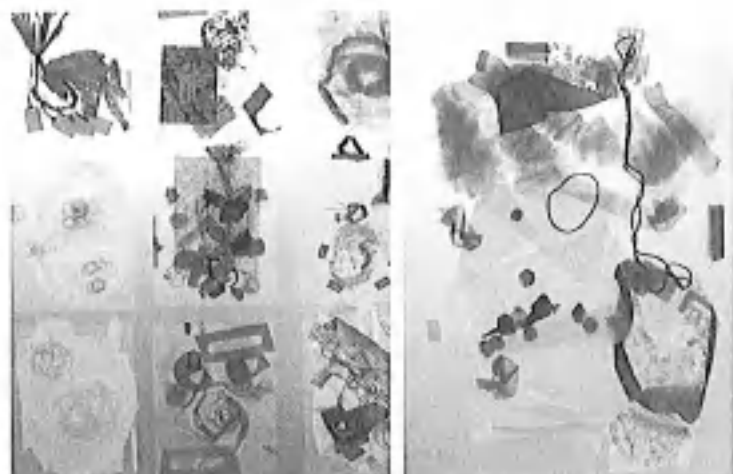
3年次で、「太陽に透かして」(作品制作とデジカメによる写真撮影)という単元を予定しているが、木工用ボンドを使用しているため1時間で完成とはならないため、イメージとしてこれに近い題材を探していたときに、瀬川葉子氏の個展「FILE」を知り、これを基に上記のポイントと合わせて考え、アレンジした。

瀬川氏の作品は、事務用のクリアファイルに、包装ビニール、古封筒、輪ゴムやクリップなどの事務用品、お菓子のパッケージなど、日常のゴミとして出たものを自由にはさんで作品づくりをしたもので、自分のイメージにかなり近かった。これを応用しアレンジすることで、短時間でできる題材として可能ではないかと考えた。



制作において、テーマ設定は特に行わない。作者が「きれい」と感じられるものであることが唯一の目標となるが、子どもたちの方から、「テーマ設定」ということばが出てきたら、そうしてもいいし、出なければ無しでもかまわない。瞬間瞬間の子どもの発想や、空気に任せたいと考える。

授業者にとっても全てが全く初めての内容であり、1時間単発ということで予想もつかない分、どういう展開になるか楽しみな単元である。



2. 生徒観・指導観（「こうしたい」を生み出す手だて）

家庭環境に様々な問題を抱える子や、自身が精神的な課題を持つ子が多いクラスである。

この一年の学級としての目標は、クラスに＜家族感＞に近いものを感じさせることで、家庭や自分自身に様々な問題を抱える子どもたちの心に、少しでも安心感を与えることにある。そのための手だての一つとして、美術という教科を通してできることを常に考えていきたい。

本単元は小グループでの活動から最後は全体に、という流れで行うが、その中で「選択」、「発想」、「要求」、「提案（生徒から教師へ）」などの子ども達のアクションが起こるような流れを目指したい。

絵画については、割と「描ける」子が多いクラスだが、同時に自信の持てない子も多い。ゴミを使った今回のような作品づくりは、明確な着地点がない分、可能性も無限であることから、制作中での個々の小さな「あ、こうなった」が生まれ、「こうなった」ことで小さな（無意識の）「こうしたい」が生まれるのではないかという気がする。

それが最後に作品を合わせたときに「あ、こうなった」が「わ！こうなった・・・」に変わるような感覚が子どもたちの中にわずかでも生まれるような展開にしたい。

4. 題材の目標

個々の作品の存在意義を感じる。

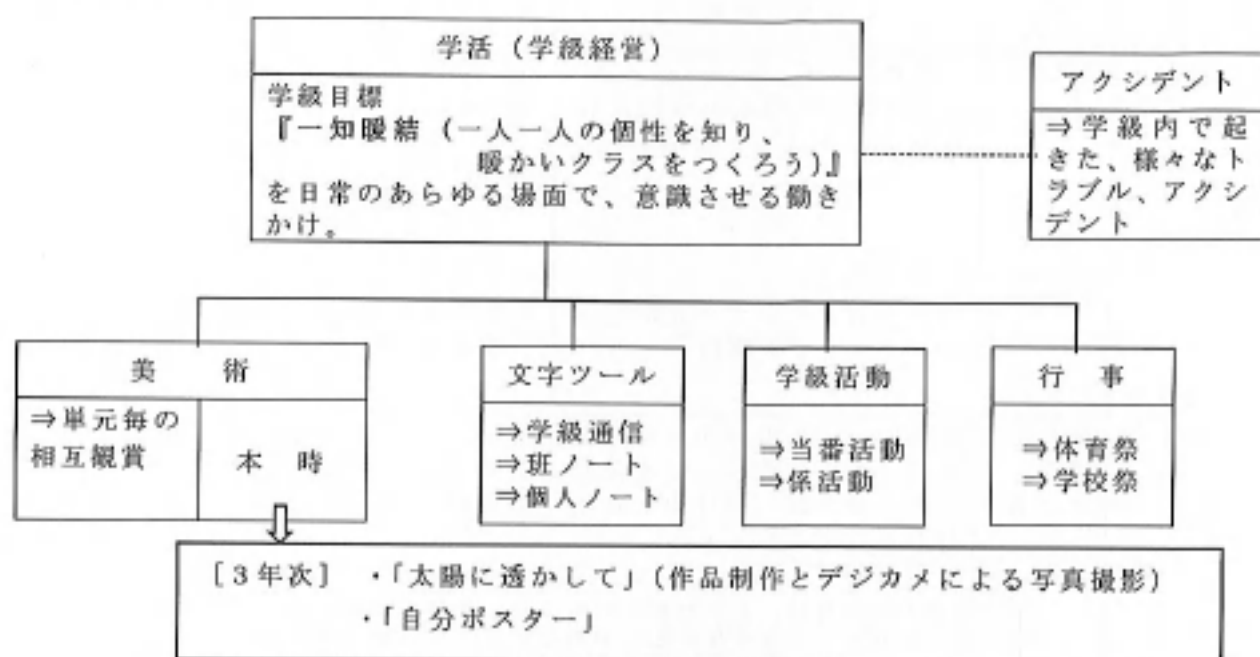
5. 題材の評価の観点

	評価の観点	育みたい力
関心・意欲 態度	自分なりの「きれい」を求めて、制作を楽しむ。	楽しむ
発想・構想の 能力	発想の「縛り」を解き、「きれい」というポイントだけを意識し、自由な組み合わせを追究する。	広げる
創造的な技能	限られた短い時間の中で、効率よく制作を進めるための工夫をする。	選ぶ
鑑賞の能力	合わさった作品の美しさの中に、自分の作品の存在意義を感じる。＜共同意識＞	認める 感じ取る

6. 題材の指導計画

本時 1 時間完結

7. 教育課程



8. 環境

[精神的環境]

- ・ 日常の学級目標に対する意識づけ
- ・ 「認め合い」、「補い合い」という感覚の意識づけ
- ・ 「ひらめき」や「疑問」を教師や仲間発信することの意識づけ

[物理的環境]

- ・ 制作教室の採光
- ・ 「学校的な作品展示 (掲示物)」から「居住空間のデザイン」として展示の仕方

9. 本時の学習指導 (目標・評価・展開)

(1) 本時の目標

個々の作品の存在意義を感じる。

(2) 本時の評価

	育みたい力	評価基準		B を実現できない生徒への指導の手だて
		おおむね満足 (B)	十分満足 (A)	
関心・意欲・態度	楽しむ	グループの仲間の刺激を受けながら、1 時間の中で一瞬でも楽しいと感じながら制作を進めることができる。	グループの仲間の刺激を受けながら、1 時間を楽しみながら制作を進めることができる。	躊躇する必要がないことを声掛けする。
発想・構想の能力	広げる	透かした状態をイメージしながら、自分の中にテーマを持ってレイアウトしようとしている。	透かした状態をイメージしながら、自分の中にテーマを持って効果的にレイアウトできる。	透かしてみても、きれいだと感じれば十分であることを声掛けする。
創造的な技能	選ぶ	イメージ実現のために、ファイルの中に的確に素材を配置し、固定することを試みようとしている。	イメージ実現のために、ファイルの中に的確に素材を配置し、固定することができる。	必要な材料をアドバイスする。
観賞の能力	認める 感じ取る	全体としての美しさを感じるとともに、自分の作品がその一部にあることに安心感を感じる。	合体した作品の中に、自分の作品の存在意義を見出すとともに、全体としての美しさを感じることができる。	全体として一つの作品になっていると感じさせる声掛けをする。

(3) 本時の展開

過程	育みたい力	生徒の活動	教師の働きかけ	備考
導入	楽しむ	画像資料から、「並べる・集める・合わせる」から生まれる効果のイメージを掴む。	資料画像を見せながら、その効果について話す。 ⇒デザインとしての効果 ⇒補い合い・認め合いという道徳的効果 「一知暖結」	PC・TV ◎全体
		FILE制作についての説明を聞き、イメージを掴む。	実際の作品を見せ、イメージを持たせる。	◎全体
展開	楽しむ 選ぶ 広げる	素材（ゴミ）の中から、自分のイメージに合うものを選び出す。または、選び出した素材から発想する・・・	躊躇している生徒、悩む生徒の背中を押してやる働きかけ。	◎グループ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 順番や段取りは、どうであってもよい。選びながら、捨てながら、はさみながら、やめながら、自分が「きれい」かな？と感じるものに近づける行為があればよい。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px auto;"> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">テーマを決めたい</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-top: 5px;">全体で</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-top: 5px;">グループで</div> </div> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">友だちとつなげたい</div> </div> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">色系そろえたい</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-top: 5px;">全体で</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-top: 5px;">グループで</div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> こんな子どもの声が・・・ 出てきたら捨てる。出てこなくてもかまわない。 </div> <div style="margin: 10px auto; width: 80%;"> できた FILE を窓ガラスに貼る。 ⇒グループごとに合体して、窓ガラスに貼る。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> グループの中で、どう並べるか構成を考える。 </div>				
終末	認める 感じ取る	全員で鑑賞 記念写真	「一知暖結」につなげる なげかけ。	◎全体

実践発表幼稚園



「幼児画の読みとり心得」 林 健造

- 一、おもしろいなあと思わぬ限り、変な絵です。
- 二、驚きの心のない限り、つまらないものです。
- 三、下手だなあと見る限り、とても稚拙なものです。
- 四、人間ってすばらしいなあと思わぬ限り、
いたずらにしか 見えません。
- 五、子どもの声をきこうとしない限り、
絵からのメッセージはわかりません。

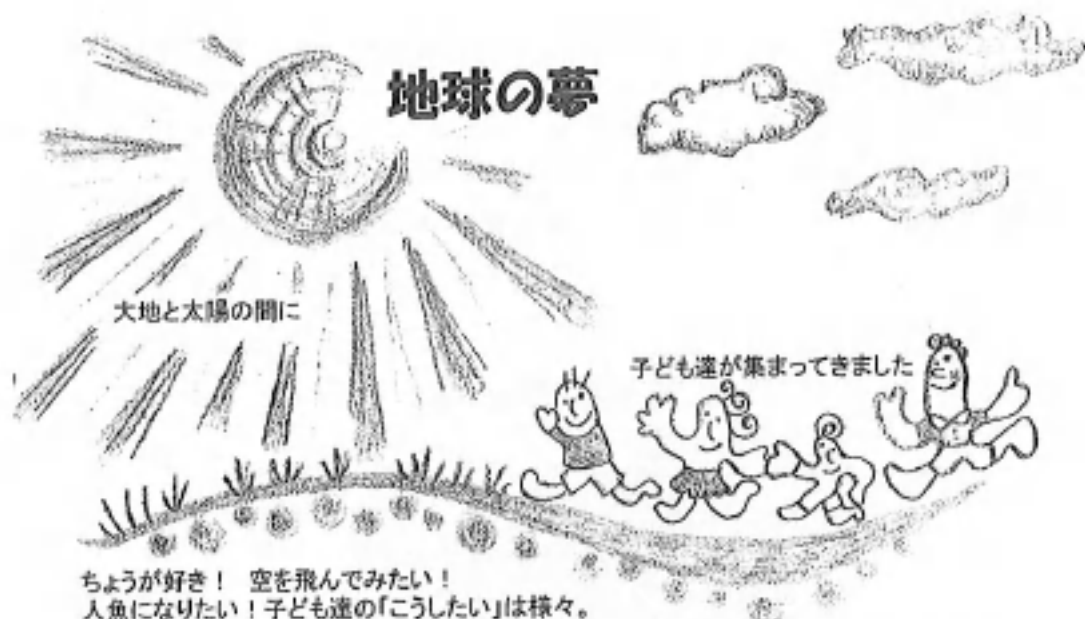
「地球の夢」

～空のせかい・水のせかい・大地のせかい～

『いいこといっぱい』
なりたいものに
夢のつぼさをつけて...
人間のつくるもの『原形は生きもの』
人間のおこがれの『自然は夢のたからもの。』
水辺は生きものふるさと。
大地は生きものステイア。
地球はみんなのひろば。
生きものいっぱい。いいこといっぱい。
造形ひろばは、地球の夢いっぱい。
園長 坂本行正

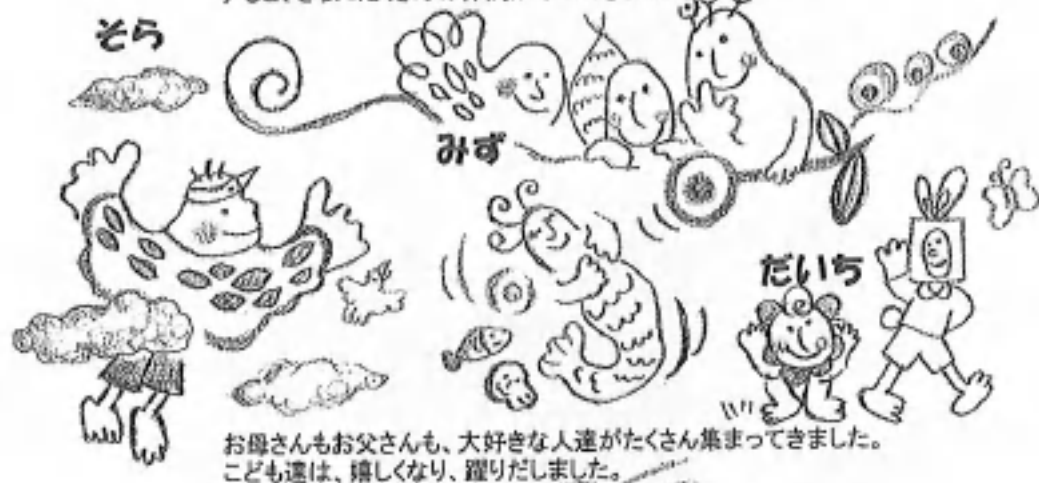
親子の造形ひろば
3-2 地球の夢
6月5日(土)
10:00～2:00
いいこといっぱい
夢のつぼさをつけて...
人間のつくるもの『原形は生きもの』
人間のおこがれの『自然は夢のたからもの。』
水辺は生きものふるさと。
大地は生きものステイア。
地球はみんなのひろば。
生きものいっぱい。いいこといっぱい。
造形ひろばは、地球の夢いっぱい。
園長 坂本行正

地球の夢



そんな様子を、「空の精・水の精・大地の精」がこっそり見ていました。

3人は相談をして…みんなが楽しく生きられるせかいを作りました。すると、さらにたくさんの仲間がやってきました。



子どもの「こうしたい」は、日常生活の中、どの場面にでも見られる。

ただ、その気持ちの大きさは違って、特にみんなで何かを作りあげるときの

「こうしたい」は、無限に大きくなる。

「こうしたい」気持ちを最大限に引き出すためには、まず、日々継続して行うこと。

続きというのは、「こうしたい」気持ちが膨らんでいく。「明日は、こうしよう！」というように、帰るときに気持ちを切らさない。「また続きが出来る」という気持ちにさせる。そして、次の日にする事も、子ども達の言葉(気持ち)を拾って内容を決めていく。子どもが主体であることを、子ども達が認識することが大切。そうすることで、子どもが主体となった「こうしたい」がどんどん生まれてくる。

さらに、安心できる場所・安心できる人達と一緒に作りあげること。一人ではなく、みんなで取り組むことで、さらに「こうしていこう」「こうするとおもしろい」など新しいアイデアが出てきたり、次につながるきっかけになる。

ここで、年長5歳児の「こうしたい」「こうなりたい」から生まれた継続した活動を紹介します。

2013年6月15日 親子で参加する行事 親子の造形ひろば に向けての取り組み

造形ひろば テーマ:『地球の夢』 ～空のせかい・水のせかい・大地のせかい～

1、はじめ

年長5歳児のなりたいもの、つくりたいもの、自然に生まれた遊び。

2、ひろがり

年長5歳児～小学6年生が参加のアートクラブでの活動。

3、展開

アートクラブで作ったもので、遊ぶことで、新たな遊びが生まれ展開していく。

4、つながり

他の学年の子ども達にも広がり、園児全員がつながっていく。

5、気持の盛り上がり

大好きな親・家族を、夢の世界へ招待する。招待状。

6、造形ひろば当日

自分で決めたものに変身するためのアイテムを、子どもが中心になって、アイデアを出して、親・家族と一緒に作る。みんなで、パレード。

1. はじまり

年長5歳児のなりたいもの、つくりたいもの、自然に生まれた遊び。

大地太陽幼稚園では、毎月その時の旬の物に着目して、テーマを持って活動・生活をしています。
4月からのつながりがあり、今に至ります。

《平成25年度 1学期 大地太陽幼稚園の活動の経緯》

4月→雪どけの水に着目 つけたい力「吸収力」

雪どけ水が、どんどん自然の中に吸収されるように、子ども達も柔軟な考えを持ち、
いろいろなことを、吸収した。

5月→葉をつけ始める木に着目 つけたい力「好奇心」

日々変わりゆく自然に目を向け、その変化に対し好奇心を持つ。

6月→畑・土山などいろいろな感触の土に着目 つけたい力「発想力」

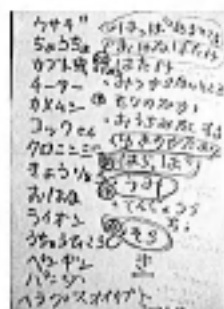
イメージを大切に、自分で遊びを作る楽しさを知る。

《造形ひろばに向けての活動》

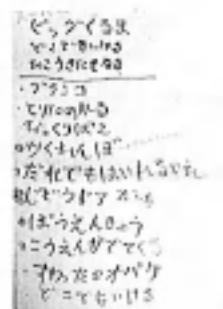
年長5歳児の子ども達に、芝の緑が広がる園庭を見て、「ここにみんなの大好きなものや、
夢がたくさんつまった世界を作ろう」という話をする。子ども達の目の色が変わり、生き生きし
始める。

なりたいものを全体に聞いてみる。ウサギ・ちょう・鳥・忍者・コックさん…(写1)など、
一人ひとり違った答えが返ってくる。そして、どうしてそれになりたいか、理由も聞いてみる。
かわいいから・飛べるから・強いから・大人になってもなりたいものだから…など様々。
この時点ですでに、一人ひとり、それぞれ違ったイメージがすでに頭のなかで出来ている。

みんなで、みんなのなりたいものを実現するために、それぞれのなりたいものが、楽しく過ご
せる場所(空間)は、どういう場所がいいか話し合う。はっぱのあるところ・はたけ・森の中
・海・空・見つからない所…(写1)など、どんどん出てくる。そして、そこで、「何がしたいか」
も聞いてみる。(写2)



(写1) 子ども達のなりたいものと住みたい場所



(写2) その場所で、やってみたいこと

みんなが住むせかいを決める時のポイントは、みんなのなりたいものが、共存できるという事。一人ではなく、みんなで遊ぶ楽しさを知っている子ども達だからこそ、お互いに意見を出し合う。そして、出てきた意見に対して、理由も聞き、その場所で何をしたいかを共有する。「飛びたい・泳ぎたい・隠れたい・料理をしたい…」など。畑があれば、食べ物ができる。海があれば、海のもの食べられる。など、食に関する意見が多い。食べる=生きることは、こどもたちに共通している。

子ども達との話し合いの結果、「空・水・大地」の3つの世界に決定。3つの世界に、自由に分かれて、ラフデッサン、イメージを描く。(写3)



(写3)「空・水・大地」のせかいを、みんなで描く。

2、ひろがり

年長5歳児～小学6年生が参加のアートクラブでの活動。(5月・6月)

年長5歳児～小学6年生の希望者が集う月一回行われるアートクラブ。

年長5歳児の中から生まれた、3つの世界をその経過を含めアートクラブのみんなに伝える。

「空・水・大地」3つの世界に住む生き物などに变身して、それぞれの世界で楽しい遊びを考え、形にしていく。小学生が中心なので、一日で作って遊ぶことができる。アートクラブの子ども達の「こうしたい」が形になる。自分達だけで遊ぶだけでなく、みんなを、自分達の世界に招待してもなす遊びを考え出す。

◀ 5月アートクラブ テーマ：ゆめのせかい ハッピー はるパーティー ▶

各せかいの入り口であるゲートを作る。(写4)



(写4) 空のせかいゲート

水のせかいゲート

大地のせかいゲート

◀ 6月アートクラブ テーマ：ちきゅうのゆめ ▶

空のかけはし・風におよぐバルーン・大地のすみか を作る。(写5)



(写5) 空のかけはし



風におよぐバルーン



大地のすみか

アートクラブのみんなが、もてなす楽しさ・別の世界に遊びに行く楽しさを感じ、各せかいともに盛り上がる。「まだ遊び足りない」という声が自然に子ども達の中に生まれる。年長5歳児の子ども達も、20名ほどアートクラブに参加しており、その活動を普段の保育のときに他の友達に広げていく。

3、展開

アートクラブで作ったもので遊ぶことで、新たな遊びが生まれ展開していく。

アートクラブの次の日、年長の子ども達に、出来た各せかいのゲートを見せる。すぐに子ども達は、ゲートの絵に注目しその絵を指でなぞったり、描いている生き物を見つけたり、真剣なまなざしで見ると、園庭に設置。園庭に「空・水・大地」のせかいのゲートが出来た事で場所が決まる。ゲートを入るとそのせかいの生き物になりきって、進んでいく。鳥・ちょう・恐竜・魚…など、思い思いの変身をする。ゲートを順に通るとその瞬間に、イメージの生き物になれる。「こうなりたい」が少し形になる。

空のかけはし(写6)では、子ども達の中で、自然にルールがつくられ、ジャンケンの神様が、各場所において、勝って次に進めるというルールが生まれた。大地の迷路では、大地のレストラン(写6)が出来た。布に囲まれ隠れる場所に、徐々に子どもが集まってきて、歌い始めたり、まさしく大地のすみかが出来ていた。変身グッズも、少しずつ作り始める。かんむりや、ステッキ、服、ベストなど、一つアイテムを作って身にまとって遊ぶ。



(写6) 空のかけはし



大地のレストラン

4、つながり

他の学年の子ども達にも広がり、園児全員がつながっていく。

2歳児～4歳児の子ども達も、年長児と同様に、自分達になりたいものをイメージし始める。元々異年齢の関わりがあった子ども達なので、年長の子ども達が遊んでいるところに他の学年の子ども達が遊びに来た時も、年長の子どもたちが手をひいてくれたり(写7)、ルールを教えたり、お店やさんを開いたり、遊びがみんなに広がっていく。園児全員に共通の遊び・共通のせかいが出来てくる。さらに、大地太陽オリジナルソング「大地のダンス」を6月のテーマソングにしてみんなで歌い、踊ることで全園児が、一つにつながる。活動の時間だけでなく、普段の生活や通園バスの中など、「大地のダンス」を口ずさんだり、園児全員の想いがつながり始めた。



(写7) 異年齢の関わり・年長の子どもが手をひいて遊ぶ

5、気持ちの盛り上がり

大好きな家族を、夢の世界へ招待する。招待状。

「空・水・大地」のせかいに愛着を持ち始めた子ども達。約2週間後にある親子行事である「親子の造形ひろば」で、大好きな親を招待するための招待状(写8)をつくる。

招待状

・自分になりたいもののイメージを自分で描く。

例：おもしろくて強いライオン　楽しい　いろいろ忍者　など…

ただ、なりたいものを描くだけでなく、ここで大切なのは、「どんなイメージを持ってそれに変身するか」ということである。このことが、「こうしたい」「こうなりたい」という気持ちを切らさず、膨らましていく重要な点である。



(写8) 招待状作り・変身するイメージをデザインする

自分でせかいを決めることが大切。同じせかいの子ども達の中に、いつもと少し違った仲間意識が生まれる。

この招待状は、変身グッズのセットと一緒に造形ひろば当日に親・家族に渡す。子どもが、自分の愛着をもったせかいに招待するという気持ちが大切。もてなす楽しさ、来てもらう楽しさが、「こうしたい」気持ちを大きくする。

6. 造形ひろば当日

自分で決めたものに変身するためのアイテムを、子どもが中心になって、アイデアを出して、親・家族と一緒に作る。みんなで、パレード。

「親子の造形ひろば」 テーマ： 地球の夢 ～空のせかい・水のせかい・大地のせかい～

子どもが決めたせかいに、親を招待する。こどもの「こうなりたい」という夢を実現させるためのアイテムを渡し、子どもの夢を家族みんなで作りあげる。紙袋に、子どもからの招待状を貼り、袋の中に、それぞれのせかい「空・水・大地」で楽しめるアイテムを入れておく。

空のせかい

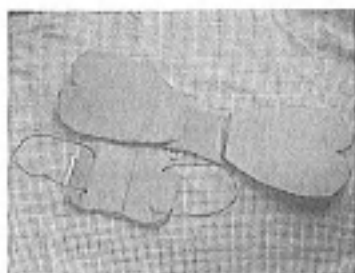
飛びたいという子どもの想いを形にするために、羽を入れる。各年齢に応じて、作り方を変える。子どもの作りたいという意欲を、それぞれの学年で最大限引き出すために、年長は、やや難しく針金で、フレームだけ作っておく。年中・年少は、色をつけることを基本の型にする。

水のせかい

水の中を自由に泳ぎたいという子どもの想いを形にするために、ビニールで作れる魚のようなものを用意する。持って走ることで、水の中を泳ぐような自由なイメージを湧かせる。

大地のせかい

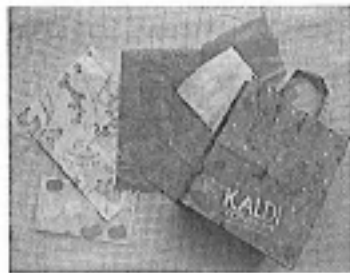
一番いろいろな種類・特徴を持った生き物が多い大地は、変身グッズになるような材料を渡す。空・水のせかいと違って、「こうなりたい」の理由が様々だったので、自由に変身することに。恐竜の強さ・忍者のすばやさ・生き物のかわいさなど様々。



(写9) 空のせかいの羽



水のせかいのバルーン



大地のせかいの変身グッズ

普段作ることに慣れていない親のために基本の型は提示するが、大切なのは、それぞれの個性を表現することなので、各コーナーに自由に使える素材・材料を用意して、いつでもだれでも使える状態にしておく。スタッフも、参考になるような手作りのアイテムを身に付けたり、どんどん声をかけて、イメージを引きだしていく。

作り始めは、少し戸惑う親もいた。しかし、ある程度基本の型・見本を提示したことによって、「あれを作ればいいんだ」という安心感を持って作り始めることができた。作り始めさえすれば、親もどんどん楽しくなり、お母さんだけでなく、お父さん、おばあちゃんまで一緒に作る様子もみられた。子どもたちのイメージがかなり固まっていた、子どもが親に「こうしたい！こうりたい！」ということ伝えることで、家族で一緒に考えて作る姿が見られた。中には、子どもは次の遊びに行きたくても、親の方が夢中になっているケースもあった。

子どもの「こうしたい」が、親の「こうしたい」を生み出した。(写10)



(写10) 子どもの「こうしたい」から親の「こうしたい」へ

家族みんなで真剣に作る

◀ みんなの「こうしたい」夢の形を、一つにするパレード ▶

作り終えて、みんなで外に出る。一人ひとり完成した満足感・達成感を、みんなで共感しさらに広げていくために、パレードをする。見られたり、見せたり、お互いに褒め合うことで、満足感・達成感だけでなく、嬉しい気持ちが生まれる。

まずは、それぞれのせかい毎に、パレードする。この時も、みんながパレード(写11)に参加しやすいように、最初に園スタッフが簡単な踊りを見せて、みんなが出やすい雰囲気を作る。大地のせかい・水のせかい・空のせかいの順に出る。同じ仲間がたくさんいる事で、心強く、安心してパレードに参加出来る。3つのせかいが終わった後、全員で、「大地のダンス」(写11)でしめくり。カメラを撮っていたお母さん方も、自然に体が動き始めたり、みんなで楽しい気持ちを共感する。『夢みる力』『地球の夢』が一つになった。



(写11) みんなでパレード みんなでダンス なりきる楽しさ

まとめ

造形ひろばを迎えるまでの大切なポイント

1、流れ・経緯を大切にす。

子どもの発想が主になっていることを、常に意識した流れで当日を迎える。

子どもの「こうしたい」に、親・家族・園スタッフみんなを巻き込んでいく。

2、当日の環境作り

今日は、いつもと違う特別な日ということが、来た人みんなに伝わるような環境作り。

園の入り口にゲートを作り、花・芝生の手入れなど、細部まで整える。

3、園スタッフのモチベーション

いつも通り、明るく気持ちよく迎える。親と一緒にという事で、緊張したりする子どももいるので、十分に気を配って声をかける。

今回は、年長5歳児の子どもから生まれた「こうしたい」を、小学生・親・家族にまで広げて、みんなで作りあげることができた。子どもの「こうしたい」は、日常の生活の中にたくさんある。そんな子ども達と一緒に生活している教師として、一人ひとり違った「こうしたい」想いを、見つけて、つなげて、広げて、そしてみんなで楽しさを共有することが、教師の役割である。特に今回は、親子参加の行事もあり、子ども達の「こうしたい」と一緒に実感し共感できたのは

良かった。

子ども達にとって、学校や幼稚園で友達や仲間と安心して過ごすことも大切だが、やはり一番大切な空間・時間は、家族であり家庭であると思う。家族のみんなと楽しみを共有する事は、子どもの成長にとって重要な事である。これからも、幼稚園と家庭と一緒に、「地球の夢」を担う子ども達を守って、育てていきたいと思う。

『子どもの「こうしたい」は、「地球の夢」「地球の未来」そのものである。』

「想いが膨らむ造形遊び」 ～おりがみ・新聞遊び・絵具～

実践発表の概要

子どもたちと造形遊びを行う時に大切にしていることがあります。まず、子どもの発想を引き出し、そこから展開していく姿から子どもたち自身が楽しんでいるか、満足感を味わえているかを一人ひとりの言葉や表情、子どもたち同士の関わりの様子から教師が察知することです。その上で、取り組みが膨らんでいけるよう援助し、やってみたい・楽しい・もっとしたいといった気持ちが膨らむような関わりをしています。幼児期だからこそ言葉だけでは伝わりにくいので発想が膨らむような導入を用意することです。また、教師の手順や周囲の様子をよく見て考え模倣することもひとつの手段です。子どもたちは普段の生活の中から基本的な生活習慣や集団での関わりも学んでいます。自分が実際にやってみたいという気持ちになるよう工夫も大切です。日々の保育の中から生まれた造形遊びにはたくさんの子どもたちの生き生きとした表情、友達同士の関わりが見られます。

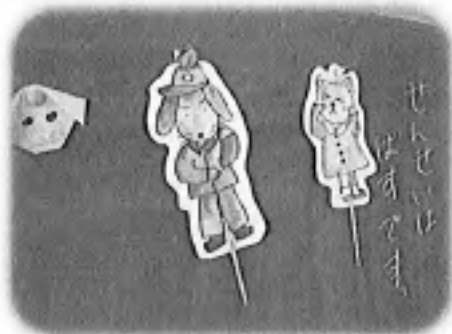
子どもたち同士の関わりが深まるような楽しい時間をつくるために、1.子どものやりたい気持ちが膨らむ導入の工夫 2.造形遊びを全身で感じる場の工夫 3.色を体で感じ色と触れ合う工夫 の3つのポイントに絞り、想いが膨らむ造形遊びの実践(年少3歳児クラス)を3つ発表します。今回の実践発表を行うにあたり日々の保育の活動を振り返る自分自身にとっても保育の研究となりました。



1.子どものやりたい気持ちが膨らむ導入の工夫

日々の生活の繋がりを大切にしたい保育を心掛け、実践①おりがみでは手順を教え折るだけではなく普段朝の会で子どもたちとうたっている歌とおりがみの活動を繋げました。子どもがつくりたいという気持ちが膨らむようなきっかけとして、歌をうたった後に「子猫ちゃんも犬のおまわりさんもまだ泣いているよ」とペープサートを動かして話していると子どもたちから『迷子になった子猫を助けるんだ！』『犬のおまわりさんの手伝いをするんだ！』と気持ちにスイッチが入り一緒に折り紙で犬を折りました。折り紙を折る時は教師の手順の見本をしっかり見て模倣し折っていきましたが、自分で折ること、自分なりの折り方でも大丈夫、と子どもたちのやりたい気持ちを大切にしました。『うまくできない』という気持ちになっている子に対して援助をする必要がありますが、みな出来上がった作品にクレヨンで表情をつけ手にした時には折り紙に命が宿り、自分の作品だけではなく友達作品と会話が膨らみ子どもたちで物語が始まっていきました。今回の活動では出来上がった行為に対して『できた』の言葉だけではなく、その後の子どもたちの展開を楽しむ姿が沢山見られました。折り紙遊びをする時は飾る作品をつくるのがゴールではなく、手順を学ぶことや、想像を膨らまし見立て遊びを楽しむことに教師の願いを込めています。

実践①おりがみ(5月3歳児)



〈導入〉

朝の会で普段からうたっている【♪いぬのおまわりさん】
 子どもたちは、振りをつけてうたうことも大好き
 そこに、「迷子の子猫ちゃんが困っている!!」「犬のおまわり
 さん1匹では困っ困ってわんわんわん」と犬のおまわりさんが話
 したし
 『お手伝いする!!』『一緒にパトロールするよ』
 と次々に子どもたちからの声があがりました



『先生見て!三角お山できたよ』

一生懸命教師の見本を見てしっかりアイロンを
 かけて友達の姿を見て確認しながら形を折り…



『先生できたよ、
 かわいいでしょう』

『わんわん』
 『こんにちは!』

『よーし、
 一緒に探しに行こう』

作品同士で会話がはじまりました
 作品を操り子どもたちから優しい言葉が
 沢山でてきました



出来上がった子から次々に
 『パトロールに行く』と立ちあがり…
 ベーブサートに話しかけにきました

『パトロールにきたよ』

『もう大丈夫だからね』

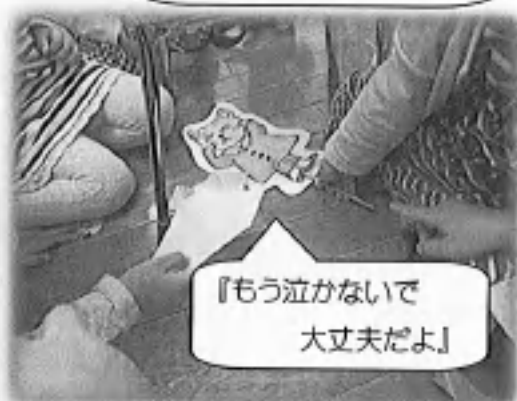
自分たちでペープサートを動かし
子猫ちゃんに優しく話かけています
子どもたちの優しさが伝わってきます



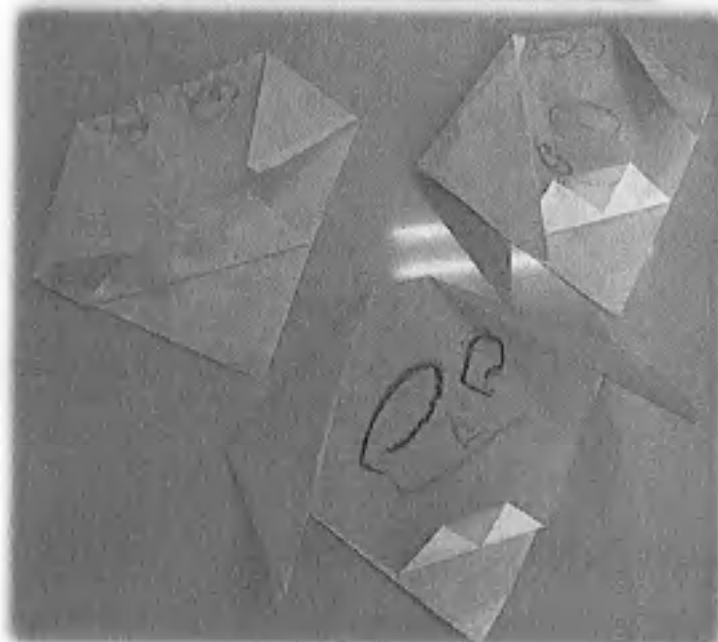
『ねこさーんお家さがし
てあげるから大丈夫だ
よ!!!』



『ねこさんのお家
見つけたよ!!!
『ここだよ』



『もう泣かないで
大丈夫だよ』



子どもの素直な感受性に驚きです。犬のおまわりさん、迷子の子猫ちゃんの為になりたい。と作りだした犬の折り紙。そこから様々な物語が始まりました。幼児期の発想力の豊かさには改めて学ぶものが沢山あります。この大切な時期に携わっている事に日々喜びを感じています。

2. 造形遊びを全身で感じる場の工夫

身近な素材で子どもたちの笑顔が沢山溢れる活動に新聞遊びがあります。体で感じ自分達で作り出す楽しさを味わうために新聞紙を自由自在に操り、身にまったり、破いたり、丸めたり新聞を使って変身したりすることを楽しみます。子どもたちの発想が次から次へと膨らんでいき、教師が予想していた以上の展開が広がることも。実践②新聞遊びでは子どもたちの発想に応じて教師の関わりからよりいきいきとした表情溢れる活動となるよう、言葉かけやさっかかけつくりを大切に活動を行いました。

ゆっくりとしたピアノのリズムに合わせお昼寝をし、新聞紙を優しく扱えるよう息を吹きかけ紙が揺れる音を感じ音の不思議さに気付きました。強く息を吹く子、優しく吹く子、友達の吹いている様子を伺っている子、そして破く行為に移りました。最初優しく新聞紙を扱っていたので、破り出しはそーっと長く破いてみようという提案しました。見本を見せると破く楽しさに気づき、どんどん細かくすることに興味移りました。破った後は雨に見立て降りしたり、海に見立て泳いだり全身で活動を楽しむ事ができました。

実践②新聞遊び(5月3歳児)



ゆっくりとしたリズム♪(ピアノの音)を感じお昼寝
新聞紙をお腹に載せて布団に変身



息を「ひーっ」



リズム♪が徐々に
スピードアップ

手に持って走りまわると音が変わる



ゆっくりなリズム♪

落ちないように走ってみよう



破るその姿 真剣です!!



もう風こない
大丈夫?



「やぶっちゃえー」



海を泳いだり
体を重ね合うのも大好き



その笑顔のわけは…



「先生の頭に雨、降らしちゃえー」

新聞紙を集めて袋に入れて
リボンをつけて…



「雨だぞー!」

全身で泳ぎながら新聞紙を回収中



ちょっとおさえていて



できあがり



本実践の新聞遊びでは、全身で造形遊びを楽しめるよう新聞紙との関係作り、音や感触を感じられるよう静と動の大切さを改めて実感しました。子どもたちの自由な発想が膨らみその場で生まれた言葉や動きを教師も受け取り子どもたち同士が共有できるよう、周囲に伝達言葉や子どもたち自身が周囲の様子に気付くような場を今後も大切にしていきたいと思えます。

3. 色を体で感じ色と触れ合う工夫

絵具を使った初めての活動は指絵具を行いました。実践③絵具では、たくさんの色の中から「どれにしようか…」自分の好きな色を選び、自分の場所に戻ると画用紙をもらう前に指に絵具をつけた子どもたち、指についた絵具を、机につけて遊び出していました。(教師の想定していたことと違いましたが、すぐに本来の子どものらしい姿だと判断しました。こんな時は見守り楽しむ姿に教師が共感することが大切です。)画用紙を渡すと点々と模様をつけたす子、ダイナミックに画用紙全体に塗りだす子、子どもたちからは喜びの歓声があがり次々に友達の様子を真似て色を体で感じている姿がそこにはありました。

実践③絵具遊び(5月3歳児)



『どれにしようかな』



『先生みて!!!』

『つけちゃった!!!』



あっ、机に絵具が!!

『先生!できた!!
いっぱい絵具つけた
よ!!!』



『たくさんつけていいの?』



『僕の手みて!』

『じゃじゃーん
お化けだぞー』



床にも絵具の模様が...



子どもたちは絵具を自由に扱い楽しむ姿がありました。活動中には笑い声がたくさん響き渡り、互いの姿を見せ合い子どもの発想が主体となって活動が展開していました。教師は子どもの様子を大きな心で見守ることも大切です。



最後はみんなでお片付け

実践発表 小学校



小学校3年

作者のことば「空の上の町ー雲の上にこんな町があったらいいなと思って描きました。」

頭の中でイメージした事をもとに自分で形を生み出している。「こう表現してみたい」と思わせる題材設定は子どもの意欲や力を引き出す。子ども自身が主題を生み出すような授業を大切にしたい

子どもの「どうしよう？」から「こうしよう！」を支える授業

～たまごパックによる造形遊びの実践から～

おおー！



実践発表の概要

子どものころは、図工や美術が大嫌いだった私ですが、小学校教員になってから図工の授業が一番楽しいと感じるようになりました。子どもの活動やアイデアに共感し、認めていくことで「図工って楽しいな！」と子どもに思ってもらえることに気付いたからです。その姿を見るために、自分自身が日々「どうしよう？」と悩みながら教材研究をして、「こうしよう！」と考えたことを実際の授業で行っています。きっと子どもも同じです。「こうしよう！」と考える前に、「どうしよう？」と考えているはず…。そんな子どもの「どうしよう？」に目や耳をかたむけ、見守ったり話を聞いたりすることで、すてきなアイデア「こうしよう！」が生まれてくる瞬間に立ち会えると考えました。

今回は、異なる学年（1年、4年）で行ったたまごパックによる造形遊びの実践から、子どもの「こうしよう！」という姿を捉えていきました。

1. たまごパックのおもしろいところを見つけよう！（1年生の実践から）

まずはたまごパックの特徴を体で感じるため、材料とふれあう時間をたくさんとりました。それから全体交流の時間を設け、やわらかい・かるい・透明・光を通すとかがげができるといった特徴や、ポコポコしている・上と下で大きさが違うといった形のおもしろさに気付くことができました。「たまごパックはたくさんあるよ！どんなことができそうかな？」と聞くと、つむ・ならべる・組み合わせるといった言葉が出てきて、「もっとおもしろいところを見つけられそうだ！」という想いをもつことができました。

光に当てるとキラキラするよ！

向こう側がおもしろく見えるよ！

つみ方を変えてみよう！

たくさんつむとグラグラしちゃうよ。

ジグザグにつんでみよう！

光の当たる場所でつんでみよう！

もっとおもしろいつみ方をしたいんだけど…。

ならべたら、たくさんの光るお部屋ができたよ。

窓にはったら、すごくキラキラしていてきれいだよ！

もっとたくさんはってみよう！

行為それ自体が目的！たまごパックのよさから発想を広げて活動していました。

2. キラキラたまごパックランド（4年生の実践から）～材料との出会い～

「次の図工の授業では、たまごパックを使うよ!」とだけ投げかけ、造形遊びをさせるため、具体的にどんな活動をするのかは話しませんでした。「貯金箱をつくるの?」「ロボットつくりたいな。」など聞かれてもすぐ答えず、大量のたまごパックを見たとき、「どうしよう?」が生まれ、子どもから活動が広がることをねらっていました。集まったたまごパックの数が多くなってくると、「先生、たまごパックで遊んでいい?」と言い出し、「こうしよう!」が生まれました。そこで、「どうやって遊ぶの?」と聞くと「わかんない!」と言いながら、次の「どうしよう?」が生まれました。そして、「こうしよう!」につながるように一緒にたまごパックを広げました。ここから子どもたちとたまごパックのふれあいが始まります。子どもたちは、自主的につんだりならべたりという活動を始めました。そこで「どんな風に見える?」とき聞くと「ビルみたい。」と答えたところから、「だったらさ…」と子どもたち同士話し始め、形に目を向けていきました。そして次は「こうやってつんでみよう!」などイメージをもった活動が始まると、たまごパックの微妙な形や大きさの違いにも気付いていきました。人数も増えていき、よりダイナミックな活動へと発展していきました。



3. ～授業の始まり～

「たまごパックでどんなことができそうかな？」と聞くと、先に遊んでいた子たちから「ならべる・つむ」といった行為の言葉が出てきました。そこから発想を広げ、「ひらく・つなげる・くむ・はさめる」などたくさん出てきます。一年生と違い、たくさんの子から言葉が出てきたことから、これまでの造形活動の経験が生きていることを実感しました。「でも今回はただのたまごパックランドじゃないよ？」と問いかけ、「キラキラ」へと着目させていきました。「キラキラってなんだろう？」→光 「どうやったらキラキラが生まれそうかな？」→光の当たる場所で・色々な技を組み合わせる など造形的な美しさへと目を向けさせながら活動を進めていきました。「色を組み合わせてもいいですか？」と聞かれたので、私の予定にはなかったのですが、子どもたちの「こうしたい！」を実現させたいと思い、すずらんテープも材料として提示しました。

ここが先頭だから、もう少しキラキラにできないかな？

ならべる

パックを光のほうに倒してみよう！

たて、横、たて、横でつんでみたんだけど、どう？

つむ

すごくおもしろいじゃん！
じゃあ次はさ…！

せっかくだからアーチ型を活かしたいんだけど…。

つるす

つるしてみようよ！

いい感じだね！もっと目立たせたいね。

かざる

すずらんテープをまいてみよう！



セロハンテープでつけると、ぐちゃちゃになりそう…。

たてる

すずらんテープで結んでみようよ！



つなげる

となりのグループに声をかけてみよう！

もっとたまごパックがあれば広がっていくんだけど…。



すずらんテープで巻くと、色のついたキラキラができるよ。

光がたくさん当たる場所だと、キラキラがはっきりするね。

くみあわせる



最後に活動の写真をテレビに写し、光っている様子やイメージをふくらませて活動している様子を価値付けました。次の時間に「もっとキラキラ」させるためにどうしたいかと聞くと、「大きく・すてきに・カラフルに・もっと光の当たる場所で一屋上・中庭」などの意見が飛び出しました。どんな材料があれば自分たちの想いを実現できそうか考え、授業を終えました。

4. ～見つけたキラキラをパワーアップさせよう！～

「もっと光の当たる場所で」「大きく」という想いを実現させるために中庭に移動することにしました。「前回見つけたキラキラをパワーアップさせよう！」と声をかけ、活動を始めました。今回は、子どもたちの要望が多かった色水、色セロハン、水性ペンを用意しました。材料の幅が一気に広がったことと、場所が広がったことで子どもたちは次々に新しい材料とたまごパックを組み合わせ、自分のキラキラを探していました。しかし、場所が変わり材料も増えたことで明確なイメージをもって活動に入ることができなかつた子もいたため、前回のダイナミックな活動とのつながりが途切れてしまったように感じました。すずらんテープをはりめぐらせたり、ロープウェーを作って遊んだり教師側のねらいからそれて活動する子へのかかわりが難しいなと感じました。



「これからどうなるの？」「そうするとどんなキラキラが生まれそう？」と聞いたり、「そっか！光がたくさん当たるからこの場所にしたんだね！」と価値付けたりすることで、「こうしよう！」がより明確になっていきました。「ようやくイメージがつかめてきたぞ！」というところで時間がきてしまいました。授業の終わりに集まった子どもたちは、まわりをぐるりと見まわし、室内で行ったときよりも「キラキラたまごパックランドに近づいたぞ」という印象をもちました。活動終了後、2年生がこっそりランドを見に来てくれていました。次の日の朝、2年生が感動している様子を動画で映すテレビを1台、自分たちの活動の様子を映したもののスライドを映すテレビを1台、2年生がランドに来た感想カードを掲示した掲示板を1台用意しておきました。「次は僕たちも色水を使ったらさ…」など、自分たちの活動を客観的に振り返ることができました。また、「これキレイだね。誰のキラキラ？」「すごいって言ってもらえて嬉しい。」など、他者からの評価を自信につなげることもできました。

5. もっと〇〇なキラキラにパワーアップさせよう！

活動場所に入ってきたときに、「すずらんテーブルだね。」と話した子がいました。その言葉をとりあげ、今回の題材を再度確認しました。写真や動画、お手紙などでの前回の振り返りから、「もっとこうしたい！」というイメージをふくらませて活動することができました。また、友達のいいところを積極的に取り入れようとする姿も見られました。



色水を入れるときは、穴のどこに何色を入れるか考えていました。色を入れる場所を考えてならべたり、つんだりする子もいました。色水の中に入れるだけでなく、たまごパックを重ねた上からかけるという発想をしている子もいて驚きました。活動に満足したところでカメラを与え、一人一枚「私が見つけたキラキラはこれ！」と、キラキラを写真に残してほしいと伝えると、さまざまな角度から作品をながめ、レンズをのぞき、シャッターを押していました。「光」という視点を与えることで、さまざまな色の組み合わせやたまごパックという材料のよさを感じ取り、重ね方や並べ方を工夫して、自分のイメージに近づけようとする姿がたくさん見られました。

キラキラを見つけるためにたくさんの行為をためす！
そこから発想を広げ、自分なりの工夫を考えて活動していました。

6. まとめ

成果

1年生では、

課題

☆活動場所の広さがちょうどよかったため、自然と子ども同士がつながっていくことができた。
 ☆軽く、扱いやすい素材なので、つくり・つくりかえることをためらわずに行っていた。
 ☆誰もが見たことがある身近な素材がもつ、隠れたよさを子ども自身が実感することができた。

☆光が差し込む場所が限られていた。
 ☆つぶしたときに出る音におもしろさを見出した子への対応。
 ☆どうやったら「終わった！」と活動のゴールを感じた子が、自らゴールを先へ先へと伸ばしていくことのできる子どもになるのか。

4年生では、

材料や場所のよさを生かして、
 想いが途切れず活動していく題材に！

というねらいで授業を考えました。どんな子でも想いをふくらませて表現活動ができるように、「キラキラ」という光を意識した活動を設定しました。そして、1年生で行った「つむ・ならべる」といった活動から、4年生の活動として色と場所の要素を新たに取り入れました。さらに自分が行っている活動が教師や友達、他学年の子どもたちから認められることで、想いが途切れることなく自ら「もっとこうしたい！」という想いをもち続けることができました。

わたしが見つけた☆キラキラ☆は…

たまごパックの中に色水を入れて、おりがめをちまっています。きれいになる。

どうやってキラキラをパワーアップさせましたか？
 たまごパックの片方をかきあげて上には、置いていたスランダーの色、ぬりして、ほとんどのたまごパックが、色水を入れた。

感想
 わたしは、この勉強をして、いろいろなやりかたを見つけました。みんなとそがたして、キラキラにして、すくったのしかたです。

わたしが見つけた☆キラキラ☆は…

たまごパックをつまみかきあげ、くっつけてキラキラして、その上から水をかけてみた。そのキラキラに。

どうやってキラキラをパワーアップさせましたか？
 中に色水を入れて、その水を色水で洗って、せが色に、きれいにして、その上から色水をかけたりしたのが、わたしのパワーアップです。

感想
 みんなは、自分たちが、たぐりをしていて、たまごパックをつまみかきあげて、キラキラに、すくったのしかたです。

このように子どもたちの感想から、たまごパックのよさに着目し自らの工夫を生み出し、光を取り入れながら活動を楽しんだことがわかります。

子どもの姿から「こうしよう！」が生まれた理由を探り、私たち教師のかかわりや場の設定、題材との出会わせ方を考え直すきっかけとなりました。これからも子どもの「どうしよう？」に寄り添い、一緒に笑顔になれるようかかわっていきたいと思います。

わたしが見つけた☆キラキラ☆は…

全買がぶえがおになった



こうしたい！！は誰にでもやってくる

実践発表の概要

私が石狩の図工・美術部会に入って、十年ほど経ちました。入ったきっかけは、もともと図工・美術専門ではないにもかかわらず臨時採用で図工の専科に採用され、どうやって教えたらいのか悩んでいたためです。その当時は専科としての気負いもあり、子どもたちには見栄えのする作品をつくらせれば満足してもらえらるだろうと思っていました。子どもたちに喜んでもらっていると勘違いしながら「〇〇式は、指導が明確で楽だなあ」などと思ったこともありました。

しかし、今は昔の自分に「一見うまく見える絵を描かせてどうすんの？」という気持ちです。

なぜなら、子どもの作品につくっている子どもの姿が表れることに気づかされたからです。

子どもの『こうしたい！！』をつぶしていたのです。

子どもがつくったり、描いたりするとき、そこに試行錯誤の様子や作品づくりに没頭していく気持ちがつまっています。子どもの「こうしたい！！」を引き出してこそ本当の図工教育だと思います。そこで、私が実践の中で大切にしている子どもへのはたらきかけを紹介し、子どもたちの「こうしたい！！」を引き出した、広げたりしていくポイントをみなさんと一緒に学んでいきたいと思います。

1. はじめる前の「こうしたい！！」

絵を描いたりものをつくる前は、これから描く（つくる）もののイメージをふくらませることが大切です。

例えば、遠足に行った後に、「遠足の思い出の絵を描こう。」とだけ言って、描かせるよりも、

「みんなで遊んだの楽しかった？」

「お弁当すごくおいしかったね。」

「友だちとブランコしてた人もいたね。」

「サッカーしていた人もいたね。」

「砂場で友だちと遊んでいた人もいたね。」

と言うように子どもたちの思い出に寄り添うことでイメージをふくらませるようにしています。



教師が子どもにとって自分の思いを伝えたい存在になることで子どもの「こうしたい！！」を引き出すことができるのです。

特に低学年の子にとっては、話すという活動が大切です。

話し好きな子どもたちは、すぐに考えていることを話したがりです。話がヒートアップしてくると身振り手振りが出てくる事もあります。聞き手にも子どもが思い浮かべているものが伝わってきます。

話すことが苦手な子に対しては、教師が「なんとかして伝えたい存在になる」ことが必要です。

2. 「こうしたい！！」が広がる

次に、作品をつくっている時の場面を考えていきます。

伝えたいことであふれている子どもは、伝えたいことを汲み取ってあげると「もっと伝えたい。」という思いが広がります。それが表現にも表れてきます。

一見、奇抜なことをしているように見えても、子どもにとっては大人が大人の見方（価値観）で奇抜だと思っているだけのことが多い。

それなのに、「何だそれ。そんなふうになってないでしょ。」「何でそんな色にしたの。」と大人の見方を押し付けてしまったら、伝えたいことであふれていた子の「こうしたい！！」はしぼんでしまいます。

子どもの筆をとって「こうすれば、いいよ。」と、指導者が手を加えてしまう話を耳にしますが、それでは、もうすでにその子の作品ではありません。

私も思いもよらない表現に驚くことだってありますがそんなときは

「これ、おもしろいね。なあに。」「これかっこいいね。なあに。」「これかわいいね。なあに。」

「きれいだね。これ何か教えて。」

と子どもの思いを受容的に受けとめるようにしています。すると子どもは「こうしたかったんだ。」という思いを照れくさそうに教えてくれます。

伝われば安心感を持ち、「もっと伝えたい」になります。

自分の思いが伝わって嬉しくない子なんていないと思います。子どもは、思いを伝えながら、「こうしたい！！」をふくらませ、いろいろ試しながら新たな「こうしたい！！」を発見していくのです。

伝えたい思いのキャッチボールは、『教師と子ども』から『子どもと子ども』へとつながり、『共感でつまれた教室』を生み出す。

共感でつまれた教室では、「こうしたい！！」を安心して表現することができる。

図工の時間は、自分の思いを他者に伝え、他者理解を深める大切な時間である。



3. 「こうしたい！！」が広がったおもしろさ

実践例1（小学校1年）

この題材名は何かわかりますか？

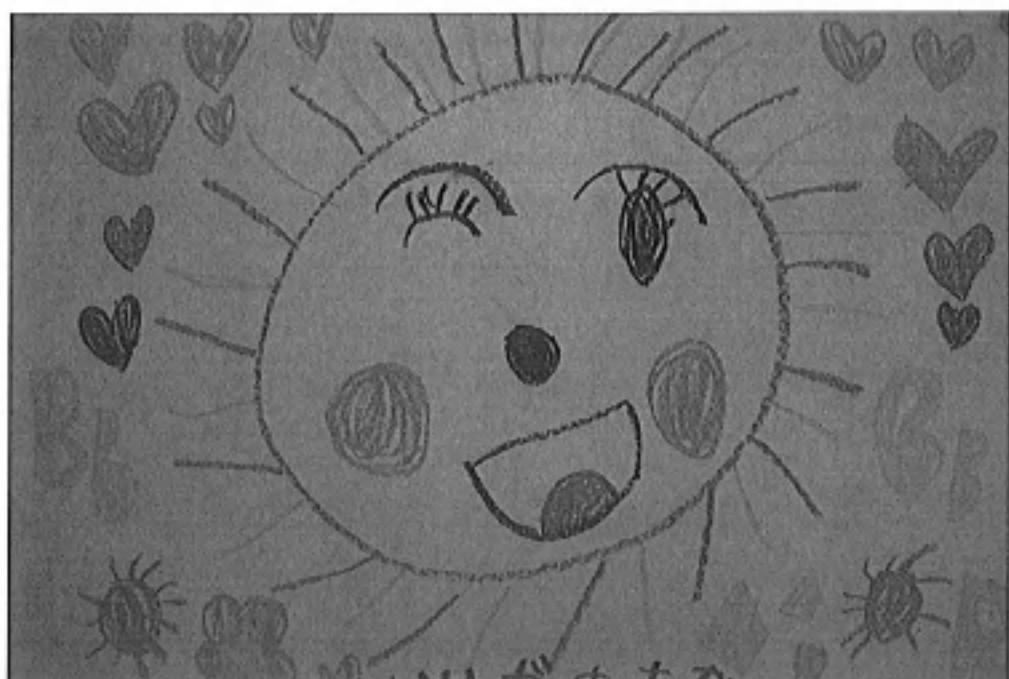


2枚とも同じテーマで描きました。

どちらの絵にも子どもの「こうしたい！！」がつまっています。

次の作品を教師の投げかけた言葉でストーリーが生まれ、作品の幅が大きく広がったなあと思います。

次の作品も同じ題材名です。



作業中に教科書を見て描いたと聞き、「あなるほど」と思いました。この子のいるグループは、グループ4人が同じような作品になりました。



この題材は「おひさま にこにこ」です。

日本文教出版

学習のめあて：すきな かたちや いろで じぶんのおひさまをかく。

題材の目標：くれよんやパスなどを使いながら自分の好きなものをかくことを楽しむ。

では、どんな投げかけをして、対話をした後に、描き始めたかわかりますか？

みなさんなら、どのような言葉かけをしますか。

題材と出会う前に少しの投げかけた言葉が作品に影響し、「こうしたい！！」が広がっていく様子は、とてもおもしろいと思います。

実践例2 (小学校1年)「かげを うつして」

学習のめあて：かげの かたちの おもしろさに きづく。

題材の目標：映った影から気に入った影を見つけ、身の回りにある影の面白さに気付く。



日差しが強くないとだめだと思い、7月のとても暑い日に15分間でいろんなものの影を写しとりました。短い時間設定は暑いからだったのですが、時間の短さも手伝って、何種もの影を意欲的に写しとっていました。本当は、写した影の線を見立てて、すぐに色を塗らせようと思ったのですが、夏休みに入ってしまう、時間があいたため写した影の線を何かに見立てるのは、夏休み明けになりました。

「かげをうつして」の単元を「かげのへんしん」と変更しておこないました。

「なんかのかげだったよね。今日はかげをへんしんさせようか。」

ところがこの苦肉の策が大成功。

「何に見える？」で盛り上がること

自分の写した影にみんなが

「あれに見える。これに見える。」の大反響

「こうしたい！！」をもったままの色塗りはびっくりすくらい集中していました。

子どもはもともになったものの意味にとらわれてしまいがちですが、時間をあけたことでかえって影のもとになったもの（木やフェンス）の意味をうすめ、形本来の面白さに気付けたように思います。



↑何の影が分かりやすいのですが、そんなことは気にしない。



影の写し取りが1つだけ、その稜線をいかして、林にへんしん！！

実践例3 (小学校1年生)「なにになるかな」

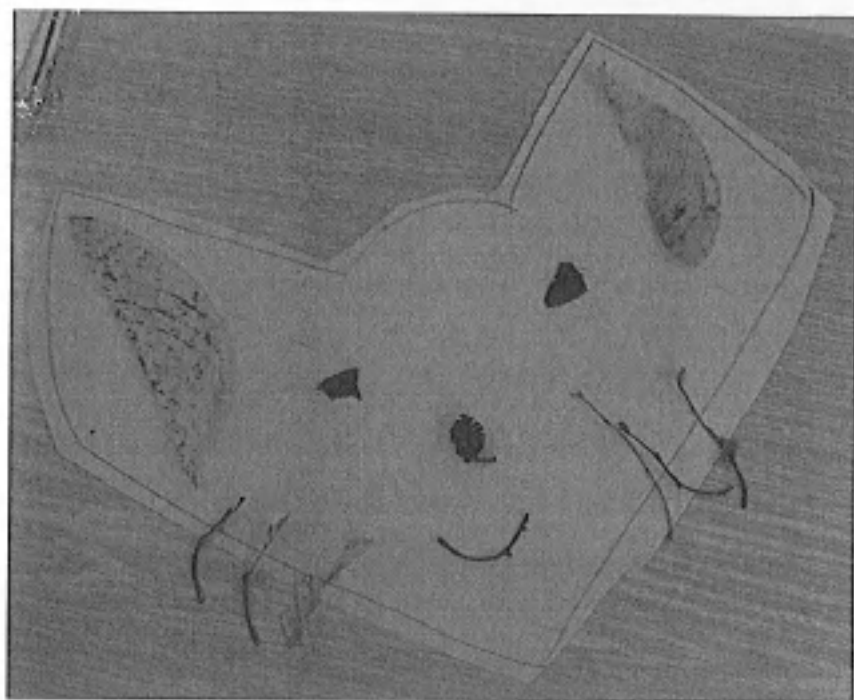
学習のめあて：みつけた ざいりょうのかたちや いろを たのしみながら つくる。

題材の目標：身の回りにある材料の形や色に気付き、並べ方を工夫しながら、好きな形をつくる

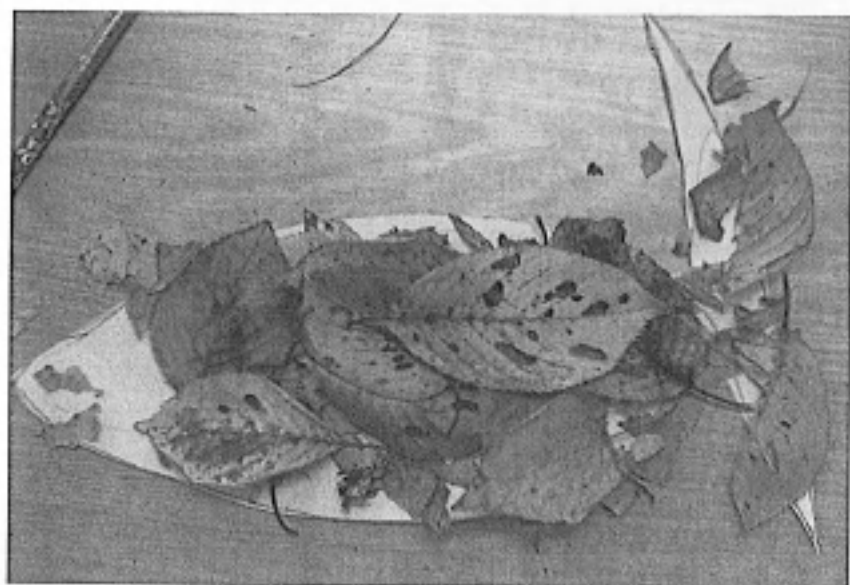
導入で、教師が用意したいろいろな形の紙を使って、動物シルエットクイズの出し合いで遊び、自分の「こうしたい!!」を広げてから、動物の型紙を描きました。そうしてできた動物シルエットの紙の上に落ち葉や枝を置きました。

実際に置いてみると、さらに「こうしたい!!」が広がり、みんなでいいものを拾いに出かけました。

拾ってきた落ち葉や小枝や実をのせて、もっとそれらしくしました。



「こんな動物にしたい」がつまっています。

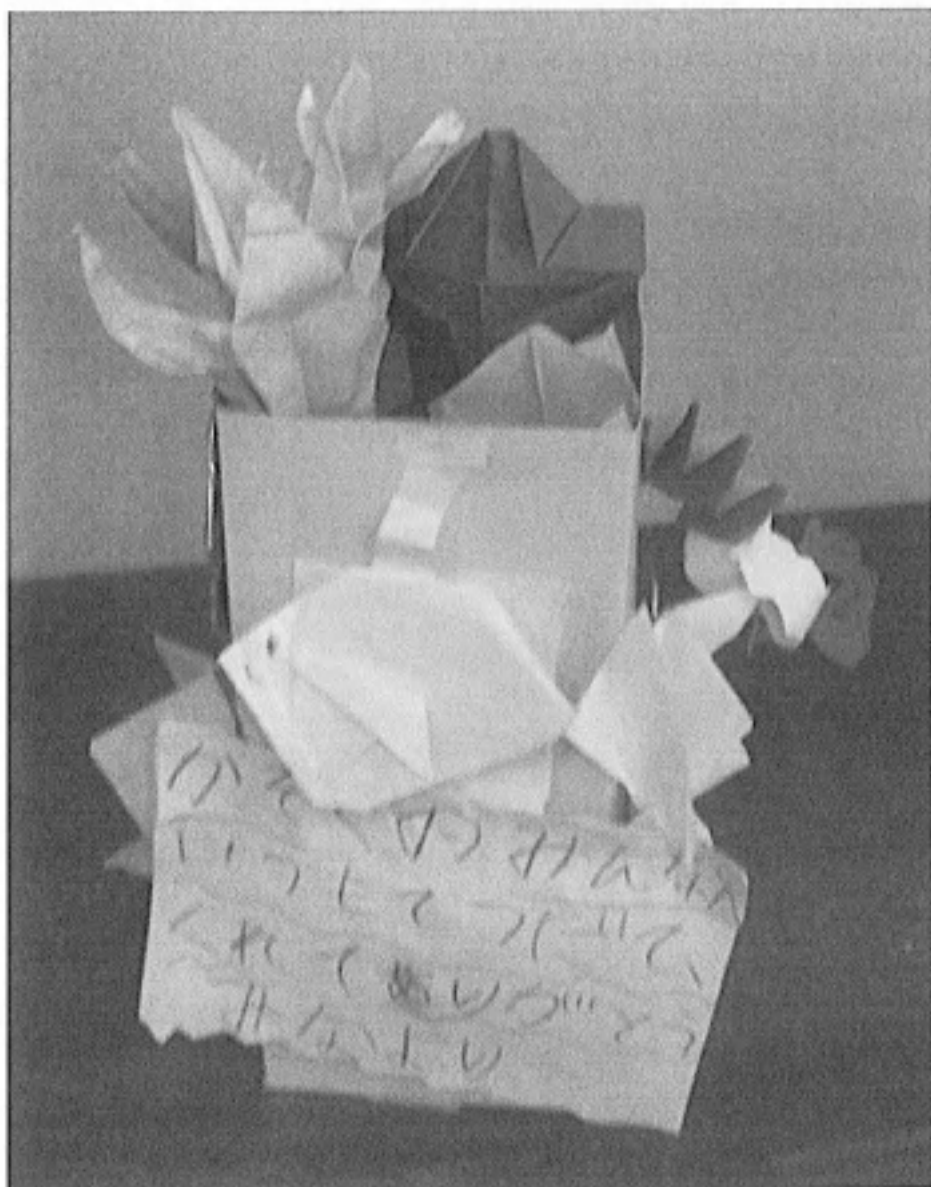


何だかうろこのようになってきました。

4. 「こうしたい！！」を知っていると

子どもが題材に出会い「こうしたい！！」と思っていたことを知っていると『「こうしたい！！」からここまでできたんだ。』と思える。

作品を見る目が変わり、その評価も変わります。「こうしたい！！」が伝わっているか。伝える工夫がしてあるか。子どもの作品をより深く理解することにつながるのです。



小学校 1年

「プレゼントをどうぞ」

学習のめあて：かみをおって はりあわせて はこをつくる。

題材の目標：紙を折って箱をつくる方法を知り、プレゼントを入れるすてきな箱をつくる。

折り紙を折っているんなものを作るのが大好きな子が、箱にあふれるほどたくさん折ってつくりました。

家族のみんなに向けてのメッセージを貼りました。

「かぞくのみんなへ いつもてつだて、くれて ありがとう ○○より」

ほんとに気持ちこもってんなあ。

光のおくりもの ～ 和紙のランプシェードの実践から～

◇実践発表の概要

自分が住んでいる地域を基盤とした先見性や夢、潤い、喜びに満ちた懐かしい思いでが反映して豊かな自分づくりにつながる授業が期待されています。石狩大会においても伝統文化の優れた美の価値や子どもを取り巻く環境から美を感じ取れる子どもの育成に力を入れている様子に感銘を受けました。

目の前の子どもの姿を受け止めながら、生き生きとした学習活動を推進し、「なぜこのテーマになったのか。」「何を表現させたいのか。」「そのためにはどのようなステップを踏ませるのか。」児童の視線に立って考えていきたいと思いました。

幸い函館の歴史とロマン溢れる地域にあって、伝統的建築物を始め、多くの自然や文化に触れることができます。特に、教会のステンドグラスから受ける光の贈り物には、どの子ども深い印象を受けたようです。そこで、光をLEDで、ステンドグラスを和紙の透過性を活かし、この題材に取りくみました。地域の違いはあってもそれぞれの風土や生活を凝縮した作品の実践の一つとして受け止めていただければ幸いです。

この機会にたくさんのアドバイスをいただき、より子どもたちにとって楽しい題材としていきたいと思えます。



1. 題材名

「光のおくりもの」～ 和紙のランプシェードの実践から～

2. 題材について

5年生の写生会では、トラピスチヌを題材に描いてきたが、函館は伝統とロマン溢れる地域であり、多くの教会などがある。こうした教会にはゴシック様式の教会堂の窓に飾られ、太陽の光を透過して、それが絵画として浮かび上がる美しいステンドグラスがあり印象的で落ち着いた情緒を感じることができた。

児童がステンドグラスの図案の意味に気付いたり、当時の人々の思いにふれる時は目を輝かせていた。図書館で調べると、花や幾何学模様を図案化したものや、身近なかわいい動物を描いたステンドグラスがあり、ランプシェードなども人々の生活に取り入れられていることを発見した。

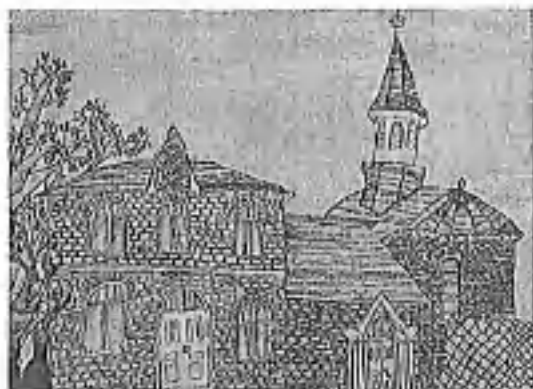
本題材の「光のおくりもの」は、これらを発想の手がかりとして、自分の思いを具体的な形や色に表しながら作品づくりに取り組むものである。





これまで子どもたちが光を扱った教材は、第2学年の段ボールの板に三角や四角のあなをあけ、そこにカラーセロハンをはって太陽光を透過させて楽しむ教材を体験している。第3学年でのカラーセロハンを生かした活動は、第4学年の、アルミニウムはくはカラーセロハンをはり、いろいろな色の光を反射させて壁や天井に模様を映し出して楽しむ造形遊びへと発展している。そして、今回の和紙をはって作品を内部から照らして空間を幻想的に輝かせるランプシェードの製作へと発展させようと考えた。

本題材は、色のついた和紙をスタンドグラスの色ガラスにイメージを重ねて作業させる。光が透過する染色で色づけをした立体造形を制作した後に、作品内部から発光ダイオードを使ってわき上がる暖かな光の造形を楽しむ。材料である和紙の特徴を感じながらつくりたいものを構想し、組み合わせ方を工夫しながら立体に表すというものであるが、紙の特徴を知り、自分の思いに合わせて創造的につくっていくことが期待される。



想像を働かせ、紙の感触や特質を感じながら自分らしい表現を追求していくことができる題材であると期待している。また、光源は3色に変化して輝きの変化も楽しい。光が反射したり屈折したりする時、輝きが増したり変化したりして作品を内部から美しく輝かせる。特に、この時期、夜長の秋から冬にかけて、光は温かさや喜びを与えてくれることだろう。

3、児童の実態

本学級の児童の多くは、図工の時間を楽しみにしており、意欲的に学習に取り組んでいる。花の絵を描いたときには、一つ一つの花びらの形をよく見てスケッチし、自分なりの色彩がでるよう絵の具の混ぜ方を工夫して表現することができた。一方、児童の中には、自分なりのイメージを持つことが難しかったり、イメージに合う表現方法を見つけたりすることが難しい児童もいる。指導にあたっては、まず、子どもたちに様々なスタンドグラスやランプの写真を見せ、興味を持たせるとともに自分のイメージを形に表すための方法を見つけさせた。

又、暗い部屋で集めた材料を確かめさせた。この活動によって、材料に光を当てることによる反射の美しさ、光が透過するときの美しさ、また、素材の持つ特徴による美しさを体験することで自分の作りたいランプのイメージをより深めて、和紙の特徴を生かした工夫につながっていった。



<事前アンケートから>

A. いつもそう思う B. だいたいそう思う C. ほとんど思わない D. ぜんぜん思わない

☆図画工作アンケート（A 造形への関心・意欲・態度）

1. 図工の時間が待ち遠しい
2. 材料や場所で遊んだりそこから何かをつくったりするのが好き
3. 絵を描いたり、ものをつくったりするのが好き
4. 作品や身の回りのもの友達をつくっている様子などをみるのが好き
5. 授業以外でも図工に使う材料を探すのは楽しい
6. 作品が出来上がったときの気持は最高でいい気分

A	B	C	D
10	17	4	1
12	19	1	0
12	19	1	0
16	15	1	0
7	10	13	2
9	15	8	0

全体的に、図工に対する関心・意欲・態度は高いといえる。しかしながら、「授業以外でも図工に使う材料を探すのは楽しい」では、多くの子どもが、思わないと答えている。これは、自分で探した材料を使って行う学習経験が少ないことや、学習が日常生活に生かされていないことが原因の一つと考えられる。教師や保護者側で、材料をあらかじめ用意してしまうのではなく、自ら探す体験も大切であろう。

☆図画工作アンケート（B 発想や構想の能力）

1. どういうふうにしようか考えたり想像したりするのは楽しい
2. 使う材料を自分で決めることは楽しい
3. いらないものから使えないかなと考えるのは楽しい
4. みんながびっくりするようなアイデアを考えるのは楽しい
5. かいたりつくったりしていると、どんどんやりたいことが出てくる
6. 使うときのことを考えてつくるのは楽しい
7. 絵と工作を合体させたくなくなった

A	B	C	D
13	15	3	1
13	15	3	1
10	8	11	3
10	16	5	1
13	15	3	1
10	13	7	2
12	10	7	3

全体的には、想像することを楽しんでいる様子がうかがえるが、「7. 絵と工作を合体させたくなくなった」で半分以上の児童が思っていて領域の融合が望まれる。これは、絵、立体、工作といったように、表現方法を固定化した学習スタイルから、もっと自由に、様々な材料や技法を使いながら学習できる教材が望まれる。

☆図画工作アンケート（C 創造的な技能）

1. 外で水や土や風などを使って試したり工夫したりするのは楽しい
2. あれこれ試してみて色のつけ方を工夫できた
3. いろいろな色をつくるのはおもしろい
4. 材料や形を工夫して思い通りにつくることができた
5. 便利な道具のおかげで楽しくつくれた
6. 教えてもらうより自分の考えや力で試したり工夫したりしてやってみる方が楽しい

A	B	C	D
15	10	5	2
18	10	4	0
20	12	0	0
10	11	9	2
10	15	5	2
10	15	7	0

全体的に、いろいろと工夫しながら活動している様子がうかがえる。「4. 材料や形を工夫して思い通りにつくることができた」では、約3割の子どもが、思わないと答えている。これは、発想や構想ができて、それを自分の思いどおりに具現化できていないという子どもの思いがあるようだ。

様々な材料と向き合いながら、試行錯誤することを楽しめるような造形遊びの体験が重要であると考えられる。

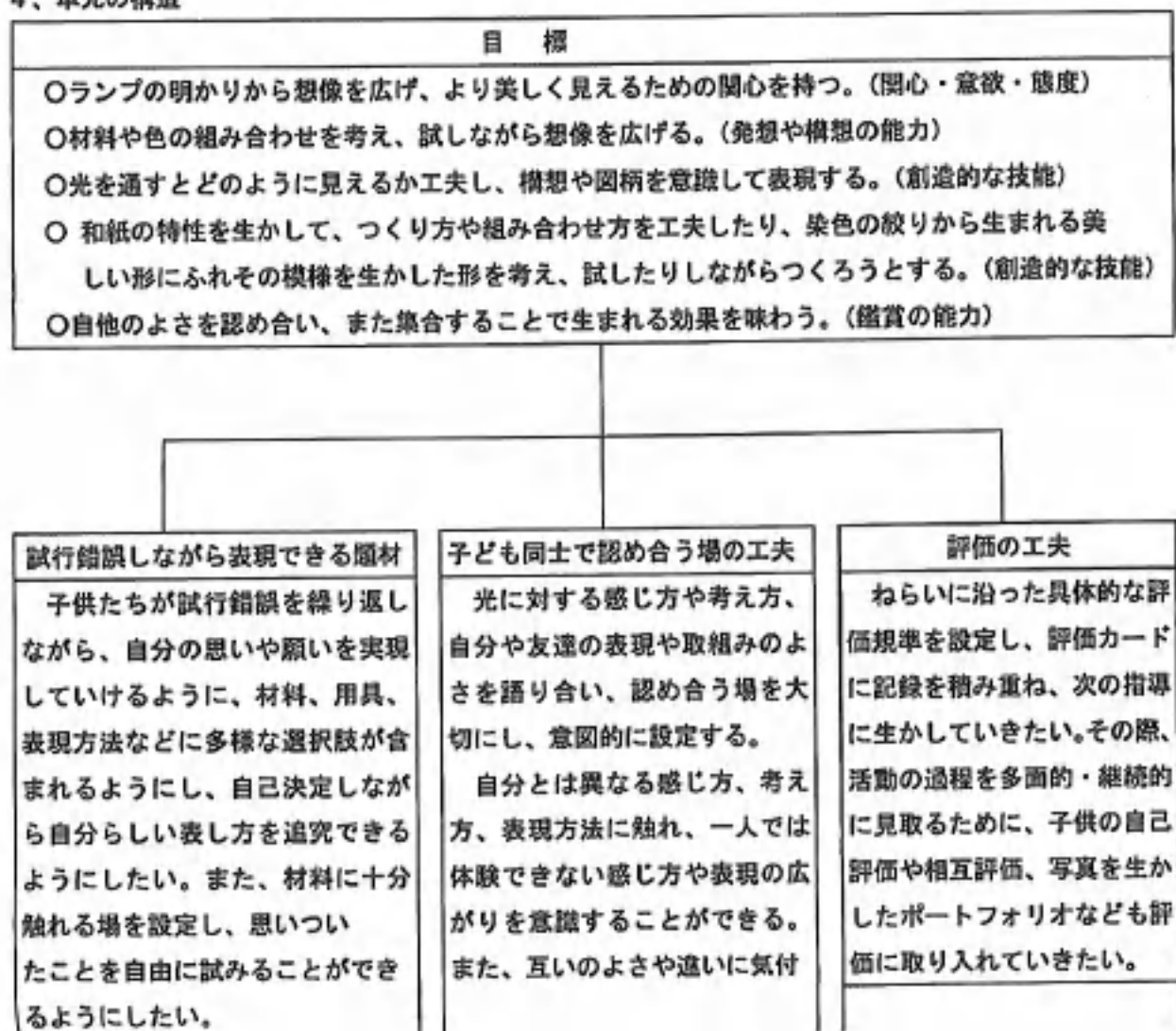
☆図画工作アンケート（D 鑑賞の能力）

1. 自然や街の中で好きな色や形や場所を見つけた
2. ずうっと見ていたくなるようなものや作品を見つけた
3. 友だちの作品を見るのは楽しい
4. 作品を見ていたらいろいろなことが思いうかんだ
5. 美術館や本やテレビで気に入った芸術作品を見つけた
6. 友だちがつくっているところを見るのは楽しい
7. 専門家が何かをつくっているところを見るのは楽しい

	A	B	C	D
1.	9	9	10	4
2.	5	4	18	5
3.	16	16	0	0
4.	9	22	1	0
5.	3	5	20	4
6.	16	16	0	0
7.	16	16	0	0

全体的に鑑賞することは好きな傾向が伺える。特に、「3. 友だちの作品を見るのは楽しい」では、ほとんどの子どもが、そう思うと答えている。しかしながら、図工の学習だけではなく、日常の生活の中で、美術に触れる機会が少ないこともうかがえる。学習の中でも家庭の中でも、様々な美術作品に触れられるような方策を考えていく必要がある。

4. 単元の構造





き、個性を認め合ったり、自分の表現に対して自信をもったりすることにもつながると考えられる。

自分の取組みを振り返る場の工夫

子供たちが見通しをもって学習を進められるように、学習の目標や計画を明確にし、それをもとに自己評価したり相互評価したりできるようにしたい。

個に応じた支援の工夫

取組みの中で悩んでいる子どもや活動が停滞している子どもには、一人一人の思いや実態に合わせた支援を積極的に行うようにする。そして、その後の子どもの歩みから支援が適切であったか見直していくようにする。

5、第5・6学年の（共通事項）

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

6、題材の評価規準

(関) 様々な材料を使い、光で演出する造形活動に取り組もうとしている。

(想) 場所や材料の特徴を考えながら、つくりたいものやテーマを思い付き、光を使った美しい空間を考えている。


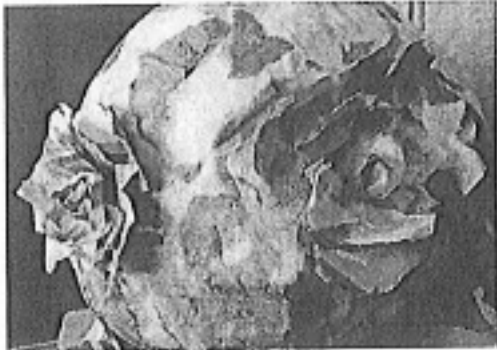
(技) 光の効果が表れるように、場所や材料を生かした表し方や展示の方法を工夫している。

(鑑) できたものを展示し、光の面白さを味わい、効果について話し合い、表現の意図や特徴をとらえている。



7、指導計画（6時間扱い）

	児童の活動	教師の支援 評価の観点
1 発想	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ステンドグラスや明かりのオブジェなどから心に浮かぶ夢の世界を浮かべ、すてきな形を想像する。 </div> <p>○光についての互いのイメージを発表し合ったり、生活の中から光の美しさや面白さなどを見つけたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室などでの資料からアイデアを構想し発想を広げさせ自分の夢をよりよく伝えられるように支援する。 ・子どもたちにとって、発光ダイオードの光は、初めて触れる魅力ある素材で、紙との組み合わせのおもしろさや美しさに気づかせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明るさ ・ 美しさ ・ 面白さ ・ 不思議さ ・ あたたかさ ・ 気持ちよさ ・ みんなを元気にしてくれる。 ・ 植物を育ててくれる。 <p>・ アイデアスケッチなどから、ものの大きさ、重なり、配置などを考える。</p>  <p>○イメージをふくらませてからアイデアを考えさせる。</p> <p>・ 素材との出合わせ方を工夫して、素材と関わろうとする意欲を高める。</p>
<p>1 構想</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○和紙の扱いや染色の使い方について考えながら企画書を作成する。</p> </div> <p>バラの花 花火の夢 楽しい顔 かわいい魚など</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>紙にはいろんな種類があるね。 自由に形が変えられたよ。 どんなものがつくれそうかな。 こんな柔らかい紙があるんだね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分や友人の作品の工夫したところを見つけ表現された形の良さを味わう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の作品の紹介したいところ、友人のすてきなところを見つけ話し合う 	<p>○アイデアスケッチだけでなく説明文を加えて構想させる。(企画書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表し方を工夫させるため、紙を折り方や絞り方など自由に試させながらアイデアの形成を手助けする。 ・ 作品の良さが共有できるように壁面を使ってそれぞれの企画書を掲示する  <p>◆ 豊かに発想し形作るための計画や構想を立てることができたか。</p>

○染色の美しさや水加減によってできるにじみなどの良さを自分なりに感じながらイメージを深めたり和紙を組み立てたりする。

紙の特徴を知ろう

- ・ 紙っていろんな形になるよ！
- ・ こんなこともできるよ。
- ・ この紙を使うとどんなものができるかな。
- ・ くしゃくしゃにするとおもしろいよ。

○素材とかかわろうとする意欲を持つ。

○自分の思いをもって、楽しく活動する。

染色に対する意欲をもたせる。

- ・ 染色の手順を知る。
- ・ 何色に染まるか予想する。

- 紙を折おると楽しい模様ができる
- 輪ゴムで絞ってから色をつけるよ

染色の活動に関心を持ち、「やってみたい、かかわりたい」と思って活動に取り組む。

◆和紙や染色方法、そして、紙の絞り方など材料を生かした構想を立てることができたか。



○折る、もむ、たたむなど表現方法をいくつか紹介する。

◆絵や文章で示された作業の手順を見て理解し自分で作業ができたか。

○一人一人のアイデアや工夫を認め励ます。

○材料は、真ん中に設置した材料コーナーに置いておく。



・ この材料でどんな色に染まるか考えるように声かけをする。

・ 活動が停滞しそうな児童、すぐに活動をやめてしまう児童には、表現方法を紹介する。

◆作業をやり遂げた達成感をもつことができたか。

(できるだけ教師を頼らずに自ら手足や体を動かして活動にかかわせる。)

○固まった和紙の形の面白さのをとらえそれらを生かして、ランプシェードを作る。

○光が透き通る感じや紙による微妙な光の変化を想像しながら形作る。

- ・どんな色の組み合わせがい
いかな。
- ・あそこに飾りたいな。
- ・この色がきれいだな。

・材料の特性を生かし、つくり方や組み合わせを工夫して作る。

どんなあかりにしようかな
どの紙を使おうかな？
どんなオブジェにしよう

2. 自分の思いを生かして造形活動を行う。

- ・置き方や見る視点を変えながら見て、美しかったり面白かったりする形を見付ける。
- ・紙同士を接着する場合は目立たないよう工夫する。
- ・紙の透過性、色などを工夫する。

◆材料から、自分の思いをふくらませながらつくることができたか。

○評価カードを活用して、児童の思いを把握し、改善点を探る。

○光が透き通る感じや紙による微妙な光の変化を意識しながら、あかりを楽しませる。

・丁寧な作業、独創的な作業、協力し合う姿をほめる



- ・児童が触れたり様々な方向から見たりすることで、質感の変化、形の美しさや面白さに気づくように視点を変えて見るようにさせる。
- ・紙の組み合わせ方によって形が変化する様子を例示し、形を探す意欲を高めるとともに、形探しをする際の支援を行う。

鑑賞



○友人と見合いながら形の特徴をとらえ、表したいことを話しあう。

私は、お花をイメージして作ってみました。

- ・風船に張ったそれぞれのイメージの立体を様々な角度から見、置く、つるすなどしてみることを勧め、友人と見合いながら形の特徴をとらえさせる。
- ・偶然に生まれる形の美しさを感じ取ることができるよう試行活動に十分に時間をとる。
- いろいろな角度から作品を見せ合いながら、その良さを自由に話し合わせる。
- ・鑑賞の視点をもてるように導く。
- ・すてきだと思ったり気に入った表現になったりしたところを探らせる。

1
造形遊び

○光が透過することによって生まれる形や色の変化に興味を持ち、友人と一緒に見合ったり光の効果を話し合ったりして展示の方法を工夫する。

- ・ 光り方を変えてみよう。
- ・ 優しい感じのあかりにしようかな
- ・ 落ち着く感じがいいかな

- ・ 光の効果を考えて美しい空間を演出する。
- ・ 光が透過することによって生まれる形や色、影の形や変化などに興味をもち、効果を想像して作り方を思い付く。
- ・ 重なりなどの光の効果を試しながら、装飾した形の組合せ方や作品名を付け、友人と作品を見せ合い、表現の面白さや意図、材料の使い方などについて話し合う。

- ・ 角度を変えて見るといろいろな形に見えるな。
- ・ 並べ方で雰囲気違って見えるな。

○表したいテーマや思いを考え効果的なものとの組み合わせや並べ方を工夫させ展示方法を考えさせる。



・ 日常と少し違う「暗いスペース」での活動は児童にとって貴重な体験となる。

・ 自分たちの作品を置き、見え方や壁に映る光の美しさを味わいながら、作り変えさせる。この活動をじっくりと味わわせることによって、形・色をとらえイメージをもつことを実感できるようにしたい

- あかりを楽しむことを通して、あかりが人の心を豊かにすることに気づき、造形活動の楽しさを十分に味わう。



- ・表現の意図や工夫したところなどを発言するよう求める。
- ・光の効果を考えて並べ方や組合せ方の工夫に関する発言を取り上げ、美しさの違いに気付かせたい。

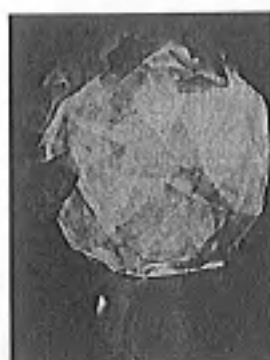
「どんな色の重なりやハーモニーを表せたかな。みんなの作品を見てみよう。」

- ・感想カードや作品紹介カードを基に話し合わせる。

◆あかりに込められた子どもたちの思いや表現の魅力が伝えられるよう展示を工夫させることができたか。

<評価>

- ・造形活動では目当てに向かって着実に進もうとし、自分なりによさや美しさなどが表せたときや作品が完成したときに満足感を得る様子が見られた。
- ・友達とのかかわりの中で、自分なりの発想を生み出し、工夫して表現していこうとしている子どもが多かった。
- ・友達の表現や取組みのよさを見付け、それぞれの個性を認めようとしていた。そして、自分の表現や取組みが友達や教師に認められると、安心して表現していた。



「図工で学ぶ教師の生き方」 ～3年『つるして つないで』実践と育児休暇から学んだこと～

実践発表の概要

3年『つるして つないで』（造形遊び）の実践発表。

「とっつきにくさ」から敬遠されがちであった「造形遊び」だが、その意義と学習を成立させるための手立て、教師の指導と評価などについて多くを考えさせられる実践となった。

本実践から学んだことは大きく次の2点である。

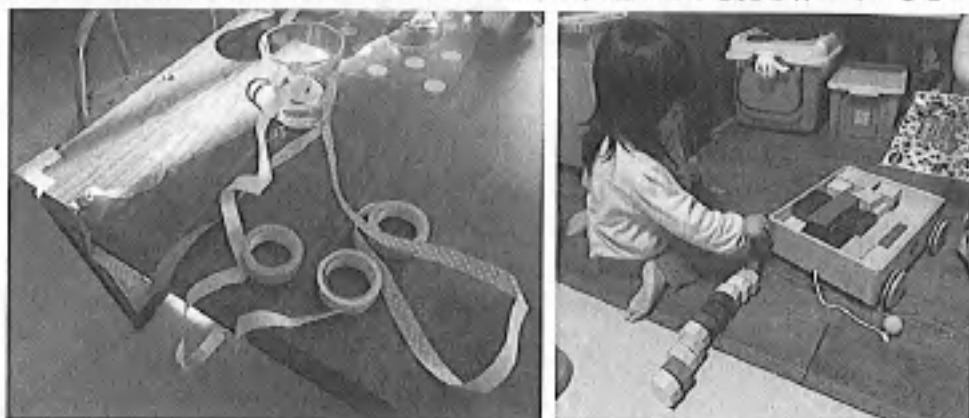
- 造形遊びは、子ども本来の主体的な学びを引き出し、子ども同士の育ち合いや認め合いを生み、成長を感じることができる、優れた「造形学び」だということ。
- 子どもに「豊かな心と確かな力」を育むには、教師の適切なかわりが必要となる。子どもから「確かな学び」を引き出し、それを子ども自身にも実感させる大切さと難しさ（やりがい）を感じた。

育児休暇中という立場もあり、図工教師として娘の行動を捉え直してみたり、図工の実践を見つめ直したりすることで、教師としてどう生きるか（どのような目標をもち、子どもをどう見、どうかか

0. はじめに 幼児に見る「造形遊び」と「わたしを創る」

2歳の娘と接していると、子どもは遊んだりいたずらをしたりする中で、造形的な感覚を育んでいるということが分かります。

「くっつける、のぼす、ならべる、つなげる、くずす」などの行為そのものが、子どもにとっては楽しいものであり、本能的な欲求であることを教えてください。



「何してるのって、して？」

これも、娘のログセです。「何してるの？」と問い返すと、「〇〇してるの。」と満足気に答えます。「へえ～、〇〇してるんだあ、すごいねえ！」などと共感したり認めたりすると、さらに鼻の穴をふくらませて得意になり、活動にさらに没頭していきます。「自分のしていることを確かめながら他者（自分の信頼を寄せている人）に認められることで、安心し自信を持ち、それを励みにさらに動き出していく」つまり、子どもは小さいうちから「わたしを創る」活動を繰り返して成長しているのだと思います。そして、その姿は図工の授業で会う子どもたちにも通じるものがあると思っています。

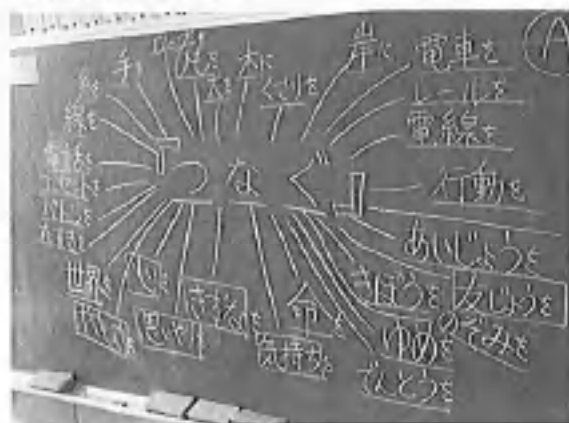
1. 授業を引き受ける姿勢

2013年2月21日(木)に、私は札幌市造形連盟の「ウィンタージャンプ(冬の研究全体会)」の授業を行いました。授業者に決まったのは、2012年の年末です。私の勤務校の学校研究で図画工作科が含まれていない事情もあり、「自分から名乗り出ないと図工の公開授業の授業者になる機会が限られてしまう」という思いがあったので、「僕がやります。」と言って授業者にさせていただきました。

しかし、名乗り出たはいいものの、私の中には3つの不安がありました。一つ目は、学校事情的な不安。「学校の年間予定の中に今から入れられるか…」と思い、校長に相談すると、あっさりOK。解決。二つ目は、学級の状況。年度初めから見ると、子ども一人一人としても、学級としても成長してきたものの、「公開授業をして大丈夫か…」という不安が強くありました。三つ目は、「どんな題材を行うか(どんな力を付けたいからどんな題材にするか)」という不安です。二つ目と三つ目の不安についてはいろいろ悩みました。ただ、この悩みを解決していく過程こそが教師としての自分の力量を高めてくれるのだと思い、多くの先生方にもご助言をいただきながら、解決の道筋を見つけていきました。結論としては、子どもたちにほとんど経験のない「造形遊び」の実践をすることで、子どもたちも私も成長できるのではと考え、題材を造形遊び『つるして つないで』にすることにしました。

2. 図工の授業で目指す子どもの姿から学級経営案を見直す

題材を造形遊び『つるして つないで』でいくことを決め、冬休み中に頭の中でどんな授業像・子ども像を目指すかをイメージしていきました。目指す授業での子どもの姿と学級の実態とを比較したことが、授業の前提・土台となる学級経営を改めて見直す機会にもなりました。そこで、3学期が始まる時に、「3学期の学級経営目標も『つなぐ』にしよう!」と考えました。始業式を迎えて早速、学活の時間を使って子どもたちと目標を共有することから始めました。



右は、そのときの板書です。「つなぐ」と黒板の真ん中に書き、周りに「つなぐ」に関わる言葉をあげさせて書いていくと、「手を、線を、糸を、コンセントを、ボタンを、たすきを、ひもを、犬を、くさりを、電車を、レールを、電線を、行動を、世界を、命を、伝統(でんとう)を、ゆめを、きぼうを、あいじょうを、ゆうじょうを、やさしさを、心を、思いやりを、気持ちを」といった言葉が出てきました。それを「目に見えるものと見えないもの」に分類するお勉強をし、さらに、「学級で3学期大切にしたいこと」として考えると、「つなぐ」の言葉を子どもたちは選びました。

目標や理念を共有した後は、実際にどうやってそれを実現していくかという「手立て」が必要になります。今回の場合、具体的にどんな活動をして目標を達成しようとしたかと言うと、「ありがとうノート」と「ありがとうカード」です。先に言っておくと、これが効果絶大でした。

「ありがとうノート」は、子どもの頑張りがや心配りのよさ、目立たない優しさなどをノートに書いて、次の日の朝の会で読むというもの(きむてりょん先生の『日本一ハッピーなクラスの作り方』の実践を参考にしました)。簡単に言うと、「ありがとう」を「つなぐ」活動です。この実践には、子どもの自尊心や自己重要感を高める効果がありました。さらに、「先生が求めている日常の目標行動を、子どもの姿を通して伝えられる(目標の「見える化」)」という素敵な利点もありました。

また、子ども同士での「ありがとう」の相互交流を生み出したのが「ありがとうカード」です。「ありがと

う」と言ったり言われたりしたら、数字が書かれたカードに印を付けていくものです。初めは、なかなか「ありがとう」と言えない子が多かったのですが、言える場面や言われることの心地よさが分かってくると、1日に50回を超える子が当たり前に出てきました（ただし、これは外発的動機付けなので次第にフェードアウトさせました）。

これらの実践を通して、実際に私の学級では、「愛情不足でやんちゃな男の子が先生の半径5mを拭きまくる（笑）」や「毎日のように起きていたケンカが1週間全く起きなくなる」や「教室に『ありがとう』の言葉が溢れ、マイナスの言葉が消える」などの事実が起きました。そして、だんだんと子ども同士の「つながり」が強くなり、温かい雰囲気を感じられるようになっていきました。図工の授業で目指したい子どもの姿が現れるための土壌が耕されてきたことを感じました。

このように、図工の授業づくりと並行しながら、「つなぐ」を軸に学級経営も行っていきました。

3. 授業づくりの姿勢（「造形遊び」の意義と教材研究）

「造形遊び」は、学習指導要領にも教科書にも位置付けられて久しいですが、一般的に敬遠されがちな題材ではないでしょうか（そう言う私もそうでした）。その理由は次の「3つのとっつきにくさ」があるからではないかと思います。

①そもそも「造形遊び」の意義が分からない ②材料・場所の準備と片付けの大変さ ③指導と評価が分からない

①について、私は北海道教育大学岩見沢校の阿部宏行先生から造形遊びについて学ぶ機会をいただきました。学んだことを一部お借りすると、

「造形遊びとは、遊びがもつ教育的な意義と創造的な性格に着目し、つくりだす喜びを味わう造形活動。」
「造形遊びは、単に遊ばせることが目的ではなく、進んで楽しむ意識をもちながら、発想や構想の能力、創造的な技能などを育てる意図的な学習。」「『もの』より『こと』=つくること自体が目的、その過程を楽しむことが大切」

「子どもが主人公」「教師は、発達に応じた教材の設定、思いや意図の読み取り（評価）と指導を行う。」

「造形遊びの題材化は、造形環境（材料・場所）と造形行為の二つの面から考える。」

以上のような考え方や実際の実践例をいくつか知ることができたことで、「造形遊び」に対する「とっつきにくさ」は随分薄れたように思います。そして何より、授業をしてみることでその意義がよく分かりました。

②と③については、多くの先輩や後輩の先生方からのご助言もいただきながら、「いろいろな材料・行為を試す大切さ、場の設定の大切さ、活動中と後の見通しをもつことの大切さ」を学ぶことができました。

天井のビスに糸を吊り下げる技

白い教室と白い糸と白い紙コップ

ゆらゆら感、透け感、ちぎる行為の身体性・楽しさ、水のり接着のし易さ

お花紙のポテンシャル

様々な色のお花紙

【子ども力】

- ・図工大好き。造形遊びの経験は少ないが、行為自体を楽しんで取り組むことができる(3年「トントン名人」では、どの子も釘打ちに夢中になって取り組んだ)。
- ・発想が苦手な子もいるが、友達の表現の工夫を認めたり自分でも試したりできるようになってきている。

【題材力】

- ・天井から吊るされた糸と基点。(場の設定)
- ・部屋、吊るす基点は白。そこに材料であるお花紙の色が広がっていく。(色の要素)
- ・材料をお花紙に限定する。(ゆらゆら感・透け感・ちぎる行為・水のり接着)
- ・吊るす→つなぐ。本時は、さらに基点を増やすことで、表現や交流の広がりをねらう。

2時間

題材名 「つるして つないで」 A表現

扱い

【期待する子どもの姿】

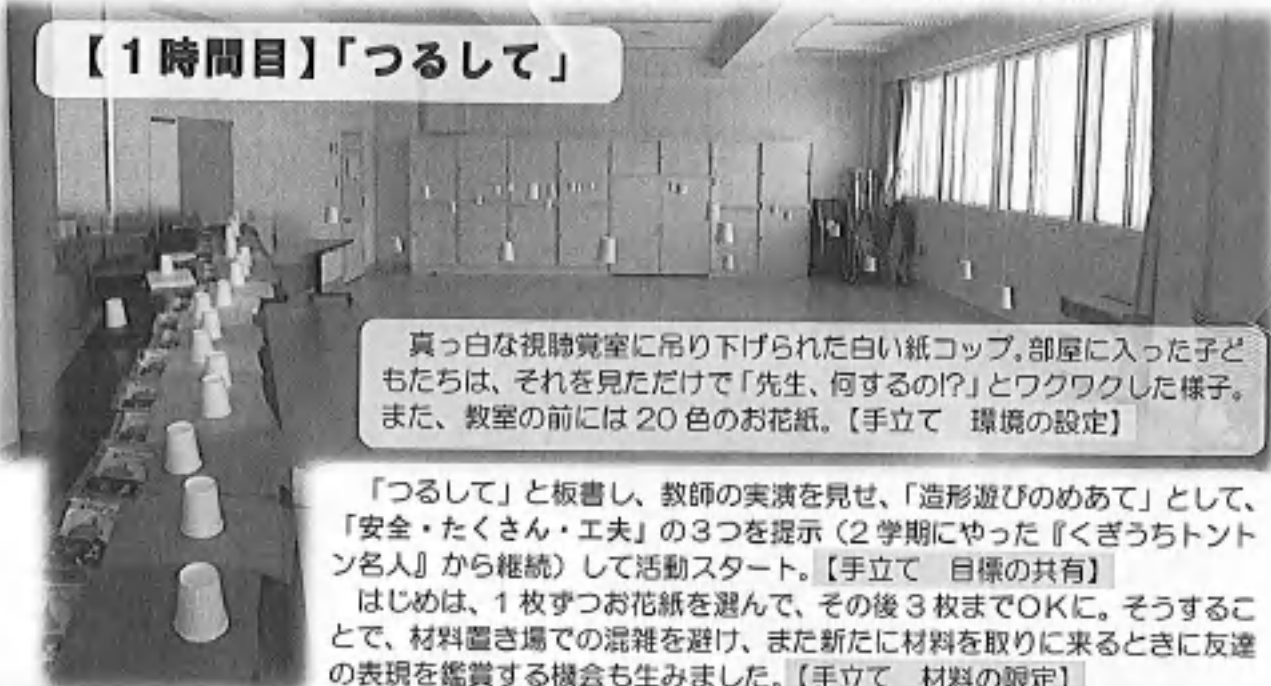
- ・お花紙を使い、ちぎったり、つないだりする活動を通して、思いに合うような色や形の組み合わせを思いつく姿。「この色を組み合わせよう。」「こんなつなぎ方もできるよ。」「〇〇さんとうつなげてみると面白そうだ。」
- ・活動を通して変化する場所の様子を楽しんだり、その美しさを感じ取ったりする姿。「ここから見るとおもしろいよ。」「全体で見てもきれいだね。」

【題材構成】

	子どもの学習活動	教師のかかわり
1	<p>【前時までの学習活動】</p> <p>【出会い】</p> <p>紙コップがつり下がっている！何をするんだろう？</p> <p>「この色や形がきれいでいいよ！」</p> <p>「家づくりだね」</p> <p>「つるして つないで」</p> <p>「つるして 〇〇〇〇」 (板書)</p> <p>「やってみよう！」</p> <p>「どの色のお花紙で、どんな思いつき」</p> <p>「いっぱいつるしたいな」</p> <p>「この色とこの色がいいな」</p> <p>「こんな形もおもしろそう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○場の設定 ○材料・道具の準備 (お花紙・水のり) ○班交流 ○困っている子への声かけ ○発想のよさ・工夫を認めるかかわり
2	<p>【本時】</p> <p>「つるして つないで」 (板書)</p> <p>つるしたものをつないでみよう。 紙皿を増やすよ。友達同士でつないでもいいよ。</p> <p>「つるす場所が増えたぞ！」</p> <p>「たくさんの人と たくさんの色や形が つながった！」</p> <p>「視聴覚室が ステキで楽しい場所 になったね！」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○つるす基点を増やす ○班交流 ○子どもの希望があれば、基点をさらに増やしていく。

4. 子どもの「こうしたい！」を引き出す授業の手立て～授業の実際より～

【1時間目】「つるして」



真っ白な視聴覚室に吊り下げられた白い紙コップ。部屋に入った子どもたちは、それを見ただけで「先生、何するの?」とワクワクした様子。また、教室の前には20色のお花紙。【手立て 環境の設定】

「つるして」と板書し、教師の実演を見せ、「造形遊びのめあて」として、「安全・たくさん・工夫」の3つを提示(2学期にやった『くぎうちトントン名人』から継続)して活動スタート。【手立て 目標の共有】

はじめは、1枚ずつお花紙を選んで、その後3枚までOKに。そうすることで、材料置き場での混雑を避け、また新たに材料を取りに来るときに友達の実演を鑑賞する機会も生まれました。【手立て 材料の限定】



基点をつくることで、一人一人が安心して自分のペースで表現に向かうことができます。道具置き場と自分の場所が分かるように、道具箱のふたを活用。おかげで床をきたなくせずすみしました。【手立て 個の基点】



【考察】子どもが動きたくなるような「環境(場や材料)」を整えることがまずは大切!

「環境」を整えることで、「こうしたい!」は引き出される。その意味では、教師の発問(提案)も重要だが、今回は子どもの「行為」が大切な題材だと考え、教師の提案は控えめにしている。そ



【2時間目】「つるして つない

同じ日の5時間目が公開授業。5時間目の前に学習班に一つ「紙皿」の基点を増設しておき、「つなぐ」活動に入りやすくしました。教師の「つなげて」という投げかけで授業がスタート。【手立て 基点の増設】

子どもの個性は様々ですが、大きく2つに分けると「考えるよりも行為派」の子と、「じっくり考えて作りたい派」の子がいます。それぞれの子の思考に合わせて話を聞き、声かけをしていきました。また、「ここもう通れないね!」「色の組み合わせがきれいだね。」「このつなげ方おもしろいね。」などと子どもの表現を認めていきました。【手立て 教師のかかわり】

「つないで」の活動は、「つないでいい?」「いいよ」といった交流や協力する姿を多く生みました。

【育まれる力】

互いの思いに合うような色や形の組み合わせを思いつく力
それぞれの表現のよさを認め合ったり、全体の美しさを感じ取ったり

つなげると、一緒になれる感じ。

【考察】前時からの「変化」(ステータップ)が表現や交流の広がりを生む。紙皿や友達同士とつなげることで、新たな形や新たな色の組み合わせが生まれ、友達との交流や協力も広がりを見せた。そこに、教師がどうかかわるかで、「ねらい」への迫り方が変わってくる。子どもにねらいをもたせ「確かな学び」を実感させる教師のかかわり方に課題が残った。



下をくぐらないと、外に出られない

つなげることで活動の幅がさらに広がり、最後まで表現活動にのめり込み、「まだやりたい!」「もっとやりたい!」という声が多く聞かれました。授業の終わりに、全体を見渡せる場所に集まって鑑賞を行い、感想を交流しました。【手立て 全体鑑賞と評価】

次の日に、さらに鑑賞して学習感想を書きました。「持って帰りたい!」という子が多く、自分の所を切って持ち帰りました。

【子どもの感想】

- いろいろな色のお花紙があって、私はさわやかな色だけを使って、ねじる・リボン・くしゃくしゃなどいろいろな工夫をしてすごくきれいでした。楽しかったです。
- はじめはどうしようかと思っていただけ、お花紙を見て、いろいろな色を使ったり工夫してつなげてみたりしたらだんだんむちゅうになって、もっとやりたい気持ちになっていました。
- 紙皿ができてからは、「カラフル」「つな遊び」みたいに遊び心でやりました。はじめてなのに、上手にできました。
- 友達といっばいつなげたり、わっことを作ったりいっばい工夫があって、真っ白な教室じゃなくてカラフルにもなって、すごく楽しい図工でした。

5. 図工で磨く教師の生き方

前年度の「つるして つないで」の授業をきっかけとして、全市の先生方からご教授いただく機会に恵まれました。また、教科としての図工にとどまらず様々な活動に取り組むこともでき、先生と子ども、子ども同士のつながりがより強くなり、当時の学級は大きく成長することができました。そして、教師として私も多くを学ぶことができました。

今回、全道大会での実践発表という機会をいただき、自分の実践をさらに深く見つめ直すことができました。現在、育児休暇を通して我が子と触れ合う時間を多く持つ中で、子どもの見方やかかわり方で改めて学ぶことが多くありますが、その学びも生かしながら、自分の授業を振り返りました。

(自分の人生にとって特別な期間を過ごしていることも手伝って少し大きな表現になりますが、)教師としての生き方を、図工を学ぶことを通して私は磨いているのだと思っています。今回の実践発表を通して、いろいろな先生方とまた学び合えたら幸せです。

【授業の成果と課題】

○成果

・子どもが過程を楽しむ題材づくり

「環境設定」などの題材化を計画的に行うことで、子どもが材料に進んで働きかけ、表し方を見つけたり試したりするなど、過程を楽しむ姿が大いに見られたことが成果である。「造形遊び」の可能性を十分に感じる事ができた。

●課題

・「育みたい力」に沿った教師のかかわり

今回、教師は子ども一人一人へのかかわりは意識的に行えたが、子どもにねらいを持たせたり、価値を共有させたりする全体へのかかわりが弱かった。造形遊びにおいて、「確かな学び」をどうやってつくるかが今後の課題である。

子どもの作品をちょっぴり輝かせるスパイス (ワークシートや作品票の活用)

実践発表の概要

数年前心と思い立ち、実家の押し入れを片づけた。すると、わたしが幼い頃からの絵が束になって出てきた。後に美術教師を目指すような人間だから、もともと図工は嫌いじゃなかった。保育園時代からの作品をじゅんぐりに見ていく。いまだに覚えている思い入れの深い作品もいくつかあった。でも、多くの絵は描いた記憶すら残っていない。記憶を呼び起こそうと作品の裏をのぞいてみる。「作品票くらいあるだろう。」と思ったからだ。

ところが以外と作品票がついていない。偶っこにへたくそなわたしの字で名前が書かれている程度のものがほとんど。「学年・組・なまえ」だけのものは作品票と言うよりも分類票だ。それでも、いくつかの絵には作品票らしいものがついていた。それらを見ていて割とバカにできない「作品票の価値」に気づかされた。



1. 作品票の分類

わたしなりに作品票を分類してみると以下ようになる。(手の込んだ物になると発想・構想段階からのワークシートが貼り付けられた物もあるが、ここでは作品票だけに限定する。)

- ① 学年・組・番号・なまえ といった作者を特定するためのもの
- ② 学級や学年で統一された題名(題材名の場合もある)がつけられたもの
- ③ 題名が作者自身の言葉でつけられたもの
- ④ 作者のコメントがつけられたもの
- ⑤ 指導者のコメント(なり評価)がつけられたもの
- ⑥ 作者と指導者のコメントがつけられたもの



2. 作品票は作品を読み解くヒント

わたしは作品を鑑賞する時、初めは題名を見ないようにしている。作品自体からどんなことが読み取れるか試したいからだ。(鑑賞は自己との対話…という話はいったん置いて、ここでは作者の思いを読み取ることを主題とする。)作者の表したいもの、伝えたいものを「こうかな?こうかな?」と自分なりに読み解こうとする。それから題名を確かめる。「ああ、やっぱり!」と思うこともあれば全然まど外れの時もある。題名が地名や人名だけの時は「どんな場所かな?」「どんな人かな?」「作者や時代との関係は?」と、もっとくわしく知りたくなる。わけの分からない、抽象的な題名の場合は作者からさらなる謎解きを求められているように感じる。

大人の作品では主題や制作の意図がかなり明確にしぼられていることが多い。しかし、子どもの作品は大人の作品のように主題や制作の意図が明確に表れているとは限らない。だからこそ、作者の思いがこめられた作品票は作品を読み解く手がかりになる。

校内での展示に限らず、各種の作品展など子どもの作品を飾る場はたくさん設けられている。しかし、子どもの思いを伝えようと工夫している作品展がどれほどあるだろう。せっかく足を止めて見てくれる人がいても、味気のない分類票のような礼しかついていないのは少し寂しく思う。

自分が子どもの頃に描いた作品ですら思いを読み解くのは難しいのだ。色や形、描かれているものや描き方などから子どもの姿を読み解こうとする「児童画の見方」が広く浸透しているとも思えない。一見大人が見て「上手に」感じる作品が「良い作品」とされてはいないだろうか。



4年 すてきなペーパーショップ「早く仲なおしなよ」
下の二人がささいなことで口げんかを始めました。そよ風が優しくほほえんだようにつくりました。ぼくは、そよ風が本当にほほえむのを見てみたいです。

前記の作品票の分類についてもう少し詳しく見てみると、

①は、その作品を書いた時と個人を特定するだけ。「〇年生（〇才）の作品だな…」ということぐらいは分かるが、その作品を読み解く情報にはならない。

②は、題材名や描いた場所などが書かれているパターン。「〇〇神社」「消防車」「学芸会の絵」など、大抵は「見れば分かるよ」というもの。上の作例は小学4年生の題材「すてきなペーパーショップ」だが、これなんかは題材名だけでは全く意味が分からない。（ちなみにどんな題材かという点、「色々な技法を使って色紙をつくり」「それを商品のようにして友だちとトレードし」「手に入れた色紙を使ってコラボ作品をつくる」というもの。友だちと関わることで発想や情緒の幅が広がる題材だ。）

③は、「～な〇〇」とか「～と〇〇したよ」といった作者自身の言葉で作品名が表されているもの。「なぜそれを描いたか」「なぜそのような表現となっているか」を読み解くヒントとなる。作者にとっては「その時にどんなことがあったか」「誰といたか」「どんなことを感じていたか」などエピソード記憶を掘り起こすきっかけにもなる。



② 学校や学年で統一された題名がつけられたもの
5年 写生会の絵「千歳ワイナリー」



③ 題名が作者自身の言葉でつけられたもの
1年 遊足の思い出「ゆいどろ（※賢治と源太） だるぼうでにげきったよ」

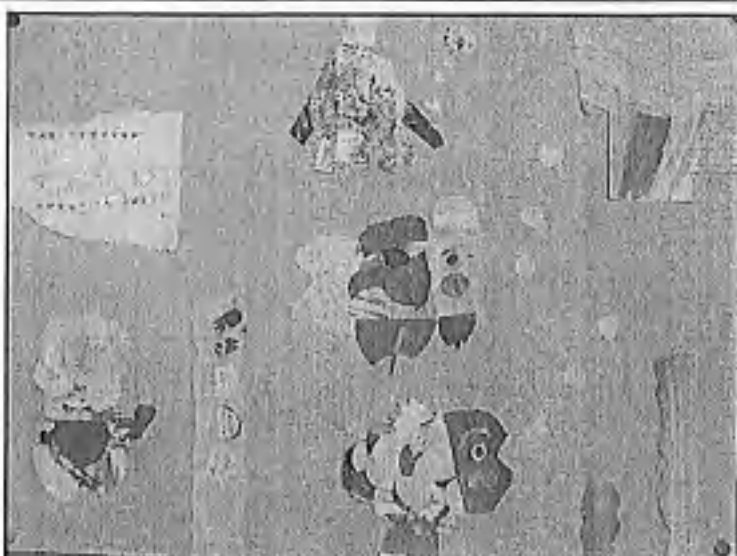
④～⑥はさらに深く制作の意図や作品に込められた思いを読み解く手がかりとなりえる。なぜその表現になったのか、どうしたかったのか、ちらりと見ただけでは気づかないところへも目が向けられる。作者のことを知っていれば、その人柄や表現に至った背景が作品に重なって見えるようでもある。



3年 写生会の絵「とってもきれいな落物だね」

サクラさん、とっても紅葉がきれいですね。まるで、きれいな落物を着ているみたいですね。サクラさんに負けないぐらい、後ろもきれいな夕焼けにしたよ。

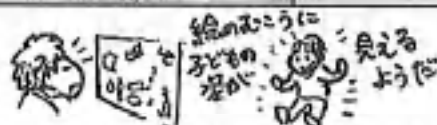
※実際には日中に描いた作品だが、背景が夕焼けのようなオレンジに塗られている



4年 すてきなペーパーショップ「結婚記念日のごちそうの材料を買いに…」

ある日 夫婦がお買い物をしていました。「楽しかったなあ!」「ええ」夫婦は今から家に帰っておいしい料理をつくるのです。今日は実は二人の結婚記念日。

※この子は作品をつくるひと月ほど前からお父さんが専任になった。いつもは家族で祝う結婚記念日をこの年は祝わなかったのが、少し寂しかったのかもしれない。



3. 作品票にそえる言葉のポイント

作者の言葉を添えるなど、せっかく一手間加えた作品票であってもその内容によっては感動がうずかたり、うまく伝わらない場合がある。例えば木を描いた作品に「葉っぱをたくさん描きました。」と書いてあったとしても、そんなことは絵を見れば分かる。これではあまり意味がない。作品を見る人（友だち、保護者、数十年後の自分の場合もある）により効果的に思いを伝えるためにはちょっとした工夫が必要と考える。つまり、効果的に工夫すれば作品票は作品を彩る「作品の一部」となるのである。

「作品票をうまく書かせるにはどうしたら良いの?」と聞かれることがある。「うまく」という言葉がひっかかるが、それはさておき「こんな風にしたら良いんじゃないかな。」と考え、実践している。

① 制作者のコメント…思いが伝わるような言葉を選ぶ（行動の記録から思いの記録へ）

思い出の作文と一緒に、「～しました。」「～でした。」というただの行動の記録や、具体的なエピソードが書かれていない「楽しかったです。」「次もがんばりたいです。」では言葉足らずで思いが伝わらない。小学生の場合いきなり書くよりも、話し言葉として出させてからの方が書きやすい場合が多い。指導者が聞き手となったり、子ども同士で交流させるなどして言葉を引き出すと効果的である。

「～の色ぬりをがんばりました。」「～の色をつくるのが大変でした。」（行動の記録）



「～を表したくて～な工夫をしました。」「～だから、～な色にしました。」（思いの記録）

② 指導者のコメント…つくっている様子が浮かぶような言葉を添える

(指導者の主観ではなく、認め言葉を)

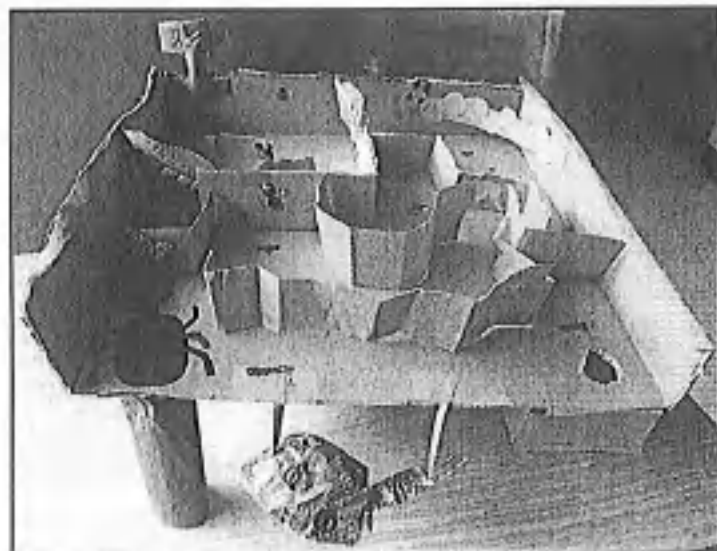
指導者の好みで価値付けをするのではなく、主題へのアプローチの仕方や制作の様子、どのようなことを試みていたかなど、作り手の姿が浮かぶような言葉を添える。

「～をがんばりましたね。」「～のセンスがいいですね。」(指導者の主観)

こう返えたい!

「何度も～を試していましたね。」「～を表そうと工夫していました。」

(制作の様子の記述など、作者の意図や言葉を拾って)



4年 コロコロガーレ「森国の世界」

これは、ある夜水を飲み、自分が小さくなって森国を冒険するゲームだ。スタートから小さくなり、ゴールから出るまでは小さいまま。ゴールから出たらもと通りに戻るぞ。虫たちにつかまらないよう気をつけて!

※作品展へのコメント

「〇〇さんは森の雰囲気を出そうと段ボール全面を緑色の紙で包んでいましたね。大変そうだったけれど、木や森の雰囲気が出せたんじゃないかな。やったかいがありましたね。」



4. ワークシートについて

作品を制作するに当たって、ワークシートを活用することがある。大抵は発想・構想を広げたり深めるための手段として使われることと思う。題材や児童・生徒の実態によってワークシートの内容も変わるので細かな中身については触れないが、わたしは以下の点に気をつけて使うようにしている。

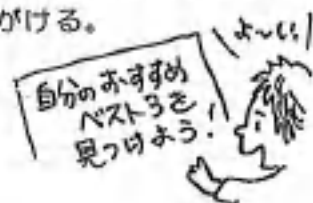
① 思いを広げたり深めるための手だて

子どもが自分の力でより良い作品を目指すための補助的なアイテムとして利用する。あくまで主役は作品である。こちらに時間をかけすぎて、作品制作の時間が必要以上に削られたのでは本末転倒。「何を描こうかな」とか「どんな色や大きさにしようかな」といった子どもの「こうしたい!」を見つけるための手がかりにする。ワークシートが複雑すぎたり大変すぎると、それだけで意欲を失ってしまう場合もある。



鑑賞題材の場合は作品を読み取るための手がかりに気づかせたり、考えを整理していくための手だてとして用いる。つい「こんな風に見てもらいたいな…」という指導者の思いが入りがちだ。なるべく指導者の主観を排するように心がける。

手にとって楽しめる工作などの場合は友だちとのつながりをつくるきっかけになるような「仕掛け」を入れておく。



② しばられすぎないこと

作品をつくっていく中での新たな発見や、構想の広がりも大切な造形要素である。ワークシートに書いたことにしばられすぎず「変更もありえる」「最初の考えよりもいいものにしよう」というスタンスで指導している。手を動かしているうちにより良い方法に気づいたり、新たに試してみたいことと出会ったりするのだから、あまり当初の計画にしばられすぎるとかえって作品の質を落としてしまうことにもつながりかねない。小学生では「こうしようと思ったけれど、できなかった」ということがよくある。(当初の構想を全く覚えていなかったり、完全に無視していることもよくある。)しかし、その変更や失敗の積み重ねが「この方法はうまくいかないな」とか「このくらいならできそうだな」といった、より現実的な「見通しを持つ力」を育む。



③ 作品と一緒に保存できるもの

ファイリングする。スケッチブックに貼り付けるなどの保存方法もあるが、できれば作品に直接貼り付ける、収納するなど一緒に保存できるようにする。共同制作や造形遊び、工作類の場合は作品の保存が難しいことも多いので、写真にしてワークシートに貼り、そちらを保存用の作品とする場合もある。

1. つくる

できあがりや写真に撮影する事も考えさせて



2. 写真に撮る

子ども自身で、場所も選ばせて。



3. ワークシートに貼る

発想や構想が書き込まれていると、作り手の思いが見る人により伝わる。

この作品は「ふしどろろ」で作ったものです。



発見者

（自分の名前）

名前

（つづきの名前）

発見した場所

（見つけたところ）

持ちよう

（どんな風に使うのか、とくに気をつけること）

苦手なこと

（どんなことが苦手なのか、なぜか）

苦手なこと（苦手なものは） ます。

理由は

5. 実践例

① 作品票を改めて書かせてみると…

校内に展示されていた各学年の作品を市内の作品展に出すことになった。わたしがとりまとめることになったが、題名の無いものや、学年共通の題名のもの、ひと工夫するより作者の思いを引き出せそうなものがあったので担任の許可を得たうえで子どもに改めて作品票を書いてもらった。



Before

4年 写生会の絵「もみじの木」

葉をたくさんかくところが大変でした。色が大変でした。枝を描くときにたくさんかくのをがんばりました。



After

4年 写生会の絵「まるで葉っぱがにじみたい」

木をかこうと思ったら、葉っぱがたくさんありすぎました！枝が見えないくらいありました！いっしょうけんめいかきました。色んな葉っぱがありました。

〈補足説明〉

普段は作文を書くのが普通な子だが、「この絵はどんな絵なの？お話聞かせて？」と声をかけると言葉があふれてきた。画面には色とりどりの葉が描かれている。実際の木は始めは緑一色だったのだが、描いている期間に紅葉が進み、葉の色が変わっていった。それに合わせて彩色も変わっていったようだ。初めに書かれた作品票には「苦労したことや工夫したことを書こう」とある。



Before

1年 「学芸会の絵」

学年・姓・名前のみ



After

1年 「わたしはおにんぎょう」

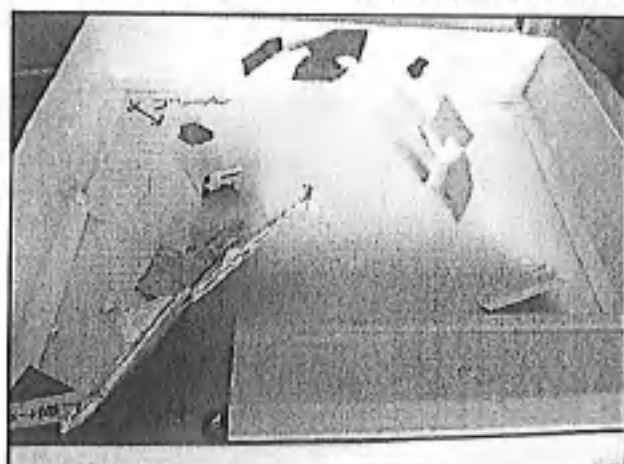
がくげいかいたのしかったよ。
ドレスがきらきらしてきれいだったよ。
ママとパパがじょうずだったよって いってくれたよ。

〈補足説明〉

学年統一で「学芸会の絵」と印刷された作品票。背景はやわらかい色味の灰色。顔の左側は髪の毛の絵の具と混ざってしまったのか茶色になっている。ビノキオの劇で「劇場で踊る人形遣」の役をやっていた。どうやらこの役のためにドレスを買ってもらったらしく、それがとても嬉しかったとのこと。スカートについている模様はスパンコール。スカートの周りにびんだ黒色で太く描かれているのはスカートの端についたレースのふわふわを表したかったようだ。本書では緊張した顔を見せていたが、ママやパパにかけられた言葉がうれしかったことも顔に表れているようだ。

② 作品だけでは伝わらなくても…

大人の作品とはちがい、子どもの作品では主題や制作の意図が読み取りにくい場合が多い。子どもが作品を持ち帰ったとき保護者に「なに？これ。」って言われなきゃいいなあと思う。そんなことを言われたら、きっと傷ついて園工が嫌いになる。作品票で少しでも子どもの思いが伝われば良いと思う。



4年 コロコログーレ (工作)「おばけの家から逃げる」

ぼくは、おばけからにげるをつくりました。それはおばけからにげるはおばけからにげるゲームです。それはおもしろいです。

(補足説明)

特別な支援を要する子どもが何時間もかけて自力で作りあげた。菓子箱や「濃厚チーズ」と書かれた紙などがそのままぎって貼り付けられている。「おばけの家っぽくするにはどうしたらいいかな？」と声をかけたが、本人は大満足だったのでこれで完成とした。向こう側の壁に張り付けられた黒い紙が大きなおばけ。下の方に見えるビー玉が怖がって隠れている自分。本人は怖いものが大嫌いで、怖い話を聞いただけで吐き気を催してしまうほどの怖がりだ。「逃げなきゃ！逃げなきゃ！」と思いながらつくったようだ。本人は「お化け屋敷なんか絶対入れない！」と言っているが、本当は入ってみたいのかもしれない。



3年 不思議な生き物発見 (工作)「レスキューサウルス」

プレイルームの鉄棒の下にいて、落ちてきた人を背中クッションで助けます。首が長くて体が大きくて、足が速いです。(子どもが)危険だと感じたら走って鉄棒の下に隠れます。やんちゃな人が苦手です。いつもはとうめいで見えないので、走り回っている人がまちがえてけっちゃんかもしれないからです。

(補足説明)

化学粘土を使って「身の回りにいてちょっとびっくりいいことやイヤなことをするやつを考えよう」とつくった作品。想像とゾウガメのあいこのような形で、大きめの作品なのだが、写真を添わせるとこれを選んできた。子どもの見方と大人の見方はかなり違うようだ。壁外で撮影しているので「プレイルームにいるんじゃないの？」と聞くと、「授業中で子どもがプレイルームにいないから参加していた。」らしい。

③ 作品票を書くときの言葉かけ

わたしは、子どもが作品票を書くときにはこんな言葉かけをする。当然、題材によって変わるけれど、なるべく共通しそうなものや応用の利きそうなものを書き出してみる。

「(描いたもの・つくったものに)手紙を書くように書いてみよう。」

「どんな様子かな？」

「何を考えていそうかな？」

「どんなことを思っているだろうね。」

「あなたに描かれて(つくられて)いるとき、どんな気持ちでいたんだろうね。」

「いいところを見つけてほめてあげようか。」

「自分の作品を見てくれた人に、話しかけるように書いてみよう」

「こんなことを思って描いたんだよ。(つくったよ。)」

「こんなふうにしたかったんだ。」

「ここを見て欲しいな。どうしてかというね…。」

「こんな声が聞こえてきそうだよ。」

題材によっては「味」「におい」「触れた感じ」「暑さ、寒さ」などの五感を意識させて言葉や思いを引き出す。詩・短歌・俳句のように表させたり、言葉の穴埋めから考えさせることもある。

6年生国工

「刻もう _____ のいま」

今回の作品は「今の自分」を残すことが目標です。
だから、作品票もこれまでのものとは ちょっとちがいます。
今の自分を短い詩に表してみましょう。

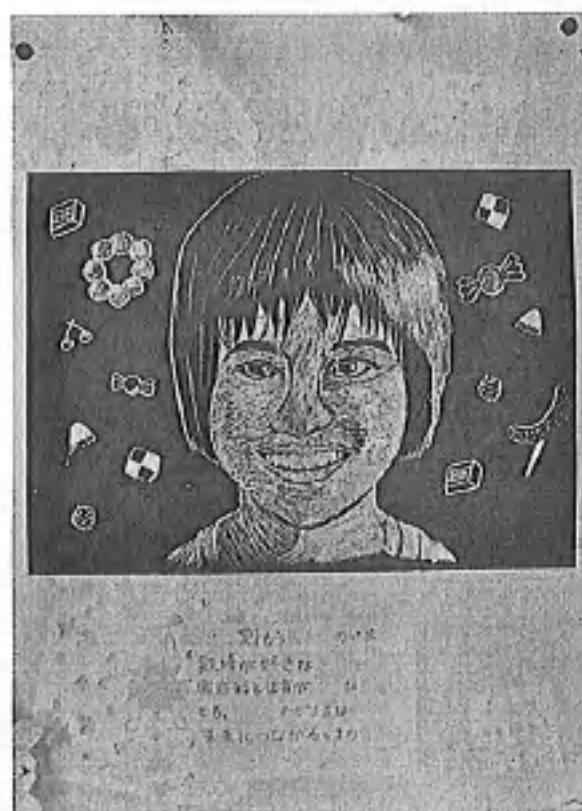
日本語には同じ意味を表す ちがう言葉がたくさんあります。
「私」「僕」「俺」「おいら」「わし」…「わたし」「ワタシ」文字が違ってもと感じがちがうね。
「自分」を表す言葉。どの言葉が一番しっくりくるでしょう。

- ① 刻もう _____ のいま
② _____ が _____ な _____
③ _____
④ でも、 _____
⑤ 未来につながる いまの _____
⑥ _____

- ※ 好きなペン、好きな色で
①タイトル（工夫して自分らしく）
②いまの自分が好きなこと・もの・場所
③自分のいいところ、理想
④苦手なこと、だめなところ
（ちょっぴり、とてもなど程度を表す言葉もつけて）
⑤しめくくりの句
⑥自分の名前

※ 詩の組み立てや内容を「もっとこうしたい！」って変えたくない人は、変えても良い。

6年生卒業制作「自画像」の作品票を書くためのワークシートより抜粋



刻もうにちかのいま
鉄棒が好きなにちか
家庭科と体育が得意なにちか
でも、ちょっぴりわがままなにちか
未来につながるいまのにちか

6年 卒業制作「刻もうにちかのいま」

鉄棒が好きな にちか
家庭科と体育が得意な にちか
でも、ちょっぴりわがままな にちか
未来につながる いまの にちか

〈補足説明〉

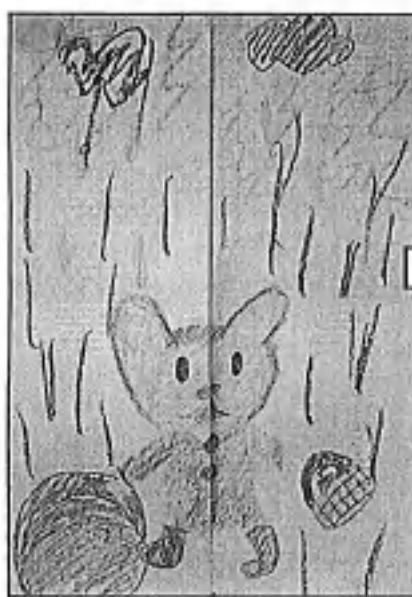
「卒業制作で自分を題材にしたものを何かやりたいが、予算も時間も無い、何かいい案は無いか」と、担任に相談されとりくんだ作品。例年6年生は本版にとりくむらしいが、時間も予算も余裕がなかったためスクラッチボードを使った題材にした。「卒業式の日に入りたい表情」を写真に添り、背景には「自分らしい模様やもの」を配置し、「好きな色の台紙」を選び、いまの自分を主題にした詩の形式で作品票を書き、貼り付けた。



刻もうオレの今
 みんなを笑わせるのが好きなオレ
 なんでも積極的に取りくむオレ
 でも、ちょっとめんどくさがり屋なオレ
 未来につながる今のオレ

6年 卒業制作「刻もうオレの今」
 みんなを笑わせるのが好きな オレ
 なんでも積極的に取りくむ オレ
 でも、ちょっとめんどくさがり屋な オレ
 未来につながる今の オレ

〈補足説明〉
 子どもの言葉を引き出すヒントは国語の教科書にもたくさん載っている。この作品では穴埋め式の詩作文からヒントを得た。「言語活動」が取りざたされるようになった背景には、国際学力テストで日本の子は「図や表から読み取る力が弱い」という結果が出たことが一因としてあるようだ。図から読み取る力なんていうものはそのまま読みの力にもつながるのではない。うまく使えば図工・美術にとっての復権のチャンスだ。



1年 とびらをあげると「どうなる、どうなる？」
 (聞く前) りんごをもって うさこちゃんの いえに あそびに行く うさちゃん
 らん らん らん らん ららん らんら
 あ みずたまりがあった はいっちゃんおうかな
 「どうなる、どうなる？」
 (聞いた後) びちゃん びちゃん わあ たのしいな たのしいな
 さて うさこちゃんの いえに いかなくちゃ
 はやくしないと らん らん ららん ららん

〈補足説明〉
 1年生の補充授業で図工をさせていただいた。題材は「とびらをあげると」。図工は子どもの個性や特性をよく知った担任の方が子どもの「こうしたい!」を引き出せると思う。でも、この学期には算数Tやプール学習の支援などでかなり入らせていただいていたため、子どもとの対話もスムーズだった。机間指導の時に「どうなる、どうなる?」と繰り返し声をかけていたらこうなった。この日の朝、前日雨が降ったので水たまりに入りながら登校してきたのが楽しかったそうだ。もしかしたら選別しそうなったのかもしれない。子どもの作品には生活体験や趣味・趣向、物状態などがダイレクトに表れる。

6. 子どもの変容につなげる

こうした場で作品票のことを話題にすると「意味の後付けではないか」「言葉の巧みな子が得をするのではないか」「作品だけで評価すべきではないか」と言われることがある（「作品票で評価する！」なんてことは一言も言っていないのだけれど…）。わたしなりの考えはあるが「真実はこれだ！」と断言することなんてできない。謙虚にまだまだ学んでいかなくてはならないと思う。

しかし、経験から「作品票も、丁寧に扱うことで子どもの変容につなげられる」と信じている。

なぜなら、作品票を変えると、

子どもに「何を書こうかな？」「どうやって書こうかな？」と考えさせる活動となり、自分の作品のことを「つたえたい」「あらわしたい」という気持ちをふくらませる。

子どもの思いがこもった作品票は、

見る人にとって、より深く作品を読み解くための手がかりとなる。作品への興味を持ってもらうきっかけとなる。同じ題材にとりくんだ子ども相互が鑑賞を行うためのツールとなる。

自分の言葉によって思いが「つたわった！」あるいは「つたわらない…」という経験は、

「もっと効果的に表したい」「次はこうしたい！」という、次への意欲をふくらませる。

作品をつくることへの意欲の高まりは、

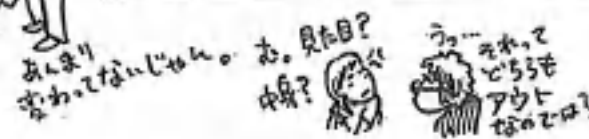
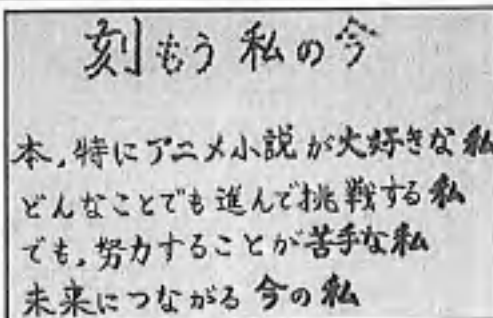
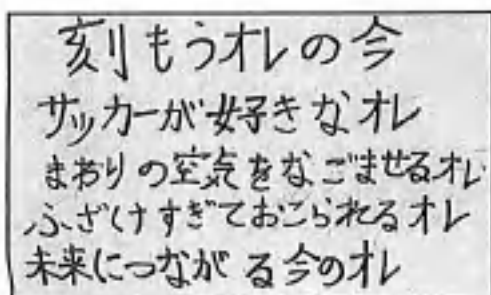
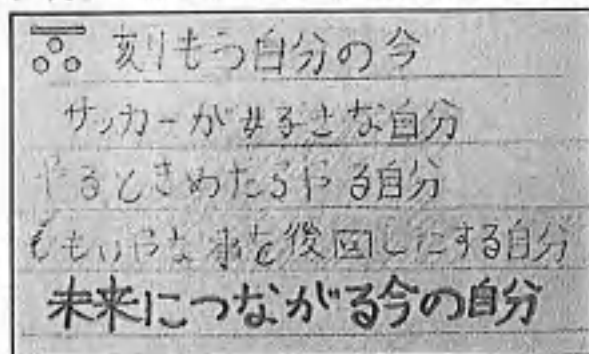
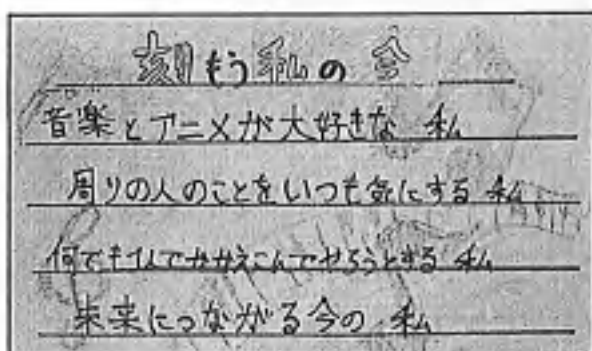
とりくむ姿勢を変える。作品の質を変える。

その繰り返しは、子どもの変容につながる。

今回の主題からはそれるかもしれないが、こうした意識を持ってとりくんでいると保護者も子どもの作品を大切に考えてくれる人が増える。これは間違いない。子どもにとって、自分の思いがこもった作品が保護者に認められることは大きな喜びになる。

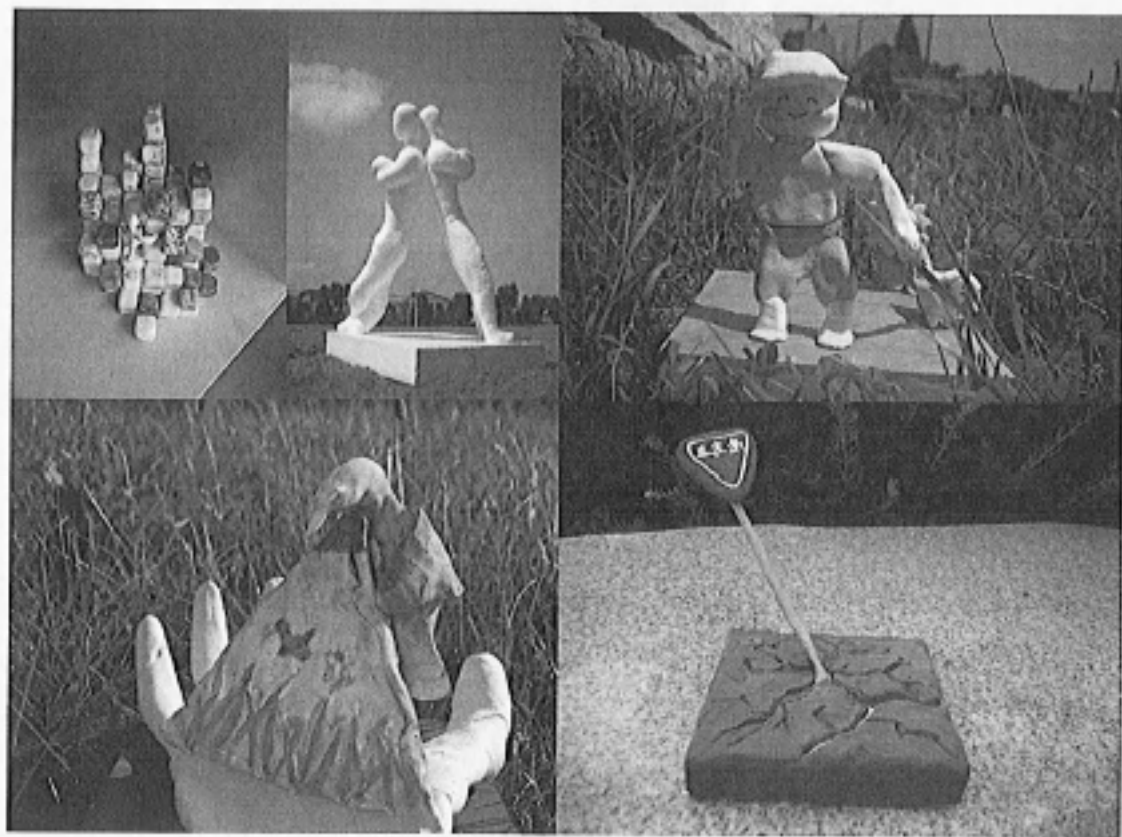
そうして、一つでも多くの作品が家庭で大切にされ、長く残され、未来の「自分」に届くといいなと思う。

作品による「ああ、この頃の自分はこうだったなあ。」という過去の自分との出会いは、また一つ成長のきっかけをくれるかもしれない。



実践発表

中学校 高等学校



表表紙の写真は「人の心を動かす形」ということをテーマにつくられた作品である。作品を撮影したのは生徒である。この授業は次のような言葉を投げかけることから始まった。「一人一人は違う存在、感じ方も考え方も違う。だから表現されるものは多様ではおもしろい。色や形で人の心を動かせたとしたら素晴らしいと思わないか？」

「使いやすさとは何だろう

デザインの鑑賞から始めるバターナイフの制作」

実践発表の概要

実際に使える道具を制作することで、生活と美術をつなげます。身近なデザインとして、100円ショップで売っているバターナイフを鑑賞することから始めます。色、形、素材を見て、さわって、そして、実際にトーストにマーガリンを塗ってみることを通して考えさせます。

バターナイフについて新たな出会いをさせた後に、制作に進みます。日本の伝統文化としての木との関わりを感じさせます。ぬくもりのあるデザイン、家族の誰もが使いやすいデザイン、世界に一つしかないオリジナルデザインを意識させます。道具の使用についても、極力、怪我をさせないように環境を整えます。

校内に展示した後は、実際に家で使用してみでの感想を提出してもらいます。中学校の授業を終える卒業時のアンケートでも、「今でも使ってます」と書く生徒もいます。

1 子供は削ることが好き

毎年、中学に入学した1年生の最初の授業でこう聞きます。

「カッターで鉛筆を削ったことがありますか？」

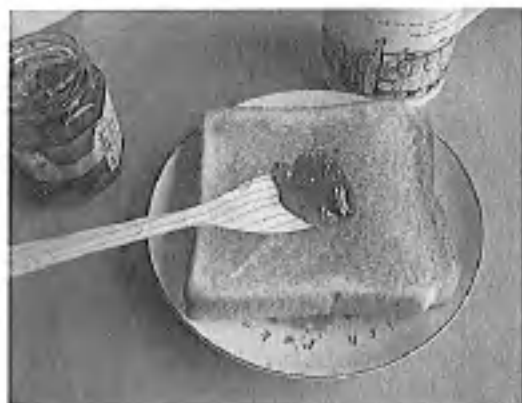
小学校の担任の先生の影響で年度により増減しますが、私が教員になった20年前よりも少なくなっています。シャープペンシルの使用や、電動鉛筆削りもあります。敢えてカッターで鉛筆を削る必要性はありません。しかし、人間は本来削ることが好きです。授業のオリエンテーションを終えた後に、2Bの鉛筆を配っ



て鉛筆の削り方を練習します。日本人は手先が器用な民族です。絵を描く前に集中するために、描きやすいように芯の長さを調節するために、また、木を削ることに慣れるためにもと説明した上で、取り組ませています。1年生の1学期には、グレースケールやデッサンなど、鉛筆を使用する頻度も高いため、最初は慣れない手つきですが、回数を重ねるごとに鉛筆を削ることに慣れていきます。美術室には、人数分のカッターと鉛筆を削るときのための新聞紙も用意してあるので、授業前には、カッターと新聞紙を借りにきて、鉛筆を削る姿も多く見られます。

2 木について

世界最古の木造建築である法隆寺に代表されるように、日本は木の文化の国です。四季のある豊かな自然に囲まれて、木とともに暮らしてきました。特に、北海道は豊富な木材資源があり、クラフトの盛んな地域でもあります。旭川は家具製作でも有名です。切れ味の鋭い刃物で木を削る感触は、人間にとって心地よさを感じさせる根源的な対象だと思っています。



宮大工の西岡常一さんがかつて次のように言われていた。「1000年生きてきた木を使うということは、1000年保つ建物を造らなければならない。そうすれば、山には1000年の木が育っている。」授業でも、「皆さんの目の前にある木も、ここまで育つまでに何十年もかかりました。それだけの年月を使えるぐらいの気持ちで作品を作ってほしい。」と私も生徒に伝えます。

今まで授業で扱ってきた樹種は、シナ、セン、ホオ、タモです。最初はシナの木を用いました。柔らかくて削りやすい反面、木目が薄く、すぐに抜くことをやめました。当時勤めていた根室管内中標津町には、町内に製材会社が数軒あり、生徒の保護者でもあったので、彫刻に適した樹種を相談してみるとセンの木がいいと教えていただきました。多少堅さもありますが、強度もあり、木目ははっきりしているのです。その時以来、基本的にセンを使い続けました。教材会社から木材を購入する方法もあります。そういう木材は、きれいに製材されて品質もよいと思います。それでも、私は地元の製材会社から木材を購入することにこだわっています。単価を押さえるために簡易な製材をしているため、表面はガサガサです。赤や青で木材に印が付けられていたりします。たまにヒビが入っていたり、割れもあります。その中から生徒自身で木目や重さ、木の色から選ばせます。まっすぐな木目、斜めの木目などさまざまです。自分が作ろうとするデザインに合わせて、一生懸命構想を深めている場面です。完成見本として授業の最初に1000番の紙ヤスリで磨いた無塗装のバターナイフにさわらせると、同じ木からできているとはなかなか信じられないようです。表面はガサガサでも、自分で削っていくうち、紙ヤスリで磨いていくうちに、自分でしか作れないピカピカなものが出来上がるというのが子供たちにとっては喜びにつながります。地元の製材会社からの材料の調達も、単価も安く押さえられてメリットだらけです。何と言っても、地元の木材を取り扱っているということも重要なポイントです。

今回のバターナイフづくりでは、限られた時間の中での学習効果をあげるために、2年前から樹種を増やしました。そのときも、購入している木材会社の方と相談し、北海道の地元の木材で彫刻に適しているものとして、セン以外にホオとタモの木を用意することにしました。ホオはシナほどではありませんが、柔らかく、今までセンの木でその堅さに苦労していた生徒にとってはとても削りやすいものです。私の感触ではまるでチーズのようにサクサク削ることができます。シナと違って木目も結構と見えます。タモは堅さがセンと同程度で強度もあり、細い加工もできます。削ると独特の匂いもあります。

材料を選択できるということは、生徒の意欲を高めるためにも大切です。

3 題材について

中学校のデザインの学習のうち、木材を扱った題材として、私自身もさまざまな取組をしてきました。カレースプーン、サラダサーバー、トレイ、キーフック、ペーパーナイフ、バターナイフ、ジャムスプーンなどの制作。デザインの領域のなかで工芸としての位置づけなので、実際に使える道具ということが基本です。授業時数の削減の影響もあり、だんだんコンパクトな題材を扱うように変化しました。そのためペーパーナイフの授業を長く続けていました。試し切りをしながら性能をチェックして完成させるという追究の取組は

効果がありましたが、実際の日常生活の中でペーパーナイフを使う場面はほとんどありません。また、市販のナイフのデザインにこだわる生徒も見られました。もっと平和的で、日常の生活に密着したものができないかと迷っていたときに、たまたま千歳空港のお土産ショップで販売されていた北海道産のクラフトコーナーにあったバターナイフを見て「これだ!」と思いました。朝食にトーストを食べる家庭は多いはず。マーガリンを塗らなければ、ジャムスプーンでもいい。何より、切るという道具ではなく塗るという道具なので、平和なデザインができる。

家庭で使うことを想定すると、自分だけでなく家族みんなが使うデザインとなる。自分の手のサイズに合わせるのではなく、誰もが使いやすいデザインを目指す。ユニバーサルデザインの発想が必要になります。バターナイフだと、マーガリンのケースに合わせた長さや太さにして収納することも考えなければなりません。ジャムスプーンだと、瓶の底のジャムをぬいやすい形状にしなければなりません。

3 デザインの鑑賞

絵画や彫刻以外のデザインについてどう鑑賞に取り組むかという研究が旭川では行われていました。その研究を生かし、バターナイフの鑑賞にも取り組みました。グループごとに、5種類のバターナイフを、色、形、重さ、そして手触りなどから使い易さを考えさせる授業に取り組みました。100円ショップには何種類ものバターナイフが販売されています。木や竹、ステンレスなど材質の違うバターナイフ。ちょっとした形状、薄さ、全体の重さ、また柄の部分と塗る部分の重さのバランスなどの違いで使いやすさは変化します。



予想した後に、実際に食パンをトーストし、1人に対して4分の1のパンを渡して、実際に5種類のバターナイフを使ってマーガリンを塗らせて、使いやすさを比較させました。結局、道具は使ってみなければ使いやすさは判断できません。

単独で、このバターナイフの鑑賞を授業し、翌週からバターナイフの制作の授業に取り組みます。

4 バターナイフの制作

(1) 手順の確認

バターナイフの鑑賞の授業を踏まえて、使いやすいデザインを考えさせる。

(2) 構想を練る (アイディア出し)

機能を重視させつつ、自分の作りたいオリジナルの形との兼ね合いを考えさせながら。

(3) デザインの決定

グループでの交流を通して、自分の構想を発表し、自分の構想を深める。また、ほかの人の作品のよさにも気付く。

(4) 型紙の作成 (原寸大)

手に合わせてデザインを考える。また、材料の特性を生かすことを考える。細すぎて折れないように、短すぎて使いにくくならないように。樹種による違いも考慮する。

(5) 木に型を写す

木目をどう生かすか考えて型を写す。

(6) 糸ノコで切り抜く

道具の使い方に注意。技術科からも糸鋸を借りて待ち時間を減らす。

(7) 削る

①バターナイフの工程

ア バターナイフでは削る向きに注意しながら、小刀で大まかに削っていく。

イ 細かいところは彫刻刀の切り出し、平刀を中心に削る。

ウ 手で持って削れない部分については、クランプで机に固定する。

②ジャムスプーンの工程

ア スプーンのすくう側を机にクランプで固定した状態で、彫刻刀の丸刀で削る。

イ 次に塗り広げる面を切り出しや平刀で削る。

ウ 柄の部分についても小刀や切り出し、平刀で削る。手で持って削れない部分については、クランプで机に固定する。

(8) 紙やすりで磨く

使用する紙ヤスリは3種類。

ア 80番で全体のキズ、でこぼこをなくす。3種類の紙ヤスリのうち一番時間をかける。丸棒などに巻き付けて磨く。柄の部分の先端などの出っ張り部分は、手のひらのくぼみ部分などで磨く。

イ 180～240番でつるつるにする。80番でしっかり磨いてあれば、短時間で磨くことができる。このときに、なかなかキズが消えないようであれば、80番の紙ヤスリに戻って磨く。

ウ 1000番ですべすべにする。180～240番が手でさわってつるつるであれば、1000番のすべすべはほっぺたでさわりたいぐらいの感じ。(本来は1000番の工程はなくても完成できる)

エ どの紙ヤスリも、磨いた部分は白っぽくなるので、磨く具合を目で確認する。また、目をつぶって全体の手触りが同じになっているかどうかでも確認させる。教師も確認するが、厳密にやり直しをさせることはしない。

(9) バーニングペンで模様を描く

クラフト用のバーニングペンで、模様や文字を入れさせる(希望者のみ)。バーニングペンの先端は300℃にもなるので、やけどに注意させる。失敗したら直すのが大変なので、十分練習させてから作品に取りかからせる。

(9) 塗装する

食品を扱う工芸品なので、人体に無害な塗装が必要である。今回は、クルミを使用し、ウエスで包んでから金槌で叩いて、しみ出してきたクルミ油をバターナイフに塗るオイルフィニッシュで完成させ

る。1週間乾燥させた後、布で磨いて展示する。

(10) 展示

作品は展示して、人に見せて完成である。立体作品であり、食品に使用することからも、長期間展示して汚さないように1週間ほどの短時間で廊下に展示する。ただ、今回は実際に使える工芸品なので、使用してみて本当の完成となる。

(11) 実際に使う

家庭に持ち帰り、実際に使用してもらう。自分や家族の人の感想などを記入して、感想の用紙を提出する。

5 環境の整備

(1) 刃物の取り扱い

切れ味の悪い刃物ほど、怪我につながる。基本的に学校にある刃物を用い、切れ味を常に整えておく。小刀は電動水研ぎ機や、グラインダーなどで研ぐ。彫刻刀は電動彫刻刀研ぎ機やグラインダーで研ぐ。生徒が刃物を使用しながら、切れ味が悪く感じたらすぐに研ぐようにする。使用する刃物は、小刀、彫刻刀（切り出し、平刀、丸刀など）



(2) その他の道具

クランプ（今では100円ショップで販売しているので、40人分購入して活用している）

紙ヤスリ（80番前後、180～240番、1000番）

パーニングペン

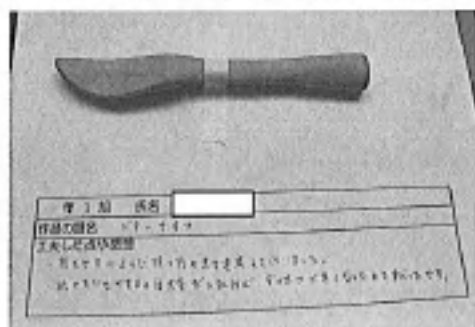
テーピングテープ（これも100円ショップで大量に購入）

(3) 怪我についての備え

怪我については、最優先で対処する。RICE処置（Rest(安静)、Ice(冷却)、Compression(圧迫)、Elevation(高举))について説明し、怪我があった場合はすぐに教師を呼ぶこと、まずは傷口を流水で洗い、用意していたトイレットペーパーで圧迫し、心臓より上に患部をあげて3分間休憩させる。その後、絆創膏を貼る。出血が最初から激しく傷口が深いようなら、すぐに保健室に直行する。3分間休憩後に出血が止まらない場合も同様。

怪我を防ぐためには、刃物の扱いについて、刃先が動く方向に手を置かないという基本を徹底させる。また、持って削れない場所はクランプで固定することも徹底する。利き腕と反対の手の親指についても刃物を押すときに豆を作りやすいので、テーピングテープを巻いて保護する。疲れた場合には無理をせずに休む。ほかの人と近い場所で削らないことも指導する。また、一度怪我をした人は、どうやって怪我をしたのか振り返らせて、同じように怪我をしないようにする。

6 バターナイフ（ジャムスプーン）を使ってみて・・・生徒の感想から

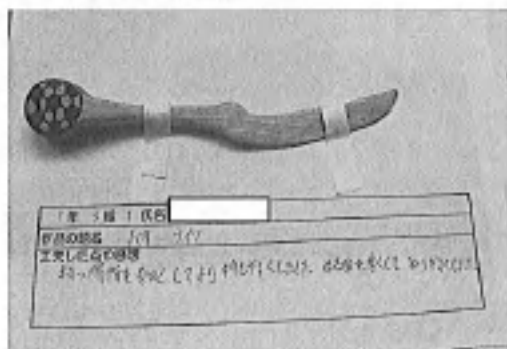


・なめらかに塗れて、とても塗りやすかったので良かったです。木のバターナイフは家にはないので、たくさんくっついちゃってうまく塗れないのではと少し心配したのですが、心配するほどべっとりくっつかなかったので使いやすかったです。売ってるものではなく、作ったものでもちゃんと使うことができるんだと思いました。

・予想とはちがいくごく持ちやすく、塗りやすかったです。私の家では鉄のバターナイフを使っていました。けど、初めて木のバターナイフを作りました。家族も使ってくれ、特に妹は楽しそうに使ってくれました。最初は使ってくれるか心配だったけど使ってくれて良かったです。これからもずっとバターナイフを使っていきたいです。

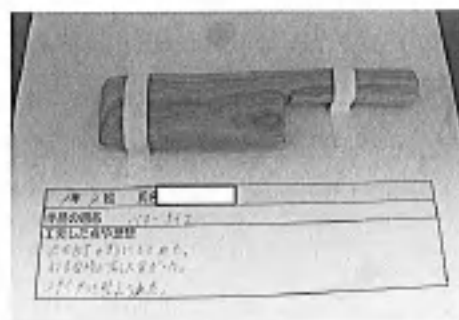


・いつも使っている物と、自分で作ったバターナイフでは、作った方が使いやすく感じました。木の匂いもいいにおいでした。



・バターナイフを使ってみて、思ったより持ちやすかった。それに1回でたくさんのバターをとってたくさん塗ることができた。しかし、ぬる面の角度が違ったため、少しバターをとるのに時間がかかった。ムダな部分が結構あったので、そこをコンパクトに作れば、良かった。

・大きすぎて使いにくかった。塗りにくかったし、ぴったりはまらない。良いところと言えば形だけな気がする。・包丁の刃の部分が長かったので、いっぱいバターが取れるかと思ったら、さきっちょの部分しか取れなくて驚いた。改善の余地あり（兄※6年前に最初にバターナイフを作った学年の生徒、現在高校3年生）・長所 塗る面が大きくて非常にバターが広げやすい。長さも良い。短所 厚みが気になる。改善点 ヤスリをかけ少々薄くすると使いやすくなるかも！ 余談 兄の作ったものを今も使用している。一人一人個性があり使うのも楽しみ、しばらくはこのバターナイフを使用し、油ののったバターナイフになるのが楽しみ（母）



○3年間の美術の感想（3年生の最後の授業の感想から）

・「バターナイフをつくる」は、自分の手を傷つけながらも完成させたので、すごく印象が強いです。今でもバターナイフ使ってます！！

「修学旅行の写真から～伝わる・つながる・広がる～」

はじめに

美術の表現の可能性を広げるためのひとつに「写真」がある。昨年度、3学年所属の先生方の協力を得て、修学旅行（東京・鎌倉）における感動や想いを「写真」という方法で表現できないか挑戦してみることにした。生徒一人ひとりに、主に鎌倉で撮った写真に感じたこと、伝えたいことを文章にまとめさせ、写真とセットにして廊下にコーナーを設け掲示した。そうすると、修学旅行の1枚の写真が「生徒同士」から「教師と生徒」「教師と保護者」「保護者同士」へと会話の輪を広げさせた。3月には作品を2年生の廊下に掲示すると、自主研修のイメージを膨らませるとともに意欲を向上させることができた。このことは、学年の文化の継承発展ともなり、学年の枠を超えた取り組みとなった。

今年度は、表現という観点から、美術科の指導による「写真」と国語科の指導による「俳句」とを組み合わせ、教科間の連携も実現させた。授業で完結する美術の枠を広げ、学校生活の中に取り入れられた「美術」として、個の感性を発表、表現できる場として紹介したい。

日本文化に触れる

5年前から「千社札」を題材に取り組んでいる。千社札は神社やお寺に参拝した証として使用されていたが浮世絵師によってデザイン化され交換札に発展したものです。そんな話をしながら修学旅行に行ったのがきっかけでした。「先生、あれ！千社札じゃない？」「写真撮っておこう！」そんな会話の中から、写真を使って何か残せたらと思うようになりました。

3学年の所属が続いたとき、「美術科の課題で修学旅行中の写真を撮ってこよう！」と無理強い提案し実施しました。自主研修でカメラを持って歩くこと、班行動なのでカメラがなくても共有できることなど、無理のない形で課題を出しました。生徒の反応は「あの場所で撮ってみたい！」と行く前から決めている生徒もいました。「ガイドブックに載っている場所と同じ風景を撮ってみたい！」と意欲的な生徒が多く、初めから嫌がる生徒はいませんでした。

昨年度の取り組みから

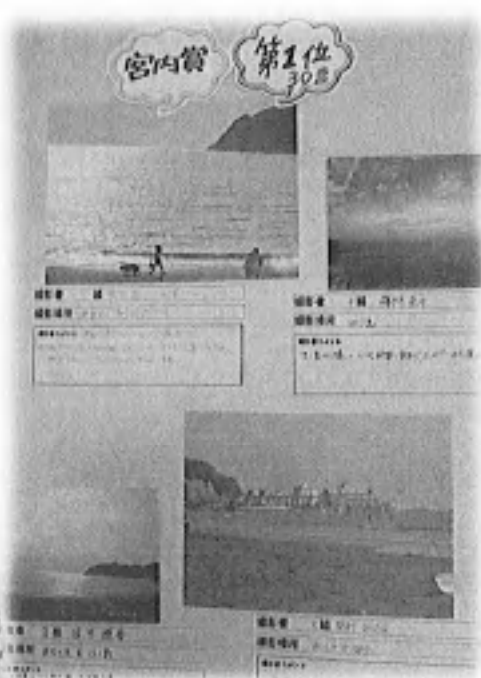
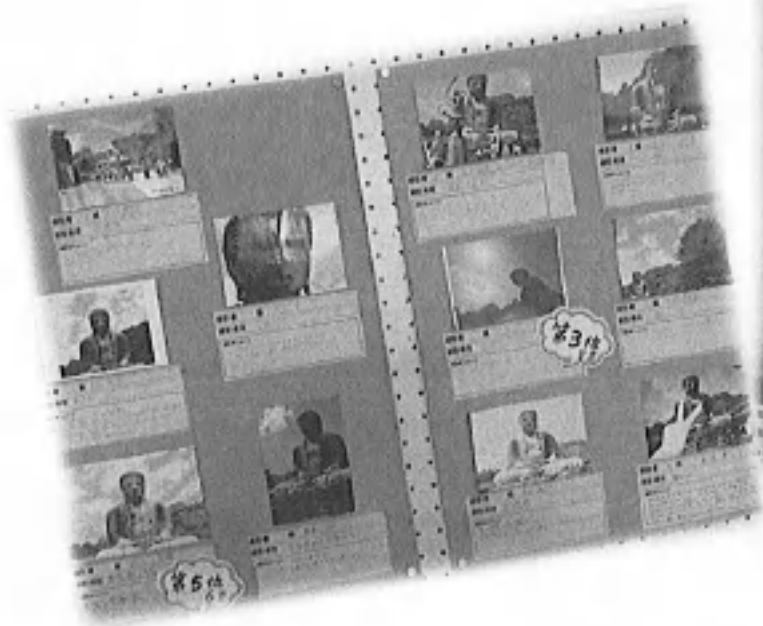
「修学旅行の思い出の一枚」をテーマとした課題でしたが、ピースサインの写真ばかりでは…と予想してしまいました。そこで出した条件は“人物がメインにならないこと”“ミニレポートとして撮影場所を記入する”としました。ただそれだけの提示しかしていません。課題の条件はシンプルに…生徒の「撮りたい！」に制限をかけないようにと。

取り組みの初年度は、「手軽さ」「思い出の共有」「後輩のために」をポイントに行った修学旅行の課題。「課

題」となるとなかなか気持ちが乗らないのだが、「写真で残す」ことで研修後のまとめレポートにも使用できるし…と提出率は7割弱。強制はせずの取り組みでスタートしました。レポート内容をもっと充実させると、来年度の修学旅行の資料として使用できるのではとアドバイスをもらいました。

鑑賞の時間はお昼休みなど、放課後の時間を利用しています。会話の中で「実はここね～」など普段会話しない生徒同士の交流が見られるのも魅力の一つです。放課後には部活動の後輩に「この場所いいよ～」等、学年を超えての交流が見られ、次年度に「つながる」と確信しました。参観日まで掲示していたので、その後生徒同士だけでなく「生徒と親」と「生徒と教師」、「教師と親」「親同士」「教師同士」の会話も広がりました。嬉しいことに、「この取り組みが続くといいね」という意見が教師から出ました。

また、夏休みの作品展でもこの夏「書道部門」を「写真部門」に変えて取り組みました。3年生が写真部門に提出したのが7割と多く、撮影コメントも経験からか「なるほど」と思える内容に変化していました。



「みんなが選んだ思い出の1枚」学年で投票してもらい、10位まで決めました。また、学年の教員に「●●先生賞」として選んでもらい、引率した校長先生も特別参加（エントリー）して、盛り上げてくれました。教師が参加することで、生徒も「見てくれる」「認められてる」と自信を持てたようです。

賞 結果発表			賞 結果発表		
みんなが選んだ1枚			先生方が選んだ1枚		
第1位	1組	山森 景 8票	校長賞	2組	竹内 倫
第2位	2組	手塚 悠 7票	教頭賞	2組	片山 蒼
第3位	2組	片山 蒼 6票	高橋賞	3組	吉水 温
	3組	内林 康	関川賞	2組	原京 有美
	4組	山田 鈴葉	石田賞	3組	長井 のぞみ
第6位	1組	赤石 結梨 5票	安倍賞	4組	中川 紗貴
	3組	赤坂 翼花子	滝川賞	3組	吉水 温
第8位	2組	越田 祥鈴 4票	大塚賞	1組	赤石 結梨
	3組	吉川 漢介	龍戸賞	4組	関川 蒼
		小島 由穂乃	西田賞	2組	片山 蒼
		植野 雄介	柳瀬賞	1組	龍戸 祥
		大山 佳祐	宮内賞	3組	山崎 大照



美術科・修学旅行課題 ~思い出の写真~

今年も修学旅行で鎌倉に行ってきました！
美術科で思い出の風景を1枚撮ってこよう
課題を出したところ、たくさんの写真が集まり
ました。今回は国語科とコラボ企画です。写
真に合わせて俳句も詠まれています。

掲示された写真を見て、修学旅行の思い
出の共有ができたかな…とっています。また、
後集に残せる資料にと考えています。同じ場
所でも、視点が違えば景色が変わって見え
るし、共感し合えるって嬉しいですね。

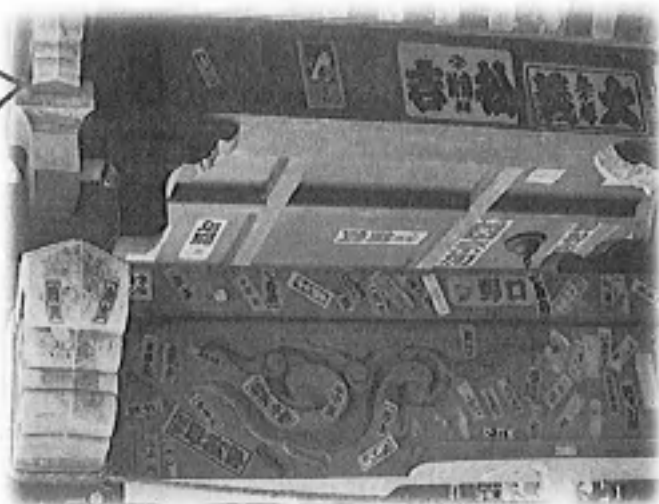


ただ見せるだけでなく、教師から
の想いも伝えたい…。

参観日、3年生の保護者の
方が参観の合間に見てく
れていました！



きっかけは、修学旅行中に見つけた「千社札」の写真から。
「先生！今、制作してるのこれだよ
ね！見つけたから撮っておいた！」



一番楽しい時間・・・。

私の中で写真を提出させる時が一番の幸せな時間です。「先生！これ・・・。」さりげなく持ってきた写真は「千社札」の写真。「神社に行ったら、ありました。思ったよりきれいなものがありましたよ。」と普段おとなしい生徒がよくしゃべる。

「ぼく、人物の写真苦手だけど、風景は好きなんだよね・・・。」とさりげなく写真を差し出す。「おおお～！これって“なごみ地藏”（良縁



地藏) だよね？正面の写真多いけど、このアングルいいねえ～！」と言うと、「わかってくれた？」と言いたそうな顔で得意げに写真を撮った時のことを語りだした。盛り上がるというの間にか周りに人がいっぱい。授業が始まるほんの数分前のやり取りが、たまらない。

そんなテンションで授業が始まる・・・。気分がいい生徒はニヤニヤしながら制作に取り掛かる。

伝わる～「一語一絵」

作品が完成すると「解説カード」「作者のことば」「コメント」と書かせていました。しかし、生徒の伝えたいことがカードに書かれていないことが多く、「～を頑張った」「～がうまくできた」の表現が多かった。昨年度の後半から「その時（作ろう、作りたい）の想いを大切にしよう」とどんな想いで制作に臨むのか、またどんな想いで制作しているかを毎時間振り返りメモを取らせ、完成時に「一語一絵」カードで作品への想いを書いてもらいました。

「一語一絵」は「一期一会」からヒントを得て作ってみたカードです。今制作している作品は、もう二度と同じ作品として作れないかも・・・その時の“作ろう！”“作りたい！”“どうなってるんだろう？”“どうしたらいい？”の気持ちはその時にしか感じられないこと、その想いを書いてみようというところからのスタートでした。今回の修学旅行でも一語一絵で描いてもらいました。

修学旅行レポート

撮影者 組

撮影場所

撮影者コメント

昨年度の解説カードから
改善してみました



修学旅行・一語一絵
～思い出の1枚に思いを寄せて～

■撮影場所

■その時のときめきポイント

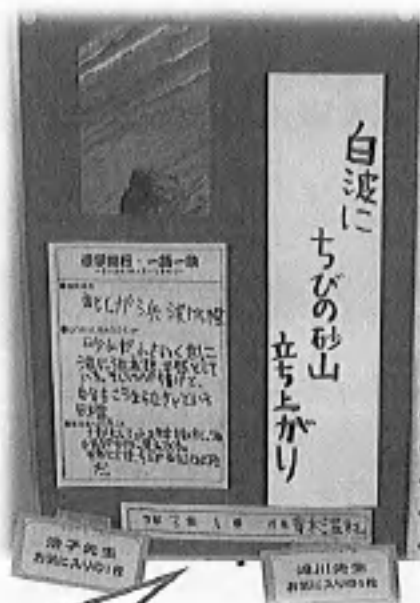
■鑑賞者へのひとこと

江別市立野幌中学校
3年 組 番 氏名

写真をきっかけに…つながる教科

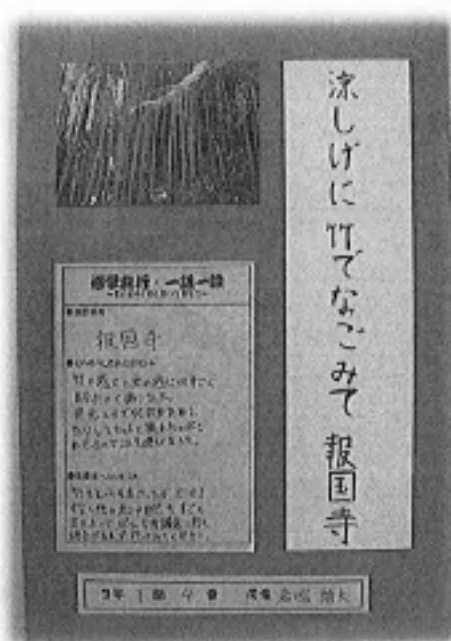
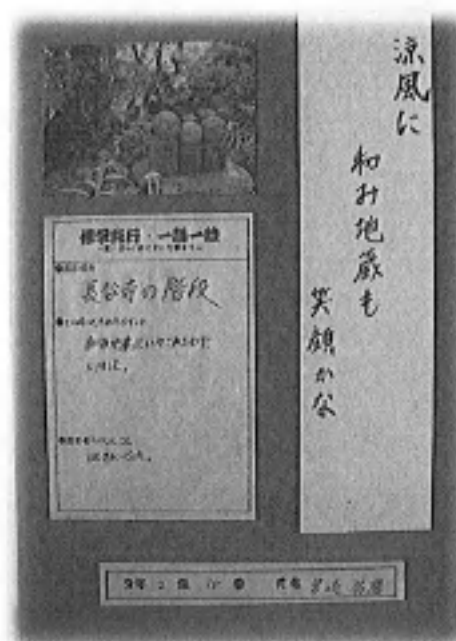
今年国語科とコラボ企画。国語科の先生が昨年の「修学旅行の写真」に興味を持って、「今年、国語科も一緒に取り組ませてもいいですか?」との声がありました。

国語科では「奥の細道」を参考に紀行文と俳句を作り、写真にその俳句を添える形になりました。国語の授業で俳句を詠む際、自分が撮ってきた写真を手に「どの写真にしようかな?」等、写真を見ながら俳句を考える楽しさがあったようです。国語科では「文字」からその情景をイメージさせることが本来の姿なのかもしれませんが、写真があることでよりその情景がイメージしやすいことや、「写真」に俳句を添えることで、写真の画像をどう意識で切り取っていたのかが伝わり、どちらにも活かされた取り組みとなりました。



写真に「俳句」をセットで掲示、「一語一絵」でその時の思いを書いてもらいました。その子にしかない感性を1枚で知ることができました。

写真だけの掲示よりも、写真に添えた俳句があるとその様子や、思いがひき立たせられる。



クラスごとに台紙の色を変え、撮影場所ごとに掲示しました。そのクラスの好みや特色が出ていました。



昨年は写真とミニレポートのみ。もう少しレポートに工夫があればと…。「伝える」がまだ弱い印象になってしまった。

つながるから広がる

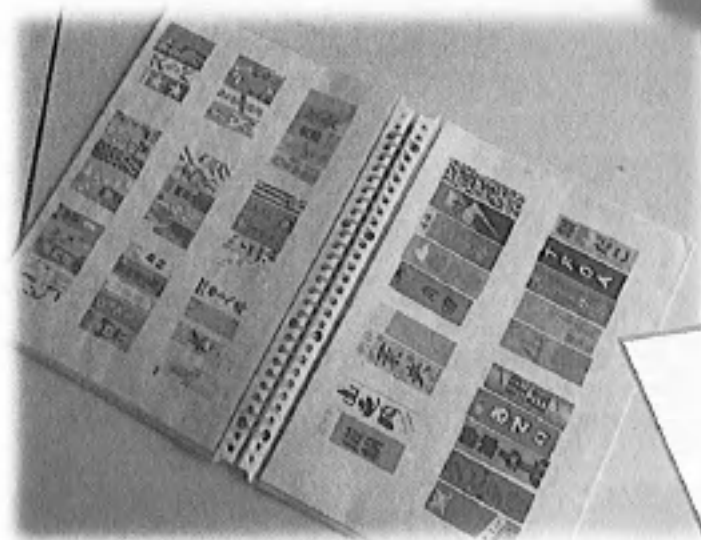
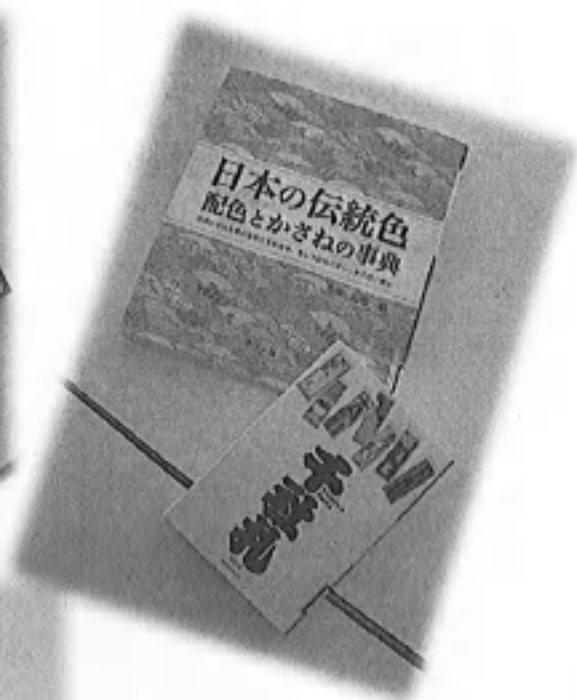
美術の授業時間が少ない。美術教師が少ない。時数が少ないという悪条件の中、授業だけでなく多くの人に生徒の作品や生徒の想いを共感してもらえるような場がたくさんあればと思っています。廊下に作品を掲示するだけでなく、教師側から見た授業の様子や題材感も触れると、鑑賞側にとっても作品の上手・下手（好み）で見るのではなく、制作者の想いをくみ取って鑑賞してもらえます。

今回の修学旅行の写真では、思い出の共有ができること、同じ場所でも視点が違うと景色が変わって見えること、共感し合えることの喜びを味わうことができました。今年もまた、そのやり取りを後輩が見ることで、次につながり、広がっていくことを期待しています。

生徒が撮ってくれた
「千社札」の写真を題材紹介で貼ってみました。提供してくれた生徒は喜んでいます。



生徒の「こうしたい！」の気持ちは、普段の生活からつながっています…。美術の授業だけでなく、「いいな」「きれい」「かっこいい」と感じることを大切にしたいです。



過去の生徒作品はデータで記録。いつでも参考資料として見られるように。「卒業した兄の作品を見たい！」との声も…。意外と盛り上がります。

姉妹で同じ札対決！「姉が自由制作でコナン（アニメ・名探偵コナン）を作ったんです。この間見せてもらいました。私も自由制作で好きなコナンを取り入れてみたいんです！これって作品対決ですよね！」と早く制作が終わった生徒には、自由制作で取り組ませています。みんな意欲的です。



授業の中で「交流」時間を取っていますが、刺激し合う場として盛り上がります。

「地域と育む美術教育～ご当地題材を通して身に付く力～」

実践発表の概要

美術室の中で繰り広げられる創造活動は、社会と繋がり、自分の生活へと還ってくるものだと考えている。美術は身近にあるということを実感してもらいたい。ここ数年、地域の特徴やよさを話し合わせ、それらを作品化することに取り組んでいる。例えば、地域の創作和菓子づくりやオリジナルマスコットキャラクター、オリジナルドリンクデザインなどである。ねらいはそれぞれにあり、作品を作ることだけが目的ではない。自分たちが住んでいる地域を生徒個々の視点で掘り下げ共有化し、地域のよさを再確認するとともに、新たな文化を創造していこうとする心情を養うことにある。その目的を達成するために「美術」というツールを使い、発達段階に応じた美術的な力を身に付けながら学習していくことで、これからの社会を生き抜いていく力が育まれるのではないかと考えている。

1 ご当地題材「オリジナルドリンクのデザイン」について

この題材は、自分たちが住む地域のよさや特色を発想の起点とし、ターゲットを設定したうえでパッケージデザインやロゴマークの作成をするものである。最大のねらいは「郷土愛」「文化創造」だが、様々なデザインの制作行程を踏みながら毎時間デザイン的スキルを身に付け、一つの作品として生み出してもらうものである。全8時間の題材。



①自分の会社を設立する

はじめに、生徒一人ひとりが会社を設立するという設定で授業がはじまる。社員はなし。全ての業務を一人でこなすハードなものだということを伝える。例えばどんな部署があるのか、デザイン、マーケティング、広報、開発、クレーム対応など生徒は色々と挙げてくる。会社設立に際して会社名とロゴマークの制作を残りの時間で行うことにした。例はTOYOTAやHONDAなど創始者の名前が会社名となりロゴマークになっているものを紹介し考え方の一例として挙げる。ワークシートいっぱいスケッチし、一つに絞り込んでいく過程はドリンク名のロゴマークの練習としても効果があったように思う。



②パッケージデザインの研究

2時間目、いよいよ自分の会社が設立され、ドリンクの開発をするのだが、ここで普段生徒がよく飲むドリンクのパッケージを研究していく。ワールドカフェのようなスタイルで種類毎に分けたパッケージの共通点や相違点、また工夫している点を話し合いながら模造紙に書き込み、クラス全体でシェアしていく。教師が説明すれば5分で終わるところ、あえて1時間を使って生徒によって気付かせ、共有し合うことで一人では気付かなかった視点や工夫点を知る機会となった。私が説明するのはどのような経緯で小売店の商品棚に並べられるかということ。配色やフォントとの関係で飲み物のイメージが伝わること、ターゲットを意識していることなど、この時間で生徒たちは様々なことに気付きました学び合い、自分のスキルにしていくのである。

③飲み物の開発とターゲット設定

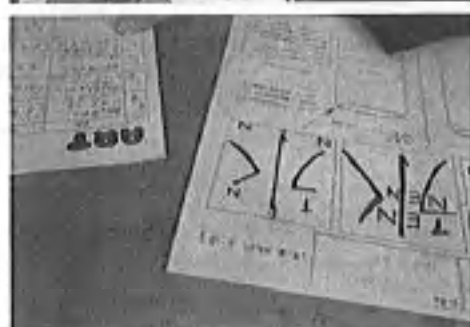
3時間目からはこの題材の最大のポイント「地域の特色を盛り込む」という過程に入っていく。知っているようで実は知らない地域の特色をそれぞれの地域に住む生徒と共に言葉として挙げていく作業である。みんなで挙げた地域の特色は共有化され、その中から自分はどれを使って飲み物をつくっていくのかを考える。

「自分の地域には、マイナスのイメージしかなかったけど、プラスのことがたくさん見つけられてよかった」というコメントが振り返りカードに書いてあった。この辺から生徒の意識が変わってくるのが分かる。題材が自分のものになっていく瞬間だと感じている。自分たちが住む地域のよさを笑顔で語り、発想・構想する能力を、楽しみながら高めている時間。「こうしよう！」「こうしてみたい！」という生徒の試行錯誤がはじまると、時間が経つのを忘れてアイデアスケッチに没頭するのである。

④ターゲットを意識した配色、ロゴデザインやパッケージデザイン

その後は、ターゲットを意識したロゴマーク、パッケージデザインに入っていく。これまでの自分の経験からターゲットとなる年齢や性別の好みそうな色やフォント、全体的なイメージを考えていく。

生徒が自ら設定したターゲットは実に多様だ。男子生徒が10代女子をターゲットにしようとした場合、自ら調査を開始しはじめる。女子生徒が使っている文房具のデザインを参考にフォントや配色などを決めていく生徒や直接女子生徒にデザインを見せながら「どっちが好き？」などと質問してまわる生徒も現





れてきた。50代以降の農作業をする人に向けた飲み物を考えている生徒は、自分の父や祖父のことを考え、デザインの参考にするなど生徒それぞれがしっかりと主題をもって制作に向かっていた。生徒たちの「こうしたい！」が色や形となってあらわれはじめ、多くの対話が生まれてくる。ある男子生徒が作ろうとしているドリンクは、自分の住む地域の祭りを主題にしていた。「夏、多くの人が祭りを楽しんだ後、暗い夜道を歩いて帰る。手に持つペットボトルが発光していて、家に帰る人達が蛍のように見える、そんな風景を作りたい」この話をグループの生徒と一緒に聞き、その風景を想像してみて、みんなで感動したことが印象に残っている。こうして作られたご当地オリジナルドリンクは、生徒の思いが詰まった世界に一つの作品となる。同じ言葉から作られたドリンクでもターゲットが違えば全く違うものとなり、鑑賞者

となった時、生徒個々の視点の違いやターゲットに対する考え方が見えてくるのである。

授業の目指すゴールはレタリングの上手い下手ではなく、ロゴマークの完成度でもない。どんな思いで地域を見つめ、地域の特色をどんな意図で文字や形、色で表現したのかというところにある。美術の授業を通



して地域を見つめることで今まで見えてこなかったよさや、変えていかなければいけないところ、伝承していくべき地域のよさなど多くのことに気付いてくるのである。



以前までは出来上がった作品は壁に掲示し鑑賞していたが、生徒たちから「自動販売機に入れてみたい」という声があがり、その年の夏休みに段ボールで自動販売機型の展示台を制作した。夏休み明け、生徒玄関にはこれまでなかった自動販売機が置かれているため、生徒は大興奮の様子だった。休み時間になる度に何人も生徒が鑑賞しにくるのである。自然と鑑賞会が行われパッケージデザインの色やロゴマークなどから味をイメージしたり、改善点を言い合ったりと批評しながら鑑賞していることに感心した。より生活に近い状態で展示したことによって生徒もすんなりと鑑賞する雰囲気になったように感じている。商品を選ぶという行為は普段の生活で何気なく行っているが、この授業を通して美術と生活とが密接に繋がっているということを意識するきっかけになったと思っている。このご当地ドリンクの自動販売機は地域の美術展へと出品し、本物の自動販売機の隣に設置した。多くの方々が驚きとともに、中学生の地域に対する思いや視点に共感している様子が伺えた。美術室で考え、悩み、試行錯誤して生み出された作品が、自分の生活や地域と繋がる実感になり、「新たな文

化を創造していこうとする意識」が芽生えることを願い、これからも続けていきたいと思っている。

2 地域と繋げる・広げる・共感する～地域限定の美術展～

各学年で取り組んできたご当地題材を地域の方々に見てもらい、共に地域について語り合う場を設けてみたいと考えていた。しかし、学校祭の展示のみだけであったため地域に暮らす方々との交流は図れていなかったのが現実である。しかし、3.11の震災を機に思いは変わる。

3.11の震災以降、「地域」や「ふるさと」といった概念は大きく意味を変えたように感じていた。一瞬にしてこれまでの生活基盤を崩壊させた津波。ごく当たり前に目の前にあった景色は一変し、瓦礫の山や更地になってしまったのだ。単にビジュアルの問題ではない。かつてその場にあった、匂いや雰囲気、息づかいまでも失ったのである。失って初めて考えさせられた「ふるさと」の意味。「ふるさと」って一体何だろうか？人々がそれぞれに思う「ふるさと」とはどういう存在なのか？見慣れた景色だけが「ふるさと」ではなく、人と人の繋がりや「地域」を思う人々の絆もまた「ふるさと」と呼べるのではないだろうか。そんな疑問を美術教育の視点で考えてみようと思ったのが、地域限定の美術展「神岡こどものまなざし展」である。子どもたちのまなざしの先を見ることによって、大人の私たちが、今、何をしなければいけないのか。子どもと大人の視点や思考がクロスオーバーすることによって地域の未来が見えてくるような、そんな展示会にしたいと考えた。「地域限定の美術展」という小さな小さな取り組みだが、美術的な視点だけでなく、その地域がもつ可能性や希望というものが見えてくるのではないだろうか。

これまで温めていた構想を企画書にまとめ、市の助成金を申請し、地域の幼保一体の子ども園や当時2校あった小学校、地域に暮らしのものを作り続けている作家に声をかけ全体で500点以上の作品が集まった。子ども園からは地域に伝わる伝説「おいだらぼっち」という巨人との心の交流を絵や立体で表現したものが出品された。小学生からは身の回りの自然を描いたものや、学校行事での思い出など、中学生からは地域を題材にした作品を出品した。地域の作家からは、ふるさとの美しい自然を切り取った写真作品、地域の土を使った陶芸作品など、どれも「ふるさと」を感じさせる作品が多く集まった。





展示は全て中学生が手伝い、展示会の出来上がるまでを体験してもらった。鑑賞の授業は会場で行い、子ども園の園児や先生と、または地域の方々がいらっしやる中で行うこともあった。会場はあたたかい雰囲気にもまれ、だれもが笑顔になっていたのが印象に残っている。地域に対する「思い」に溢れた空間は、その後の地域の未来を明るくしてくれるものと感じた。

左の写真は地域の自慢や要望などが書かれている短冊を一本の木にした作品、「神岡 希望の木」である。地域の子どもの年長さん、小学生、中学生全てに書いてもらった「想いの木」とも言える作品だ。この作品は展示会を象徴するものと考え、会場の中心に置くことにした。展示会場は土日ともなると多くの地域の方々が賑わい、この木を囲みながら談笑している姿が見られた。子どもたちの地域に対する「思い」は文字や色彩、形となって大人の私たちに訴えかけてくるのである。普段は気にしないで生活している地域だが、ほんの一時でも自分たちが住む地域を見つめ、そのよさを語り合い、未来を想像することができたのではないかなと思う。

初めて開催した地域の展示会だが、出品した地域の作家からは「来年もまたやろう！」という声をいただいた。「一人一人の小さな力でもみんなで集まれば、こんなにもすごいことができることが分かった」「自分の住む地域を誇りに思う」「小さい子から大人やお年寄りまでみんながそれぞれに思う地域の見方を見ることができて幸せな気持ちになった」など、鑑賞した生徒からも美術室だけで完結する授業では得ることのできない貴重な感想が寄せられた。美術が人を繋げ、人の輪を広げ、共に地域の未来を考えた機会になったと感じている。

第2回は、中学生の被災地交流を通して感じたことを主軸に「HOME」というテーマで開催した。被災地との交流で感じたこと、

考えたことをキーワードにアニメーションで表現した。生きることやふるさとの大切さ、ありがたさ、今自分が置かれている状況、スケール感など様々な視点で考えられたアニメーションがリレーとなって続いていく作品である。また、被災地から頂いた津波に負けず咲いた向日葵の種を育て、その向日葵から感じ取ったことを主題に平面作品を制作することとした。子どもたちが感じたことや考えたこと共感することは非常に大切である。地域の方々みんなで子どもたちの思いや希望を話し合う場をこれからもつくっていききたいと思う。

3 美術の可能性

これからの美術科の役割の一つに、作品などを介して中学生と地域とつなげていくことがあると考えている。さらに、制作の過程をより多くの人に伝えていかなければいけないとも感じている。美術教師は一つの作品が出来上がるまでの過程をよく知っている。その過程には多くの学びがあり、子どもの真剣な顔や悩んでいる姿、嬉しそうな表情や驚きの表情など多くのドラマがある。どんなことを考え、悩み、試行錯誤しその作品が出来上がったのかを写真や映像、作者のコメントで見せることにより、美術の授業の大切さがよりよく伝わるのではないだろうか。作品の中にある、子どもたちの思考の痕跡が見えてくると鑑賞は楽しくなる。対話も生まれ一人一人を深く理解することにもなる。これからも地域や地区の展示会では、授業中の子どもたちの表情や作品に込められた思いなども紹介していきたいと考えている。

教師が思い描くうまい作品を作らせるのではなく、子どもたち一人一人の思いに寄り添って、「こうしたい！」の支援をすることを常に心に留めておきたい。そのためには、毎時間活き活きと活動する子どもたちの授業を作っていかなければならない。ご当地題材で身に付けた力は、いずれ

社会に出たときに力を発揮することだと願っている。美術は自分の人生を豊かにするだけではなく、社会を変えることも、世界を救うことだってできる。今の生徒がいずれ子をもつ親となり、地域を牽引する立場になった時、美術の授業を思い出してもらいたい。地域を守る者、世界へ出る者、社会を変えていこうとする者など様々だと思うが、その者の考えの基礎として美術での学びが生かされていることを切に願っている。

10年後の未来のために、今わたしたちができること。それは日々の授業を見つめ直すこと。作品だけを作らせる授業ではなく、思考のプロセスの大切さや自分なりの価値観をもつことの大切さ、他者の考えや思いに触れ、視野を広げていくことの大切さを伝えていかなければいけないと思う。常に学び続ける姿勢を忘れずに、これからも楽しく、力になる授業を生徒とともに作り続けていきたい。



「地域とつながる 地域をつなげる」

～ わだば、アンテナになる ～

実践発表の概要

中学生が、学校でどんなことを学んでいるのか、地域の方々に知ってもらい機会がもっと必要だと考えている。学校を開かれた場にするということのみならず、学校を飛び出し、交流していくことで、色々と見えてくるものがある。

美術の授業、そこで子ども達がどんなことを考え、悩み、そして何を学んでいるのか。美術展では、作品と一緒に、生徒の感想文などコメントも展示した。そのことで、対話が生まれ、地域の大人達が、中学生に興味をもつきっかけにもなった。昨年度、今度はその作品展を学区内の四つの小学校へ「移動美術展」として、巡回展を実施した。小学生が、中学校美術の授業の様子を知り、図工と美術の連続性に気づいたり、関心をもったりすることで、中1ギャップの解消にもつなげたい。また、小学生の感想文を掲示することで、中学生にも意欲をもたせたいと考えた。

一昨年から取り組んでいる「包装紙のデザイン」では、子ども達が実際の商店街の包装紙をデザインした。実際に使われることで、地域の方々に美術の学びを知っていただくことができたし、何より生徒にとって励みになった。

今回の発表では、日々の授業で大事にしていること、そして地域とつながるこれら二つの取り組みを中心に、棟方志功の出身地、青森県から「地域とつながる 地域をつなげる」と題しまして、地域社会とつながることをテーマに、お話しさせていただきます。若き志功は、ゴッホの『ひまわり』と出会い、「わだば、ゴッホになる！」（私はゴッホのようになります）と叫んだという。私も、地域とつながり、地域をつなげていく送受信の情報アンテナの役割になりたいと考えます。「わだば、アンテナになる！」

1 目の前の子どもの姿から

小湊中学校は、本州最北端青森県のほぼ中央に位置する平内町にあり、全校生徒165名（各学年2学級、特別支援1学級、計7学級）である。北方は陸奥湾に夏泊半島が突出した形で、南北に山岳地帯があり、中央部が平地となっていて里山型を呈している。学校周辺は平内町のほぼ中心で、官公庁、金融機関、商店街があり、町の中心地域を形成している。サラリーマン家庭が多く、隣接する青森市に通勤している保護者も多い。一方、海岸部では、ホタテ養殖を主としている漁家がほとんどである。また、近隣の青森市との交流が多いことから、学校教育に対する保護者の関心は高い。明るく素直で、純朴な生徒が多い一方、授業における積極的な発言は少なく、「対話による鑑賞」等では、発言を引き出すのに苦勞する。また、表現中心の授業でも、豊かな発想をする力や、それらをまとめ制作に結びつけていく構想の力が不足している。その原因として、生徒がこれまで発想や構想のよさに触れる経験が少ない、あるいは身近にそれらがあっても、そのよさに気付いていなかったからではないかと考える。また、学習過程において、他者と交流する場面が少ないため、発想や構想が自己完結してしまい、それらが広がりや豊かさに結び付いていかなかったということ等も考えられる。生徒の中にある、凝り固まった感じ方や考え方、つまり固定化された概念から脱却し、様々な表現の中によさや美しさを感じ取れる柔軟な心を育てることは、まさに重要な役割であると考えます。

2 日々の授業実践で大事にしていること

① 発想や構想の能力を高めさせるための3つの交流



表現中心の題材における指導過程では、生徒が相互に交流する場面を意図的に設定している。まず、題材の導入段階で、先輩生徒の作品や作家の作品を鑑賞し、意見交流する。次に、制作前のアイデアスケッチの段階での交流場面。短時間で、アイデアスケッチが描かれたワークシート等を、各座席に回覧させるものである。自分の作品が仲間から認められるという体験を通して、自己肯定感を育むことにつながると考えている。また、級友のアイデアスケッチを通して意見交換することで、自他の

理解にもつながり、お互いに影響し合い、発想を広げることができると考える。そして、まとめとして、完成した作品をプレゼンテーションしたり、展示発表することで再度交流する。「発想や構想の能力」は生徒の創造性を育成していくことにとって極めて重要な基礎的能力の一つであり、これらの能力は、試行錯誤を繰り返し、変更や修正を加えながら、さらによいものへと創意工夫をしながら循環的に高まるものである。これらの能力を高めるためには、表現や鑑賞の活動の中に、級友や、他者から認められる「他者による評価」の場面や、「対話による交流」によってあたたかく認め合える雰囲気をつくっていくことが重要であると考え。

▼ 3つの交流で高まる発想や構想の能力



② 『私の作品集』(ポートフォリオ)づくり



授業中の板書、アイデアスケッチ、感想や自己評価等を、年間で一冊にまとめるため、B5版の小さなスケッチブックを活用している。自分の作品に愛着がわくよう、表紙は一学期をかけて各自でデザインする。完成した作品の写真を貼って、制作の意図や工夫した点など、振り返りを記入し、いつでも自分の「学び」を確かめることができるようにしたい。

③ 評価カードの取り組み

美術 評価カード (1学期)



各学期末、生徒に手渡される通知表には、A・B・Cの観点別評価と5段階の評定が付けられる。作品の評価が、そのまま通知表の評定ととらえられがちな教科としての課題がある。保護者から「どうしてこの評定なのか」と問われた際の説明責任もある。我々教師の評価は、作品そのものをランク付けしたり、値踏みしたりするものではない。大事なことは、学習を通して育成する資質や能力を明確にして指導にあたることであり、その指導によって、生徒にどんな力が身に付いたのかを評価していくということではないだろうか。評価するということは、生徒をチェックするという姿勢ではなく、一人一人の生徒の今後の学習活動や表現にどのようにつなげていくのかということであると考える。そこで、学期ごとに、学習の成果（作品の写真・途中経過の写真・自己評価・生徒自身のコメント・教師からのコメント等）を載せた「評価カード」やプリントアウトした「写真」を配布した。客観的に自分を見つめ直す機会として役立つのではないかと考えている。

3 地域社会とのつながり

① 「包装紙のデザイン」の取り組み

1 題材名 「包装紙のデザイン」～地域活性デザインプロジェクト～

第2学年「A表現」(2)(3)「B鑑賞」(13時間)

2 題材について



本題材では、地域の商店で実際に使用されている包装紙のデザインから、身の回りや生活の中のデザインの働きに関心を持ち、生活を豊かにするために色彩や形がどのような働きをしているかを理解し、商品を買った多くの人が楽しくなるようなデザインのイメージを持って自らも関わりながら心豊かに生活を創造していこうとする態度を養うこととした。また、学区内の地域の商店街や商工会議所等との連携を図り、実際にコン

ベ形式でプレゼンテーションする活動を通し、自分たちの住む地域の活性化など社会へ参画しようとする意識も育てたいと考えた。題材全体を通して、美術と地域や社会との関わりを意識させるとともに、視覚伝達デザインの学習から目的意識を持って課題に取り組む力を育てる事を主眼に置き、授業実践に取り組みたいと考えた。

3 指導過程

(1) 題材をつかむ【鑑賞】(1時間)

- ・包装紙の要素等について理解し、味や特徴、イメージ、購入する者の気持ちなどを意見交流する。

関包装紙のデザインに関心を持ち、主体的に見方や理解を深めようとしている。

鑑実際の店舗の包装紙を鑑賞することで効果的な形や色彩について、その良さや美しさを味わい、理解する。



(2) 発想する(2時間)

- ・デザインしたい店舗を決め、店の雰囲気やイメージ、客層などからコンセプトを考え、企画書をつくる。
- ・自分の店舗の企画に必要な資料を集め、アイデアスケッチをする。

発イメージや、集めた資料などから、アイデアスケッチを描いている。

(3) 構想を練る(2時間)

- ・企画書やアイデアスケッチを基に各自のデザインのコンセプトを班で説明し合う。
- ・他者の助言等を基に構想に修正を加え、アイデアスケッチを練り直す。

発商品のイメージを伝えるために形や色彩などの効果を考え、単純化や省略、強調するなど、造形的な美しさを踏まえて表現の構想を練る。

(4) 包装紙をデザインする(6時間)

- ・企画書を持ち寄り、商品のイメージが的確に伝わるかなどグループ内で検討する。
- ・描材やコンピュータなどの特性を生かし、表現方法を工夫して表現する。

技表現方法の特性などから制作の順序などを考え、見通しを持って制作する。

(5) コンピュータ処理と発表準備(1時間)

- ・できあがった作品をスキャナーで取り込み、文字入れやプリントアウトなどを行う。

(6) プレゼンテーション(1時間)

- ・お互いの完成作品を鑑賞し、デザインのコンセプト、形や色彩の効果などの工夫をとらえ、批評し合う。
- ・グラフィックデザイナーをゲストティーチャーに招き、講評をいただく。

鑑作品鑑賞を通し、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、見方を深める。

【生徒の感想から】

- 今日の授業では、他のグループの発表をきいて、自分には思いつかないようなアイデアや表現がたくさんあってすごくびっくりした。発表が全部終わったあと、自分の考えたデザインをみたら、この店の良い所を工夫して伝えられたらもっといいデザインにすることができたなあと思った。
- 包装紙のデザインはふだん何気なく見ているけど、自分たちでつくってみるとすごく大変で、この仕事をしている人はとてもすごいと思いました。デザインは自分の案にならなかったけど、みんなのできたので良かった。かわいくなって良かった。

【協力していただいた商店の感想から】

- これから、社会人になるにあたって、勉強になると思います。自分で考えることで、町の中を見回し、視野が広がるのではないのでしょうか。
- お客さんにも好評でした。包装紙がかわいいので欲しいと来られた方もいらっしゃいました。
- 地元の商店が衰退して行く中で、中学生目線でできることがあると実感しました。町の活性化につながって欲しい。



この「包装紙のデザイン」の取り組みは、キャリア教育の考え方と関連している。現在、全国で多くの中学校が職場体験を実施している。例えば本実践のような取り組みでは、実際に体験をする職場でデザインするなど、総合的な学習の時間や職場体験と連動して実施できる可能性が大いにある。

キャリア教育を通して、その教科をなぜ学ぶのか、なぜ学ばなければならないのか、なぜ重要な

のかということを生徒が実感できる授業づくり、言い換えれば、生徒一人一人が、自分自身の良さや、能力、適性に気づき、可能性を広げようという意欲が高まる授業づくりが求められている。自分と社会とのつながりを意識させ、学ぶ価値を感じさせていくことができれば、学習意欲にもつながり、未来をたくましく生きていく自信につながるものとする。美術科の教科としてのねらいや目標が、キャリア教育という視点で捉え直すことで、効果的に「生きてはたらく美術」につながるのではないだろうか。そのことは、美術科の存在意義を大きく示すことにもなると考えている。

② 学区の小学校を巡回「移動美術展」の取り組み

学区内の四つの小学校へ「移動美術展」として、巡回展を実施した。小学生が、中学校美術の授業の様子を知り、図工と美術の連続性に気づいたり、関心をもったりすることで、中1ギャップの解消にもつなげたい。また、展覧会のみならず、小学校の授業に中学生が訪問し、自らの作品についてギャラリートークをして交流する場面も設定した。小学生の書いた感想文は、中学校の廊下に掲示した。小学生との交流を通して、中学生にも意欲をもたせることができた。



この取り組みは、小学校にちょっとした展示スペースさえあればできるので、今年度、人事異動により転勤になったのだが、早速、学区の小学校にお願いし、中学校の文化祭後に実施する予定である。

③ 地域素材・題材の開発

地域素材を生かした題材に取り組んでいる。特にデザインや工芸の学習では、美術が生活を豊かにするということを実感させ、「生きてはたらく美術」につながっている。地域の中学生にとっては、「地域ブランド」を学ぶことで、その造形的な美しさだけでなく、地域の先人の知恵を理解し、「地域ブランド」を育成することにもつながっている。地域題材を通して美術文化を共感的に受け止め、継承し、新たな文化を創造していく態度を育てていきたいと考えている。



▲弘前市の Bunaco 工芸をヒントに紙テープで

④ 地域の美術館との連携

地域の美術館との連携も課題である。子ども達の学習の資源であるのに、なかなか活用されないという実態がある。学校事情もあるだろうが、積極的に取り組んでいきたい。一方、美術館側も、特に教育普及の担当者は、学校との連携を模索している。お互いが、どんなモノを持っているのか、どんなことを欲しているのかを相互に理解する必要があるのではないだろうか。敷居が高いものと考えず、まずは美術館へ足を運びたい。

▼青森県立美術館



3/12 弘前中学校2年 07 美術科授業



▲鑑賞サポーターによるギャラリートークメモ

▼十和田市現代美術館



4 おわりに

地域社会と、子ども達の学びとを結びつける取り組み。子ども達の学習が、実社会で生きて働くということを実感させることは重要であると考えます。そして、同時に中学校の美術の良さを地域の方やたくさんの人に知ってもらうこと、発信していくことも、これからの学校では必要なことである。

だからこそ、送受信のアンテナの感度をあげなければならない。 — 「わだば、アンテナになる！」である。

「こうしたい」をしかけるささやかな手立てたち

はじめに
実践発表の概要

子どもの頭なり手なりが創造的な活動をスタートさせているなかで悩む分には、大いに悩んでほしいところです。その一方で、根本で悩む子どもへの手立ても必要です。全体に栄養が行き渡り、個に応じた栄養も届く。子どもたちがそれぞれの「こうしたい」を抱いて表現に臨むことができれば、図工美術は素敵な時間になります。でも教師の思い通りにはなりません。魅力ある題材なのに、子どもの手に渡るといま一つ。なにが子どもを揺さぶったのか、あとからわかることも少なくありません。

これからご紹介する実践は、題材を工夫したり、見つめ直したりした、ささやかな手探りの軌跡です。少なくとも目の前にいるひとりの子どもが、一歩深く悩めるようになり、表現したい色や形や材料を見い出せた…そんなはたらきかけになっていそうなことを、自分なりに振り返ったものです。題材の「根っこ」からは違い…と反省する傍ら、大きく2つに整理して綴ってみました。

① こんな題材にしてみました。

題材を考える過程で、子どもの発想の場面のなかに

◇普段の身の回りを見渡すとなかにネタがありそう。(⇒実生活)

◇日常をふりかえることからヒントを拾えそうなもの。(⇒実体験)

を、意識できるように考えてみることにしています。子どもが構想を練るとき、この辺を出発しているような気がしています。生活・体験を出発点としておくと、「こうしたい」という思いが湧きやすいように思うのです。そして、題材を検討するときに、もうひとつ考えることがあります。

それは、題材の設定や名前が「へんてこ」にできないかな…ということです。

(1) 風変わりな設定。

「自分たちの生活を見つめて」という題材があったとすると、できるだけ「なんだ？」と子どもに思わせる「設定」や「題材名」を工夫しようと考えます。小学校の先生は、題材名を考えるのが上手で、しかも自然とわくわくしてくるような題材名にしている印象があります。子どもの心を揺り起こして、温かいまなざしで仲間を見つめる題材にしていくのは魅力的です。実態によって、題材名のあり方はいろいろです。

① 日常が非日常へと転じる。

私がうまく子どもに渡せなかった題材に「ボックスアート」があります。どうしようか考えているとき、トイレットペーパーの芯のなかに、小さな世界を表現する作家の作品と出会いました。この作家との出会いなくして、この題材は生まれませんでした。ただ、トイレットペーパーの芯に表現するのは子どもには難しい。そこで、ガムテープの芯材程度の太さに変更して、その筒をボックスの代わりにしました。

私はこの題材名を「こっそり暮らす人々」にしました。「もし小人のようなヒトビトが、身近でこっそり暮らしていたとしたら、どんな場所でどんなことをしているのだろう…」という導入です。作家を紹介する言葉のなかに、この一文がそのまま載っていて、これがそのままアプローチの言葉となりました。思いもよらず、変わった題材名になりましたが、設定が伝わりやすくていいと思いました。

実は、この題材に入る前、制作が早く終わった子どもに、「次ね、コレ作るよ。こっそり見といて」といい、トイレットペーパーの芯を覗いてもらいました。子どもが一瞬「？」となったあと「ニヤッ」として、すぐに自分の席でアイデアスケッチを始めた姿があり、このことも手応えとなりました。

この題材は、自分の日常を架空の設定に持ち込むことで、例えば

自分の日常(現実)：部活で、バレーボールに明け暮れる。

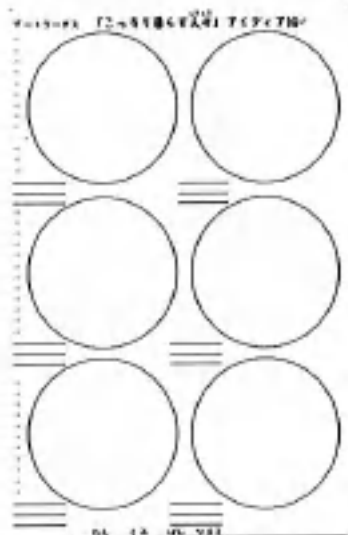
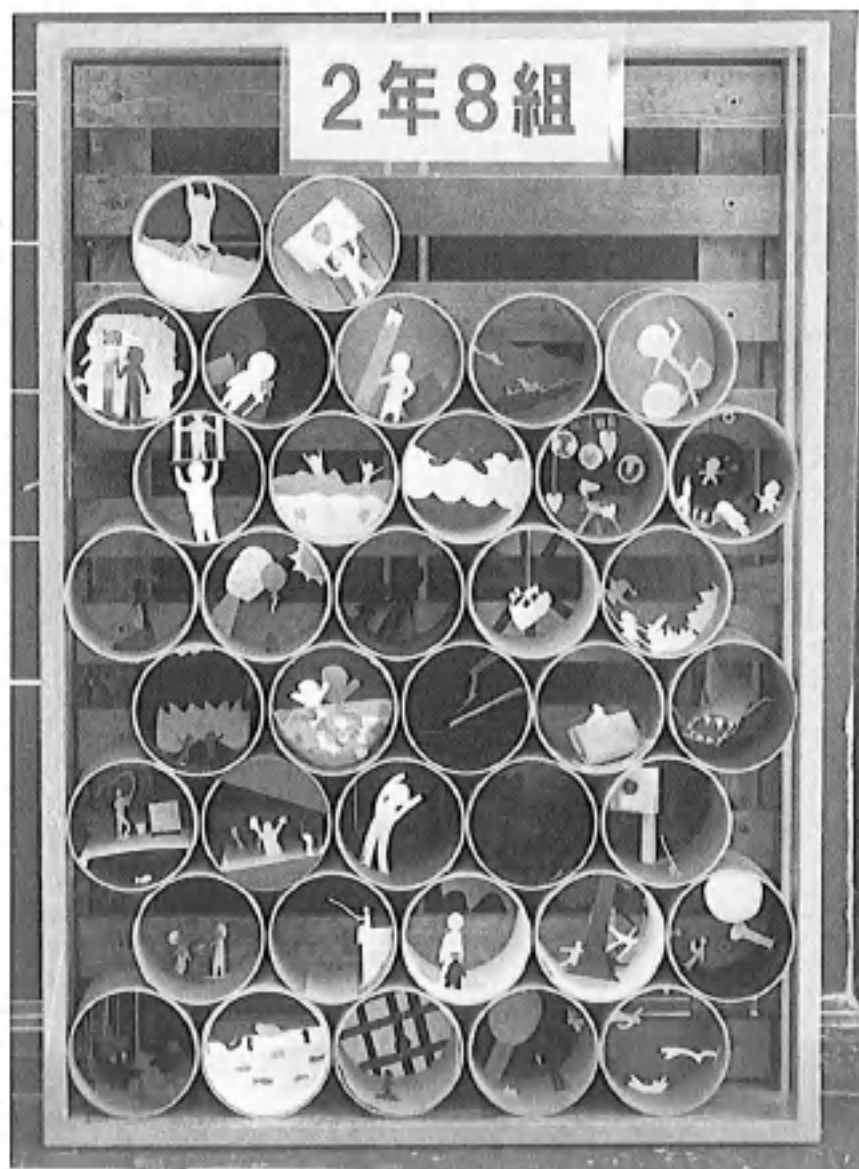
という自分の現実世界のできごとが、

非日常(空想)：小さな人々が、バレーのネットを、通気孔のようなあなぐらのなかに張って、こっそりバレーボールを楽しんでいる。

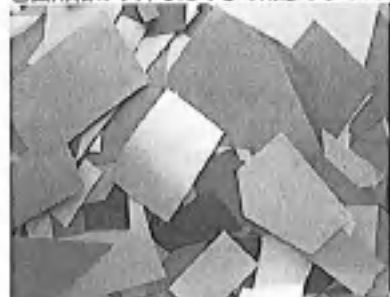
に結びついていきます。

日常のなかにヒントがあるので、日常のどの場面にするかで「ピンとこない」という状況はあっても、発想のきっかけが全くない状態は避けることができます。選ぶことでは迷うかもしれないけれど、少なくとも何も思い浮かばない感じにはなりません。そこに「こうしてみようかな」が生まれることを期待しました。この題材は、思いっきり空想力を働かせた子どもにも、おおよそ楽しんでもらえたような気がしま

す。当たり前の日常が、いともあっさり非日常へと転じていくのは、見ていて面白かったです。



色画用紙の小片もたくさん用意しました



②「へんてこ」な題材名。

発想のきっかけのなにもかもが「日常と非日常の結びつきによる」わけではありませんから、そんなときは、題材名だけでもどこか風変わりにするよう試みています。いくつかご紹介します。

教科書にある 題材名	へんてこにした 題材名	内 容 *子どもの「こうしたい」的コメントも載せてみました。
美術1 顔をつくる	ちらしが…おっ? (チラシ顔)	①新聞などのチラシを使った顔のコラージュ。「いいの見たね」なんて子どもと話も弾みます。「合う形ないかな。あの色ないかな」2h~3h
美術1 遊び心	かべからによつきり はえてきた	①ある日突然、家の中に立体がはえてくる。お家の人を驚かせたりニヤリとさせたり。設置場所も広がって、天井になったり、床になったり。「こんなの飛び出てきたら面白いな」「どこにおこうかな」4h~5h
美術1 使いやすさを求めて	ばけパッケージ	①パッと見は果物や野菜なのに、ふたやストローをさすところがついていて…中身は一体なに? 5h~6h
美術1 楽しく伝える	ニコッとさせる メッセージカード	①表紙に1箇所穴があるというのが条件。チラッと見た色や形でカードをもらった人が聞いてみると、あれあれ? おやおや? 意外性を笑顔に変えようという目標で表現します。「この部分を別のあの雰囲気に見せかけたいな」3h~4h

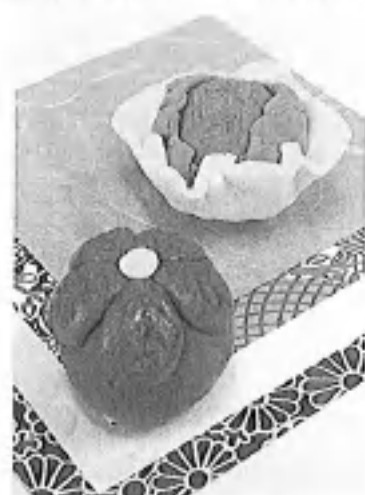
美術 2・3 上 思いを立体で 風景に思いを込めて	こっそり暮らす人々	②家の換気口、お茶の缶、バームクーヘンの穴、掃除機の棒の中…身近な筒状の空間でこっそり暮らす人々の様々な様子を表現したり、小さな人に自分の生活を投影したり。色画用紙中心の作品。6h~7h
美術 2・3 上 まとめる方法と工夫	トウモロコシの 2 4 わらし ~〇〇の〇〇な1日~	③白画像系の制作の前にとりくみます。自分らしさを1日の流れのなかで表現し作品にします。交流するなかで自己理解・他者理解の深まりを願いつつ。6h
美術 2・3 上 手でつくる楽しみ	おうちのどこかに やじろべえ	④木材工芸。ドイツのバランサーフェアリーという伝統的なやじろべえです。オモリがひとつで、結構なゆれ方をするのが楽しいです。見本のゆれ具合を見て「あの形をこんな風に、お家のあの場所で揺らしたい」が出てきやすいです。7h~8h
美術 2・3 下 空間の演出	一人暮らしを始める 部屋	⑤上からのぞいた感じで部屋をデザインしてみようという作品。透視図法を勉強したあとの題材ですが「なんとなく一点透視」でもOK。卒業間近の3年生に「一人暮らし」という話をすると意外に盛り上がります。構想や表現も追求し始めます。「こんな色のカーテンが」「こんな形のテーブルを」5h~6h
美術 2・3 下 街の中に 息づくアート	通りすがりの人に 「これなんだろうね？」 といわせてみよう	⑥自分の知っている場所に設置することをイメージして、「なんだろう」と街の人にいわせるため、粘土で抽象的な立体表現(模型)にとりくみます。4h~6h

かなり、強引に「へんてこ」にしたものや、意外と普通になった題材名もありますが、それなりに考えた甲斐もあったかな…と感じています。ただ、やっぱりいえることは、題材名を変えるばかりではだめだということ。前の学校で一緒にさせていただいた先生が「和菓子に思う」という題材名で、じっくりと和菓子の模型づくりをやっていました。しつとりと題材と向き合う時間も、またいいものです。私もマネして「和菓子に思ふ」にして、やってみました。

(2) 材料で引き出す。

①材料と題材が響きあう。

「和菓子に思う」を实践されていた先生は、用意して下さる材料がとにかく素晴らしいです。材料をよく吟味されておられます。粘土も混ぜるといい色が出るものを見つけてきて、自分が「こんな色にしたい」という色探しからさせていました。出来上がりの質感も、和菓子の雰囲気を感じられます。私も見習って和菓子の模型づくりをさせてみました。こんなにも色にこだわっている子どもを初めて見ました。



「ずーっと混ぜていたい」そういって粘土置き場に集まり、いろんな色を出すために努力する立ちっぴなしの姿に見とれました。題材と材料が響きあうと素敵なことが起こることを改めて思いました。

こうしてできた和菓子の説明コメント欄には、いつになくたくさんコメントが記入されていました。いまの学校でできそうかな…と悩みつつ、粘土だけは購入しました。

②探せばなにかありそう。

1年生の題材「チラシが…おっ？（顔をつくる）」では、チラシをいっぱい用意しました。顔のパーツになるものを、印刷物の色・形から探し出し、表情をつくるというものです。10個の机を並べ、「こんなチラシがあるね、あんなチラシもあるよ。宝の山だよ」そういいながら、目の前でチラシをまきます。

ワゴンセールの会場設営が終わりました。子どものお尻は半分宙に浮いています。「いいよ、とりにおいで」というと、チラシに群がる子どもです。「あれが使えるね」「これもいいよ」「丸いのないかな」「あっちにあったよ」と素敵な会話を交わしながら、顔のパーツ探しが進みます。

やっぱり、パーゲンセール状態になりました。



こうした風景を見るたび、イメージを膨らませるために、材料と向かいあうことの大切さを感じます。

2時間で完成させるところを、1時間もたずに完成させてしまった子どもがいました。目を2つ、口を1つで構成した顔を、小さく2つ作っていました。表情はあまり工夫したようには感じられませんが、なんともいえません。こんなときの「できました！」に対して、「もうちょっとがんばれ」はいわないようにしています。「いいのできたね」をいって、「じゃ、まめ課題<図(3)参照のこと>やってね」とします。

次の授業のとき、返された作品を見て、その子が「ちょっともの足りないから、もう少し貼ってみてもいいですか」といってくるのを期待しています。

もちろん、この子が、今回そう申し出てこなくてもいいのです。いつかの題材のときに気がついてくれることを信じてみるのも、こうしたいを引き出す手立てだと思っています。



(3) 言葉と絵で考える。

題材を子どもに渡すとき「言葉と絵で考えるワークシート」を準備してみました。そうした準備の裏には「アイデアが思い浮かばない」「イメージが湧かない」「発想が苦手」「構想を思いつかない」「美術とか面倒」そんな風に、子どもがつぶやいていた背景があります。ただ、考えているときほど「ああだ、こうだ」と言うものでしょうし、本当に生みの苦しみから出るつぶやきだったのかもしれない。

いい感じで悩んでいるときには「こうしたい」があるときです。頭の働いている感じが、ワークシートに向かう姿勢から伝わってきます。

ここでご紹介するのは、落書きのようなスケッチも描き起こすことがためられる子ども、一步を踏み出せない子どもに「なにか手立てはないか」と考えていたときに、ワークシートを2種類用意することを思いついたものです。本当に子どもが「発想・構想⇒こうしたい」の第一歩を踏み出せるのかも未知数でしたが、まずはやってみようと思いました。

①トークしながらメモをする紙。

「24～〇〇な〇〇の1日～」という題材で使っているワークシートは、時系列で1日をまとめられるメモ用紙とドローイングスペースが表裏に印刷されています。「好きな方から使ってみましょう」といって配ります。

この「24」は、これから進路に向かう3年生がお互いの生活ぶりを垣間見ることで、お互いに共感しあったり理解しあうことを狙っています。「自画像」の前の題材なので、こちらにも少しプラスになることを期待しています。

この作品の発想段階は、雑談です。私が「朝、どうやって起きる？ケータイが目覚ましのヒト」「じゃ、ほんとの目覚まし時計で起きるヒト」などと質問を投げかけていきます。

「ミュージックプレーヤーのタイマーをセットしておくヒト」に対して「え、そんなヒトいるの？」と驚く子どもが出るあたりから話が弾んできます。

「私、〇〇の曲でいつも起きるよ」「ああ、そうなんだ。やるね」

「おれ、母さんにたたき起こされる」(一同笑)

「朝の起き方ひとつとってみても、人それぞれだよな。そんなところにも注目してごらん」

こうしたやりとりの間に、ワークシートにメモをする子どもを見かけます。

「オレA型気質だから、めっちゃきれい好き」

「私、掃除ぜんぜんだめ」

「そうなの？そんな風に見えないけど。何型？」

「A型」

こんな会話が、自然と進みます。

「俺って、どんなやつなの？」

「さわがしい」

「そうそう、いっつもうるさいよね」

「で、女の子と楽しそうにしてる！」

「え？おれってそんな風に見えないの？」

と頭を抱える彼。それをフォローする女子から

「『明るい』で、いいんじゃない？」

「え、明るいオレ…」

彼はタイトルで悩んでいました。

本当は違うイメージで考えていたんでしょね、

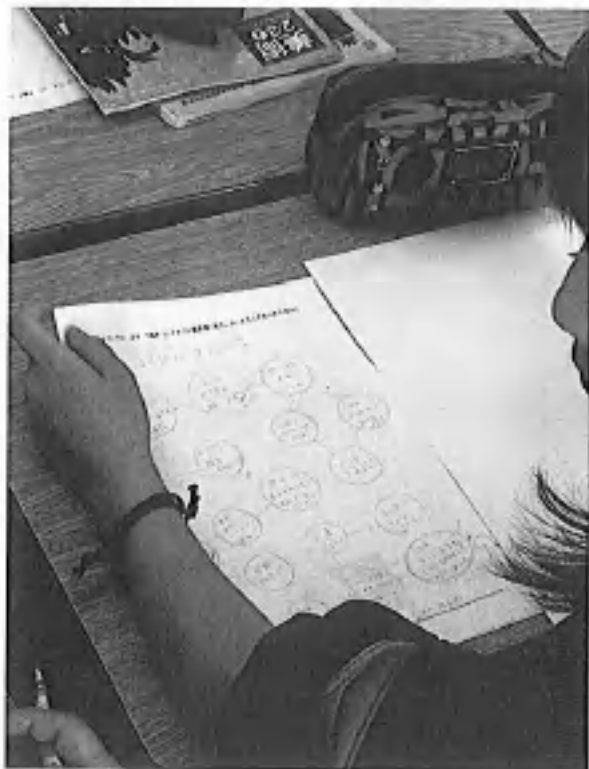
結局、たどり着いたタイトルが「日常」。

タイトルがあって、エピソードがあって、それが1日の流れのなかに組み込まれてつむがれていく。

それらを「効果的に伝える」ためのマイキャラクターや色、形、レイアウト、画材などをどう工夫するか…そうしたことが、この作品のポイントです。

アイデアをスケッチするところで悩む子どもには、「描けないけれどメモはしておくか」という状況にしておけば、頭をはたらかせるきっかけを準備できます。言葉にしたときに、自分は「どうしたいのか」が少しでも明確になることを期待する、そんなワークシートです。

こうしたワークシートが役に立つなんて、何人いるのか疑問です。その後の題材で、「なんか描けないぞ」となったとき「じゃまず言葉で考えてみようかな」で、スタートできた子どもがいれば幸いです。



②方向性を整理→選択できる。

脇役を主役にするために知恵を絞る…「主役は効果音」という題材です。

擬態語や擬声語が主役として見る人に伝わるように、どう画面を作っていくか、というものです。

ここでは、抽象的表現を試みる子どもと具象で表現する子どもが出てきます。

具体的なものをあまりにもしっかり描きこむと、主役である効果音が、結局脇役になってしまうので、どうすればそうならないかを考えます。

それは、伝える効果を踏まえ、効果音の文字を大きくするとか、背景と文字の色のバランスを図る、レタリングを工夫する、文字を入れる場所を工夫するなど工夫していくことができます。

では、具体的なものとして何を描くことにするか…そこが問題になってきます。

そのとき、抽象的な表現と比較して、どうしたいかを自分の力で選んでいくことはできないかと考えて、ワークシートを準備しました。例えば「し〜ん」という擬音語について子どもが考えたといいます。

候補①「し〜ん」に対するいろいろな考え。

☆感覚的なイメージ ①「静かな感じ」

②「なにもない感じ」「無」

③「音のない感じ」

★具体的なイメージ ①「遊びに行くおじいちゃん家の奥の方が、静かな感じがする」

②「宇宙空間」「森のなか」

③「グジャレで滑ったとき」「クラスでしけたとき」

こうしたことを思いついたとしたら、整理整頓できた方が望ましいと思ったのです。

「抽象とは」ということを詳しく説明しなくても、そこにつながるキーワードがメモとして残れば、子どもの様子をみながら、具象・抽象表現に関わって、なにか対話をする場面も作れるだろうと考えました。

こちらも、「24」と同様、すでに色や形のイメージが湧いている子どもや、とにかく描きながら考えた子どもにはあまり意味のないものかもしれません。

「アイデアスケッチ編」と「言葉で整理する編」を表裏印刷して、好きな方を好きに使うことにしています。

両方使う子どももいれば、どちらかを使っている子どももいますが、どちらかの空欄を指摘するようなことはしません。



アートワークス 主役は効果音(擬音語・擬音語・擬音語)

マンガなどに多く使われている効果音文字には、イメージを盛り込んでみよう。
 ぱたぱた ドスドス コリコリ ビキビキ コイコイ ドーンドーン キョロキョロ
 カサカサ フンファン モリモリ ブーブー によるよる ビービー キョーキョー
 まよまよ じりじり びびびび など、マンガのストーリーをいざなげらるる「効果音」
 としての効果音も、今回は「主役」に大活躍をさせてあげよう。

- ① 自然音(鳥のさえずりや虫の音など)を表現したもの。
- ② ムード(静かや騒々)。
- ③ ブーブー(轟くような音)やドーン(大きな音)。
- ④ びびび(心細い様子)。
- ⑤ ぱたぱた(紙の音)。
- ⑥ びびび(静かな様子)。
- ⑦ ジーン(静かな様子)。
- ⑧ 自然音(鳥のさえずりや虫の音など)を表現したもの。
- ⑨ 静かな様子(静かや騒々)。
- ⑩ びびび(静かな様子)。
- ⑪ びびび(静かな様子)。
- ⑫ びびび(静かな様子)。



② こんな環境にしてみた。

(1) ^{フライヤー}チラシだらけの教室。

日常のなかにネタを探せばかりが、発想を湧きやすくなるしかけではないと思っています。ふと周りを見渡すと、始めたのが「チラシを貼りまくる」です。なので、美術室にはとにかくいろんなチラシを貼っています。美術館のチラシは、圧倒的に多いです。近代美術館や芸術の森に行ったときには、展覧会情報をチラシコーナーからもらってきます。それを美術室の壁に貼りまくる。「え？これも美術なの？こんな風に表現していいんだ」という気持ちで、子どもの表現のなかに生きてきてほしいという願いがあります。

演劇のチラシやコンサートのもので貼っています。貼りっぱなしにしないで、古いものをはがし、新しいものを貼ると、興味・関心が持続されます。

「なんか貼り替えましたよね」とするどく見つける子どもがいます。

「あ、ホントだホントだ」見飽きたようなそぶりできて、実はちゃんと見ているという子どもたちです。



大人気なのは、やっぱり映画のチラシです。映画にいったときにいただけたり、映画好きなひとがくれたりしたもので、割と最新情報が一望できます。

私が映画のチラシを貼り始めた頃は、「なぜ貼ってるの？」とよく質問されました。そして「このチラシほしい！」と子どもはいます。毎時間授業前の休み時間には、食い入るように見えています。そこで「映画のチラシって、やっぱり映画館にヒトが集まるようにプロが考えているんだよね」といった話をしながら、さらに子どもと会話をします。「レイアウトとか色とか構図の参考にできそうでしょ」と私が続けると、合図を打ちながら「なるほど…ところで、錦戸くんの映画のチラシってもらえますか？」となりました。ちょっとトークしたくらいでは、アイドルの魅力に打ち勝つなんて無理なことです。

でも、「あんな風にしたんだけど…」と、壁のチラシを指さして、参考にしている子どもがひとクラスに1人、2人といるのです。それでいいと思っています。参考になった子どもがいるのですから、十分意味を感じて、これからもチラシを貼り続けます。もちろん、子どもの作品も飾ります。

(2) 真ん中に画材。



前にいた学校は大テーブルが8個あって、それが作業机でした。当時は4人で大テーブルを使うことが、どうもしっくりきませんでした。個人として集中する環境ではなかったからです。

以前、美術の先生が2人体制という幸せな学校にいたときに、もう一人の先生(さきほど話題にした材料の工夫が素晴らしい方です)が、美術室の机の並び方を素敵な位置にしてくれました。それは、向かい合わせにした机をコの字の形に配置して、真ん中によく使う画材を積んでおくのです。

勝手に子どもたちが画材に手を伸ばします。「お試し紙」と色鉛筆を使って色のことを考えたり、はさみで切って実験したり。落ち着きのなかった感じが、和気藹々と会話しながら、また互いの作品から刺激を受けながら制作できる環境に少しずつ変わっていきました。

いま、一人ひとりの机いすのある学校に勤めています。同じような配置で授業に臨んでいます。

こうして、近い場所に画材を置いておくと、道具を目にしたとき「こうしようかな」って思いつく場合も少なくないと思うのです。

(3) こうしたいを鍛える。

制作が早く終わった子どもには、「まめ課題」を提供しています。まめ課題は、自分で考えたようなものもありますが、どこかで紹介されたものを参考に、短時間でできそうな1枚もののプリントにアレンジして、やっているものです。

◇能力があって、ぱっと作ってしまえる子ども。

◇あれこれ追求せず、わりとあっさり完成させてしまった子ども。

そんな子どものスキマ時間を埋めるために準備し始めました。そのうち「ちょっと面白そう」という印象をかもしつつ、少しだけ発想力を鍛えるような要素を盛り込むことを心がけています。これがどこまで「こうしたい」の芽が出るための栄養になっているかは、やはりはっきりわかりません。

最近印象的だったのは、「Tシャツショップを開業する」というまめ課題にとりくんでいた女の子の様子です。私が何かしたわけではなく「先生、赤ちゃんて『KIDS』に含まれますか」と質問し、赤ちゃんのTシャツを作りたいと申し出てきたのです。「いいよ」というと、次々彼女のなかに湧きおこります。「でね、もうひとつ！フードってつけていいの？」「もちろん！」「くまちゃんや、うさちゃんの感じにしたいんだ」

その後はいうまでもなく、自分自身のなかに、どんどん「こうしたい」という気持ちを高めながら、彼女は楽しそうにTシャツをデザインしていました。私は職員室に戻り、ワークシートに「BABY」を増やし、フードをつけられるスペースを広げました。おそろべし、「こうしたい」のチカラです。

紙に印刷した小皿にしょうゆの色を色鉛筆で追求する「醤油の色を極める」というものもあります。色鉛筆を重ね塗りできない子どもが気になっていて、醤油の色を塗り続けているうち「鉛筆のよさが感じられるのではないか」ということを期待した「まめ課題」です。お寿司、お刺身、刺身こんにやく、冷奴、焼き魚、焼肉…醤油をつけて食べたいものを想像して、おいしくいただけそうな醤油の色を追求します。

色鉛筆は、絵の具をさけるための存在になりがちです。でも、そんな風の色鉛筆を選んだ子どもの使い方では、たぶん満足のいく仕上がりにはなっていないと思うのです。絵の具を使わなかっただけでほっとして、少し色がついたことで完成した気持ちになる。

このまめ課題を通じて、そのうち「こうしたいから色鉛筆を使おう」「色鉛筆じゃないと、納得できない」となればいいなあ…と思います。

こゝから 今後の課題

とにかく、一生懸命考えて…発見や発案したら、実践→改良、実践→改良、また実践。場当たり的かもしれないし、スマートでもありません。即効性も期待できないし、題材の根の部分というわけでもない。小学校などでは「おはなしを読む」か「考える」かして、気持ちの高まりを十分作ってから、表現へとつなげていくような題材があります。作品に、思いをつづった詩や、好きな歌詞を書き込むような題材もあり、とても魅力を感じます。そうした「心を掘り起こす題材」を作っていくことは、とても大切です。質の高い作品に触れられることでもっと追求したい、すごい表現をしてみたい、表現することとじっくり向き合ってみたい…そんな気持ち呼び起こすことも大切です。

題材の「根をどうとらえるか」を軸として「こうしたい」を考えつつも、一方で小粒な「こうしたい」をしかけていくことも、子どもの声からヒントをもらいながら、地道にとりくもうと思います。

「描きたい・造りたい」と子どもが思う授業をめざして

実践発表の概要

「何かを学びたい・技術を身につけたい」と自分から思わなければ、知識も技術も身につけにくい。まして、人間の感性を育む役割を担っている図画工作・美術科授業ならば、なおさらである。押しつけられる制作課題で感性を磨くことは困難だと思う。だからこそ、石狩大会の研究の副主題に【子どもの「こうしたい！」があふれる授業を通して】というテーマがあるのだと感じている。以前「勤労」と「労働」という言葉の持つ意味の微妙な違いについて聞いたことがある。「勤労」は義務で働くことであるのに対し、「労働」は自ら望んで働くことだそうだ。そのような意味で言葉を使うならば、子どもにとって美術授業は労働であるべきだ。

そんな理由から、今まで自分が「描きたい・造りたいと子ども自身が思う授業」をめざして取り組んできた工夫を紹介する。この機会にたくさんのアドバイスをいただくことで、より改良を加えていきたいと考えている。

1、各題材で工夫していること

(1) 私の宝物【スケッチ】(1年生・4時間)

◎工夫点：思いを込めやすいモチーフを、自分で決められるようにしていること

「あなたの宝物とは何ですか？ それはどうして宝物ですか？ 宝物とのエピソードにはどんなことがあったの？ それは人生の中の感動の一コマ、自分だけの物語。その思いを込めてスケッチしよう！」から始まる。各自の主題が決まり、描きたくて仕方がないという気持ちになったところで、一般的なスケッチに関わる技法的な説明（手順やハッチング、ぼかし、消しゴムの利用など）をする。

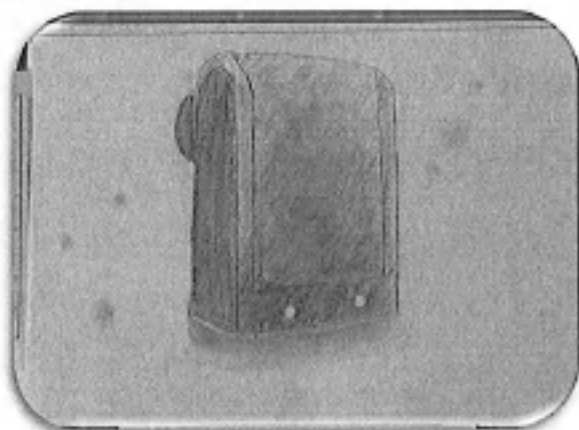
ただ、あくまでも「自分の人生の一場面に思いをめぐらせ、人や物との関わりを再認識すること」に主眼を置いて描けるよう、個別に声かけを行っている。モチーフを決めた子どもに話を聞いてみると、中には涙が出てきそうなエピソードもあった。

子どもたちが選んだ主題例

- ★ 小学生時の大会で優勝したときのメダル
- ★ 転校した親友からの贈り物
- ★ 新しく買った用具
- ★ 家族との思い出の品
- ★ 亡くなったペットとの思い出



※ 作品例

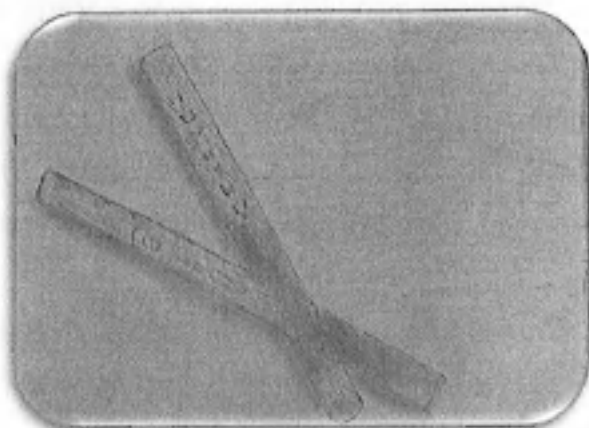


○ 生徒のコメント：【題名：ランドセル】

このランドセルは亡くなったおじいちゃんを買ってくれたランドセルです。このランドセルは、僕にとっては、おじいちゃんそのものだと思っています。このランドセルとの思い出は、このランドセルは小学校六年間しょい続けました。でも、途中で肩の片方だけはずれてしまったので、途中からは違うランドセルにしましたが、ランドセルは今でもしっかり保管しています。

○ 生徒のコメント：【題名：ばち】

太鼓を四年間頑張ってきた努力がたまっているもので、最初はまめができたり、手をたたいたりしていたことなどや、今頑張っている曲など、たくさんの思い出もたまっている物だから、ぼくの宝物です。他の人の作品よりは、技術的には劣っているかもしれないが、自分としては、結構うまくいった。ただ、もう少し立体感を出せればもっと良かった。



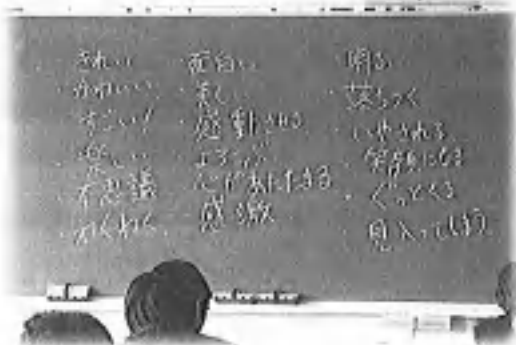
(2) 心を潤す不思議な物体【彫塑】(1年生・10時間)

◎工夫点：多様な解釈ができるテーマにすることで、表現の自由度(具象と抽象・使える素材など)を高めたこと。また、「心を潤す」という、他者に良い感情を持たせることを目的にすることで、温かい気持ちで楽しみながら制作できるようにしたこと。

「人の心を潤すとは、どんな気持ちにさせること？」という問いに対し、子どもたちは様々な自分の答えにたどり着く。さらに「では、そんな気持ちにさせる立体って、どんな形なのでしょう？」この時点で、全く同じ答えは消え、自分だけの答えとなる。

そのオリジナルの答えを実現すべく制作開始。

形を造ってから色を塗る子がいれば、先に粘土に絵の具を練り込んで色を出す子もいる。針金を心棒にする子がいれば、木の小枝を使う子も。また、あえて心棒を使わず、部分を造って乾燥させてからボンドで接着しようとする子もいる。



必要があれば粘土の他に様々な素材を用いてよいことにしているため、ビー玉、ビーズ、貝殻、小枝を持ってくる子がいる。中には「光らせたい！」といって豆電球を、また「時間を知らせる機能を持った立体を造りたい！」といって、百円ショップから小さな目覚まし時計を買ってきて練り込んだ生徒もいた。

とにかく夢中で造っている様子を見ていると、手と頭をフル回転させて取り組んでいるのがわかる。

制作開始！椅子から降りてしゃがんで…良い目をしています！



細かい部品をボンドで貼ると考えた！

先に色を練り込もうと考えた！



フッシュ式ライトに乗せ、下から光をあてたいと考えた！

作品が完成したら「美術授業にカメラ」に挑戦だがそれは他の題材でも行っているのので、後ほどまとめて紹介しようと思う。

(3) 風灯で飾ろう【光のデザイン】(2年生・5時間+技術科5時間)

◎工夫点：風灯(ふうとう)とはオリジナル題材で、光る風鈴と想像できれば良い。みんなの造った風灯が、学校前の樹々の枝に吊られ、風が吹き抜けた夜、いったいどのように見えるのだろうか？

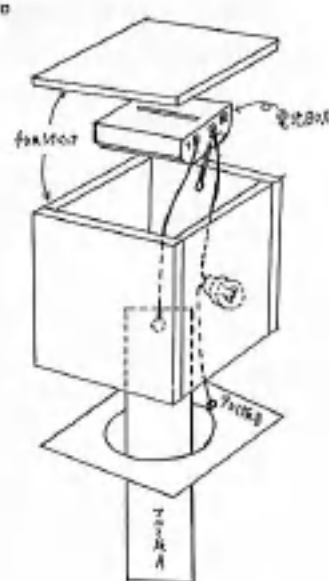
「見てみたい！」とワクワクする気持ちが制作の原動力となる。

美術の授業時数が少ないこともあり、技術科の電気分野と連携して行っている題材で、概ね電気回路に関わる部分は技術科の時間を活用している。作品の基本構造は右の通り。構造は自分で変更してよい。

美術科として、光と造形の「美の創造」を、そして技術科としては風により点滅する「機能の創造」を目指して行っている。



また、電球や電池ボックスなどの電気部品の他は、A4サイズ程のシナベニヤ2枚を各自に配るが、その他の材料を使用することも認めている。つまり電気部分以外の



制作については、素材も制作手順も自分で決めるのだ。ゼリーの入れ物や自宅で使っていない小物入れを材料にする子もいる。キットではないので、当然、大きさも規格もバラバラ。子どもは悩むし思い通りにいかないことも多い。途中までやってみて困って「先生、どうすればこうなるかな？」と相談にくるが、私もすぐにはわからない。一緒に考え、一応アドバイスし、子どもはやってみるがうまくいかどうかはその結果を見なければわからない。しかし、子どもがその過程を乗り越えることが大切なのだと思う。夢中で考え、試行錯誤し、情報交換し合う、その姿を見ているのがすごく楽しい。



ペーパー2枚と量販店材料以外は、材料も、作業手順も自分で考えます。試行錯誤！これが面白い！



ペーパーは100均で買ってきたものを編んでるのか？
M君はその缶、どう使うつもりだい？



みんな早く完成を見たくて、

本当に一生懸命です！



あっちではロール紙の位置を切る、こっちでは粘土で
シグナリ、みんなやるので人生おかせです。



説明の時間を省くため、ある程度の情報は、先に黒板に貼っておきます

(4) 石と出会う【篆刻・彫刻】(3年生・10時間)

◎工夫点：篆刻のルーツを紹介する事により、古の人々の切実な思いを感じさせる。

また、天然の石材(模様が一つ一つ違います)を使うことにより、石との一期一会を感じさせ、自分の作品への思い入れを強めるようにしている。

授業の冒頭で、NHKの番組「ヒューマン・なぜ人間になれたのか」の一場面を紹介している。

氷河期末期(約1万年前)の遺跡から、封印のために使ったとみられる印鑑が発見された。過酷な環境の変化の中、小麦栽培のタネを保存する箱の封印のために使用された形跡があった。

特に、幼い子どもの亡骸に印鑑を握らせていた遺跡からは、太古の人々の切実な願いを感じることができる。

また、石材は教材カタログから探っているが天然の石材と謳っているものから選ぶようにしており、石材が自分と出会うまでの時間的・空間的なスケールを感じさせるように努めている。

篆刻は生徒に比較的好まれる題材だが、ただ作業が面白いというだけではなく、少しでも生命や時間というものへの感慨を深めてほしいと思うからだ。



箱自体は残っていないが、
匠のように封印していたよう
だ！
骨の跡に握ら
せた篆刻...

石を彫刻すること



文字をデザインすること

時間・空間と生命に思いを馳せること

(5) 美術授業にカメラ【写真+鑑賞】(各学年・2時間)

◎工夫点：生徒のカメラや写真への興味がもともと高いことを利用している。また、自分の作品を見る視点を変えたときに「発見した美を即、表現できる」ことから、手軽に表現できる特性を生かしたこと。また、撮った写真と書いたコメントは、校内の展示物になったり、コンクールへ出品すること(うまくいけば東京で表彰式!)も、意欲付けの一助としている。

「あちらの赤いバラと、こちらの黄色いバラはどちらが美しいのか？」答えは「適した方にあるバラが美しい」だ。「美は適合から生まれる」ということを表した良い例だ。とかく子どもたちは、自分の作品制作の技術が下手だと思い込んで萎縮しがちなのだが、カメラを使うことで、自分の作品を適する場所で適する角度から見ることで「新たな美が生まれる」ことに気づく。

この授業を始めた当初は1年生の「心を潤す不思議な物体」のみで行って見たのだが、そのときの子どもの姿を見て衝撃を受けた。自分で撮影場所を決め、アングルを決め、撮り、画像を確かめ、検討し、アングルを変え、他の何かと組み合わせ、再び撮り…この作業を自らの思考でどんどん発展させていく。まさしく頭をフル回転させ、PDCAサイクルをごく短時間で繰り返す姿であった。そのため、次の年からは、1年生は「心を潤す不思議な物体」、2年生では「風灯で飾ろう」、3年生では「石と出会って」で制作した作品を対象に行うことにした。結果、学年が上がる程、スキルアップしていく様子が伺われた。

以下は、カメラの授業の様子と作品の例である。



子どもの発想ってすごいです！！
何年やっても、そう思います！

美術授業にカメラ 作品集 2012

1年【題名：心を潤す不思議な物体】



題名：カタクリと学校の山人
氏名：梅崎 誠



学校から出て散歩をしていた小人が、木の根もとにある一輪のカタクリを見つけ、水をあげるというイメージです。角度を決めるのがとても大変でした。

美術授業にカメラ 作品集 2012

2年【圓灯：環鏡を飾ろう】



題名：人生

氏名：三品花楓

新聞紙につつまれている光は、社会につつまれている人間のように思えました。でも、明るい光は、暗い社会の中でもりんと光っています。私もどんな暗い世の中でも、周りを照らす人でありたいです。

美術授業にカメラ 作品集 2012

3年【篆刻：石と出会って】

氏名：岩谷秀真



ある日の美術室。机の上にあった篆刻の石。その石は、突然、赤く光り始めた。そこを通りかかった少女。少女は光る石を見つめ、石は少女に見つめられた。私は石に焦点を合わせ、少女をぼかして撮った。

(6) 心のメッセージ【造形表現全般】(3年生・10時間)

◎工夫点：図工・美術科の義務教育最後の課題として、総まとめとして位置づけている点。

また、表現技法も、絵画・彫塑・デザイン・工芸・写真も含め、今まで経験してきたすべての方法を認めることにより、自分の思いを込めやすくしていること。

最後の課題となるため、基本的には自由自在に制作を進めさせたいと考えている。作品は、卒業式当日に廊下展示する。「誰か(自分も含め)」に対するメッセージにすることにより、考えを具体的にしやすくした。ただし、メッセージの相手を特定の個人にすると不都合がある場合も想定されるため、それ以外で考えるようにしてもらっている。未来の自分に対するメッセージは当然、可。



受検直ただ中でも、作品制作とともに思い出がよみがえる！



卒業式当日の
廊下展示の様子

心のメッセージ 贈り物

3年A組 1番
氏名: 藤原 大輔

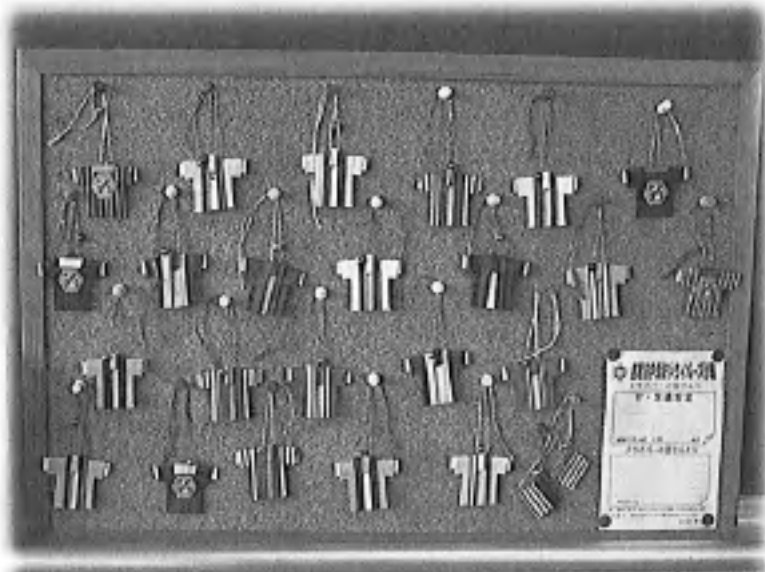
題名 (タイトル)	未来への夢の橋
解説: 夢は未来への扉を開く鍵であり、希望の光を届ける橋である。夢を叶えるには、努力と忍耐が必要である。夢を叶えるために、努力と忍耐を怠らないうまく努力を続けることが大切である。	
夢は未来への扉を開く鍵であり、希望の光を届ける橋である。夢を叶えるには、努力と忍耐が必要である。夢を叶えるために、努力と忍耐を怠らないうまく努力を続けることが大切である。	
夢は未来への扉を開く鍵であり、希望の光を届ける橋である。夢を叶えるには、努力と忍耐が必要である。夢を叶えるために、努力と忍耐を怠らないうまく努力を続けることが大切である。	
夢は未来への扉を開く鍵であり、希望の光を届ける橋である。夢を叶えるには、努力と忍耐が必要である。夢を叶えるために、努力と忍耐を怠らないうまく努力を続けることが大切である。	
夢は未来への扉を開く鍵であり、希望の光を届ける橋である。夢を叶えるには、努力と忍耐が必要である。夢を叶えるために、努力と忍耐を怠らないうまく努力を続けることが大切である。	
夢は未来への扉を開く鍵であり、希望の光を届ける橋である。夢を叶えるには、努力と忍耐が必要である。夢を叶えるために、努力と忍耐を怠らないうまく努力を続けることが大切である。	

作品には解説書をつけてもらいます!

2. 美術の力を生かす試み

(1) ドライバーズ作戦への協力 (総合的な学習にも応用)

錢亀沢中学校は、函館一校区が広い。校区は東西10km近くにも及ぶため、市町村合併以前の旧市街地では唯一、自転車通学が認められていた。そこで、毎年9月に交通安全を呼びかける活動を行っている。「ドライバーズ作戦」と命名し、ドライバーに安全運転を呼びかけるハガキと手作りのマスコットはっぴを手渡し、安全運転を呼びかけるものだ。



1年生がマスコットとしてペーパークラフトではっぴを作り、2年生がハガキを、そして3年生が代表してドライバーにそれらを手渡すというものだ。



渡すときは
緊張しますが...



ドライバーさんの
笑顔がうれしい!

毎年このように、3年生が配ります。

毎年100人に配り、3割ほどのハガキがドライバーのメッセージつきで返ってくる。

右は昨年度の例である。

はっぴのマスコットは、4年前から始めたものだが、とても評判が良く、特別にほしいという話まであった。

材料は「エコクラフト紙バンド」というもので、牛乳パックの再生紙を利用した素材である。

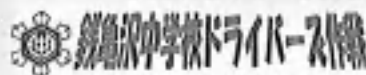
2年前、悪天候によりドライバーズ作戦が中止されたことがあり、その際、



担任の先生も入ってくれて、和やかにつくります!

マスコットはっぴを函館バスに贈った。冬、バス通学の生徒が、路線バスの中に自分たちの造ったはっぴが飾られていたことに感激していた! 自分たちの造ったものの価値(それ以上に贈った気持ち)が、社会で生かされていることが実感できた瞬間だったのだと思う。

ドライバーさんからは、こんな返事が!



ドライバーの皆さんへ
祈・交通安全

事故にあわないようにお願いいたします。シートベルトは必ずつけましょう。飲酒運転や悪天候は絶対に避け、安全運転をお願いします。2年生 佐藤 友希

ドライバーの皆さんより

今日は暑の中ご苦労様です。皆さんとバスに乗ると気分が爽やかです。交通安全を心がけて、安全運転をお願いします。(お母さん)のりこ 1年 大平 ひとみ

バス番号: 222(2番) 2/2



ドライバーの皆さんへ
祈・交通安全

ドライバーの皆さん、安全運転に心がけてください。私も自転車も安全運転をお願いします。2年生 佐藤 友希

ドライバーの皆さんより

函館バスをご利用の皆さん、いつもバスが安全に運行していることに感謝しています。安全運転をお願いします。(お母さん)のりこ 1年 大平 ひとみ

バス番号: 222(2番) 2/2

(2)「銭中の伝統」(文化を創ること)へとつなげられれば…

現在、マスコットはっぴは「ドライバーズ作戦」の他「1年生の交流学習のお土産」「漁組主催の調理実習へのお礼」「来校者へのお土産」等にも活用。その他、今年は函館市電100周年を迎えるため、生徒会の音頭で「市電への安全祈願用プレゼントにしようか」という声も聞こえている。ただ自分は今年度で、本校7年目。転勤があるのは教師の宿命。そこで今年は、はっぴ制作の授業を1・2年生合同で行うことにした。2年生が先生役となって、1年生に作り方を伝授する。そんなシステムを、是非、今年度で作り上げたいと思っている。



2年生の間に1年生をはさんで、マスコットマンで教えます。

また、地元の漁組や市内数カ所のPTAを中心に活動している「函館湯川ネット式海水浴場を守る1億円プロジェクト」からの依頼で、本校の美術授業にカメラの実践で制作した生徒作品が、絵葉書募金用の絵葉書として活用されている。湯川ネット式海水浴場は地元で唯一、海で遊泳可能な施設なのだが、市の財政難により廃止の方向で検討が進んでいる。しかし、この施設が廃止になることで勝手に泳ぐ人が現れると(特に児童・生徒が心配)、津軽海峡に面しているため海流の流れが速く危険ということ、また漁業資源への影響も懸念されるため、なんとか廃止を防ぎたいという活動だ。

もちろんこれは、個々の生徒と保護者に作品使用の許諾を取って使用している。自分の作品が、函館空港の売店をはじめ市内の書店等に並べられているというのは、子どもにとってまたとない経験だろう。

また美術授業にカメラについては、全校生徒が「全国学校図工・美術写真公募展」に応募し、ここ2年間で上位入賞する生徒が相次ぎ、すでに4名が東京の表彰式に参加している。表彰式参加のための旅費を、地元の教育振興会が積極的に補助するなど、これらの恵まれた環境を今後も活用させていただきながら、銭亀沢中学校の文化として、マスコットはっぴ同様、美術授業にカメラの活動も、伝統となってほしいと願っている。



人数が入りきらないので、図書室で行いました。

今回、はっぴの先生役の二人、大役、ご苦労様でした!!



函館空港の2階売店の様子

「子ども達とつくる～地域に向けた展覧会から～」

実践発表の概要

「子ども達の作品を発表する機会が少ない。」「発表するならば、全員の作品にしたい。」これは、私が常日頃考えていたことでした。作品の発表の機会のほとんどは、各地でも行われている小中美術展であり、選抜された作品が集うものです。しかし、学校の美術の授業は全ての子ども達に共通に行われているものであり、その子どもの数だけ様々な表現が生まれています。その1つひとつは私にとって尊く、これからの未来を作る人たちの創造の原点のように感じています。

展覧会を作るときに、見直したのは日頃の授業です。どんな題材で子ども達に考えてもらうか、子ども達の「こうしたい」を引き出していくか。その一心で中学校3年生「自分をのぞく窓」という題材を練り、展覧会の中心作品として取り組んできた様子をご紹介します。

そして、展覧会作りは今年も開催します。今、本研究会が行われている時期に、遠く釧路の地で第3回目の展覧会を開催しています。続けていける授業作品展をご紹介します。

1、子ども達とつくる展覧会の意義



多くの点数になりますし、そのための展示計画も立てなければなりません。教師側が立案しても構いませんが、できる限り子ども達の手によって作るために、実行できる組織として美術部が中心となりました。授業では、「学級でまとめて展示したい」などの意見が出され、それらを美術部の生徒が受け止め展示の計画

「展覧会をやって良かった。」子ども達から聞こえた言葉です。展覧会をつくるということは大変なことですが、その分大きな財産を得ることができます。

展覧会を作るにあたり、図のような構造で取り組んでいきました。授業の作品と展覧会を結ぶ組織が必要であると考えました。授業の作品ともなると、

多く



をしていきます。こうして、それぞれの役割を担ってひとつの展覧会が生まれました。

美術の授業で生まれた作品は、子ども自身のためのものです。同時に、表現したものは多くの人目に触れることで、更に発展していきます。発表の仕方には、様々あります。学級内で、校内で、校外で、地域で、多くの人目に触れるとなったとき、子ども達の意欲も変わります。人に見られることも意識します。それは、自分の表現を高めようとする姿勢に変化しました。

作品はつくったことがあっても、展覧会は誰もが作ったことはない。展覧会自体は、期間限定の作品です。その時にいる子どもたちと相談して作るからこそ、おもしろい表現が生まれ、展示が生まれます。

2 日常の授業から発信する

展覧会のための作品作りではありませんでしたが、子ども達の姿を見てい



てどうしても展示したいという思いにかられた題材がありました。それが、「自分をのぞく窓」という題材です。いわゆるボックスアートですが、その中に込めた想いの深さと授業で対面した時、教師が見るだけでは、もったいないと率直に感じました。

この題材は、子どもたちの「過去」「現在」「未来」を見つめ、自分の今をつくったものやエピソードを振り返り、これからの未来を見つめていくことを大きなねらいとしました。

発想段階では、言葉の嵐です。時間軸に沿って、今までのエピソードが止めどなく書かれた白い紙、1枚に収



まらなくなり2枚、3枚と付け足していきます。その言葉を元に形や色を生みだしました。実際に自分が使っていた物をリメイクしたり、改めて作り直したりして、自分をのぞく窓に結んでいきました。



コンセプトにねらいを絞った作品は、多様な表現を生みました。最初は全てが同じのボックスが、113通りの作品へと生まれ変わったとき、子ども達は「他の人の作品をもっとみたい」といいました。中学



校3年生となると、学級の結束も強くなり学級集団としての個性があります。そこで、この作品の展示は学級ごとに展示し、一人一人の窓が合体して、学級の窓になるという方向性が生まれました。



この他に展示した作品は、中学校2年生のランプシェード、美術部の生徒が共同制作で取り組んだ長さ5m×90cmの絵画作品7本

でした。こうした展示作品をどのように会場内に配置するかは、全て美術部員が役割分担をして進めていきました。壁や机の上に置くような作品展しか見ていない子ども達の意識を変えるために、銅路で行われた現代美術の作品展を見に行くなどして学習を積みます。そういった取り組みを通していくと、子ども達は自然と人の導線であったり、展示への工夫に目がいくようになりました。観覧した3年生のコメントには「自分たちの作品が、こんな雰囲気配置されていて驚きました。他にも様々な作品があって、置き方でこんなに違うんだなと思いました。」であったり、一般の方のコメントには「空間の使い方、生徒達の想い、様々な物がたくさん詰まった展覧会でした。一人ひとり思い描いている物が形になる楽しさをこれからも感じ、「美術」を楽しんで欲しいです」とありました。観る人が、子ども達の意図を感じてくれていることがとてもよくわかるコメントです。展示への工夫は、これからも研究していきたいことの1つです。

3 自分の作品を語ることの大切さ

展示会場で大切にしたいことの1つに、作品に対する解説があります。子ども達が常に会場にいるわけではありませんので、子ども達の代わりに、作品に関する解説をまとめたものを展示しました。

また、土日を利用しギャラリートークを一般の方々向けに実施しました。最初は恥ずかしながらも解説していた姿も、回数を重ねる事で饒舌に語り始める姿には驚きました。そして、「まだ話をしたかった」という意見が多く聞こえました。自分たちで制作した作品を話すためには、作品づくりを振り返らなければなりません。また、まったく作品の内容を知らない人に対してであれば準備を入念に行う必要があります。不思議なことに、話をすると何を表現したかったかが自分自身で明確になるようです。

今では、作品の振り返りを大切にしている学校は多くありま



上：解説書 下：解説文（抜粋）

僕は夏が好きです。
 祭りも花火も夕日も好きです。
 3回動物園に行ったとき、いつも乗っていた
 バンクした自転車が好きです。
 毎日していた線香花火が好きです。
 綺麗な銅路の夕日が好きです。
 僕はこの箱が大好きです。



す。子ども達の言葉によって、作品の意味がとてよくわかるようになります。そして、それらを含めて作品を見ていくことが大切であることを実感します。

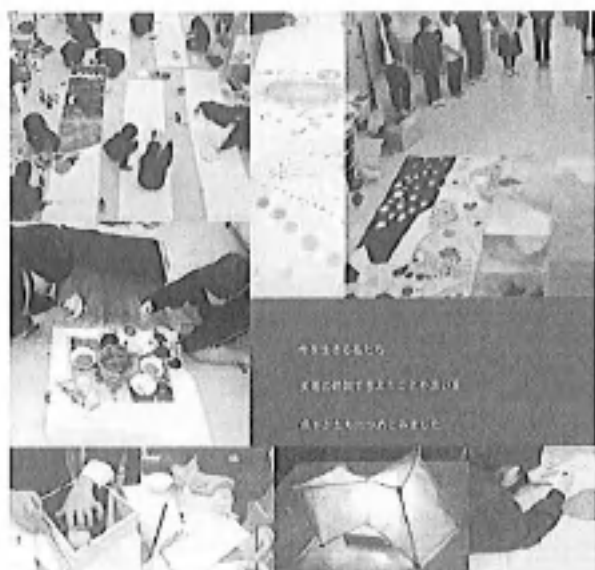
←写真は、一般の方にギャラリートークをしている場面。どの作品にも対応できるよう準備をしました。

4 これからも続けることのできる展覧会を目指して

展覧会の取り組みによって、表現の時間は今までとは違った子ども達の姿勢をみることへとつながりました。これをきっかけに校内の展示環境への工夫も行う様になります。常に、展示への工夫によって人を引きつけられることを子ども達は意識をするようになりました。

多くの作品が生まれているのに、発表の場は少ないのが、残念に思います。これからも、意欲的に展覧会活動を行っていき、地域の方々への美術の授業の発信していかなくてはならないと感じています。

今の子ども達が何を考え生きているのか、地域ぐるみで美術を考えるきっかけを与えてくれたのがこの展覧会でした。入場者数は700名、釧路では珍しいほどの入場者数となり、より多くの人々に中学生の表現のおもしろさを知ってもらいたい機会となりました。



北海道教育大学附属釧路中学校 美術科・美術部作品展

Art and We

2013

1月23日(金) - 29日(金)

北海道立釧路芸術館フリーアートルーム

9:30-17:00 (観覧料600円) 入場料

〒165-8580 北海道釧路市南1-1-1 北海道教育大学附属釧路中学校 美術部

TEL: 0957-24-2111 FAX: 0957-24-2112

北海道教育大学附属釧路中学校

ART and WE



2013年7月25日(金) - 8月4日(日)

(開館) 9:30-17:00 (観覧料600円) 入場料

NHK釧路放送局ギャラリー

そして、7月また良い作品が生まれました。釧路の地域の人々に親て貰わなければならない作品たちを、今展示しています。また新たな意見をもらい、次なる展覧会へと発展させていきます。

この展覧会は学校で作る作品なのかもしれません。

「生徒の一言」は授業の宝 ～あの手この手で授業をデザイン～

実践発表の概要

私は高校美術教員に採用されて22年が経ち、学び直しの意味を込めて内地留学に申し込んだところ認められ、現在秋田大学大学院において美術教育の分野を中心に学んでおります。

私はこれまで「生徒の創造性」と共に「自身の授業創造性」を軸としてきました。22年間で創った題材は60を越え、それらは私がやりたい題材というよりも、「生徒がやりたい題材、やりたくなる題材」を基本としています。しかしそれは生徒に迎合するようなものではなく、きっかけとしては生徒の要望や諸情報を基にしながらも、学習指導要領や学校教育目標の枠組みを逸脱しないよう留意してきました。

今日は、これまでの実践の中から、「生徒のこうしたい」を受信するためのアンケートや日々の言葉、そして生徒の表現や鑑賞活動を支えるための生徒、教師間のコンセンサスを「インフォグラフィック(図解)」を通して図ってきた実例を紹介させていただきます。



実践集の授業説明においては、石狩造形教育遠望による「育みたい力」を活用させていただいております。

実践集 → <http://www.kurakuro.com/HUB/kk.html>

1. はじめに

私のこれまでの勤務校は、実業校、女子校、進学校、地方校、そして総合学科校と多岐に渡っています。定時制、通信制以外は全ての種類の高校を経験してきたと言ってもよいかもしれません。(秋田県に美術専門学科を置く高校はありません。)

高等学校は基本的には生徒の“ある学力層”によって構成されています。そして学科やコースなども多様に設定されていることから、学校を異動するということはとても大きな変化に対応しなければなりません。その時に私が大切にしてきたのが最初の授業で行うアンケートと授業中や休み時間、振り返りの記述などで見聞きする生徒の一言です。それらのデータを基に授業題材を開発し、そして実施してきました。

2. 「はじめのアンケート」について (これは診断的評価という授業前の生徒の状況を知る評価活動です)

高校入学後の最初の授業で行うのが次ページに掲載したアンケートです。質問内容は、中学校時代の美術の先生の本名と似顔絵、美術の授業内容とそれを通して何を学んだのか、美術を選んだ正直な理由、どのような雰囲気で行う授業が好きか、中学校の授業の様子、高校でやってみたい題材と伸ばしたい能力、知っている作家名によって構成されています。



調査 実例) 最初の授業アンケート (4/24)

1年 組 番 氏名 _____

平均点は _____

1 中学校時代、実習の授業を受けた先生の授業を覚えておきます。授業内容が
2年次生にも適合した場合は、高校の先生でなく他の高校の先生が担当した理由も書いてくだ
さい。

2 中学校時代にやった実習の授業内容をすべて、具体的に書きましょう。(イラストや表現が簡潔
明瞭、その意味をとおして短く早めの読み書きを心がけてください)

3 授業ではなく実習を覚えた理由を正直に書いてください。(授業は好きでもなかったり、
覚えずに覚えたものがあります)

4 どんな授業内容でやる先生の授業が好きですか? 好きな点や 悪い点(理由) その理由。

1年 組 番 氏名 _____

5 中学校での実習の授業の様子を思い出してください。また、あなたにとってどんな授業でしたか?

6 本校授業の授業の授業でどんな授業を受けたことがありますか。または自分のどんな授業が面白く
なと思えますか?

<input type="checkbox"/> 人の顔、口を動かす、口を動かす	<input type="checkbox"/> アニメーションをつくってみる
<input type="checkbox"/> 人や動物を上手に描く	<input type="checkbox"/> 写真を使った授業をつくってみる
<input type="checkbox"/> 写真のように美しく描く	<input type="checkbox"/> パソコンを使って授業をつくってみる
<input type="checkbox"/> 人や物、風景を楽しく描く	<input type="checkbox"/> コพิวเตอร์を使って授業をつくってみる
<input type="checkbox"/> 絵の真似で授業を受ける	<input type="checkbox"/> パンツのデザインについて授業を受ける
<input type="checkbox"/> 日本画を授業を受ける	<input type="checkbox"/> 絵本の、イラストの授業
<input type="checkbox"/> 授業で絵を描く	<input type="checkbox"/> 授業の授業に授業を受ける
<input type="checkbox"/> パンで絵を描く	<input type="checkbox"/> 先生を使った授業をつくってみる
<input type="checkbox"/> イラストを上手に描く	<input type="checkbox"/> 絵を描いて授業をつくってみる
<input type="checkbox"/> 色にのせて描く授業を受ける	<input type="checkbox"/> 絵や写真を描いて授業をつくってみる
<input type="checkbox"/> 学校の授業を授業を受けるように授業を受ける	<input type="checkbox"/> 授業と授業を受けて授業をつくってみる
<input type="checkbox"/> 授業をつくってみる	<input type="checkbox"/> 授業や授業の先生を使った授業を受ける
<input type="checkbox"/> 美術の授業の授業を受ける	<input type="checkbox"/> 授業や授業の先生を使った授業を受ける
<input type="checkbox"/> コーヒーやチョコレートを作る	<input type="checkbox"/> アニメーションを使った授業を受ける
<input type="checkbox"/> 授業を受ける先生を受ける	<input type="checkbox"/> 授業の先生が授業を受ける
<input type="checkbox"/> コンクールに授業を受ける	<input type="checkbox"/> コンクールに授業を受ける
<input type="checkbox"/> 授業を受ける授業	<input type="checkbox"/> コンクールに授業を受ける

その他 _____

7 授業について知っていることとたくさん書いてください。(授業、授業、授業、授業の授業、授業)

これからどういようして授業します。 実習は: 実習

「最初の授業アンケート」表例

同 裏側

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

このページの各資料の画像は縮小されて文字や
数字が見にくくなっておりますので、研究大会
当時は実寸大の資料を持参いたします。

アンケート項目「やってみよう題材、伸ばしたい能力」の集計図表

このアンケートを通して一番把握するものが、生徒の記憶に残っている学んだ力としての「学力」と、これからの高校美術でどのように学んでいきたいかという意欲の「学力」です。

ある学校に勤めていた7年間、「美術を選択した理由を正直に教えてください」という項目に注目していききました。そうしたところ、毎年ほぼ6割の生徒が“消極的な理由”によって美術を選択していることが分かりました。その具体的な理由は「音楽が苦手だから」「音楽は歌のテストがあると聞いたから」などです。高等学校の芸術は選択制ですのでもすれば意欲のある生徒によって構成されているかと思われているかもしれませんが、実際は半数以上の生徒が好きでもないのに選択しているという高校があるということなのです。

積極的な選択理由 による生徒 40%	消極的な選択理由による生徒 60%
--------------------------	----------------------

美術選択生徒の選択理由の平均値 (H17~H23 @N高校)

0

選択理由	割合
1. 音楽が苦手だから	4.2%
2. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.8%
3. 音楽が好きなから	5.1%
4. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.5%
5. 音楽が好きなから	4.9%
6. 音楽が苦手だから	4.3%
7. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.7%
8. 音楽が好きなから	5.0%
9. 音楽が苦手だから	4.4%
10. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.6%
11. 音楽が好きなから	5.2%
12. 音楽が苦手だから	4.1%
13. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.9%
14. 音楽が好きなから	5.3%
15. 音楽が苦手だから	4.0%
16. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.8%
17. 音楽が好きなから	5.1%
18. 音楽が苦手だから	4.2%
19. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.7%
20. 音楽が好きなから	5.0%
21. 音楽が苦手だから	4.3%
22. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.6%
23. 音楽が好きなから	5.2%
24. 音楽が苦手だから	4.1%
25. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.9%
26. 音楽が好きなから	5.3%
27. 音楽が苦手だから	4.0%
28. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.8%
29. 音楽が好きなから	5.1%
30. 音楽が苦手だから	4.2%
31. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.7%
32. 音楽が好きなから	5.0%
33. 音楽が苦手だから	4.3%
34. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.6%
35. 音楽が好きなから	5.2%
36. 音楽が苦手だから	4.1%
37. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.9%
38. 音楽が好きなから	5.3%
39. 音楽が苦手だから	4.0%
40. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.8%
41. 音楽が好きなから	5.1%
42. 音楽が苦手だから	4.2%
43. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.7%
44. 音楽が好きなから	5.0%
45. 音楽が苦手だから	4.3%
46. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.6%
47. 音楽が好きなから	5.2%
48. 音楽が苦手だから	4.1%
49. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.9%
50. 音楽が好きなから	5.3%
51. 音楽が苦手だから	4.0%
52. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.8%
53. 音楽が好きなから	5.1%
54. 音楽が苦手だから	4.2%
55. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.7%
56. 音楽が好きなから	5.0%
57. 音楽が苦手だから	4.3%
58. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.6%
59. 音楽が好きなから	5.2%
60. 音楽が苦手だから	4.1%
61. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.9%
62. 音楽が好きなから	5.3%
63. 音楽が苦手だから	4.0%
64. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.8%
65. 音楽が好きなから	5.1%
66. 音楽が苦手だから	4.2%
67. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.7%
68. 音楽が好きなから	5.0%
69. 音楽が苦手だから	4.3%
70. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.6%
71. 音楽が好きなから	5.2%
72. 音楽が苦手だから	4.1%
73. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.9%
74. 音楽が好きなから	5.3%
75. 音楽が苦手だから	4.0%
76. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.8%
77. 音楽が好きなから	5.1%
78. 音楽が苦手だから	4.2%
79. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.7%
80. 音楽が好きなから	5.0%
81. 音楽が苦手だから	4.3%
82. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.6%
83. 音楽が好きなから	5.2%
84. 音楽が苦手だから	4.1%
85. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.9%
86. 音楽が好きなから	5.3%
87. 音楽が苦手だから	4.0%
88. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.8%
89. 音楽が好きなから	5.1%
90. 音楽が苦手だから	4.2%
91. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.7%
92. 音楽が好きなから	5.0%
93. 音楽が苦手だから	4.3%
94. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.6%
95. 音楽が好きなから	5.2%
96. 音楽が苦手だから	4.1%
97. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.9%
98. 音楽が好きなから	5.3%
99. 音楽が苦手だから	4.0%
100. 音楽は歌のテストがあると聞いたから	3.8%

改善後のアンケート項目

3. アンケートの集計結果による題材開発

年度始めのアンケートの結果により題材を開発するにはメリットとデメリットがあります。メリットは生徒の声を反映させた題材を設定させることにより、生徒の授業に対するモチベーションが上がること。デメリットは年度当初の動きが荒たたく、特に前年度末においてシラバス作成を強く義務づけられる学校では認められない方法となります。(但し具体的な題材名を掲載するのではなく、育成する資質や能力を掲載する方式であれば可能になるかもしれません。)

それでは過去の実践から、アンケート結果によって開発した題材を2例紹介いたします。

(1) アニメーション

アンケート結果で毎年要望が高いのがこのアニメーションです。平成11年3月の高等学校学習指導要領改訂において、芸術科美術に「映像メディア表現」が初めて設置されました。この映像メディア表現は現代のニーズにとってもマッチしたもので、写真・ビデオ・コンピュータなど多様な映像メディアを活用し表現や鑑賞の活動を行っていきます。ただし設置はされ生徒はやってみたいと希望があっても、実際に行うかどうかは担当美術教師の判断に委ねられるなどという諸問題は内在します。

世は情報社会、映像社会ということで、生徒は生まれた時から様々な映像メディアの中で育ってきま

す。実はそのような環境で育ってきているからといってその視覚的把握能力が高いとか、視覚的表現能力が高いかというところとは言えないのが現実です。そのことから批判的に物事を見る能力の向上が求められていると言っていいかもしれません。(これは生徒だけの問題ではありません)

ちょっと話がそれてしまいました。アニメーションの話に戻ります。アニメーションの題材を学校で行う場合、いくつかの困難さというハードルを乗り越えるか、または回避する必要があります。代表的なものは材料です。まともにやろうとするとセル画やインク、撮影機器が必要になります。これはどれも専門的な物ばかりで高価な物もあります。そして制作に関わる時間です。1秒間に10～20コマを描き込んでいくアニメーションの世界ではコツコツ仕上げていく制作時間の確保が絶対的に重要になります。限られた年間の授業日数の中からアニメーションの授業にどれだけ割り振れるかを見極める必要があるのです。

それら授業においてアニメーションを扱う際の種類やメリット、デメリットの中から代表的なものをピックアップして表にしました。

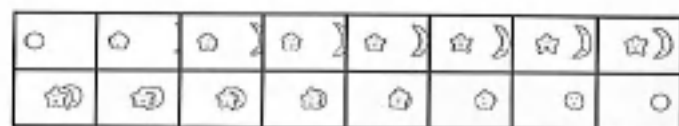
	手作り系 			PC系 
制作方法	セル画 	紙 紙に描き、カメラ またはスキャナでの 読み込み	フリップブックや フェナキストスコープ 	CG 
メリット	・プロと同じ体験 	 ・手作り感 ・身近な素材で制作可能 (材料代が安価)	 ・試行錯誤が容易 ・複製、公開が可 ・大勢での鑑賞可 ・劣化なし	
デメリット	・撮影設備が大規模 ・材料が特殊で高価	・撮影時間が膨大 ・作品原画の劣化	・長時間の作品化不可 ・大勢での鑑賞不可 ・作品本体の劣化	PC環境の整備 (台数やソフト) PCやソフトの使用 方法の習得

美術の授業におけるアニメーション制作の種類とそのメリット、デメリット

手作り系、PC(パソコン)系いずれにもメリット、デメリットは存在しますが、実際授業を行う上で多くの場合デメリットの問題はメリットのそれぞれを上回ります。そこで個々の表現方法のメリットが活かされる制作方法がないかと考え気が付いたのが、「ドキュメントスキャナ」を使った制作方法です。

ドキュメントスキャナとはビジネス界で主に使われているパソコンの周辺機器で、数十枚の書類をセットすると自動的にデータをスキャンしていきます。特徴はその早さで、今回の授業で用いたB7大の西洋紙30枚の画像は30秒かからず読み込んでくれました。(使用機種:富士通 ScanSnap iX500)

アニメーションの仕上げの流れは、次ページの図示をご参照ください。1台のパソコンとドキュメントスキャナがあれば、あとは紙と描画道具でアニメーション制作が可能なのです。



手書き作品
↓ 入力

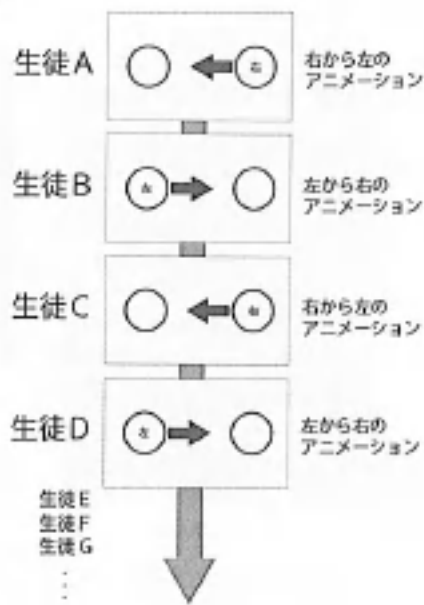
PC
1台あるだけで!



アニメーションが
1~2分で
完成します!

編集 → 完成!

ドキュメントスキャナを活用したアニメーション制作の流れ



リレーアニメーションのしくみ

制作のしくみは前述までのおりですが、ではどのようなテーマでアニメーションを扱うかというのが授業においては重要事項になってきます。言わばアニメーションを通して何を学んで欲しいかということです。

私が今回設定したのは生徒全員の作品がつながって1本の作品になる「リレーアニメーション」でした。「絆」という言葉が3.11以降特に大事なキーワードとして見聞きするようになりました。美術の授業においては、とにかく作品が個別に仕上がる人が多いことから、何か工夫することでみんなで創り上げたという成就感が得られる題材ができないだろうかということで考案したのでした。もちろん学習指導要領に明記されている「映像表現の視覚的要素を工夫して表現の構想を練ること。」や「表現方法や編集を工夫して表現すること。」は十分に踏まえて実施していきます。

このドキュメントスキャナを活用したアニメーション制作の特徴は短時間で少ない機材で仕上がるということの他にもう一点、「試行錯誤が容易である」ことが挙げられます。

従来の制作方法や表現方法では、一度仕上げてしまうと変更することや、途中でどのように動くのかを確認することが困難でした。しかしこの方法では、制作途中で気軽にパソコンに画像を取り込み動きを確認し、必要に応じて修正することが可能なのです。これはとても画期的なことであり、試行錯誤を大切にする美術科目においては注目すべき事項となります。

全道大会発表の際にはこの動画作品と共に、手作りの映像メディア表現として扱った「メッセージフリップブック」の取り組みも紹介させていただきたいと思っております。

メッセージフリップブック (上)

受け取った方の感想 (下)



こんなメッセージの伝え方もあるんだなあという思いにたす。
とてもかわいい心があたりにくくくりまわす。
ありがとうでいっぱい。

送り主 () 送り主との関係 (お母さん)

(2) 天井アート



これは平成21年の実践です。この年のアンケート結果は意外な結果が出ました。第一位が「みんなで何かをやってみよう」だったからです。多くの年の結果は前述のアニメーションなどの映像メディア表現の希望が多い傾向がありましたが、この年は違いました。当時の勤務校の生徒は、傾向として人と交わることや積極的に何かをすることが苦手な生徒が多かったことから、その意外性に驚いたのです。ただ、このアンケートは3年生の授業に対して行った結果でしたので、学年やクラスの雰囲気も左右したのかもしれませんが。

さて、みんなで何かをやることを軸として、次に考えなければいけないことは具体的に何をするかでした。この年、私は思い切って生徒と一緒にこのことを考えることにしました。しかし生徒から出てくるアイデアは生徒同士でもこれだと感じるものはなく、いたずらに時間が過ぎていきました。そんな中、リーマンショックの影響で高校生の就職難の話題になりました。「何で自分たちの就職の年がこんな就職難なんだ。」「気持ちもうつむいちゃうよな。」その言葉からひらめいたのが「上を向こう」です。上を向けば気持ちだけでも晴れる、気持ちが晴ればやる気も出てきてチャンスも巡ってくるかもしれない、ということで上を向くアートを考えました。幸い学校には広々とした天井が広がっており、至る所が使い放題です。この瞬間、新題材「天井アート」が生まれたのです。



4. 生徒の一言から生まれた題材から

ここからは、生徒が発した授業の中や前後の休み時間での一言から生まれた題材を紹介いたします。

私の授業において生徒の一言は授業題材を開発したり改善する上で大変重要な意味を持っています。生徒が発するその言葉を傾聴していると題材の新たな展開につながったり、まったく新しい題材のイメージが生まれるのですから不思議です。

紙幅の関係で前述の「3 アンケートの集計結果による題材開発」のように詳細に掲載できないことを何卒ご容赦下さい。

(1) 「自分の顔、気に入らないんだよねえ、名前も」・・・「タイポグラフィ自画像」& 「自分の名前のロゴアニメーション」

これは平成3年、私が高校の教員に採用になった年の題材です。

この当時動めていた学校は女子校でした。生徒が口々に自分の顔や名前が気に入らないと言う声を聞くことが少なくありませんでした。そこで生徒の生き生きとしたポートレイトを撮影し、それを使って出来るだけリアルな自画像ができるような題材を考えました。生徒の氏名については女子校ということで、卒業後数年で今の名字から替わる生徒も少なくないことから、生徒自身の名前と人柄や容姿を併せた題材ができないかと考えました。折しも世は情報化社会社会まっしぐら。学校にはパソコンが整備され、商業の授業以外でも活用が求められていました。テレビを見れば動画のCG化が進んでいるのです。

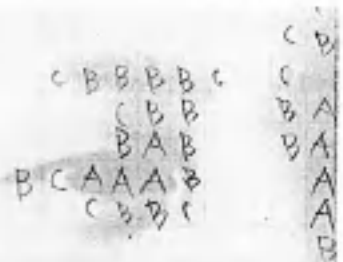
a 「タイポグラフィ自画像」



生徒作品



左作品のアップ



明度判断の様子

撮影後、B4大に拡大印刷した顔写真の上に方眼入りトレーシングペーパーを置き、各マス目の暗さ（黒色の濃さ）の度合いで設定した記号を書いていきます。（ここでは明度判断という能力を使います。）

記入が終了したらパソコン室に行き、Wordか一太郎のパソコンワープロソフトにその記号を入力していきます。入力が終わったら、色が濃い記号は画数の多い漢字に、色が薄い記号は画数が画数の少ない漢字に変換します。ワープロソフトには一括変換という優れた機能があるので、この作業はあっという間に終わります。パソコン上の文字間、行間を整えて出力すれば完成です。

b 「自分の名前のロゴアニメーション」

平成3年当時、各テレビコマーシャルの最後に映し出される各企業のロゴマークがアニメーション化され、見る側に強いインパクトを与え始めていました。そこでこれにヒントに生徒の名前のロゴ化したものをアニメーションにすることを考えました。まず生徒にとって最も身近な存在である名前と、自身の人柄や容姿をかけ合わせてロゴ化します。それが設定されたらアニメーション化するためのアイデアを練ります。それが終わったらあとはひたすら西洋紙にロゴを少しずつ変形させながら描画していきます。



生徒作品の原画

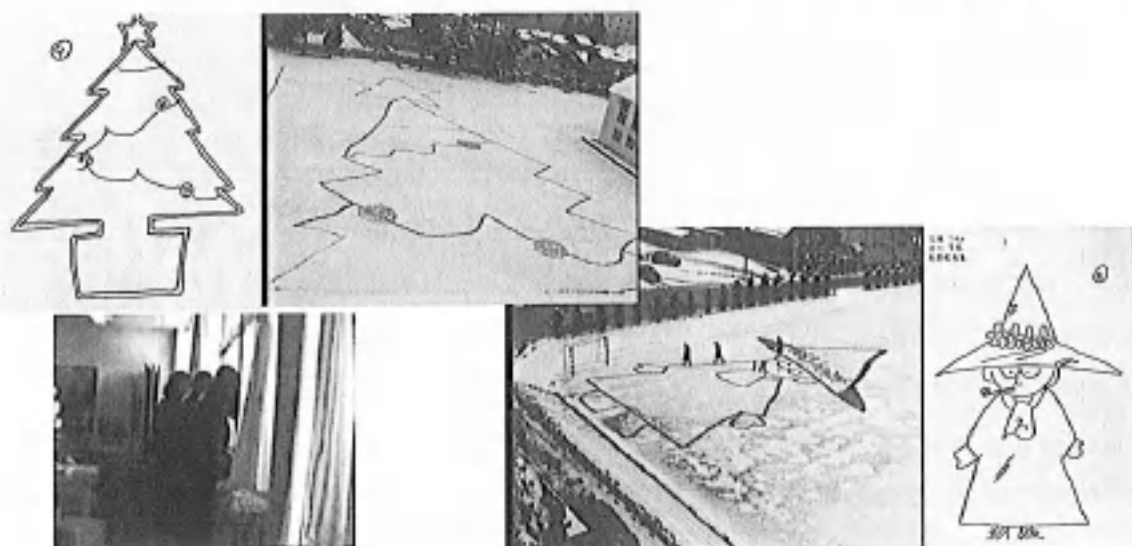
描画が終わった作品の束は、私のアパートに持って行き撮影作業となります。光を一定にするために夜間撮影を行う必要があるからです。撮影に使用した機材は当時ちょうど発売されたコマ撮り機能の付いた8mmビデオカメラです。当時の撮影作業は過酷を極め、連日深夜に渡るものでしたが、上映会で湧き上がる生徒の喜び声とその疲れもどこかに飛んでいったのでした。

(2) 「雪が積もった!」・・・「ぐ・ランドアート」

これも平成3年に行った題材です。初雪が校舎脇のグラウンドにうっすら積もった時のこと、生徒も職員も「雪が積もった!」と声を揃え言いました。雪国秋田の厳しい冬が始まる合図とも言えます。私が小学校の頃、初雪が積もった校庭に一番乗りし思い思いに足跡を付けてそこから中歩き回ったのを思い出しました。そこでひらめいたのがこの題材です。4階の美術室の眼下に広がるグラウンドを大きなキャンパスに見立て、生徒に足跡によるビッグアートの描画を試みたのです。

まず班をつくり、どんな絵が可能で相応しいのかを考えます。それが仕上がったところで各班によるプレゼンテーションを行い代表班2つを選びました。選ばれた一方の班は4階の美術室から仲間が指示を出し、もう一方は地上から指示を出して“描画”を進めました。

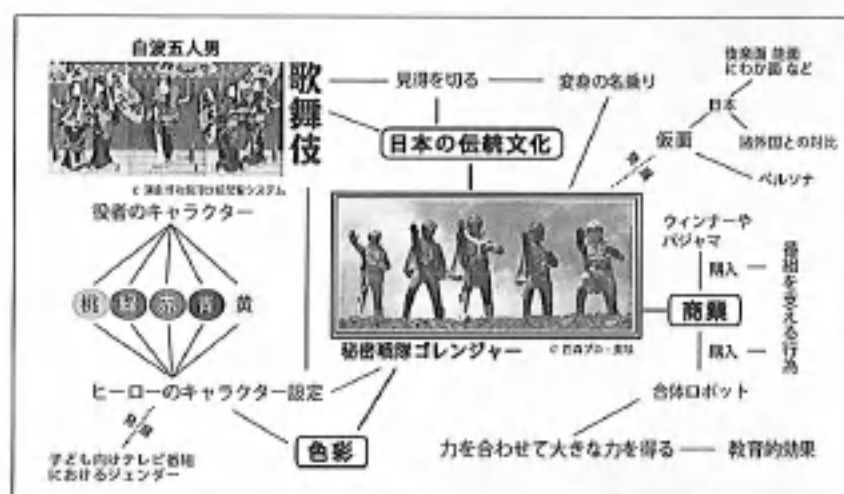
結果は、4階から指示の班がダイナミックに仕上げたのに対して、地上班はこじんまりとした作品となりました。そして授業が終わった時、グラウンドに面した教室で授業をなさっていた先輩諸先生より「うるさい上に生徒がグラウンドの様子が気になって気になって授業にならなかったのよ」と強いお叱りを受けたのでした。



(3) 「あ～あ あと半年で卒業かあ」・・・「アートの視点で読み解くスーパー戦隊」

これは授業のために美術室に来た3年の生徒が何気なく発した言葉です。当時この学校の生徒の半数は就職するという実状から、「就職したらすぐに結婚をして子どもができるなんていう生徒もいるよ」、などという話をしていました。その中で子どもの頃どんなテレビを見ていたかという話題に展開し、スーパー戦隊シリーズの内容でひと盛り上がりしました。

「変身するとき、ごちゃごちゃ乗るよね！なんで敵にやれないのかな～」「いつもリーダーは赤だよ」「ロボットは合体して大きくなるよね」などなど思い思いに言葉が出てきていました。その時ふと思い「なんでリーダーは赤なの？」「なぜ5人がチームで、変身するときごちゃごちゃ乗るの？」と質問してみました。返事は「知らな～い」。そこでひらめいたのがこの題材です。



授業における素材の関係図

- 1 スーパー戦隊の番組を視聴し、疑問点のつぶやきを書く。
- 2 つぶやきを回収し、疑問点を反転させて設問に変える。
例：いつもリーダーは赤だよ
→「なぜ赤なんだろう」
- 3 話し合ってみる。
- 4 インターネットを使って調べてみる。

スーパー戦隊のルーツは日本の伝統文化である歌舞伎にあります。そのことを教師が説明するのではなく、生徒たちのつぶやきから設問を設定し、生徒たちが自分たちの力で解決していくという題材にしました。

この授業の振り返りの言葉の中からひとつを紹介いたします。(原文通り)

子供に「カッコイイ」と思わせるだけの構成だと思っていたから、その構成には、日本独自の文化である歌舞伎が、子供がどのように考えるかなどの心理的なことも考えていて構成されていて驚いた。日本独自の文化が姿を変えて現代の子供達に受け入れられていることに喜びを感じた。普段まったく気にしないテレビ番組にも深いところで美術など様々なものに関係してそれが形作っているのだと思った。

(4) 「この本、いつ見るんですか？」・・・「未来予想画 ユーもじゃ」& 「なりきリンゴ」

美術室の本棚にある美術全集を見ながら生徒が言った言葉です。確かに各種並べてはいますが、特別使うこともなく時が過ぎていきます。そういえば図書室にもたくさん画集が置いてある。せっかくの立派な資料なのだから、生徒みんなで活用するような授業ができないかと考え設定した題材です。

a 「未来予想図 ユーもしゃ」

自分が好きだったり気になっている絵を模写するという題材ですが、ただ模写をするのではなく、その絵の情景の1秒後や1分後、1時間後など「その後」どうなっているかを想像して描くというものです。少しだけの変化であっても、その様子を想像し描画するには努力や工夫が必要になってきます。作家の世界観と一体化するという感覚も味わうのではないかと考えています。



次々に画集を見る生徒



その後を想像しての模写



作品の完成状態

b 「なりきりんご」

自分が好きだったり気になる作家が「リンゴ」を描いたら、どんなリンゴの絵になるかを想像して描画する題材です。その画家の作品をたくさん見たりよく調べて描く必要があるので、必然的に画集を隅々までじっくり見ることになります。描いた模範は作品の中に記述して完成となります。



ゴッホ風リンゴ

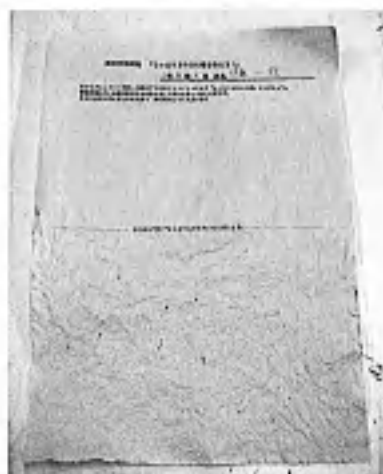


マチス風リンゴ



リキテンスタイン風リンゴ

(5) 「クシャクシャだ!」・・・「しっとりふわふわ紙」



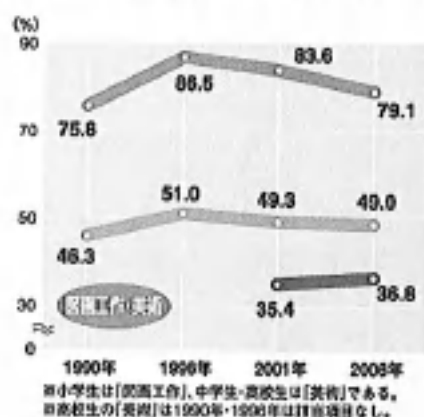
下半分が「しっとりふわふわ」です。

西洋紙1枚を使ってどのような表現活動ができるかという短時間題材を行っていたときのことで、西洋紙に対してどのような変化を加えることができるかの質問に対して生徒から「切る」「折る」「組む」などの答えを聞いている最中、「クシャクシャだ!」と言っておもむろに西洋紙をクシャクシャにした生徒がいました。なんて粗野な生徒だとカチンときてすぐさま「だったら1時間クシャクシャにしてろ!」と言いかげ瞬間、ふと「待てよ、1時間クシャクシャにしたらこの紙どうなるんだ?」と思ったところでこの題材が誕生したのでした。

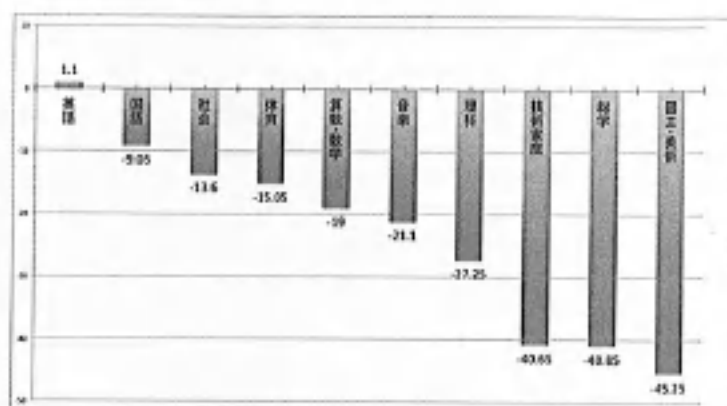
1時間西洋紙をクシャクシャにし続けるとアッと驚く紙に変化します。

5. 思うこと

冒頭で紹介したように、生徒の半数以上が美術の授業に対して消極的だという場合、生徒の心の中ではそもそも「こうしたい」などという気持ちは起こらないと思っています。ましてや大人側の了見で生徒の心を美術に向かわせようなどということは、生徒と美術との乖離を生むだけではなく、美術が嫌いになるという最悪の状態に陥るのではと危惧しております。民間の調査結果(※1)では小学校から中学校、そして高等学校に到るに従い、生徒の心から美術が離れていっていることが明らかになっています。



図画工作・美術の授業が好きな割合 (※2)



教科・科目が好きでなくなる割合 (※3)

※1, 2 第3回及び第4回 学習基本調査 (ベネッセ教育研究センター)

※3 上記ベネッセのデータを基に計算しグラフ化 (黒木)

http://benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/sokuho/soku_1_01.html より

上記の調査によれば「全教科・科目の中で生徒の心が最も離れていっているのは美術である」という残念な結果となっていることが一目瞭然です。そして高等学校の美術は「選択科目」であるにも関わらず3割強の生徒しか美術が好きと言ってくれていないことも無念さに追い打ちをかけます。

生徒は学校が違えば違いますし、年が変われば変わります。これは当たり前の話です。しかし、教師の経験や他校の情報に基づく授業が主になってしまうと生徒と授業との間に乖離が起きるのではと危惧しています。加えて申し上げますと、授業のスタートラインを学習指導要領や教科書、そして教師自身の経験もってきてしまうことにも問題点があると考えています。誤解があるといけません、学習指導要領や教科書を無視したり否定するというものでは全くありません。あくまで生徒の気持ちや状況をスタートラインとし、学習指導要領や教科書、教師の経験はそれをより良い方向へ導くひとつの根拠として捉えて考えてみてはどうかということなのです。

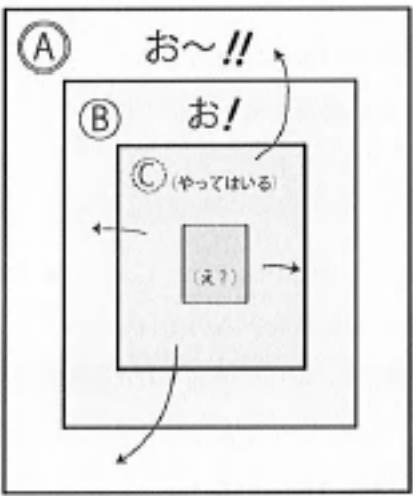
言い換えるならば、美術教師は、自分自身の制作経験や知識をバックヤードにしながら、生徒がのびのびと学校というフィールドで、仲間と共に学びを深めていくようなドラマを創り上げるプロデューサーだということです。役者を無視したドラマ作りや演出では(相当なプロ役者でない限り)自らの意志で自らの表現をやろうなんて思わないだろうと強く思うのです。

最後に、生徒と美術の授業をつなぐツールとしてインフォグラフィックの「図示」を考え、授業で活用していますので、それらを紹介して発表を閉じたいと思います。

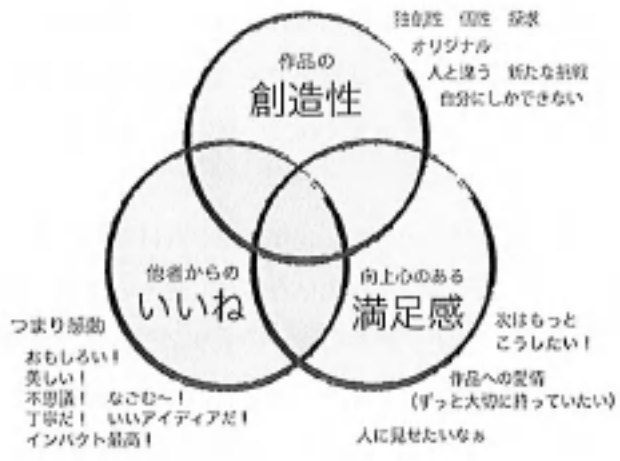
6. 「図示」を活用した生徒と美術の授業のコンセンサス (いずれも適宜調整を加え完成度を高めています。)



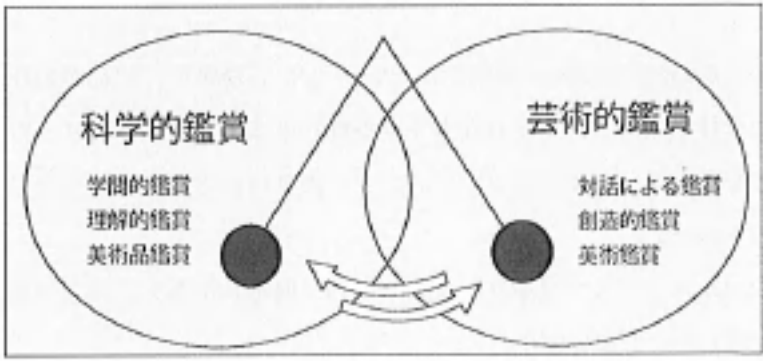
「幼児の遊びの世界から広がる美術の世界」



「作品の理解と評価」



「幸せな作品とは」



「鑑賞へのふたつのアプローチ」



「表現の注意事項」

サークル紹介



この絵をよく見るとボールを滑して描きなおしていることがわかります。またバントキックをしている姿も、線で形を探りながら、どんな動きをしているのかまで見事に表現しています。「一点も決めさせなかった」という作者の感想からも、その時の様子が伝わってきます。遠くに見える選手の表現等はあっさりしていますが、自分が本気で描きたいと思ったことは詳しく描いています。

遠近感もよく出ています。大人が概念として知っている透視図法的なものではありません。手前に見える白いラインは上から見えています。遠くの選手は俯瞰して小さくに描いています。一つの画面にいろいろな視点で描くことはピカソなども試みていることです。この子が試合の中で体験を通して感じ取ったリアルな空間で描かれています。

子どもは本気で表現したいと思ったとき、このように様々な力を存分に発揮させるということがよくわかります。画面の中に現れている追究の跡、子どもの絵を鑑賞するとき、自分が描いているつもりでご覧ください。

「絵を描くということは自分自身をつくること」という言い方があります。そんな言葉を思い出させる絵だと思います。この絵には「子どもの今」が描かれています。

札幌市造形教育連盟



「あったかい！」をつなげ合う造形活動

○冬の造形広場 ○授業実践研修会ウィンタージャンプ

冬の造形広場

2013年1月11日 サテライト

造形教育連盟OBの今裕子先生から「しょくについて」、阿部宏行先生から「はじめに子どもありき 造形活動の再考」の講話をいただきました。

後半は研究実践発表。チーム札幌（札幌幼稚園）高橋梓先生、小林由果先生、宇佐美紗智子先生から「造形遊びの実践」、小川健先生から「キャンドルホルダー」、則友冨子先生から「抽象彫刻」の実践発表を行いました。



授業実践研修会ウィンタージャンプ

2013年2月21日 授業者 矢野 宣利 札幌市立百合が原小学校

自分の基点となる場所から、様々な色のお花紙を吊るしたり、友達とつないだりしながら、思いに合うような色や形の組み合わせをしていきました。教師の「つないで」という投げかけから、「～くんとつなごう。」「ここにもつなげらそう。」「たくさんつながってきれいだね。」と色を考え、つなぎ方を工夫しながら活動する姿が見られました。授業の終わりに、空間が変化した楽しさを感じ取っていました。





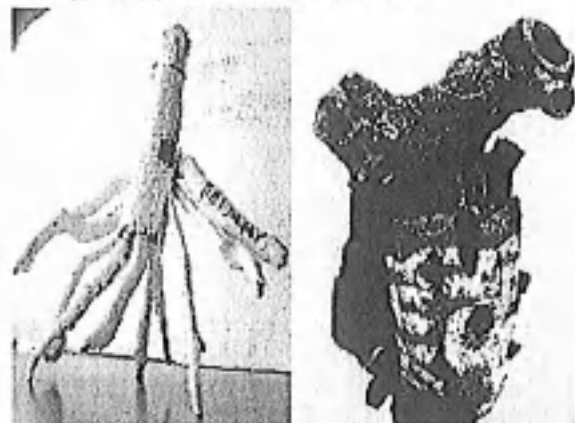
子どもの「学び」をみつめる

石	狩	の
作	品	集

第17集

2013.3 石狩管内児童生徒の図工美術作品集
石狩教育研修センター

■作品集を活用しましょう



1. 「3つの観点」で作品の中の子どもを見つめる

「想い」「あらかず」「こころ」のテーマに分けました。「想い」をもって、それを「あらかず（表現）」、そして満足感を得られることで、美術が好きになったり、表現への意欲「こころ」が豊かに高まっていきます。

※3つのテーマと「育みたい力」とのつながりを示して、授業に生かせるようにしています。

- 想い（発想・意欲）・・・広げる・深める・見直す
- あらかず（創造的な技能）・・・比べる・選び決める
バランスをとる・使う
- こころ（満足・意欲）・・・楽しむ・適及する・つなげる

2. 作品をどのように見るか

- (1) 「作品（写真）」から
子どもの「表現へのこだわり」を見つめましょう。
- (2) 「題名」から
作品に込めた想い、作りながら想像したことやストーリー、その子自身の存在感などを見つめましょう。
- (3) 「子どものことば」から
どのような気持ちで作品と向き合ったかを見つめましょう。作品だけではわからないことでも、「ことば」を通してあたたかい気持ちで理解してあげてください。
- (4) 「先生のみなざし」から
子どもがどのような姿でどのような話をしながら、作品とかかわっていったかを、子どものことばからはわからない「想い」やその子の「実容」について、受け止めてあげましょう。



◎「作品の出来映え」よりも「子供の学び」に目を向けて4作目。

……少しずつ子供と向き合う実践が増えてきました。

◆「研修資料」として管内の各学校に配付されています。



★24年度石教研図工美術部会の活動★

- 各市町村（5市、1町村）研究会の活動
- 石教研中心サークル（千歳市）での研究会
・理論研・実技研・授業研
- 理論・実技研修
- …… 詳しくはWEBで

<http://www.sekikyoken.com/bukaiHP/s11/ind>

旭川市教育研究会図工・美術部

『わたし』の喜び』あふれる造形活動

表現の喜びを実感できる造形活動をめざして「深める」研究と「広める」研究



鑑賞プログラム
(旭川地域連携アートプロジェクト)
椅子と絵の対話展において、ギャラリートーク、アートゲーム(鑑賞ワークシート)を行う。



造形まつりの実施(旭川地域連携アートプロジェクト)
旭川美術館を会場に、学芸員、大学生、教員(旭川、上川)がブースを開いて飛び込みの小学生に工作指導をする。7月28、29日で2500人の参加



実技研修会(一般向け)
9月1日(土)に実施。人物画の実技研修。30名近くの参加。一般小学校教員にとっての需要を強く感じた。



ワークショップ(旭川地域連携アートプロジェクト)
愛のヴィクトリアン・ジュエリー展において、ティアラを制作して美術館に展示した。



10月研
10月16日(火)に実施。小学2年生を対象に「ふるくぎへんしん」という版画の授業。粘土にふるくぎを用いた表現に取り組む。



作品交流会
11月3日に実施。15名の先生が集まって、作品について語りあう。



出前授業
(美術館との連携)
彫刻美術館の彫刻移動展示を使っての、体感型、対話型の鑑賞プログラム。



2月研
アートカードによる鑑賞の授業(小5)をおこなった。



児童生徒作品展
1月10日に実施。会場を広くし、十分話し合いながら審査を行う。図工美術部員だけでなく、一般の教員も交えて絵の見方を研修する。題名やコメントも参考にしながら行った。展示は2月14日(木)から17日(日)まで。

平成24年度 活動報告

上川造形教育研究会

表現の喜びを実感できる造形活動をめざして

11月の研究授業・造形祭り・作品を語る会



上川造形教育研究大会

『ぼくのわたしの思い出の場所』

2012年11月14日

授業者 藤原 賢

富良野町立樹海中学校

水墨画で地域の風景を描いていく授業の制作段階でした。2時間続きの授業で、生徒達は自分の作品にはどんな表現技法が使えるのかを考えたり、新たな表現技法を工夫するなどして、楽しみながら制作を進めていました。



造形祭り

2012年7月28・29日

旭川市美術館

「旭川市地域連携アートプロジェクト」の1つとして、旭川市美術館を会場に、屋台形式による造形ワークショップに出展しました。今年は「コマ作り」と「木と皮で動物を創ろう」を行いました。



作品交流会

2012年8月2日

東川町立東川中学校

持参作品を持ち寄り、制作のプロセス、どのような指導がなされているのか、指導者としての作品の見方や関わり方などを交流し合いました。



平成24年度 活動報告

後志教育研究会図工美術部会

研究主題

日常の実践交流や実技研修を通して、図工科の大切な基本的事項の研究を深め、指導力を高める小樽市教育研究



サークル名は後志教育研究会図工美術部会となっていますが、研究主題、活動内容などは小樽市教育研究会図工部会のもとなっています。

小樽市小中図工美術展

2012年1月23日～27日・小樽市立美術館市民ギャラリー

小樽市教育研究会小学校図工部会では、中学校美術部会と共催で、例年1月、市内全校より作品を募り、作品展を実施しています。毎年1000点以上の個性豊かな作品が集まります。



この作品展は、出展作品に賞などをつけるのではなく、広く小樽市民の皆様方に子どもたちの様々な表現を感じていただきたいという願いのもとに実施されています。

作品展には出品者の保護者・ご家族はもちろんのこと、多くの市民の方が足を運ばれ、子どもたちの表現の豊かさに感心されていきます。私たち指導者とは違った視点での来場者のお言葉に勉強させられることもしばしばです。



今年度も、2014年1月23日～27日の同会場で実施が予定されております。子どもたちの思いや願いがたくさんつまった作品が集まってくるのを楽しみにしています。

平成24年度 活動報告

留萌地方美術教育研究会

喜びひろがる 心つながる造形教育
○木工研修会○作品を語る会



木工研修会

2012年9月4日

羽幌町立羽幌小学校

赤川文進堂の粥川さんより
木材の種類と表面処理の仕方
について、初山別小学校の西村
先生から、浮き彫りの基本につ
いて講義をいただきました。



作品を語る会

2012年9月4日

羽幌町立羽幌小学校

先生方の指導された作品を持ち寄
り、児童の作品のよいところを見なが
ら、指導のポイントや指導上の悩みな
どについて話し合いをしました。



児童生徒
版画作品
集「版」
2013年
3月刊行

留萌管内児
童・生徒版画
展の作品集



渡島美術教育研究会

心うるおす造形活動をもとめて

○研究授業 ○児童生徒美術作品展



「ならべて つんで」

授業者 森町立鷺ノ木小学校 西崎佳寿子
さまざまな材料を利用し、想像力をふくらませながらの造形遊びです。子どもたちは生き生きと活動し、つくっているうちに新たな発想が次々と生まれていく楽しい授業でした。



渡島児童生徒美術作品展

管内の児童・生徒の作品を展示交流することで、子どもたちの意欲高揚と、指導者の指導力向上を図っています。
今年度の出品点数は、幼稚園・小学校・中学校合わせて590点で、期間中に300名以上の来場者をむかえることができました。



平成24年度 活動報告
苫小牧市教育研究会 造形部会

生き生きと表現し 創造する力を育む授業を 目指して

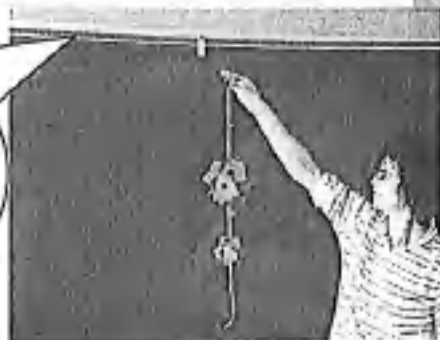
○実技講習会 ○作品交流会



つるす筋りの
作品交流

2012年5月

各学校の作品を持ち寄り、作り方や授業の様子を交流しました。



実技講習

2012年9月

札幌市立真駒内中学校向井先生と札幌市立八軒東中学校石川先生を講師としてお迎えし、「作品鑑賞を通して絵画における各学年の発達段階・平面作品の見方」と題し、いろいろな作品を見ながら、それぞれの学年がどのようなものを目指して作品をつくったらよいかお話を聞かせてもらいました。



実技講習会

2012年11月 研究大会

北海道教育大学札幌校美術教育学部の佐藤昌彦教授をお招きし、紙工作の実技講習を行いました。「多様な発想を生み出す工作指導」ということで、2枚の色紙を自由な発想で切っていってつくるブックマークの指導法を教わり、実際に自分たちでもブックマークをつくり、交流をしました。

平成24年度 活動報告

日高造形教育研究会

豊かに発想し主体的に造形表現できる児童生徒の育成

○「表現」実技講習会 ○総会研修会・作品交流会



Team Hokkaido

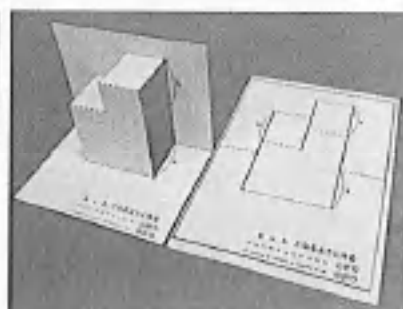


『表現』実技講習会

平成24年11月26日
浦河町立荻伏中学校にて

本会員の牧野裕子氏を講師とし、『もらってうれしいポップアップカード作り』の実技講習会を行いました。管内の小中学校の教員が参加対象です。

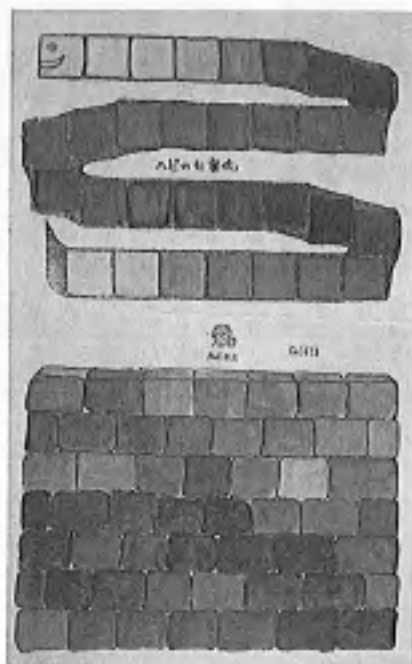
とび出すメカニズムを学び、それをどう授業に生かしていくかを話し合いました。季節柄、かわいらしいクリスマスカードが並びました。



総会研修会・作品交流会

平成25年5月25日
日高町立富川小中学校にて

毎年5月に管内総会を行っています。作品交流会も兼ねており、会員間相互の交流も図られています。



平成24年度 活動報告

十勝造形サークル

豊かな表現力の育成 サークル研 十勝子ども大会



合同サークル研

十勝管内の各サークルが一堂に会して公開授業や研究協議などの交流を行います。24年度は音更町の共栄中学校を主会場に行われ、造形サークルでは大野洋子先生が水墨画の授業を公開してくれました。午後からは事後研と、作品交流を行いました。



十勝子ども大会

十勝18町村の小中学校より出品された1514点を審査し、307点の入選作品を展示しました。同じ会場で書写・理科・社会・技術・家庭の作品のほか、ホールでは合唱の発表もあり、会場は大混雑です。



平成24年度 活動報告

帯広市教育研究会 図工美術部会

豊かな心をはぐくむ造形教育



昨年度の 第62回全道造形教育研究大会
帯広・十勝大会ではたくさんの方々に支えられ
参加をいただき、大成功でした。
ありがとうございました。



第42回帯広市小中学校造形展

会期 平成24年11月15日(木)～11月20日(火)

場所 帯広市民ギャラリー

帯広市内の小・中・養・聾学校から多数の作品を持ちよっている作品展です。
今回から会場を全面使用し、おおきな共同制作をいくつも展示できました。



作品交流会

平成25年16月14日

帯教研図工美術部会で年数回行います。

児童生徒のころころによりそった作品解説にみんな興味しんしんです。

各校のカラーが出ていて「どうやって描いているの?」と質問も飛び交います。

平成24年度 活動報告

釧路造形教育研究会

研究主題「つくる喜び、感動する心をつなげていく造形教育」

～「できた!」「いいね!」の喜びが息づく時間を求めて

●公開研究授業 ●作品展 ●造形教育研修会



Team Hokkaido



附属釧路中学校研究発表会 美術科公開授業 第1学年

「季節を味わう」 2012.10.1

9

学校周辺の森で「自分のお気に入り」の木を見つけてデッサンし、イメージに合ったレイアウトを考えながら作品にしました。色をつくる活動では「秋」という季節に合った色をイメージし、混色を工夫しながら色見本をつくり、部分ごとに色を選びながら着色していきました。



附属釧路中学校美術科・美術部作品展

「ART and WE」 2013.1.23～1.29

於：北海道立釧路芸術館フリーアートホール

美術科の授業で取り組んだ作品と、美術部員の作品を合わせた作品展を開催しました。美術部員が自らの作品について語る場も設け、見に来てくださった方に制作への思いや意図を伝えることができました。また、美術部員が教育大学釧路校のアトリエで制作した、共同制作ののぼりも展示しました。



附属釧路小学校

図画工作科

公開研究授業 第2学年

「おにがぼうしをかぶって」

2012.11.

14

国語科「ないた赤鬼」、「ぼうしをかぶったおにの子」の物語教材と、さらに音楽科をリンクさせ、「おにが自分を人間に見せるための、角を隠すためのぼうし」をつくりました。学芸発表会では、歌や器楽演奏とともに図画工作科での学習の成果を発表することができました。

造形教育研修会 「美術室を巡る」

2012.10.2

0

普段なかなか見ることができない他校の美術室を巡る研修会を行いました。制作展などでは完成した作品しか見ることができませんが、制作途中の作品を見ながら、指導の経過について交流するなど、新しい視点で研修を行うことができました。免許外で美術をもたれている先生方への参加も熱り、実りある交流の機会をもつことができました。





実技研修

～黒曜石で石器・アクセサリ作り

(会場：遠軽町埋蔵文化財センター)

白滝ジオパーク

ク)

黒曜石を産の角で薄く割りながら、槍の先に付ける尖頭器(せんとうき)を作ります。石を支える角度や叩く位置のコツを掴むと、小気味よい音を立てて黒曜石が割れていきました。

また、磨かれた薄い黒曜石の表



公開授業

小学校1・2年

ねんどで～のぼしたり・くっつけたり～

(会場：遠軽町立瀬戸瀬小学校)

テーマは「海」。自分たちの知っている海の様子を話したり、海中ダイビングの映像を見たりすることでイメージを広げ、つくりたいものに合わせて色々な方法を子どもたちがすすんで試していました。

自分のがんばったことはもちろん、友だちの表現の良さやおもしろさについても、次々に手を挙げて発表する様子が見られました。



ねむろ

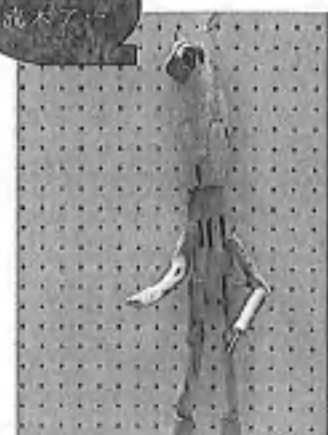


根室造形教育連盟では、今年度の重点目標として、日ごろの実践を発表する場を設けるとともに、小学校の先生、免許外で持っている中学校の先生方へも指導法や教材などを紹介するなど普及活動をするなど、より良い授業作りを目指して活動して行こうと考えています。

根室造形教育美術サークル



生徒作品
誌木アー



スケッチ風景



生徒作品

教職員美術サークル
大地の芸術体験
グループごとに協力し、校庭にあるもので短時間で制作して鑑賞しました。
頭の柔らかさと他の人とのコミュニケーションが大切だと感じました。



教職員美術サークルの透明水彩絵画の基礎演習

習



研究のあゆみ、規約、名簿



表紙の作品は小学校3年生が想像をもとにして描いた絵である。現実にはない、頭で思い描いたことを目の前に表し、他の人に伝えることができるのは絵画の持つ力のひとつでもある。

「まほうのつえ」も「木の町」も、こんな世界があったらいいなど思いながら描いているのだろう。描いた本人に話を聞くと、きっといろいろな話を教えてくれるだろう。こうした対話が生まれやすのが想像の絵のおもしろさでもある。

「まほうのつえ」はさらりと描いているようだが、背景の色によって人物を際立たせ、色を大切にしながら表現していることがわかる。少女の周りに描かれたものは何だろう？絵を見ながら教室で話し合えば、コミュニケーションが広がりそうだ。

「木の町」だが、この絵の中に自分が入っているような気持ちで見ると作者の気持ちに近づけるに違いない。あ、楽しそうに縄跳をしている…町の中に楽しいものがたくさん描かれている。表現方法に目をやると、輪郭線や絵の具の濃淡など、自分の表したいことに応じてよく工夫していることがよくわかる。

「こんな世界を描いてみたい！」「ここはこんなふうに表示してみたい」子どもが心からそう思ったときに、自ら表現の工夫をはじめ。

子どもの発想を大切に、描きたいと思わせる先生の働きかけがあってこそ、子どもは自分の感性をいっぱい働かせて主体的に表現に取り組む。

今回の学習指要領の改訂にあたって、小学校の目標に「感性を働かせながら」という言葉が新たに加えられた。その意味は大きい。

北海道造形教育連盟役員名簿

会 副	会 " "	長 長	福 島	實 田	順 茂	札幌市立知小學校長
監	" "	長	佐 土	藤 之	石狩市立緑苑台小學校長	旭川市立東栄小學校長
事 務 局	" "	長	土 奥	谷 泰	函館市立湯川小學校長	釧路市立朝陽小學校長
事 務 局	" "	長	岡 田	田 邦	札幌市立西岡中學校長	千歳市立泉沢小學校長
會 計 次	" "	長	山 澤	口 洋	旭川市立啓北中學校	札幌市立札幌小學校長
庶 務 部	部	長	森 安	川 木	札幌市立手稲北小學校	札幌市立西山小學校
庶 務 部	副	長	岡 福	島 湯	札幌市立拓北小學校	札幌市立あやめ野中學校
庶 務 部	副	長	山 井	内 向	札幌市立平岡中央小學校長	札幌市立藤女子中・高等學校
庶 務 部	副	長	高 吉	平 伊	札幌市立幌西小學校	札幌市立桑園小學校
庶 務 部	副	長	平 野	内 本	札幌市立みどり小學校	札幌市立盤溪小學校
庶 務 部	副	長	野 田	多 本	札幌市立山鼻小學校	札幌市立屯田南小學校
庶 務 部	副	長	松 八	中 川	札幌市立中央小學校	札幌市立伏見小學校
庶 務 部	副	長	石 小	野 口	札幌市立八軒東中學校	札幌市立中の島小學校
庶 務 部	副	長	堀 森	實 井	札幌市立緑丘小學校	札幌市立星置東小學校
庶 務 部	副	長	向 小	岩 崎	札幌市立啓明中學校	札幌市立真駒内中學校
庶 務 部	副	長	岩 崎	丸 影	札幌市立手稲山口小學校	札幌市立真駒内桜山小學校
庶 務 部	副	長	乙 嶋	島 本	北広島市立大曲小學校	滝川市立明苑中學校
庶 務 部	副	長	嶋 島	子 岡	小樽市立入船小學校	東川町立東川中學校
庶 務 部	副	長	高 木	々 藤	旭川市立北星中學校	苫前町立苫前小學校
庶 務 部	副	長	佐 藤	田 宏	七飯町立大沼中學校鈴蘭分校	函館市立深根中學校
庶 務 部	副	長	山 村	岸 中	瀬棚町立若松小學校頭	苫小牧市立緑陽中學校
庶 務 部	副	長	小 更	泉 科	室蘭市立桜園中學校	苫小牧市立北光小學校
庶 務 部	副	長	池 井	浦 清	帯広市立帯広第一中學校	浦幌町立浦幌中學校
庶 務 部	副	長	伊 藤	原 部	北海道教育大学附属釧路中學校	北海道教育大学岩見沢校准教授
庶 務 部	副	長	阿 松	山 田	札幌市立平和小學校長	石狩市立緑苑台小學校長
庶 務 部	副	長	島 山	口 井	千歳市立泉沢小學校頭	美瑛市立茶志内小學校長
庶 務 部	副	長	白 館	山 山	滝川市立東小學校	小樽市立入船小學校
庶 務 部	副	長	崎 崎	影 藤	旭川市立東栄小學校長	東川町立東川中學校
庶 務 部	副	長	佐 藤	本 田	旭川市立北門中學校	旭川市立啓北中學校
庶 務 部	副	長	島 成	森 野	小平町立鬼鹿小學校長	増毛町立別所小學校頭
庶 務 部	副	長	野 村	本 園	北斗市立立谷小學校長	北斗市立上磯中學校
庶 務 部	副	長	池 藤	谷 谷	函館市立湯川小學校長	函館市立緑島中學校
庶 務 部	副	長	木 村	村 口	函館市立緑島中學校	函館市立青苗小學校長
庶 務 部	副	長	谷 佐	藤 竹	函館市立若松小學校頭	苫小牧市立和光中學校長
庶 務 部	副	長	佐 竹	秀 行		

〃 (委員・事務局長)
 苫小牧市立教育研究会 (委員長)
 〃 (委員・幹事長)
 室蘭市立教育研究会 (委員長)
 日高市立教育研究会 (会長)
 〃 (委員・事務局長)
 十勝市立教育研究会 (委員長)
 〃 (委員・事務局長)
 帯広市立教育研究会 (委員長)
 〃 (委員・事務局長)
 釧路市立教育研究会 (委員長)
 〃 (委員・事務局長)
 オホーツク市立教育研究会 (会長)
 〃 (委員・事務局長)
 根室市立教育研究会 (委員長)
 〃 (委員・事務局長)
 願 問

前田 求
 石井 昭
 山岸 浩
 佐藤 大
 神成 幸
 伊藤 章
 石川 佳
 小石 敬
 辻 美
 梅 泰
 岡 浩
 山 一
 嶋 彰
 石 悠
 小野 悠
 寺 子
 長谷 司
 川 世
 山 一
 阿 久
 石 深
 石 惠
 伊 明
 伊 彬
 伊 船
 穂 面
 穂 野
 穂 島
 穂 井
 穂 谷
 今 田
 近 藤
 齊 藤
 佐 藤
 佐 藤
 佐 藤
 庄 山
 芝 木
 菅 井
 角 原
 力 山
 関 田
 武 田
 多 市
 種 市
 寺 嶋
 寺 本
 出 村
 伝 住
 富 田
 富 井
 土 井
 土 田
 基 井
 早 井
 藤 井
 船 井
 室 船
 松 浦
 三 谷
 宮 川
 宗 廣
 村 瀬
 森 川
 山 口
 吉 富
 米 田
 若 竹

苫小牧市立緑峰中学校
 苫小牧市立大成小学校
 苫小牧市立北光小学校
 室蘭市立桜蘭中学校
 樺南市立樺南中学校長
 平取町立紫雲古津小学校長
 幕別町立忠類中学校長
 浦幌町立浦幌中学校
 帯広市立緑園中学校長
 帯広市立帯広第二中学校
 釧路市立朝陽小学校長
 釧路市立美原中学校
 網走市立潮見小学校長
 北見市立相内中学校等
 根室市立落石小学校長
 中標津町立中標津小学校
 函館市
 北見市
 函館市
 登別市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 函館市
 江別市
 札幌市
 函館市
 帯広市
 札幌市
 美瑛市
 札幌市
 旭川市
 札幌市
 札幌市
 江別市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市
 札幌市

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道の造形教育の振興を図るをもって目的とする。

2. 事業

本連盟は、目的を達成するために次の事業を行う。

- ①研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
- ②造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
- ③会報の発行
- ④他の造形教育団体との連絡提携
- ⑤その他、本連盟の目的達成に必要と認められる事項

3. 会員

会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

4. 組織

地区サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する。
本部 本連盟の目的に賛同するもの

5. 構成及び任務

①役員

会長 1名 本連盟を代表する
副会長 若干名 会長を補佐する
会計監査 2名 会計の監査をする

②委員

地区委員長 地区1名 地区サークルを代表する
地区委員 地区1名 地区サークルの連絡調整にあたる
(地区委員は、地区委員長を兼務してもかまわない)
常任委員 若干名 会長が委嘱し、本連盟の運営にあたる
顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる

③部長

各部推進の要として常任委員より会長が委嘱し、会務の分掌及び執行にあたる

6. 選任

会長、副会長、会計監査は委員総会で選出する
地区委員長及び地区委員は、地区サークルで選出する
常任委員は会長の委嘱による
顧問は委員総会において委嘱する

7. 任期

役員及び委員の任期は1カ年とする 但し再任を妨げない

8. 会議

総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する
委員総会 役員、委員をもって構成し、毎年開催する
役員選出、予算、決算及び事業の年度計画等につき審議する
常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する
役員会 会長、副会長、事務局長、会計により構成し、必要に応じ会の運営について協議する
部長会 本部役員、各部部长により構成し、必要に応じ各部事業等についての連絡調整を行う

9. 会計

本連盟の会計は会費・事業収入及び寄付金により執行する
会費 会員は、一人年額2,000円を納入するものとする。
地区サークルは、年額10,000円を納入するものとする。

10. 事務局

事務局は事務局長在勤の学校に置く
事務局長は常任委員中より会長が委嘱する
事務局には必要に応じて各部を設け、業務を分担する
事務局に事務局次長、会計担当を置く

11. 年度

本連盟の事業並びに会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる

12. 規約の改廃

規約の改廃にあたっては特別委員会(規約改正委員会)を設け、規約改正案を総会に提出する
本規約の改廃は委員総会の決議による

(平成6年4月29日改訂)
(平成19年4月28日改訂)
(平成21年4月総会にて改訂)

全道造形教育研究大会のあゆみ

年	回	開催地	テ - マ	委員 会長	備 考
1949年			(札幌美術連盟組織 全国図画工作教育講習会)		
1950年	第1回		情操教育の一環としての本道図画工作教育の進展を図るため		
1951年		札幌		初代 野村 英夫	北海道美術教育会と改称 第1回全道図画工作教育研究委員会
1952年	第2回	札幌	図画工作教育の新思想である創造主義美術教育の諸問題について		北海道図画工作連盟創立
1953年	第3回	旭川	美術教育の指導とは何か		
1954年	第4回	函館	図画工作教育実践上の諸問題について		
1955年	第5回	釧路	図画工作教育における学習指導上の問題の解明		
1956年	第6回	札幌	造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか		
1957年	第7回	室蘭	のぞましい造形教育における具体的諸問題について		
1958年	第8回	小樽	図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか		
1959年	第9回	帯広	新段階における造形教育のあり方		北海道造形教育連盟と改称
1960年	第10回	網走	本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう		
1961年	第11回	滝川	子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか		
1962年	第12回	名寄	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1963年	第13回	余市	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1964年	第14回	札幌	子どもの創造能力とは何か	第2代 新妻 清	
1965年	第15回	稚内	子どもの創造能力とは何か		
1966年	第16回	室蘭	子どもの創造能力とは何か	第3代 赤石 武士	
1967年	第17回	函館	指導の構築を具体化する		
1968年	第18回	苫小牧	指導の構築を具体化する		
1969年	第19回	札幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第4代 和田 芳郎	
1970年	第20回	旭川	ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか		
1971年	第21回	札幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第5代 伊東 将夫	
1972年	第22回	帯広	未来に生きる子どもの造形教育 (生活に根ざした造形教育をどう高めるか)	第6代 高橋 榮吉	
1973年	第23回	室蘭	未来に生きる子どもの造形教育 (たしかな表現力をどのように育てるか)		
1974年	第24回	美幌	未来に生きる子どもの造形教育 (ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか)		第1回教育美術展
1975年	第25回	江別	未来に生きる子どもの造形教育 (自ら創り出す力をどう育てるか)		
1976年	第26回	岩見沢	未来に生きる子どもの造形教育 (すべての子どもに造形よろこびを)		第1回立体造形展
1977年	第27回	札幌	みずみずしい中核でしなやかな子どもを育てる造形実践		
1978年	第28回	函館	みずみずしい中核でしなやかな子どもを育てる造形実践 (すべての子どもが生き生きとくむ学習)	第7回 辻 俊平	
1979年	第29回	旭川	生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方		
1980年	第30回	苫小牧	ひろがりやと深まりの造形教育を求めて		

年	回	開催地	テーマ	委員会 委員長	備考
1981年	第31回	創路	創りだす心をよびおこす造形教育	第7回 辻 悦平	
1982年	第32回	室蘭	見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを	第8代 遠藤 久男	
1983年	第33回	留萌	生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動		
1984年	第34回	札幌	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (わきたつ発想・たしかな表現・つくりだす喜び)	第9代 種市誠次郎	
1985年	第35回	函館	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (心をこめてつくりだす子どもを育てる)		
1986年	第36回	旭川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (つくる心のひろがり求めて)	第10代 森川 照夫	第39回全国造形教育研究大会をかねる
1987年	第37回	紋別	子どもの心をゆり動かす造形教育 (表現のよろこびにひたる子どもを育てる)	第11代 松島 輝男	
1988年	第38回	滝川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (ひたむきに創る心を育てる)		
1989年	第39回	帯広	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (君はいま創造のとりこに)	第12代 金井 秀男	
1990年	第40回	苫小牧	広がり、深まり、そして感動を！		
1991年	第41回	札幌	子どもの個性的表現を授ける造形教育 (子どものつくる喜びをひらく)	第13代 佐々木理温	
1992年	第42回	函館	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (感動、そして創造する喜びを)		
1993年	第43回	旭川	思いをあたため心をはげませる創る喜びを	第14代 鹿嶋 健	
1994年	第44回	創路	心ときめく、創造の喜びを求めて		
1995年	第45回	千歳	豊かな心と確かな力をはぐむ造形学習を	第15代 船越 昭弘	
1996年	第46回	札幌	～造形＝愛感美遊創 in 札幌～ 自らの心を拓く造形学習の在り方	第16代 白井 國毅	
1997年	第47回	樺室	感性から発し躍動する力を育む造形学習を！	第17代 古田 優珠	
1998年	第48回	留萌	素しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共感し育り 第9指導	第18代 芝木 秀昭	
1999年	第49回	オホーツク	オホーツク発 思・創・喜・感 ～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～		
2000年	第50回	函館	心の風景（ビジョン）の発信を！ ～豊かな自分づくりを生かす想創活動～		
2001年	第51回	札幌	風よ、大地よ、夢よ、北からはじまる造形の未来 ～(いま)(ここ)(わたし)を基軸にして造形の未来をつくる		第54回全国造形教育研究大会をかねる
2002年	第52回	帯広	広い大地に紡ぐ夢 豊かな感性をはぐむ造形教育	第19代 藤井 正治	
2003年	第53回	空知	つくる喜びを実感できる造形教育		
2004年	第54回	旭川	豊かに感じ、おもいをふくらませあらかず喜びを 生の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて～	第20代 冨田 泰	
2005年	第55回	函館	めざめる感性(こころ)きらめく個性(かたち) 地域空間がいざなう造形活動のひろがり	第21代 今 裕子	
2006年	第56回	札幌	楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育		
2007年	第57回	創路	「できた!」「いいね!」の喜びが息づく時間を求めて ～つくる喜び、感動する心をつなげていく造形教育～		
2008年	第58回	北広島	豊かな心と確かな力を育む造形教育を!	第22代 菅原 清典	
2009年	第59回	川・創	身体で感じ・心はずませ・創造する喜びを ～「いま・ここで」「つなげる」造形教育を求めて		規約改正により委員長を会長に改称
2010年	第60回	函館	創造!ときめき!実感! ～感性と知性の出会い心うるおす造形活動～		
2011年	第61回	札幌	“わたし”を創る ～自立と共生の造形教育をめざして～		第64回全国造形教育研究大会をかねる
2012年	第62回	帯広	つくるとき・つながるとき ～豊かな心をはぐむ造形教育		
2013年	第63回	石狩	豊かな心と確かな力を育む造形教育 ～子どもの「こうしたい!」があふれる授業を通して～		

北海道造形連盟 地区サークル役員名簿

<札幌市造形教育連盟>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	阿部 宏行	北海道教育大学岩見沢校准教授	会計監査	橋本 博	鷹舞中学校長
副会長	櫻田 豊	手稲富丘小学校長	会計部長	高向 修子	藤女子中・高等学校
副会長	益村 豊	資生館小学校長	事業部長	池田 武彦	本郷小学校
副会長	加藤 正幸	太平南小学校長	庶務部長	石坂あけみ	寒寒東小学校
副会長	塚野 昭臣	向陵中学校長	広報部長	小林 光裕	東札幌小学校
副会長	向 敏光	元町中学校長	初任担当	山 薫	鏡南小学校
副会長	森長 弘美	星園中学校長	初任副担当	小川 健	福井野小学校
事務局長	藤原 和彦	平和小学校長	研究部長	森實 祐里	星園東小学校
事務局次長	藤森 久美	新陵東小学校教頭	研究副部長	堀口 基一	緑丘小学校
事務局次長	阿部 時彦	真駒内路中学校教頭	研究副部長	平井 歩	啓明中学校
会計監査	土肥 宏充	ひばりが丘小学校教頭	研究副部長	宮田 珠世	教育大附属小学校
事務局	札幌市立平和小学校 藤原 和彦 〒063-0023 札幌市西区平和3条8丁目2-1 ☎011-663-4384				

<石狩造形教育連盟>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
委員長	島田 茂	石狩市立緑苑台小学校長	研究部長	山崎 正明	千歳市立北斗中学校
副委員長	中野 悟	江別市立江別第三小学校教頭	研究副部長	佐伯 晶宣	恵庭市立柏小学校
副委員長	養島 裕二	当別町立西当別小学校教頭	組織部長	井上 哲義	江別市立江別第二中学校
事務局長	山口 浩	千歳市立泉沢小学校教頭	組織副部長	野口 裕司	石狩市立花川南中学校
事務局次長	岩崎 愛彦	北広島市立大曲小学校	事業部長	西村 司	恵庭市立恵庭中学校
監査	山田 浩人	千歳市立千歳第二小学校長	広報部長	川名 義美	当別町立当別中学校
監査	池田 元治	石狩市立滝基小学校長	初任担当	岩崎 愛彦	北広島市立大曲小学校
事務局	千歳市立泉沢小学校 山口 浩 〒066-0054 千歳市柏陽2丁目9番地 ☎0123-28-5830				

<空知美術教育研究会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	白井万壽子	美瑛市立茶志内小学校長	研究部長	桔梗智志美	赤平市立豊里小学校
副会長	佐藤 祈	美瑛市立東中学校教頭	事業部長	岩井 敦子	長沼町立中央長沼中学校
副会長	鎌田 俊博	由仁町立由仁中学校教頭	広報部長	伊藤 記子	美瑛市立東中学校
事務局長	館山 唯郎	美瑛市立茶志内小学校	監査	橋本 幸枝	夕張市立夕張中学校
事務局次長	三森 彩美	岩見沢市立光鏡中学校	監査	中澤 孝仁	釧路教育局
会計	松井りおか	芦別市立芦別中学校	監査	岩田 智弘	岩見沢市立豊中中学校
総務部長	伊藤 晃	由仁町立由仁小学校	初任担当	乙丸 聡史	美瑛市立茶志内小学校
事務局	美瑛市立茶志内小学校 館山 唯郎 〒079-0266 美瑛市茶志内町本町 ☎0126-65-2120				

<旭川市教育研究会園工美術部会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
顧問	佐藤 之憲	旭川市立東栄小学校	会計	栗林 友恵	旭川市立神居東小学校
顧問	吉田 頼康	旭川市立知新小学校	研究部長	中島 圭介	旭川市立緑が丘中学校
顧問	菅原 良和	旭川市立豊岡小学校	事業部長	井山 和博	旭川市立永山南中学校
部長	成田 慎司	旭川市立北門中学校	広報部長	村田 靖彦	旭川市立愛宕中学校
副部長	渡辺 悟史	北海道教育大学附属旭川小学校	初任担当	庄子 麗弘	旭川市立北星中学校
事務局長	吉野 法行	旭川市立光陽中学校	地区委員	森 洋	旭川市立豊北中学校
事務局次長	庄子 麗弘	旭川市立北星中学校			
事務局	旭川市立光陽中学校 吉野 法行 〒078-8233 旭川市豊岡3条1丁目 ☎0166-31-9178				

後志教育研究会園工美術部会

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
委員長	嶋影 哲弥	小樽市立入船小学校			
事務局	小樽市立入船小学校 嶋影 哲弥 〒047-0021 小樽市入船3丁目19-1 ☎0134-23-5296				

<上川造形教育連盟>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	佐藤 之憲	旭川市立東栄中学校	事務局次長	刀棚 典隆	旭川市立台場小学校
副会長	吉田 賢康	旭川市立知新小学校	事務局次長	黒田 明美	愛別町立愛別中学校
副会長	菅原 良和	旭川市立登岡小学校	研究連部長	中島 圭介	旭川市立緑が丘中学校
事務局	鳥本 匡洋	東川町立東川小学校			
事務局	東川町立東川小学校 鳥本 匡洋 〒071-1426 上川郡東川町北町1丁目1-1 ☎0166-82-2425				

<留萌地方美術教育研究会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	野島 操	小平町立鬼鹿小学校	会計	河端 寿幸	増毛町立増毛小学校
副会長	村元 隆一	初山別村立初山別小学校	研究部長	松岡 宏悦	苫前町立苫前小学校
監査役	豊崎 東洋	留萌市立緑丘小学校	事業部長	酒井 典子	留萌町立留萌中学校
監査役	小澤なつき	羽幌町立羽幌小学校	初任担当	松岡 宏悦	
事務局	滝本 都子	増毛町立別列小学校	地区委員	野島 操	
事務局	小西 共美	遠別町立遠別小学校			
事務局	増毛町立別列小学校 滝本 都子 〒077-0217 増毛郡増毛町別列148 ☎0164-53-1037				

<渡島美術教育研究会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	村岡 壽英	北斗市立谷川小学校	事業部長	木村 麻枝	北斗市立浜分中学校
副会長	細川敬太郎	北斗市立浜分小学校	事業副部長	川村 麻美	長万部町立長万部小学校
監査	舟橋 恭二	鹿部町立鹿部小学校	庶務部長	石岡 寿子	七飯町立七重小学校
監査	白取 悟	森町立鷺ノ木小学校	会計	小山内久美子	北斗市立上磯小学校
研究部長	高島 純	七飯町立大沼中給飼谷分校	幹事長	後藤 征秀	北斗市立上磯中学校
研究副部長	三谷 龍二	鹿部町立鹿部中学校	副幹事長	水口 司	七飯町立七飯中学校
事務局	北斗市立上磯中学校 後藤 征秀 〒049-0156 北斗市中野通320-4 ☎0138-73-2076				

<函館市美術教育研究会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	土谷 敬	函館市立湯川小学校	幹事長	柿崎 雄二	函館市立高丘小学校
副会長	仲井 靖典	函館市立湖見中学校	幹事長	西館 純	函館市立金根小学校
副会長	佐々木寿也	函館市立東小学校	幹事長	齋藤 悦子	函館市立桐花中学校
副会長	花岡 康成	函館市立教法華中学校	幹事長	木村 妙仁	函館市立銭亀沢中学校
副会長	茶碗谷 稔	函館市立大船小学校	研究部	佐々木善恵	函館市立深堀小学校
副会長	中村 吉秀	函館市立桐花中学校	事業部	山田 光	函館市立北英原小学校
総務	瀧本 伸幸	函館市立深堀小学校	庶務部	佐藤谷 浩	函館市立中の沢小学校
総務	横岸深英二	函館市立本通中学校	経理部	山形 弘枝	函館市立北日吉小学校
事務局	函館市立銭亀沢中学校 木村 妙仁 〒041-0263 函館市豊原町140-30 ☎0138-58-2542				

<檜山造形教育研究会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	谷口 光伸	奥尻町立青苗小学校	事業部長	杉村 友美	せたな町立藤瀬小学校
副会長	晴山 壽史	上ノ国町立早川小学校	幹事	菅川 一海	せたな町立小倉山小学校
事務局	佐藤 等	せたな町立若松小学校	幹事	田澤 利行	せたな町立玉川小学校
研究部長	山寺 潤	今金町立今金小学校	幹事	山本 雅樹	江差町立南が丘小学校
事務局	せたな町立若松小学校 佐藤 等 〒049-4752 せたな町立北檜山区若松461 ☎0137-85-1014				

<胆振造形教育研究会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	佐竹 秀行	苫小牧市立和光中学校	事務局	前田 求	苫小牧市立緑陵中学校
事務局	苫小牧市立緑陵中学校 前田 求 〒059-1272 苫小牧市のぞみ町3丁目10 ☎0144-61-2727				

<苫小牧市教育研究会造形教育会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	石井 浩昭	苫小牧市立大成小学校	事務局	山岸 大介	苫小牧市立北光小学校
事務局	苫小牧市立北光小学校 山岸 大介 〒053-0852 苫小牧市北光町3丁目8-2 ☎0144-73-8191				

<室蘭市造形教育研究会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	佐藤 宏茂	室蘭市立桜蘭中学校			
事務局	室蘭市立桜蘭中学校 佐藤 宏茂 〒050-0076 室蘭市知利別町1丁目11-30 ☎0143-44-3758				

<日高造形教育研究会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	神成 浩	樺似町立樺似中学校	会計監査	福田 伸泰	平取町立磐雲古津小学校
副会長	伊藤 孝三	平取町立磐雲古津小学校	事務局長	沼田しずか	浦河町立塚町小学校
副会長	中島 洋一	日高町立日高小学校	事務局次長	牧野 裕子	新ひだか町立静内第三中学校
会計監査	小松 和弘	日高町立富川小学校			
事務局	浦河町立塚町小学校 沼田 しずか 〒057-0034 浦河町塚町西3丁目4-1 ☎0146-22-2391				

<十勝造形サークル>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
委員長	石割 章浩	森別町立忠類中学校	地区委員	小泉 佳一	浦幌町立浦幌中学校
事務局	浦幌町立浦幌中学校 小泉 佳一 〒089-5636 浦幌町万年339 ☎015-576-2421				

<帯広市教育研究会図工美術部会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	辻 敦郎	帯広市立緑園中学校	事務局長	金子 里奈	帯広市立北栄小学校
部長	梅津 美香	帯広市立帯広第二中学校	事務局次長	村中 鉄也	帯広市立帯広第一中学校
副部長	橋本 美子	帯広市立明和小学校	サポート担当	村中 鉄也	
事務局	帯広市立北栄小学校 金子 里奈 〒080-0017 帯広市西7条南1丁目2 ☎0155-24-5697				

<釧路造形教育研究会>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	奥田 素朗	釧路市立朝陽小学校	副会長	内山 博之	釧路市立武佐小学校
副会長	森 富輝	釧路市立鳥取西小学校	サポート担当	更科 結希	北海道教育大学附属釧路中学校
副会長	小野三枝子	厚岸町立太田小学校	事務局長	杉山 浩彰	釧路市立美原中学校
事務局	釧路市立美原中学校 杉山 浩彰 〒085-0065 釧路市美原4丁目7番1号 ☎0154-37-1172				

<オホーツク造形教育連盟>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
会長	石橋 一郎	網走市立瀬見小学校	サポート担当	旭浦 重紀	網走市立瀬見小学校
地区委員	小野寺哲浩	北見市立相内中学校			
事務局	北見市立相内中学校 小野寺哲浩 〒099-0871 北見市相内町15-1 ☎0157-37-2812				

<根室造形教育連盟>

役名	氏名	所属・役職	役名	氏名	所属・役職
委員長	長谷川恵美子	根室市立落石小学校	会計監査	木庭 さち	中標津町立広陵中学校
副委員長	林 大祐	標津町立川北中学校	理事	長谷川めぐみ	根室市立柏陵中学校
事務局長	外川 篤司	中標津町立中標津小学校	理事	森 あゆみ	別海町立中春別中学校
事務局次長	大橋 晃広	中標津町立中標津中学校	理事	小出 秀嗣	中標津町立丸山小学校
研究部長	安井加奈子	中標津町立広陵中学校	理事	鈴木 啓大	標津町立標津中学校
研究副部長	品田ちよみ	根室市立苗舞小中学校	サポート担当	安井加奈子	

第63回全道造形教育研究大会石狩大会実行委員会

大会長	稲實 順 (札幌市立旭小学校長)
副大会長	佐藤 之憲 (旭川市立東栄小学校長)
	土谷 敬 (函館市立湯川小学校長)
	奥田 泰朗 (釧路市立朝陽小学校長)
	岡澤 邦彦 (札幌市立西岡中学校長)
	安木 尚博 (札幌市立札幌小学校長)
顧問	和田 弘 (石狩造形教育連盟顧問)
	宮川 誠一 (石狩造形教育連盟顧問)
	関 健治 (石狩造形教育連盟顧問)
	土井 勝典 (石狩造形教育連盟顧問)
	桑田 正博 (石狩造形教育連盟顧問)
	安藤 信行 (石狩造形教育連盟顧問)
	住友 俊郎 (石狩造形教育連盟顧問)
	墓田 充泰 (石狩造形教育連盟顧問)
	伝住 修一 (石狩造形教育連盟顧問)
	釜田 恵児 (石狩造形教育連盟顧問)

実行委員長	島田 茂 (石狩市立緑苑台小学校長)
副実行委員長	山田 浩人 (千歳市立千歳第二小学校長)
	池田 元治 (石狩市立浜益小学校長)
	井上 哲義 (江別市立江別第二中学校)
事務局長	山口 浩 (千歳市立泉沢小学校頭)
事務局次長	佐伯 昂宣 (恵庭市立柏小学校)
研究部長	山崎 正明 (千歳市立北斗中学校)
研究部副部長	養島 裕二 (当別町立西当別小学校)
研究部員	小笠原晴美 (石狩市立緑苑台小学校)

事業部長	小笠原晴美 (石狩市立緑苑台小学校)
事業部副部長	千葉 道子 (石狩市立緑苑台小学校)
事業部員	金住ゆかり (江別市立東野幌小学校)
	佐藤 哲 (当別町立当別中学校)
	竹田 睦生 (千歳市立高台小学校)
	宮内 絹代 (江別市立野幌中学校)
	岩崎 愛彦 (北広島市立大曲小学校)
	平山 一弥 (千歳市立北栄小学校)
	福澤菜穂子 (北広島市立西の里小学校)
	竹津 昇 (千歳市立東千歳中学校)
庶務部長	柴田 祐子 (江別市立豊幌小学校)
庶務部副部長	中野 悟 (江別市立江別第三小学校頭)
会場部長	鈴木 美保 (石狩市立緑苑台小学校)
会場部副部長	池田 元治 (石狩市立浜益小学校長)
記録部長	西村 司 (恵庭市立恵庭中学校)
経理部長	宮内 絹代 (江別市立野幌中学校)



堀田 裕也 (石狩市立緑苑台小学校)
高木 亮一 (石狩市立花川南小学校)
渡邊 麻子 (江別市立江別第一中学校)
橋本 岳大 (千歳市立高台小学校)
小出 倫生 (北広島市立大曲中学校)

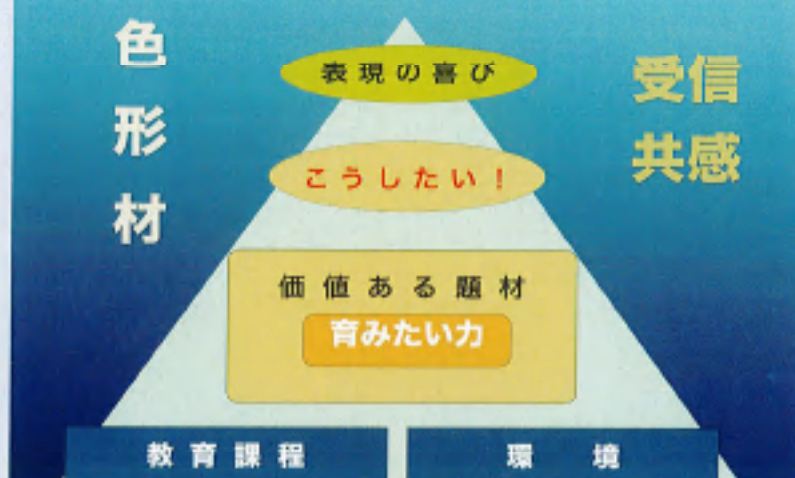
川名 義美 (当別町立当別中学校)

大会協力 石狩教育研究会図工美術部会員の皆様 石狩市立緑苑台小学校教職員の皆様

2014-2015

Year	Month	Day	Event	Location	Notes
2014	Jan	1
2014	Jan	2
2014	Jan	3
2014	Jan	4
2014	Jan	5
2014	Jan	6
2014	Jan	7
2014	Jan	8
2014	Jan	9
2014	Jan	10
2014	Jan	11
2014	Jan	12
2014	Jan	13
2014	Jan	14
2014	Jan	15
2014	Jan	16
2014	Jan	17
2014	Jan	18
2014	Jan	19
2014	Jan	20
2014	Jan	21
2014	Jan	22
2014	Jan	23
2014	Jan	24
2014	Jan	25
2014	Jan	26
2014	Jan	27
2014	Jan	28
2014	Jan	29
2014	Jan	30
2014	Jan	31
2014	Feb	1
2014	Feb	2
2014	Feb	3
2014	Feb	4
2014	Feb	5
2014	Feb	6
2014	Feb	7
2014	Feb	8
2014	Feb	9
2014	Feb	10
2014	Feb	11
2014	Feb	12
2014	Feb	13
2014	Feb	14
2014	Feb	15
2014	Feb	16
2014	Feb	17
2014	Feb	18
2014	Feb	19
2014	Feb	20
2014	Feb	21
2014	Feb	22
2014	Feb	23
2014	Feb	24
2014	Feb	25
2014	Feb	26
2014	Feb	27
2014	Feb	28
2014	Feb	29
2014	Mar	1
2014	Mar	2
2014	Mar	3
2014	Mar	4
2014	Mar	5
2014	Mar	6
2014	Mar	7
2014	Mar	8
2014	Mar	9
2014	Mar	10
2014	Mar	11
2014	Mar	12
2014	Mar	13
2014	Mar	14
2014	Mar	15
2014	Mar	16
2014	Mar	17
2014	Mar	18
2014	Mar	19
2014	Mar	20
2014	Mar	21
2014	Mar	22
2014	Mar	23
2014	Mar	24
2014	Mar	25
2014	Mar	26
2014	Mar	27
2014	Mar	28
2014	Mar	29
2014	Mar	30
2014	Mar	31
2014	Apr	1
2014	Apr	2
2014	Apr	3
2014	Apr	4
2014	Apr	5
2014	Apr	6
2014	Apr	7
2014	Apr	8
2014	Apr	9
2014	Apr	10
2014	Apr	11
2014	Apr	12
2014	Apr	13
2014	Apr	14
2014	Apr	15
2014	Apr	16
2014	Apr	17
2014	Apr	18
2014	Apr	19
2014	Apr	20
2014	Apr	21
2014	Apr	22
2014	Apr	23
2014	Apr	24
2014	Apr	25
2014	Apr	26
2014	Apr	27
2014	Apr	28
2014	Apr	29
2014	Apr	30
2014	Apr	30

豊かな心と確かな力



「育みたい力」を明確にし、「価値ある題材」を用意する。子どもと題材の出会いの中で意欲を引き出し、さらに子どもの中に「こうしたい!」を持たせる。子どもの思いや学びをしっかりと受信していく。これらを繰り返していく中で、子ども中に豊かな心と確かな力が育まれていく。教育課程と環境の充実がその土台となる。

育みたい力	
関心・意欲・態度	楽しむ
	追求する
	つなげる
発想・構想の能力	広げる
	深める
	見通す
創造的な技能	比べる
	選び、決める
	バランスをとる
鑑賞の能力	使う
	感じとる
	自己理解 他者理解

授業の見方

子どもの頭や心の中で
何が起きているのか

表情 目や手の動き
発言、つぶやき 色や形

育みたい力が、育っているか

